

第188図 61号住居の出土遺物

62号住居

(第189～191図 PL59・60・152・153 遺物観察表P.380)

位置 A6区3W,3V-38,39グリッド

形状 南北にやや長い横長長方形ないし長隅丸長方形。南壁がやや短く、西壁がやや傾く。四隅は丸みを持って屈曲するが、特に北壁の両隅の丸みが強い。

規模 長辺 3.66m 短辺 3.2m 面積 11.45㎡

方位 N-91°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 焼土粒、炭化物粒を含む砂質～シルト質の褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 8cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。住居中央付近の床面上に方形に近い平面形状で灰と炭化物が分布する。

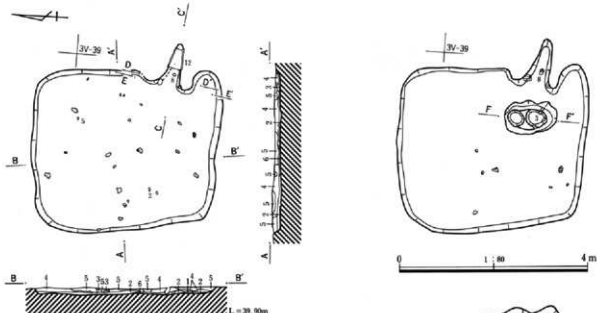
竈 東壁の南隅近くを細長いU字形に掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばす。左右の袖とも地山を掘り残しており、上部に黄白色粘土を乗せる。右袖部には埴輪が、左袖部には円礫が置かれる。燃焼部を仕切るように円筒埴輪が横たえられる。燃焼部中央には支脚に転用された羽口が立ち、煙道部には円筒埴輪が利用されている。確認長1.1m、焚き口内側幅36cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる色粘土が見られる。竈前の床下には長径1.1m、短径0.7mほどの楕円形の平面形の窪みがあり、焼土塊や炭化物粒、黄白色の粘土塊を含む褐色土で埋まる。

重複 なし。

遺物と出土状況 竈及びその周辺に構造材として用いられた埴輪片などが集中し、他は住居全体に破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀中葉)

第3章 検出された遺構と遺物

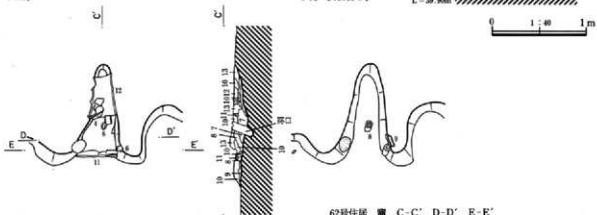


62号住居 A-A' B-B'

- 1 灰黄色細砂。
- 2 灰褐色土 焼土粒・炭粒含む、砂質シルトのしまった層。
- 3 5層よりも色の濃い砂層。
- 4 5層より更に灰色をした砂層であるが、炭化物を含み、5層と同様。
- 5 砂層 灰褐色・炭化物を含む。
- 6 灰層。

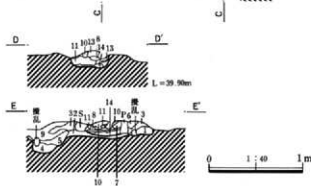
62号住居 床下土坑 F-F'

- 1 黄褐色土 黄白色粘土塊主体。粘性強い。
- 2 褐色土 黄白色粘土塊に灰褐色土混じる。焼土・炭粒含む。
- 3 褐色土 黄白色粘土塊を含む。
- 4 褐色土 黄白色粘土塊・焼土小塊・炭粒含む。

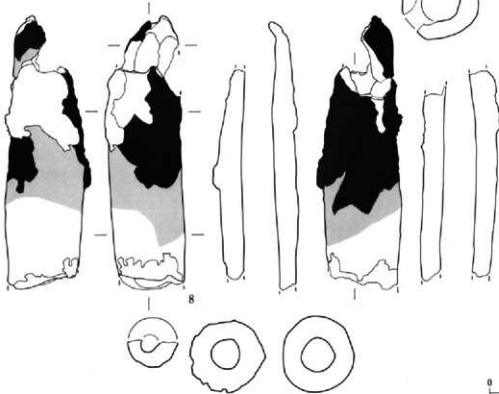
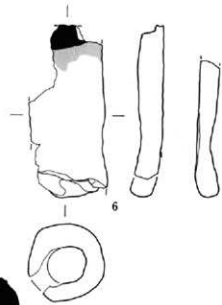
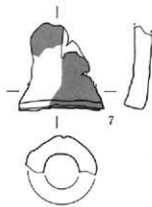
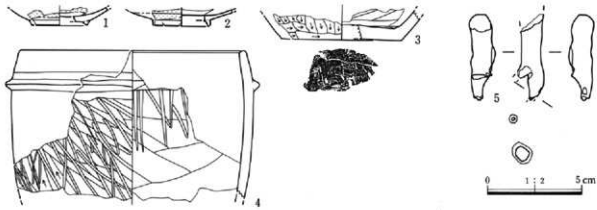


62号住居 竪 C-C' D-D' E-E'

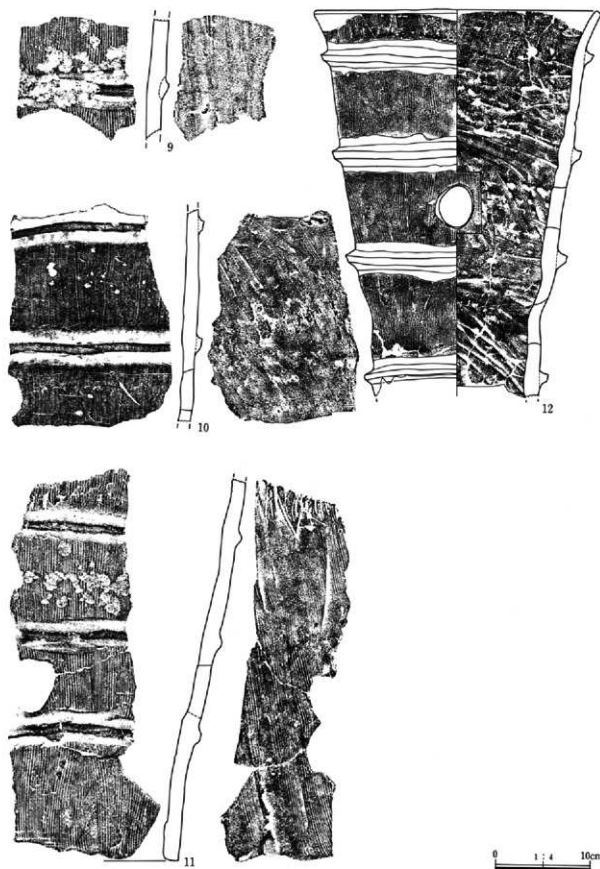
- 1 灰黄褐色土 炭化物少量含む。
- 2 黄褐色土 細砂含む。
- 3 褐色土 黄白色粘土塊散在。
- 4 灰黄褐色土 炭化物・黄白色粘土粒僅かに含む。
- 5 灰黄褐色土 炭化物を多く含む、黄白色粘土粒混じる。
- 6 黄白色粘土 竪構築材。
- 7 暗褐色土 焼土小塊・粒・黄白色小塊・粒混じり。
- 8 灰黄色土 シルト質。ローム塊・焼土塊含む。
- 9 灰褐色土 炭粒僅かに含む。
- 10 灰黄褐色土 黄白色小塊・炭粒混じりホコホコした層。
- 11 焼土。
- 12 明黄褐色土 灰白色シルト混じり。
- 13 明黄褐色土 ローム塊主体。焼土塊・灰混じり、ボソボソした層(天井崩落土)。
- 14 灰層。



第189図 62号住居



第190図 62号住居の出土遺物(1)



第191図 82号住居の出土遺物(2)

64号住居(第192~194図 PL60・61・153 遺物観察表P.381)

位置 A6区3V-36・3V, 3W-37グリッド

形状 西壁を下底とする、ややゆがんだ、南北に長い隅丸台形状の平面形を呈する。南壁はやや蛇行し、これと接続する隅隅は丸みを持っているが、北壁は直線的で、隅隅は丸みが少ない。特に北東隅部は丸みを持たずに屈曲している。なお、北壁東端から北西隅を経て西壁中央やや南寄りまで、犬走り状の段がある。北壁の直線性やその隅隅部が整っていること、西壁が長い形状を示すことなどは、この部分の拡張、ないし作り直しがあったことを示すものかと思われる。

規模 長辺 3.60m 短辺 3.40m 面積 14.24㎡

方位 南壁 N-71°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 床面は炭化物を含む褐色砂壤土で埋まる。埋没土上位には多量のスス状炭化物を含む黒褐色の埴壤土が堆積している。

確認最大壁高及び壁の状況 22.5cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、住居中央部がやや高いが、ほぼ平らに仕上げられている。中央やや北寄りに床下土坑があり、その東にピットが認められた。

竈 東壁の南寄りを壁外にU字形に掘り込んで燃焼

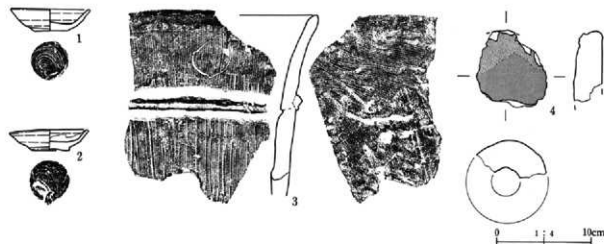


部の半ばを作り、煙道を延ばす。竈主軸は壁の方向よりやや南に振れて、N-96°-Eを示している。左右の袖に相当する部分に青灰色の粘土が見られ、特に左袖部では壁から40cmほど張り出している。燃焼部の壁面には青灰色粘土、白色粘土が貼られ、円筒埴輪口縁や朝顔形埴輪頸部の破片が倒立位で、外面を燃焼部内に向けて置かれている。確認長1.64m、燃焼部は左袖粘土残存部先端までの長さ88cm、幅50cmほどで、煙道との接続部は顕著な段を持たない。

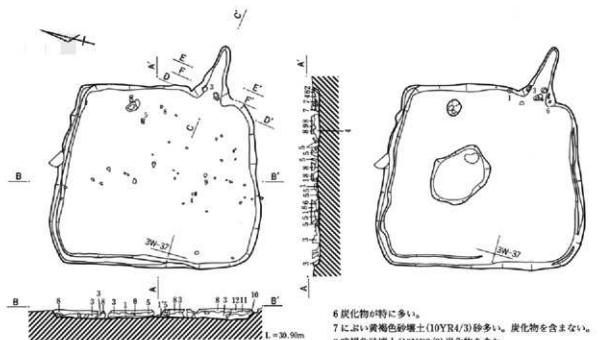
重複 住居中央部北寄りに炭化物の集中が見られ、その下層に炭化物を多く含む暗褐色壤土や多量のスス状炭化物を含む黒褐色壤土が見られ、特に炭化物が集中する部分もある。明確な遺構としてはとらえられないが、土坑状の落ち込みが見られ、鉄生産関連の残滓の廃棄等に用いられた可能性がある。

遺物と出土状況 埋没土中にスラグが多く見られるほか、土器片も散在するが、住居に伴うと認められる遺物はごく少ない。竈内の埴輪、竈左手の壁際から出土した坏などがある。

その他 平安時代(11世紀前半)



第192図 64号住居の出土遺物(1)



64号住居 A-A' B-B'

1 黒褐色硬土(10YR2/2)多量のスス炭化物を含む。

1' におい黄褐色(10YR6/4)におい黄褐色粘土の上面に炭化物層(厚さ2m)が貼りついている。

2 褐色壤土(10YR4/4)炭化物を含まない。

3 褐色砂壤土(10YR4/4)炭化物を含む。

4 暗褐色砂壤土(10YR3/4)炭化物を少量含む。

5 暗褐色壤土(10YR3/3)炭化物を多く含む。

6 炭化物の物が多い。

7 におい黄褐色砂壤土(10YR4/3)砂多い。炭化物を含まない。

8 暗褐色砂壤土(10YR3/3)炭化物を含む。

9 糠土粒を含む。

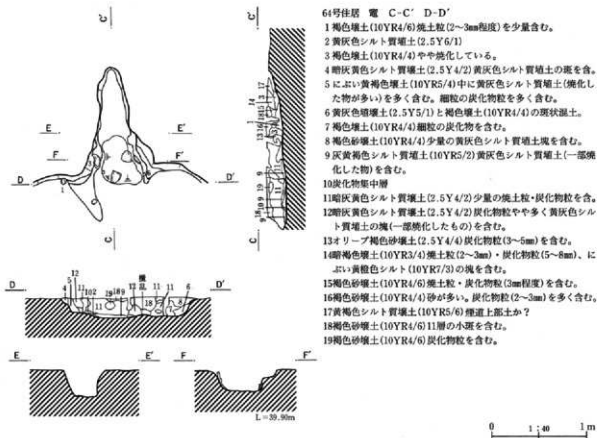
10 灰黄褐色砂壤土(10YR4/2)炭化物を含まない。

11 暗褐色壤土(10YR3/4)炭化物を含まない。地山のにおい黄褐色シルトを含む。

12 褐色シルト質壤土(10YR4/6)炭化物を含まない。地山のシルトを11層より多く含む。



第193図 64号住居と出土遺物(2)



第194図 64号住居電

64号住居 電 C-C' D-D'

- 1 褐色壤土(10YR4/6)焼土粒(2~3mm程度)を少量含む。
- 2 黄灰色シルト質壤土(2.5Y6/1)
- 3 褐色壤土(10YR4/4)やや焼化している。
- 4 暗灰黄色シルト質壤土(2.5Y4/2)黄灰色シルト質壤土の斑を含む。
- 5 ぶい黄褐色壤土(10YR5/4)中に黄灰色シルト質壤土(焼化した物が多い)を多く含む。細粒の炭化物粒を多く含む。
- 6 黄灰色壤土(2.5Y5/1)と褐色壤土(10YR4/4)の斑状混生。
- 7 褐色壤土(10YR4/4)細粒の炭化物を含む。
- 8 褐色砂壤土(10YR4/4)少量の黄灰色シルト質壤土を含む。
- 9 灰黄褐色シルト質壤土(10YR5/2)黄灰色シルト質壤土(一部焼化した物)を含む。
- 10 炭化物集層
- 11 暗灰黄色シルト質壤土(2.5Y4/2)少量の焼土粒・炭化物粒を含む。
- 12 暗灰黄色シルト質壤土(2.5Y4/2)炭化物粒や多く黄灰色シルト質壤土の塊(一部焼化したもの)を含む。
- 13 オリーブ褐色砂壤土(2.5Y4/4)炭化物粒(3~5mm)を含む。
- 14 暗褐色壤土(10YR3/4)焼土粒(2~3mm)・炭化物粒(5~8mm)、にぶい黄褐色シルト(10YR7/3)の塊を含む。
- 15 褐色砂壤土(10YR4/6)焼土粒・炭化物粒(3mm程度)を含む。
- 16 褐色砂壤土(10YR4/4)砂が多い。炭化物粒(2~3mm)を多く含む。
- 17 黄褐色シルト質壤土(10YR5/6)煙道上部土か?
- 18 褐色砂壤土(10YR4/6)11層の小斑を含む。
- 19 褐色砂壤土(10YR4/6)炭化物粒を含む。

65号住居(第195-196図 PL61-153-154 遺物観察表P.381)

位置 A6区3T,3U-33~35グリッド

形状 上面の削平が著しいが、平面形はとらえられる。南北に長い横長長方形を基本とする平面形状と思われるが、南壁がやや短いため、北壁を下底とする台形状の平面形を呈することとなる。北東隅はトレンチに切られていて屈曲状況を把握できないが、他の三隅はやや丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 4.00m 短辺 3.04m 面積 11.62㎡
方位 N-82°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 黄白色土の小塊を含むしまった灰褐色土で埋まっている。部分的に焼土粒、炭化物粒を少量含むにぶい黄褐色土が見られる。

確認最大壁高及び壁の状況 7cm。上面が削平されていて、詳細な観察はできなかった。わずかに上方

に開くが、やや丸みを持って立ち上がっている。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。東北隅に長径109cm、短径86cm、深さ30cmほどの大きさで、楕円形の平面形を呈する床下土坑があり、焼土粒を含む細砂を主体とする褐色土で埋まっている。

竈 東壁の南端近くにあつて、壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばす。袖は認められない。確認長1.34m、燃焼部幅50cm。構築材に用いられたと考えられる灰白色のシルト質粘土が周辺に広がるように残っており、竈の前面には焼土塊や灰も広がっている。燃焼部内からは埴輪小片が出土していて、本遺跡の他の例から見て構築材に用いられた可能性もあるが、比較的小さな破片であるため確定できない。粘土の広がり方などから、意図的に壊された竈であろうとの所見が得られている。

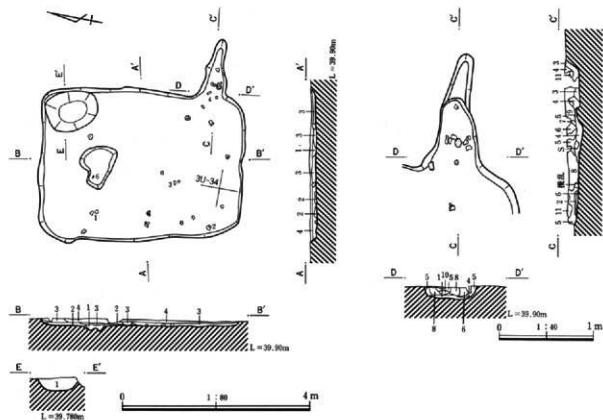
第3章 検出された遺構と遺物

重複 住居中央部北寄りに炭化物の集中が見られ、焼土塊を含む灰色細砂がその下層にある。明確な遺構としてはとらえられないが、住居中央北寄りに不整形の土坑があって、この周辺にこれら炭化物等が集中するところから、住居廃棄後の埋没途中で一部が掘られ、鉄生産関連の残滓の廃棄等に用いられた可能性があるだろう。

遺物と出土状況 竈及びその周辺に集中し、他は住

居全体に点在するが、北東隅部にはほとんど認められない。いずれも小破片である。

その他 平安時代（10世紀後葉）



65号住居 A-A' B-B'

- 1 焼土塊含む、灰色細砂
- 2 におい黄橙色土 細砂の絞まった土。炭粒・焼土粒少量見られる。
- 3 灰褐色土 しまり強く、黄白色土小塊混じる。
- 4 灰褐色土 焼土・炭粒を僅かに含み、サクサクした砂質土。

65号住居 竈 C-C' D-D'

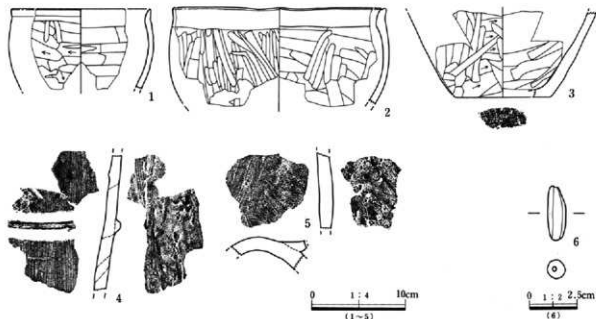
- 1 暗褐色土 焼土・灰・炭が僅かに含む。
- 2 黒褐色土 灰層。
- 3 黒褐色土 灰層縞状に入り、その間に焼土塊・黄褐色塊(ロームに似る)混じる。

- 4 黒褐色土 灰層に焼土小塊混じる。
- 5 灰褐色土 6層のくすんだ層。焼土塊含む。
- 6 明黄色土 粘質土。竈構築土。
- 7 灰褐色土 灰色粘質土主体。灰黄色土塊含む。
- 8 くすんだ灰黄褐色土 焼土粒・小塊・炭粒入り混じる。
- 9 灰褐色土 焼土塊・灰黄色土小塊・まだらに入り混じる。
- 10 灰褐色土 焼土塊・灰・炭化物混じる。
- 11 褐色土 灰白色土小塊・炭粒僅かに含む。

65号住居 床下土坑 E-E'

- 1 褐灰色土 上層に僅かに炭・焼土粒含む。下層に僅かに焼土粒含む。細砂主体。

第195図 65号住居



第196図 65号住居の出土遺物

66号住居(第197図 PL61・62・154 遺物観察表P.381)

位置 A6区3S-32,33グリッド

形状 南北にやや長い横長長方形の平面形を呈する。北東隅は竈右手から貯蔵穴の形態に沿って丸まりながら南壁につながっている。北壁の両隅はやや丸みを持って屈曲する。竈より北側は整った長方形状だが、竈以南はややゆがんでいる。

規模 長辺 3.04m 短辺 2.70m 面積 8.68㎡

方位 N-77°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手に当たる南東隅にある。直径75cmほどのほぼ円形の平面形を呈していて、深さは床面から12cmほどある。底面は平直面を持たず、皿状に窪んでいる。

埋没土 明灰色の砂と、灰褐色のシルト質の緻密な土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 13cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。比較的強い立ち上りを示すが、南壁の西部のみは崩れたように上部に開いている。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが

ほぼ平らに仕上げられる。暗オリーブ褐色の粘粘土で貼り床されている。

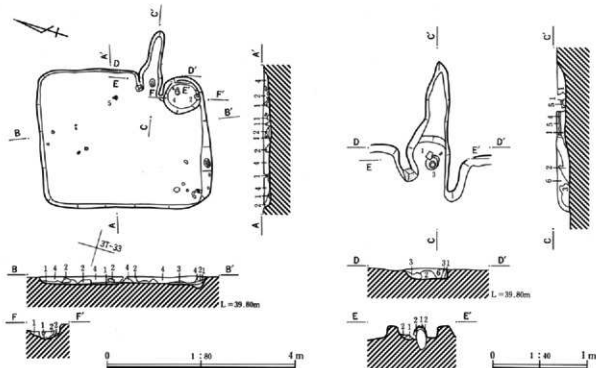
竈 東壁の南寄り半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り煙道を延ばす。左右ともに地山を掘り残して袖を作る。右袖は直線的に住居内に突きだし、左袖は湾曲して燃焼部を囲む。左袖先端に焚き口の構造材であろう礎が立てられている。燃焼部中央には支脚と見られる礎が立てられていて、ここから環が出土している。燃焼部と煙道は小さな段を持って接続している。確認長1.46m、燃焼部幅46cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる青灰色の粘土が粒子状に集中し、あるいは小塊状に砕けて見られる。竈前部には炭化物が広がっている。

重複 なし。

遺物と出土状況 竈、貯蔵穴及びその周辺から環類が出土している。他は細片で、住居中央北寄りと南西隅近くにおいて、中央部からの出土はない。

その他 平安時代(10世紀前葉)

第3章 検出された遺構と遺物



66号住居 A-A' B-B'

- 1 明灰色砂状の層。
- 2 暗灰褐色 ポソポソとした植物腐食が混じった層。
- 3 暗オリーブ褐色の粘土状(住居の床)
- 4 灰褐色 シルト質。サラサラした緻密な土壌。

66号住居 貯蔵穴 F-F'

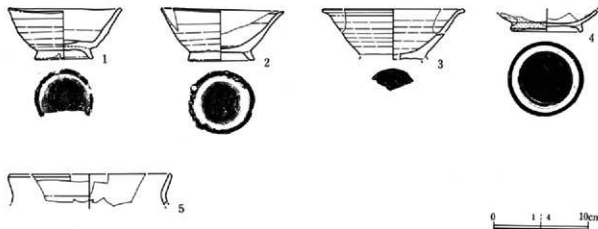
- 1 灰褐色土(白っぽい) 炭粒盛かに含む。細砂も含む。
- 2 灰褐色土 炭粒盛かに含む。細砂含み、粘性しまりあり。

66号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 明灰色のシルトを含む。
- 2 暗褐色 青灰色の粘土粒・焼土粒が混じるが1層の土より粗くポソポソしている。
- 3 暗褐色 焼土粒が混じる、サラサラした土壌。
- 4 褐色土 構築材の粘土が小塊状にくだけた層。
- 5 黒灰色 灰層。
- 6 褐色土 炭化物・焼土・青灰色の粘土粒が混じる。

66号住居 竈 E-E'

- 1 におい褐色土 青灰色粘土が熱を受け焼土化した土。燻瓦状。
- 2 オリーブ褐色土 青灰色粘土塊・灰・黄褐色土の混土。



第197図 66号住居と出土遺物

67号住居 (第198図 PL62)

位置 A6区3N, 30-31, 32グリッド

形状 住居床面と考えられる硬化面と、その中央部の炭化物の広がりを確認したのみであるため、全体の形状は分からない。方形ないし長方形と考えられる。

規模 南西辺長 3.22m 南東辺確認長 2.28m

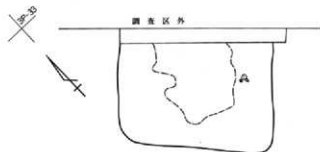
方位 N-42°-W (南東辺)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

重複 なし。

遺物と出土状況 なし。

その他 平安時代



第198図 67号住居

68号住居 (第199・200図 PL62・63・154 遺物観察表 P. 381)

位置 A6区4C, 4D-43, 44グリッド

形状 南北に長い横長長方形。南壁の大半と南東隅部を69号住居より古い。他の三隅はやや丸みを持って屈曲する。

規模 長辺 3.94m 短辺 3.02m

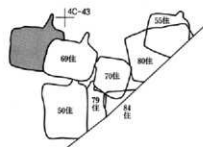
方位 N-95°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰白色土の小塊を含む褐色砂質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 34cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。竈右手に当たる東南隅に土坑がある。直径75cmほどのゆがんだ円形の平面形を呈し、深さは床面から20cmほどある。底面は緩やかに窪む。最下層の埋没土は竈の袖材と同じ褐色粘土で、その上位に黒色の灰層と灰白色シルト層の薄い互層などが見られる。位置的には



貯蔵穴としても良いが、遺物の出土はなく、竈の袖がこの土坑の埋没土を切る形で作られる。

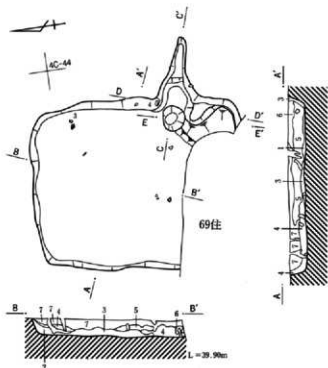
竈 東壁の南端近くをU字形に掘り込んで燃焼部を作り煙道を延ばす。左袖はないが、右袖部は地山を削り残し、褐色粘土を貼っている。確認長1.96m、燃焼部幅50cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる褐色粘土が見られる。燃焼部手前の使用面下には直径55cmほどの大ききで、床面からの深さ35cm、ゆがんだ円形の平面形を呈するピットがある。

重複 69号住居より古い。

遺物と出土状況 遺物数はごく少なく、竈内にややまとまった破片が見られるのみである。

その他 平安時代 (10世紀前葉)

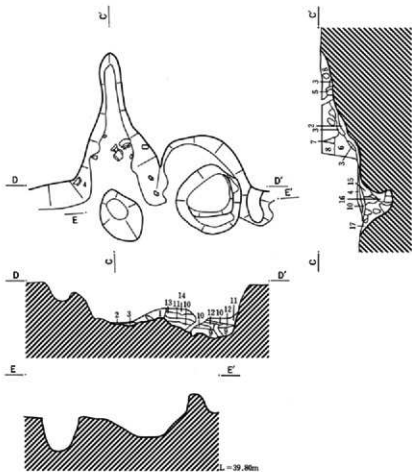
第3章 検出された遺構と遺物



68号住居 A-A' B-B'

- 1 灰黄褐色土 灰褐色土小塊に炭化物含む。床面?
 - 2 灰黄褐色土 夾雑物少なくシルト質土。洪水砂。
 - 3 灰褐色土 灰白色・灰褐色土小塊をまだらに含む。細砂塊含む。
 - 4 灰褐色土 灰白色小塊を斑点状に含む。シルト質土。
 - 5 灰黄褐色土 シルト質土に灰白色粒・小塊がまだらに含む。灰褐色土粒混じる。
 - 6 灰黄褐色土 夾雑物少ない、シルト質土。
 - 7 によい褐色土 シルト質、焼土粒・炭粒・灰褐色土粒を点々と含む。
- 3・4・5は洪水砂?

0 1:80 4m

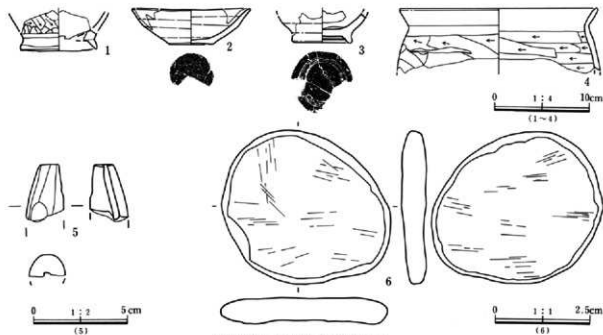


68号住居 電 C-C' D-D'

- 1 褐色粘土 地。
- 2 黒褐色土 青灰色の灰褐色と黒色灰、及び焼土塊混じり。
- 3 褐色土 焼土化したシルト質土。焼土塊混じり。
- 4 暗褐色土 焼土塊・炭粒混じり。
- 5 褐色土 焼土・灰・青灰色シルト混じり。
- 6 灰褐色土 焼土粒・炭粒含む。粘性強い(天井崩落土?)。
- 7 黄褐色土 シルト質。黄白色土小塊含む。
- 8 によい黄色 夾雑物少ないシルト・黄白色小塊斑点状に含む。
- 9 褐色粘土 電軸と同じ。電機素材。
- 10 黒色灰層 灰白色シルト塊状に薄く互層に堆積。
- 11 黒色灰層 灰白色シルト小塊僅かに含む。
- 12 灰黄褐色土(やや暗い)
- 13 灰黄褐色土(やや暗い)14層より灰を多く含む。焼土粒僅かに含む。
- 14 灰黄褐色土 灰白色シルト塊と灰の混土。
- 15 灰白色シルト。
- 16 灰白色細砂。
- 17 灰白色シルト小塊を混じる灰層。

0 1:40 1m

第199図 68号住居



第200図 68号住居の出土遺物

69号住居

(第201~206図 PL63・64・154・156 遺物観察表P.382・383)

位置 A6区4C, 4D-42, 43グリッド

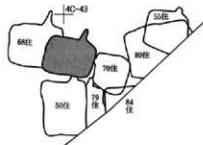
形状 南北にやや長い、横長の隅丸長方形の平面形を呈する。南壁の両隅はやや丸みが強く、北壁の両隅も丸みを持って屈曲する。東西壁ともに中央近くがややくびれる。

規模 長辺 3.50m 短辺 2.92m 面積 10.30㎡

方位 N-105°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 南西隅部にある。南北98cm、東西76cmほどの大きさと、床面からの深さは38cmほどある。楕円形の平面形を呈している。底面は平坦に掘られている。灰白色土塊を斑状に含み、焼土、炭化物をわずかに含む灰黄褐色土で埋まる。埋没土の中位から土器片が出土している。電右袖前の灰面下に白色粘土を貼った部分があり、ここで検出した浅い円形土坑も位置から見て貯蔵穴として用いられたものと想定している。直径50cmほどの大きさと、円形の平面形を呈している。深さは6cmほどしかなく、皿状の断面形を呈する。



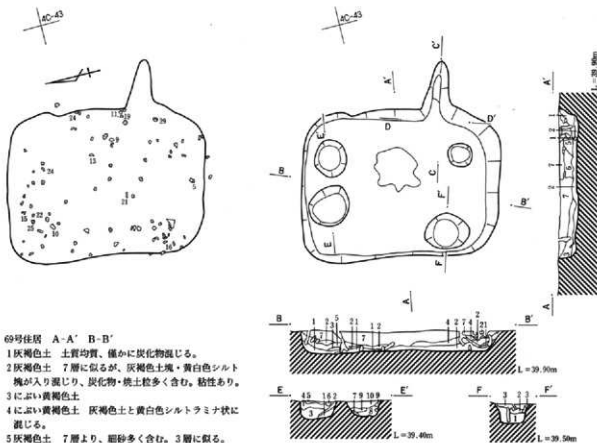
埋没土 灰褐色土や黄褐色土塊が入り混じり、炭化物、灰土粒などを多く含む灰褐色土で埋まっている。確認最大壁高及び壁の状況 21cm。やや丸みを持って立ち上がる。地山が砂質土で、これに掘り込まれているため、崩落したものか、上方への開きがやや強い。

床面の状況及び床下施設等 住居中央部の床面が周囲よりやや高くなっている。堅くしまる。貼り床はない。住居中央部やや東寄りには灰や炭化物の広がる部分が見られる。北壁際に二基並んで土坑がある。西側のNo 1土坑は直径88cmほどの大きさと、深さは40cmほどある。円形の平面形を呈している。底面は比較的平坦で、コの字に近い断面形状である。埋没土の最上位は床面と同様であるが、炭化物や焼土が

第3章 検出された遺構と遺物

周囲の床面より多く含まれる。下位は黄白色土の小塊を斑状に含む褐色土で、埋め戻されたものとの所見を得ている。東側のNo 2土坑は東西76cm、南北70cmほどの大きさで、楕円形の平面形を呈している。深さは35cmほどある。底面は丸みを持ち、半円形の断面形状を示す。埋没土は褐色土を主体とし、上層には炭化物や焼土を含む。ともに床下土坑と判断される。

竈 東壁の南寄り壁外にU字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り、煙道を延ばす。袖はない。確認長1.75mで、燃焼部幅38cm。燃焼部奥で段差を持って煙道に続く。地山がオリブ黄色の細砂であるため、崩落を防止するためであろう、構築にあたって白色の粘土を貼っている。さらに奥壁部には、板状の形象埴輪(家形埴輪)の大きな破片や円筒埴輪を用いて補強を施している。掛け口には朝顔形埴輪の円筒



69号住居 A-A' B-B'

- 1 灰褐色土 土質均質、僅かに炭化物混じる。
- 2 灰褐色土 7層に似るが、灰褐色土塊・黄白色シルト塊が入り混じり、炭化物・焼土粒多く含む。粘性あり。
- 3 におい黄褐色土
- 4 におい黄褐色土 灰褐色土と黄白色シルトラミナ状に混じる。
- 5 灰褐色土 7層より、細砂多く含む。3層に似る。
- 6 灰褐色土 灰褐色シルトと細砂がラミナ状に入っているように見える。炭化物・焼土粒僅かに含む。
- 7 灰褐色土 焼土粒・炭化物含む。珪鉄多く含む。細砂粒少量混じる。

69号住居 貯蔵穴 1 F-F'

- 1 灰黄褐色土 灰白色塊をまだらに含み、焼土・炭粒僅かに含む。
- 2 灰黄褐色土 灰白色塊と灰褐色塊の混土。焼土・炭粒含み土器片混じる。(灰白色塊は灰白色と白色シルトがラミナ状に交互に入りやや固くしまった層)
- 3 褐色土 黄白色粒・炭粒僅かに含む。(床面の様な固くしまった層ではない)

69号住居 床下土坑 1・2 E-E'

- 1 褐色粘質土 地山に比べ砂質。
- 2 褐色粘質土 黄白色小塊僅かに混じる。
- 3 褐色土 黄白色小塊含み、細砂塊状に混じる。
- 4 褐色土 黄白色小塊まだらに含み、粘性強い。
- 5 灰褐色土 土質密、炭化物含み黄白色粒含む。
- 6 灰褐色土 焼土・炭粒含む。
- 7 におい黄褐色土 粘性強い。
- 8 灰褐色土 炭粒・炭化物・黄白色小塊含む。
- 9 灰褐色土 黄白色小塊混じり。
- 10 灰褐色土 焼土粒・炭粒・黄白色粒僅かに含む。

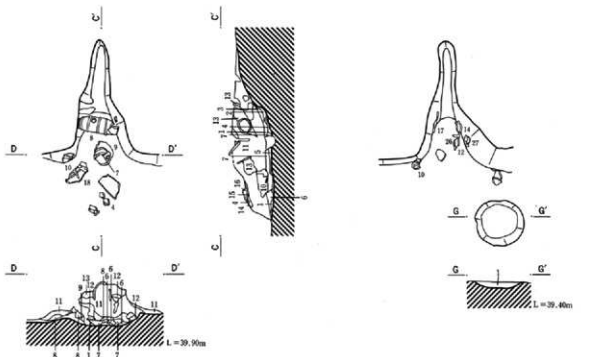
第201図 69号住居

部を横位に架設している。焚き口付近からも円筒埴輪が見られ、これも構造物として利用されたものであろう。

重複 50号・68号・70号住居より新しい。

遺物と出土状況 竈及びその周辺には構築材とされた埴輪破片がまとまる。円筒埴輪や家形埴輪、馬形埴輪などがある。埋設土上位から罫、スラグ、羽口片、釘などの鉄製品片が多数出土している。これらの鉄生産関連遺物は、住居廃絶後、埋設途中に周辺にあった鉄生産関連遺物から腐蝕されたものと考えられる。

その他 平安時代（10世紀中葉）



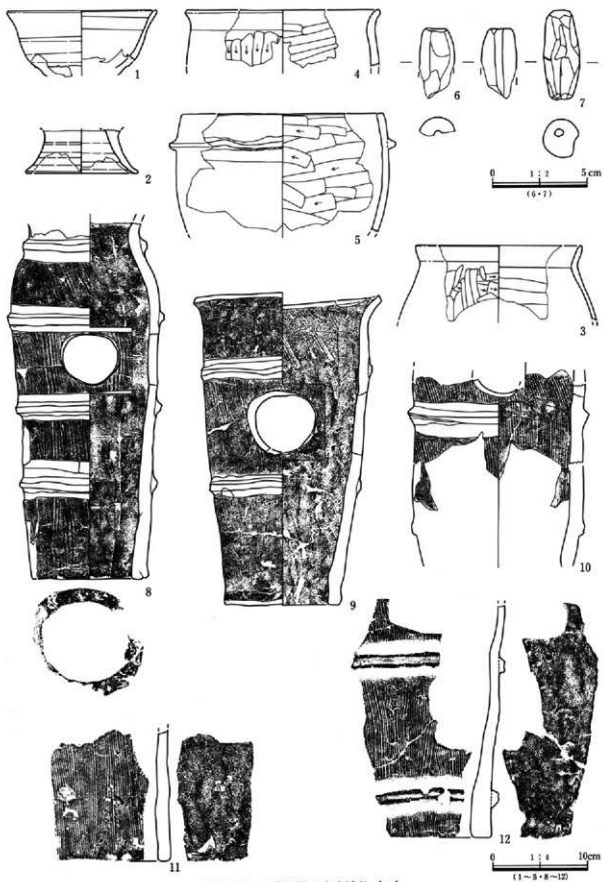
69号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 灰褐色土 夾雑物少ない。
- 2 赤褐色土 地山細砂質土の焼土化した層。
- 3 赤褐色土 焼土塊主体。黄褐色塊含む。
- 4 黒褐色土 しまった灰層。煙道側、焼土塊混じる。
- 5 黒褐色土 灰層。僅かに焼土含む。
- 6 黒褐色土 灰と黄白色シルトが数mm単位で互層に堆積。
- 7 黒褐色土 焼土・灰・炭の混土。
- 8 灰白色土 白色粘土主体。灰褐色粘土含む。
- 9 灰褐色土 白色粘土小塊・焼土塊混じり。粘性強い。

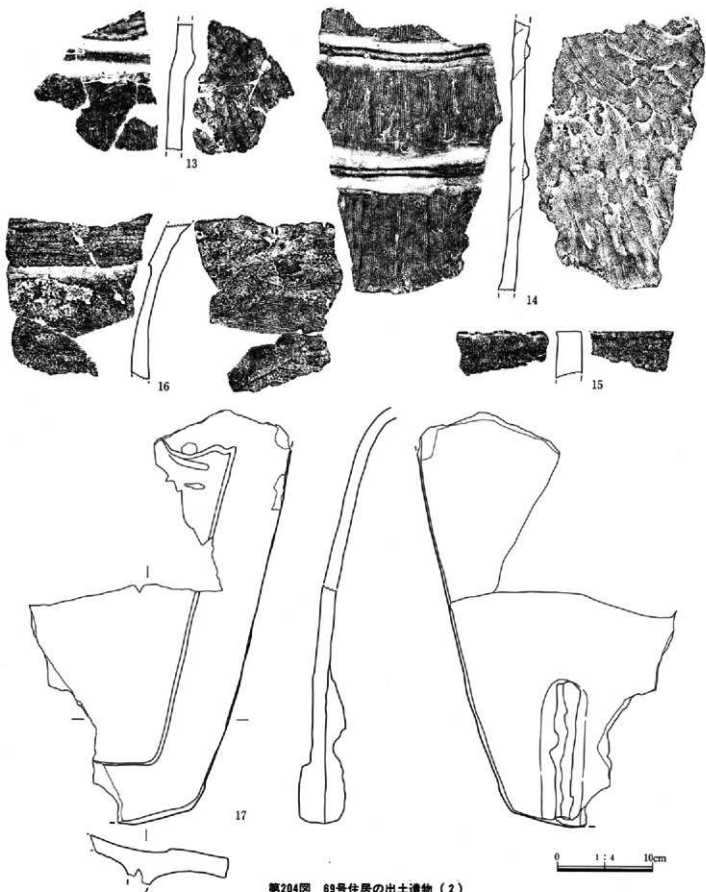
- 10 灰黄白色シルト 灰褐色土塊混じる。
- 11 灰褐色土 黄白色小塊・炭粒を斑点状に含む。シルト質土。
- 12 灰褐色土 白色粘土塊との混土。
- 13 灰褐色土 黄白色小塊を多く含む。炭粒含む。粘性あり。
- 14 黄褐色細砂
- 15 黄白色シルト
- 16 灰褐色土 灰白色シルト小塊・炭粒含む。
- 69号住居 貯蔵穴2 G-G'
- 1 褐灰色(灰)粘質土に、白色粘土塊(1~3cm大)入り混じる。僅かに炭化物含む。(上面に灰層堆積)

0 1:40 1m

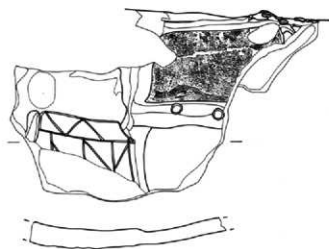
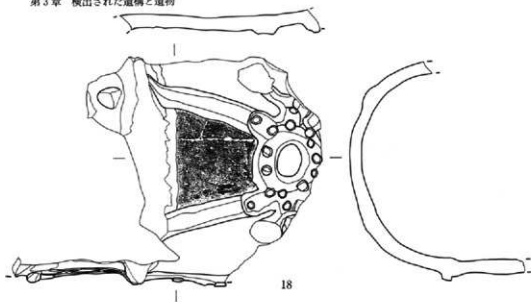
第202図 69号住居竈



第203図 68号住居の出土遺物(1)



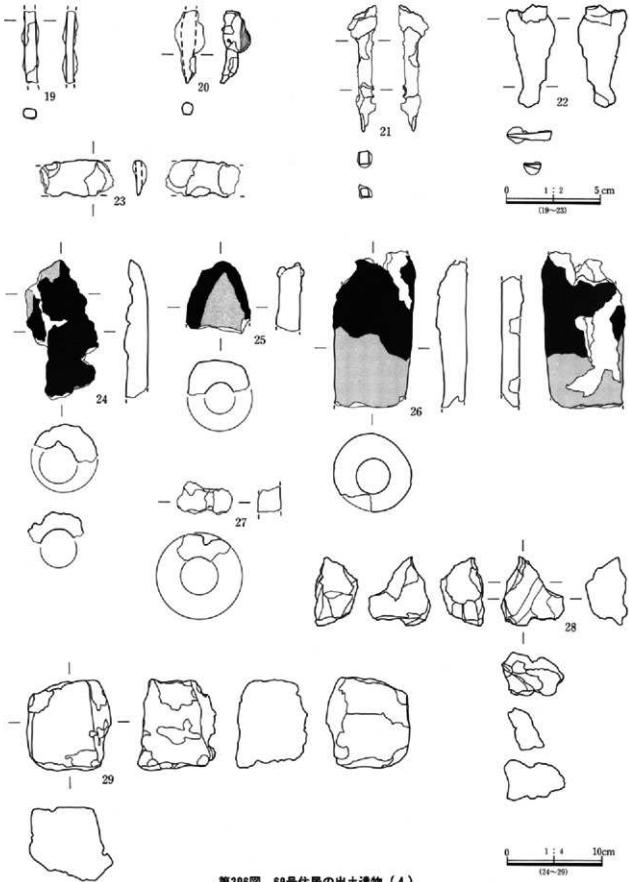
第204図 69号住居の出土遺物(2)



0 1 : 4 10cm

第205図 69号住居の出土遺物(3)

第3節 古代の遺構と遺物



第206図 69号住居の出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物

70号住居(第207・208図 PL65・156 遺物観察表P.383)

位置 A6区4C, 4D-41, 42グリッド

形状 南壁を下底とする隅丸台形状の平面形を呈する。北壁と東壁は比較的直線的だが南壁、西壁はふくらみ、南壁の隅隅は丸みが強い。電部を69号住居に切られる。

規模 長辺 2.98m 短辺 2.36m

方位 N-13°-E

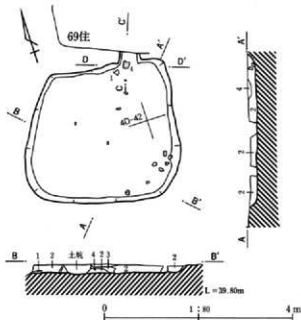
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰黄色土、灰褐色土の小塊を含む黄褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 13cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

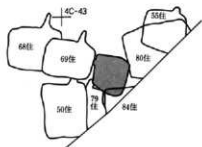
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、中央部がやや低くなるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

電 北壁東寄りウ字形に掘り込んで燃焼部を作る



70号住居 A-A' B-B'

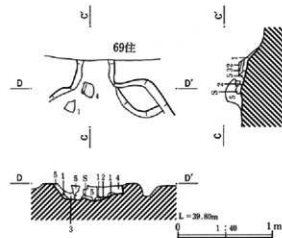
- 1 浅黄色土 灰褐色土混じりの灰黄色土。
- 2 黄褐色土 灰黄色粒小塊・灰褐色小塊含む。
- 3 暗灰黄色土 夾雑物少なく僅かに灰黄色粒含む。
- 4 黄褐色土 シルト質。灰黄色粒(5mm)をまだらに含む。



が、ほとんどを69号住居に切られて詳細は分からない。袖はない。確認できた長さは30cmほどしかない。燃焼部幅38cm。埋没土中には天井の構材材として用いられたと思われる灰白色のシルトが崩落しているのが見られる。電前部には炭化物や灰が広がっている。

重複 69号住居より古い。84号住居より新しい。遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。電前から羽蓋片が出土している。東壁南寄りに円鏝や棒状鏝がまとまって出土している。

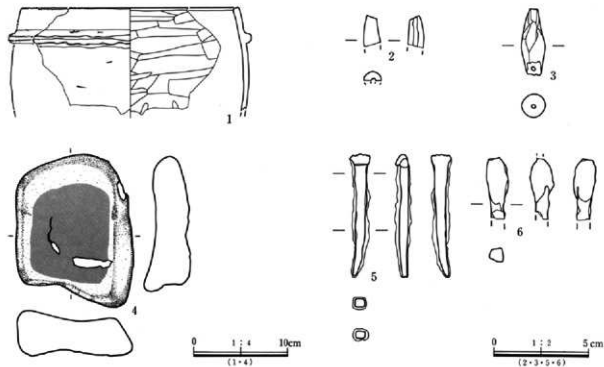
その他 平安時代(10世紀前葉)



70号住 電 C-C' D-D'

- 1 暗灰褐色土 焼土小塊、灰層の混土。(灰層)
- 2 黄褐色土 灰白色シルトと燃土塊の混土(天井崩落土)。
- 3 褐色土 土質均質、緻密。
- 4 灰褐色土 褐色気味。土質均質僅かに焼土・炭粒含む。
- 5 灰褐色土 黄白色土小塊含む、焼土・炭粒少量含む。

第207図 70号住居



第208図 70号住居の出土遺物

71号住居(第209図 PL64・65・156 遺物観察表P.383)

位置 A6区3X-41・3X, 3Y-42グリッド

形状 南北に長い横長隅丸長方形の平面形を呈するものと思われる。南壁から西壁にかけてを56号住居と57号住居に切られる。北壁の両隅は丸みを持って屈曲するが、特に北東隅は丸みが強い。

規模 北辺長 3.00m 東辺確認長 3.46m

方位 N-82°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 電右手に円礫や土器片が集中する部分がある。わずかな落ち込みを示すのみで遺構としては明確ではない。また、57号住居と切り合う部分にあって、礫や土器の屑も不明瞭であったが、本住居電出土土器片とこの部分出土の土器片が接合することから、本住居の貯蔵穴的な位置にあるものとする。埋没土 炭化物を含み、やや粘性のある明褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 8cm。なだらかな丸みを持って立ち上がり、上方に開く。



床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、中央部がやや低くなるが、ほぼ平らに仕上げられる。粘性の強い暗赤褐色土で貼り床が作られ、その下位には炭化物を多く含む褐色土がある。

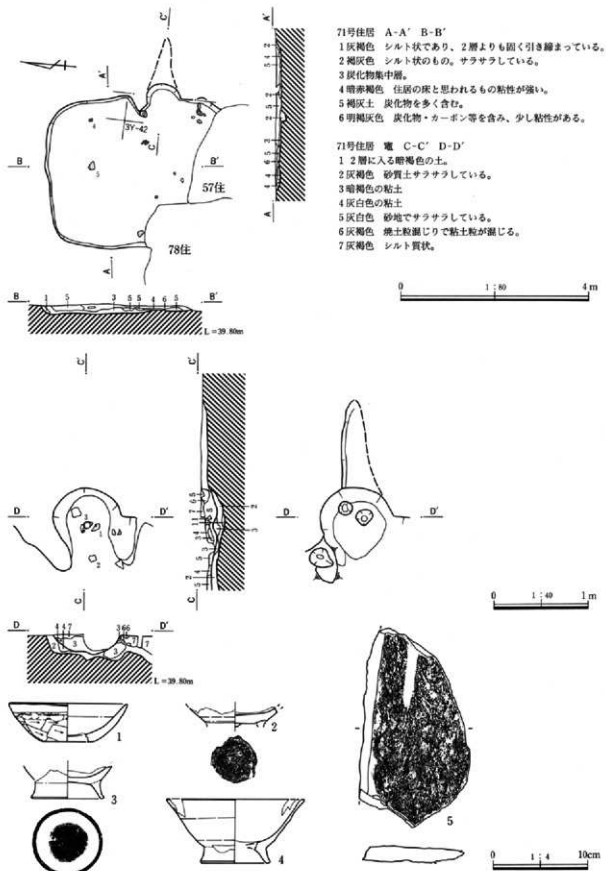
竈 東壁南寄り相当の部分に壁外に半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り、地山を掘り残した袖で囲んでいる。確認長0.87m、燃焼部幅45cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる暗褐色の粘土や灰白色粘土が見られる。煙道は下底部が痕跡的に残るのみであった。

重複 57号住居、78号住居より古い。

遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。竈内及び竈の右手から土器片や円礫が出土している。

その他 平安時代(10世紀前葉)

第3章 検出された遺構と遺物



第209図 71号住居と出土遺物

72号住居(第210・211図 PL65・156 遺物観察表P.383)

位置 A6区3U-36, 37グリッド

形状 南壁は73号住居との切り合いにより不明瞭であるが、南北に長い横長の隅丸長方形の平面形を呈する。各隅は丸みを持って屈曲し、北壁はややふくらみを持つ。

規模 長辺 2.96m 短辺 2.30m 面積 7.96㎡

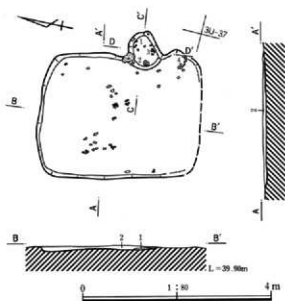
方位 N-78°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 炭化物粒や焼土粒をわずかに含む暗灰黄色のシルト質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 5cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がる。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、西側がやや低くなるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。



72号住居 A-A' B-B'

- 1 灰褐色土 ややしまり・粘性のある層。床面。
- 2 暗灰黄色 黄白の小塊が見られる。砂質気味のシルト、炭粒・焼土粒僅かに含む。

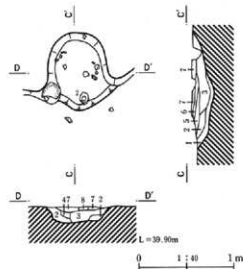


竈 東壁南寄りをU字形に掘り込んで燃焼部を作る。煙道は確認できなかった。確認長0.81m、燃焼部幅51cm。袖は認められないが、左右の袖相当位置にわずかな窪みがあり、袖石の痕跡かと思われる。

重複 73号住居より新しい。

遺物と出土状況遺 物数は少ない。竈内、竈右手と住居中央やや西寄りにそれぞれ土器片のまとまりがある。

その他 平安時代(10世紀中葉)

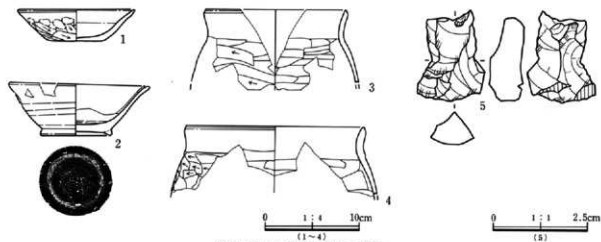


72号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 くすんだ黄褐色土 6層より褐色土塊少ない。
- 2 くすんだ黄褐色土 黄褐色細砂に焼土小塊・褐色土塊混じり。
- 3 暗褐色土 焼土小塊・灰混じり、黄褐色細砂含む。
- 4 褐色土 焼土塊・黄白色シルトの焼土化した塊。
- 5 黒褐色灰層
- 6 褐色土 炭粒・褐色粘土小塊含む。
- 7 褐色土 焼土小塊混じり、灰含む。
- 8 灰白色シルト 焼土粒僅かに含む。

第210図 72号住居

第3章 検出された遺構と遺物



第211図 72号住居の出土遺物

73号住居

(第213・213図 PL65・156・157 遺物観察表P.383・384)

位置 A6区3T, 3U-36グリッド

形状 南北に長い横長方形の平面形を呈する。北壁は72号住居との切り合いによりやや不明瞭であるが、床面のラインは把握できる。各隅は丸みを持って屈曲する。特に南東隅は丸みが強い。

規模 長辺 3.22m 短辺 2.34m 面積 8.29㎡

方位 N-87°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 炭化物粒や焼土粒をわずかに含む暗灰黄色のシルト質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 14cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。北半部に粘性のある灰褐色土による貼り床が認められる。

竈 東壁南寄りを壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作っている。煙道は確認できない。確認長0.72m、燃焼部幅48cm。左袖部は地山を短く突起状に掘り残している。右袖部も地山をなだらかに掘り残し、その先端近くには袖石に用いられたものと見られる円礫がまとまって出土している。埋没土中には構築材に用いられたと考えられる青灰色粘土塊や粘性のあ

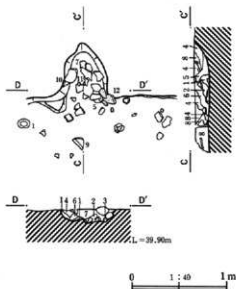
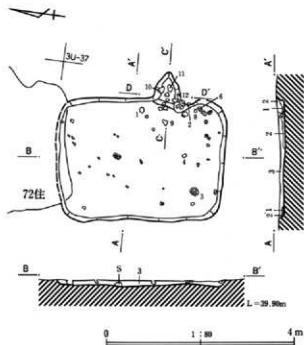


る褐色土塊が見られる。構築材の主体は青灰色粘土であったようだ。竈前部から、その右手に当たる南東隅部にかけて炭化物の薄い層が広がっている。

重複 72号住居より古い。

遺物と出土状況 竈内からその前面及び右手にかけて、坏、羽釜、甕などの土器破片が出土している。この部分の破片は比較的大きく、接合するものも多い。南西隅部近くからもほぼ完全に近い坏が出土している。住居中央やや北寄りには比較的大きな歪角礫がある。その他、住居全体に小破片が散在するが、特定の分布傾向は見られない。

その他 平安時代（10世紀中葉）

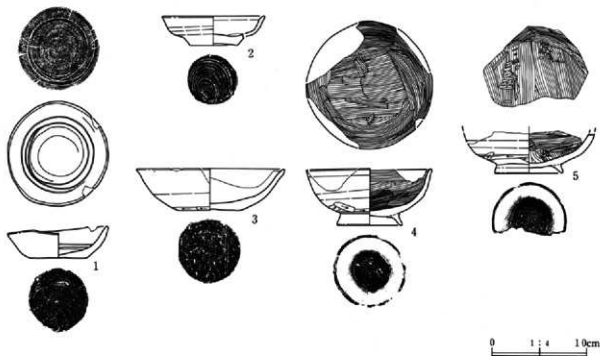


73号住居 A-A' B-B'

- 1 濃い黄褐色土 砂質シルト、黄白色小塊種かに含む。
- 2 黄褐色土 焼土・炭粒種かに含む。うすく灰を見られる。
- 3 暗灰黄色 黄白の小塊が見られる。砂質気味のシルト、炭粒・焼土粒種かに含む。

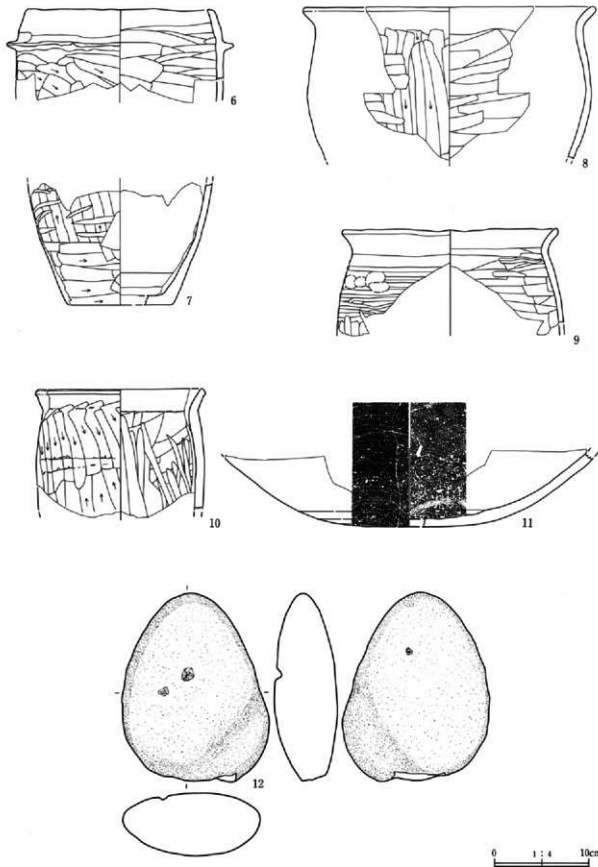
73号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 白色 焼土主体。粘性のある褐色土含む。
- 2 粘土
- 3 焼土
- 4 暗褐色 青灰色粘土小塊・焼土小塊少量含む。
- 5 褐色 焼土を多量に含み青灰色粘土塊灰混じる。(天井崩落土)
- 6 暗褐色 青灰色塊・焼土塊を少量含む。
- 7 暗褐色 青灰色塊・焼土塊混じり、まだらに含む。
- 8 淡黄色シルト 僅かに褐色土、黄白色粒含む。



第212図 73号住居と出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第213図 73号住居の出土遺物(2)

74号住居 (第214~216図 PL66-157 遺物観察表P.384)

位置 A6区3U,3V-35,36グリッド

形状 東壁を下底とする隅丸台形状の平面形を呈する。各隅は丸みを持って屈曲する。

規模 東辺長 3.76m 西辺長 2.62m 東西長 3.06m 面積 10.75㎡

方位 N-112°-E (南壁) N-93°-E (竈)

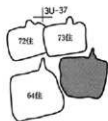
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 灰褐色土、黄白色土の小塊を含み、ごくわずかな炭化物粒を含む黄褐色シルト質土で埋まる。壁際では灰褐色土や黄白色シルトの混入がみられるが、床面から確認面までほぼ単層で埋没している。

確認最大壁高及び壁の状況 21cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床は認められない。

竈 東壁南寄りをU字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り、煙道を延ばす。確認長1.35m、燃焼部幅33

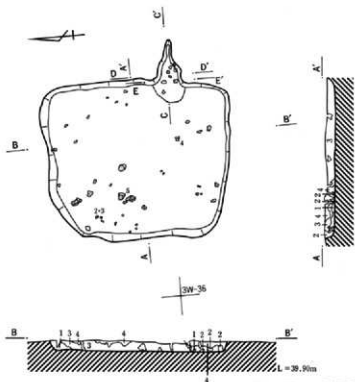


cm。住居壁との接点部左右に袖石とみられる割石があり、燃焼部中央奥よりには支脚に用いられたと考えられる円礫が立つ。埋没土には構築材に用いられたと考えられる褐色粘質土塊が見られる。焼け方は弱い。

重複 64号住居と接するが、確認面での切り合いはない。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。竈内から大型の土器破片が出土しているが、他は住居全体に小破片が散在する。竈の構築材以外にも礫の出土が多い。

その他 平安時代か

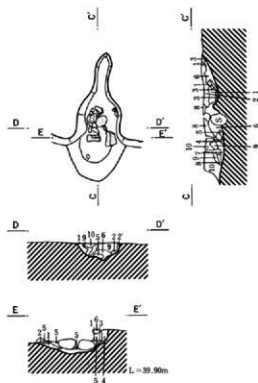


74住居 A-A' B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質。3層に似るがやや灰褐色を多く含む。
- 2 黄褐色土 黄白色シルト質多く含む。
- 3 黄褐色土 シルト質。灰褐色土小塊・黄白色小塊少量混じる。僅かに炭粒含む。
- 4 黄褐色土 やや鉄分沈着見られ橙色。シルト質。細砂含む。

0 1:60 4m

第214図 74号住居

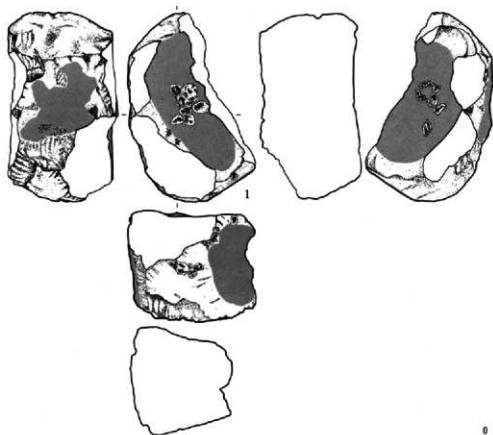
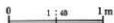


74号住居 竈 C-C' D-D'

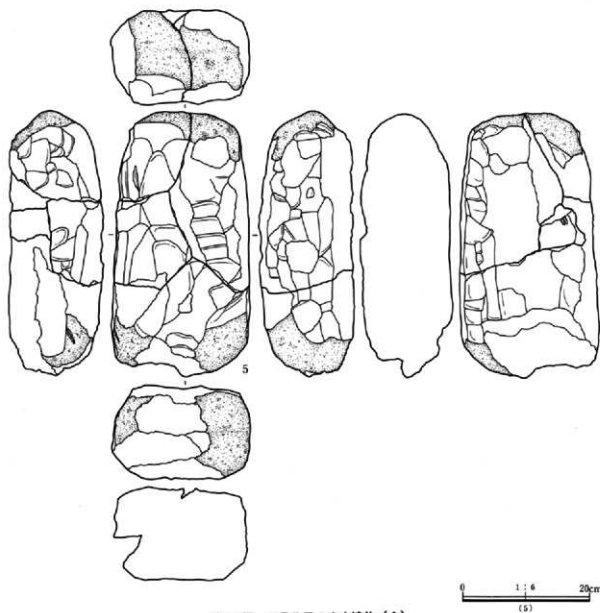
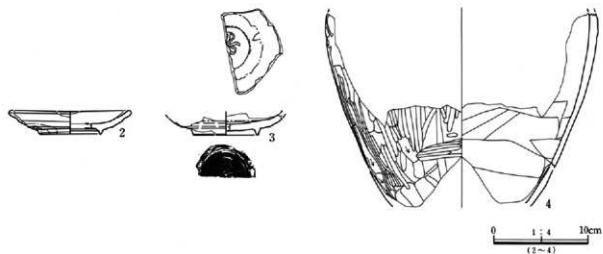
- 1 橙色 焼土塊。
 - 2 におい黄褐色土 焼土小塊・灰白色土小塊・灰色塊の混土。
 - 2' 褐色土 焼土塊・粒含む。
 - 3 暗褐色土 灰・焼土塊混土(灰層)。
 - 4 におい黄褐色(白っぽい)炭化物、灰僅かに含む。
 - 5 褐灰色土 6層に炭化物少量含む。
 - 6 褐灰色土 炭粒含む、粘性強い。
 - 7 褐灰色土 夾雑物少なく、砂質。
 - 8 におい黄褐色土 炭粒、焼土粒僅かに含む。
 - 9 におい黄褐色 シルト。
 - 10 におい黄褐色シルト主体、黄白粒含む。
- 5・6・7・8・9・10は、全体にシルト。確認時に竈は不明瞭であった。また内面も焼土弱い。1・2は天井崩落土。

74号住居 竈 E-E'

- 1 灰黄褐色土 灰・炭粒含む砂質シルト。
- 2 褐色土 焼土主体。
- 3 褐色粘質土
- 4 くすんだ褐色土 焼土・炭粒僅かに含む。サクサクした層。
- 5 くすんだ褐色土 焼土・炭粒僅かに含む褐色粘質土まじり。
- 6 黄褐色土 灰白色塊主体。



第215図 74号住居竈と出土遺物(1)



第216図 74号住居の出土遺物(2)

75号住居 (第217・218図 PL66-67-157 遺物観察表P.384)

位置 A6区4E～4G-46, 47グリッド

形状 計測数値上では南北に長い横長形状を示すが、東壁部の攪乱によって計測点の選択が限定されたため、ほぼ方形ないし隅丸形状を基本的平面形とするものであろう。各隅は丸みを持って屈曲する。竈が東壁の延長線より内側に入り込んで造られているため、南東隅は変形している。竈右袖から連続する南壁は、比較的直線性が強い。東壁南部は現代の耕作溝によって攪乱されている。

規模 長辺 4.14m 短辺 3.54m

方位 N-89°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 ロームの小塊と炭化物粒、焼土粒を含む粘性の強い暗褐色土で埋まっている。さほど浅い住居ではないのだが、床面から確認面まで、ほぼ単一の土で埋没している。

確認最大壁高及び壁の状況 26cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、直立する。

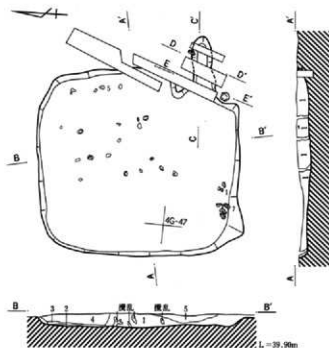
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。北壁際ではロームや灰土、黒色土塊が混じり合い、灰や炭が薄い互層をなす貼り床状の部分が見られる。

竈 東壁南寄りを壁外に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばすが、現代の耕作溝により竈状に切られているため、部分的な観察に留まる。確認長1.65m、燃焼部幅約65cm。両袖部は地山をわずかに削り残した上に黄白色の粘質土を乗せて作っており、左袖の住居壁との接点部からは、攪乱下底ながら、袖石と思われる角礫が出土している。埋没土には構築材に用いられたと考えられる黄白色粘質土や青灰色粘土塊が含まれる。

重複 なし。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。住居中央から東よりに破片が散在する。南西隅部から円礫や亜角礫ががまとまって出土し、この中に比較的大型の鉄滓が混じている。

その他 平安時代 (10世紀後葉)

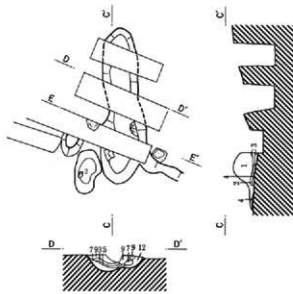


75号住居 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土 ローム小塊・焼土粒・炭粒混じり、しまり・粘性強い。
- 2 暗褐色土 灰・炭・焼土粒が混じる。やや硬質。
- 3 暗褐色土 ローム小塊混じる。土灰?
- 4 暗褐色土 ローム塊(1~3cm大)をまだらに含む。
「ボソボソした層。土坑?」
- 5 灰褐色土 ローム塊・灰色粘土塊をまだらに含む、炭化物も多く含む。

0 1:80 4m

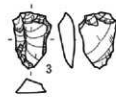
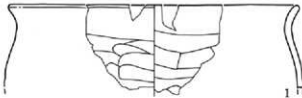
第217図 75号住居



75号住居 竪 C-C' D-D' E-E'

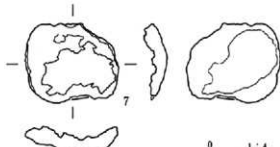
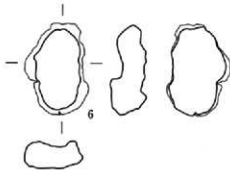
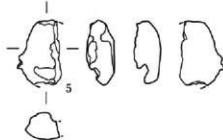
- 1 褐色土 ローム塊を含み、焼土・炭粒含む。
- 2 ローム塊。
- 3 焼土塊。
- 4 黒褐色土 灰層・焼土粒含む。
- 5 暗灰褐色土 灰層に焼土層見られ、互層に堆積しまり弱い。
- 6 青灰色粘土塊。
- 7 褐色土・焼土小塊・灰混じり。
- 8 黄褐色土 10層塊、11層塊混じり(壁崩落)。
- 9 黄褐色土 11層に灰白色灰混じり(壁崩落)。
- 10 黄白色粘質土 竪溝底土(崩落土)。
- 11 黄褐色粘質土 下層焼土化(崩落土)。
- 12 黒褐色土 ローム塊含む。しまり弱い。

0 1:40 1m



0 1:1 2.5cm
(3)

0 1:2 2.5cm
(4)



0 1:4 10cm
(1・2・5-7)

第218図 75号住居竪と出土遺物

76号住居(第219-220図 PL67-157-158 遺物観察表P.384)

位置 A6区4A, 4B-44, 45グリッド

形状 東西に長い、ゆがんだ縦長長方形の平面形を呈するものと思われる。調査以前の地境にあたる場所にあるため、桑根によって全体に著しく攪乱されており、さらに南西部は51号住居上にあたって不明瞭となるため、正確な形状の把握ができない。残存部分から見ると、北壁は南壁よりやや短いようで、西壁は北壁と丸みを持ちつつもほぼ直角方向に屈曲して連続するが、東壁は傾きを持ち、北東隅部ではなだらかな円弧状を呈して北壁と連続する。

規模 長辺 3.48m 短辺 2.52m

方位 N-92°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 基本的には暗灰黄色砂壤土や炭化物粒を多く含む暗褐色壤土で埋まっている。

確認最大壁高及び壁の状況 2.5cm。東壁部での観察にとどまる。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、直立する。

床面の状況及び床下施設等 攪乱のため、部分的な観察に留まる。暗灰黄色砂壤土と黒褐色砂壤土の混



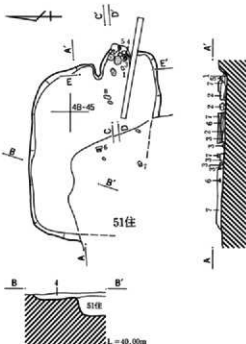
土で床貼りされる。床表面は炭化物を多く含む、暗オリーブ褐色壤土で、固くしまっている。

竈 東壁のやや南寄り、C字形に壁外に掘り込んで燃焼部の半ばを作る。煙道は確認できない。確認長1.4m、燃焼部幅約1.2cm。右袖部は攪乱により失われている。左袖部は地山を小さな突起状に掘り残している。燃焼部内には円礫や歪角礫があって、構築材として用いられていたものと思われるが、本来の位置をとどめていない。また、粘土塊も燃焼部奥部を中心に面的に残り、埋没土にも構築材に用いられたと考えられる粘土塊が見られる。

重複 51号住居より新しい。

遺物と出土状況 遺物数は少ないが、竈周辺に坏類の比較的大きな破片がある。羽釜は竈前から住居中央部にかけて散在していたものである。

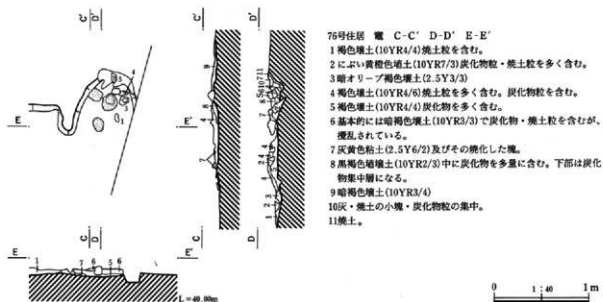
その他 平安時代(10世紀中葉)



76号住居 A-A' B-B'

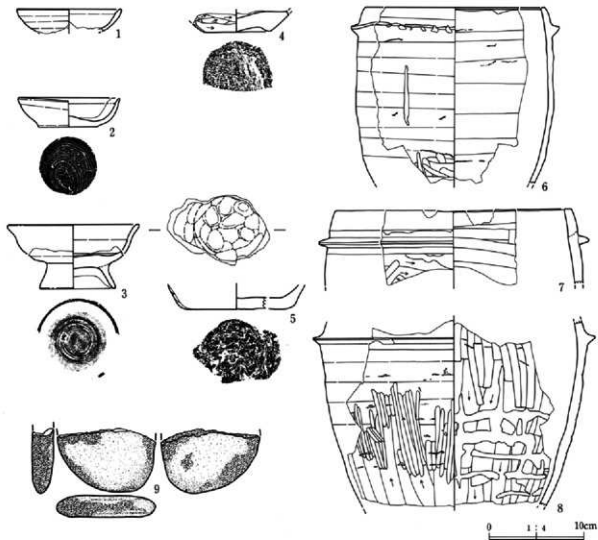
- 1 暗褐色壤土(10YR3/3)やや乱されて2層の暗灰黄色砂壤土の塊が入る。
- 2 暗灰黄色砂壤土(2.5Y4/2)と暗褐色壤土(10YR3/2)との混土。
7:3位の比、前者の塊中に後者がはさまれる。
- 3 2と同層だが4:6位の比に逆転、黒褐色土中に暗灰黄色土の塊が入る。
- 3' 炭化物粒を含む。各層の塊が乱され、斑状に混土。
- 4 オリーブ褐色砂壤土(2.5Y4/4)・炭化物粒を多く含む。
- 5 暗褐色壤土(10YR3/4)
- 6 暗オリーブ褐色壤土(2.5Y3/3)・炭化物粒を多く含む固くしまっている。
- 7 5に近い。炭化物粒を多く含む。

第219図 76号住居



76号住居 竪 C-C' D-D' E-E'

- 1 褐色壤土(10YR4/4)焼土粒を含む。
- 2 におい黄褐色壤土(10YR7/3)炭化物粒・焼土粒を多く含む。
- 3 暗オリーブ褐色壤土(2.5Y3/3)
- 4 褐色壤土(10YR4/6)焼土粒を多く含む。炭化物粒を含む。
- 5 褐色壤土(10YR4/4)炭化物を多く含む。
- 6 基本的には暗褐色壤土(10YR3/3)で炭化物・焼土粒を含むが、擾乱されている。
- 7 灰黄色粘土(2.5Y6/2)及びその焼化した塊。
- 8 高褐色粘壤土(10YR2/3)中に炭化物を多量に含む。下部は炭化物集中層になる。
- 9 暗褐色壤土(10YR3/4)
- 10 灰・焼土の小塊・炭化物粒の集中。
- 11 焼土。



第220図 76号住居竪と出土遺物

77号住居(第221~224図 PL67・68・158-159 遺物観察表P.384)

位置 A6区4D,4E-44,45グリッド

形状 基本的には南北に長い横長隅丸長方形の平面形を呈するものと思われるが、全体にゆがみが激しい。

規模 長辺 4.2m 短辺 3.2m 面積 13.82㎡

方位 N-111°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 焼土、炭化物粒を含む暗褐色粘質土で埋まる。壁際の埋没土には部分的に灰白色土粒が混入する。覆土中位に灰褐色土と褐色土が薄い互層を成す貼り床状の土層が見られる。

確認最大壁高及び壁の状況 26cm。丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 南北方向断面では、わずかな凹凸をもちつつ南に下がりがながらも、ほぼ平らに仕上げられる。東西断面では住居中央部が大きく波打つ。

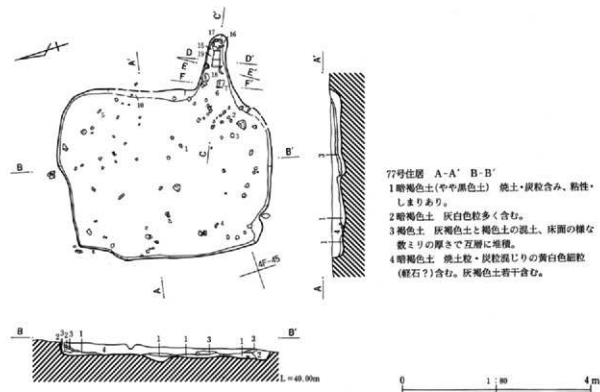
竈 東壁南寄りをU字形に近く掘り込んで燃焼部を

作り、煙道をのぼす。袖部は明確ではない。確認長1.45m、燃焼部のやや奥よりの左壁には、円筒埴輪の半切片の外面を燃焼部内に向けて横位に置き、その奥に円磔を立てて据える。右壁部にも円筒埴輪の半切片が同様の状態で配されるが、こちらには磔はない。これよりやや奥に当たる煙道との接続部には、左右に円筒埴輪を立てる。煙道も円筒埴輪が利用されており、口縁を欠いた1本の円筒埴輪を口縁側を燃焼部に向けて横たえ、もう一本の円筒埴輪の底部を煙道に使われた円筒埴輪の底部に接続させながら、やや角度を付けて立ち上がらせている。煙道接続部の円筒埴輪間の内側幅19cm。煙道に用いられた円筒埴輪の上や埋没土中には構築材に用いられた黄白色粘土塊が見られる。

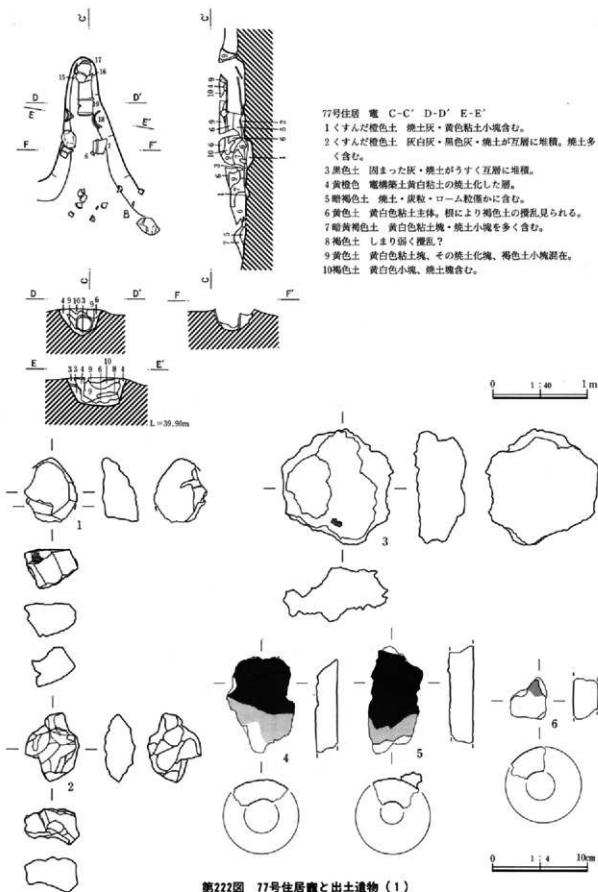
重複 80号・115号土坑より古い。

遺物と出土状況 竈内には構造材の埴輪片が多い。覆土の比較的上位から土器破片や鉄滓、羽口片などが住居全体に散在する状態で出土している。

その他 平安時代(10世紀中葉)



第221図 77号住居

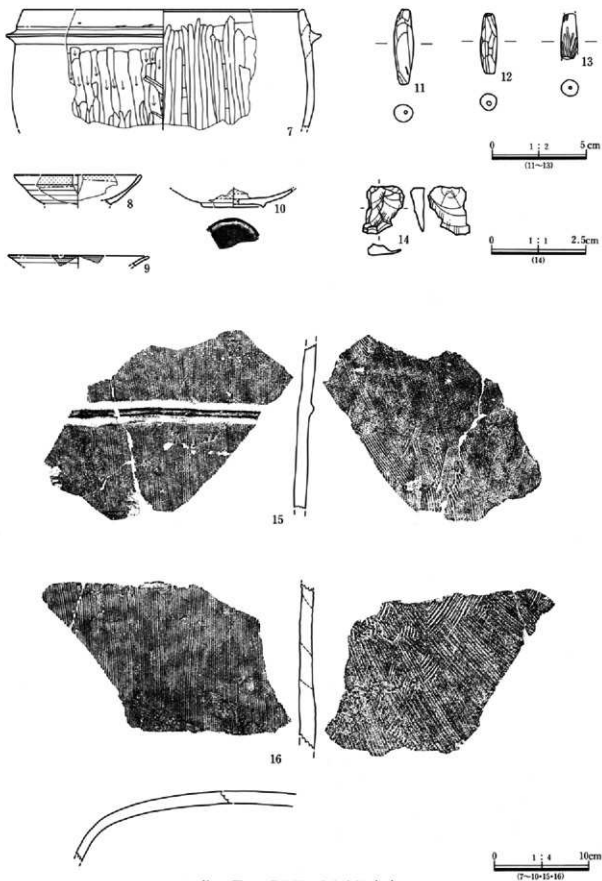


77号住居 竈 C-C' D-D' E-E'

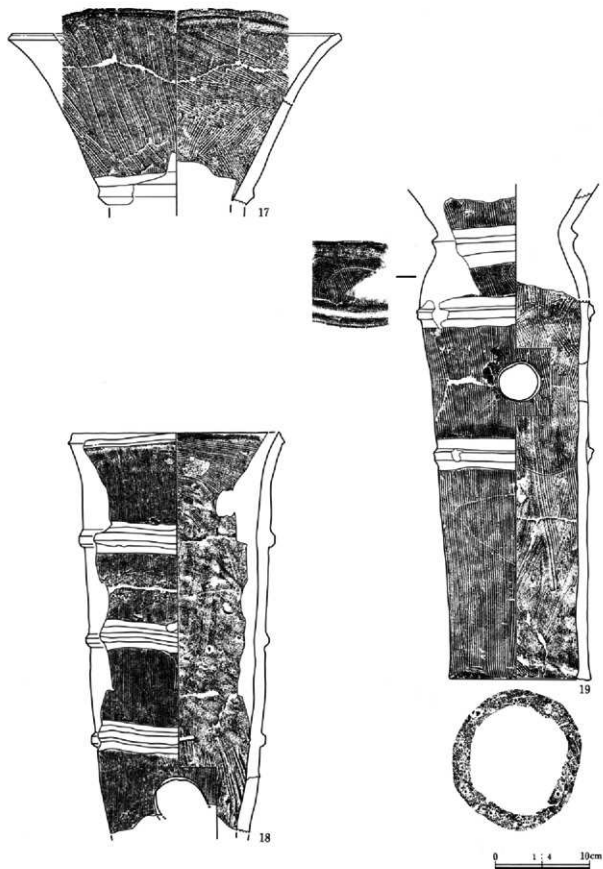
- 1 くすんだ褐色土 焼土灰・黄色粘土小塊含む。
- 2 くすんだ褐色土 灰白灰・黒色灰・焼土が互層に堆積。焼土多く含む。
- 3 黒色土 固まった灰・焼土がうすく互層に堆積。
- 4 黄褐色 電機架土黄白粘土の焼土化した層。
- 5 暗褐色土 焼土・炭粒・ローム粒僅かに含む。
- 6 黄色土 黄白色粘土主体。横により褐色土の攪乱見られる。
- 7 暗黄褐色土 黄白色粘土塊・焼土小塊を多く含む。
- 8 褐色土 しまり強く攪乱?
- 9 黄色土 黄白色粘土塊、その焼土化塊、褐色土小塊混在。
- 10 褐色土 黄白色小塊、焼土塊含む。

第222図 77号住居竈と出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第223図 17号住居の出土遺物(2)



第224図 77号住居の出土遺物(3)

78号住居(第225・226図 PL.68・159 遺物観察表P.385)

位置 A6区3Y, 4A-40, 41グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈する。西壁の大半は56号住居に切られ、北西隅は失われているが、他の三隅はあまり丸みを持たずに屈曲する。南北壁はやや蛇行する。東壁はわずかに膨らみを持つ。

規模 長辺 4.14m 短辺 3.16m

方位 N-85°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 地山と酷似した、全体に均質な、わずかに炭化物や焼土を含むふい黄橙色土で埋没する。床面上では焼土や炭化物が多く見られる。

確認最大壁高及び壁の状況 11.5cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

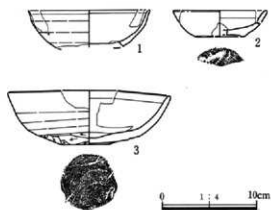
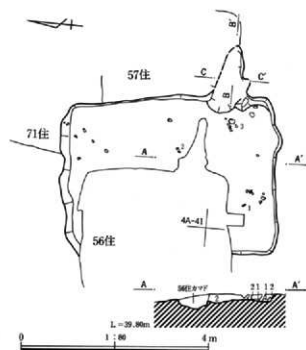
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。



竈 東壁南端近くを壁外にU字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作り、煙道をのぼすが、57号住居に切られて左半分が失われており、全体の形状は分からない。確認長1.44m、燃焼部幅60cm。右袖部は地山を小さく突起状に削り残している。埋没土には構築材に用いられたと考えられる灰白色粘土塊が見られる。重複 56号住居、57号住居より古い。71号住居より新しい。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。竈手前に比較的大きな破片があるが、他は住居全体に小破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)

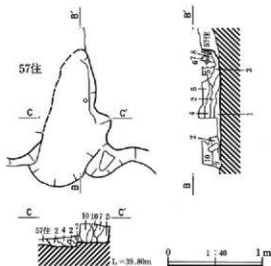


78号住居 A-A'

1にふい黄橙色土・焼土粒・炭粒含む。

2にふい黄橙色土・夾雑物少なく僅かに焼土粒・黄白色粒含む。

1・2全体に土質均質、確認当初地山と思われたが、時間が経つにつれ乾きが違い、よく見ると焼土・炭粒が見られ住居埋土と認定出来た。



第226図 78号住居電

78号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 浅黄色土 細砂・黄白色粒含む。
- 2 におい黄褐色土 3層より少く焼土・炭粒を含む。
- 3 におい黄褐色土 褐色(鉄分?)粒多く含む。焼土・炭粒層かに含む。
- 4 におい黄褐色土 炭粒含む。蒸っぽくにじむ。
- 5 におい黄褐色土 焼土・炭粒点々と含む。
- 6 赤褐色土 焼土塊。
- 7 浅黄色土 シルトのように滑らかな土。
- 8 におい褐色土 土質密、シルトの焼土化した層。
- 9 黄褐色土 灰白粒・炭粒・焼土粒層かに含む。
- 10 灰褐色土 土質密、灰白小塊・炭粒・焼土粒層かに含む。

79号住居(第227・228図 PL68-69・159 遺物観察表P.385)

位置 A6区4D,4E-42グリッド

形状 当初は50号住居と同一のものとして調査したものである。北部の大半を50号住居に切られ、西部は調査区外となるため、方形ないし長方形の平面形と思われるが、全体の形状は分からない。南東隅はわずかに丸みを持って屈曲する。

規模 東西確認長 3.42m 南北確認長 1.46m

方位 N-93°-E (南壁)

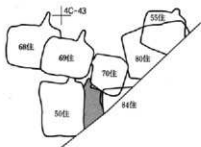
柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

埋没土 暗褐色土で埋まる。

壁の状況 ごく部分的な観察にとどまる。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。竈前から南東隅にかけて、広い範囲に青灰色粘土が広がっている。50号住居竈前の床下土坑埋没土中にもこの青灰色粘土がみられ、これらの土坑が本住居に付属する施設である可能性もある。

竈 東壁南寄りに相当すると思われる部分を、壁外にU字形に掘り込んで燃焼部を作り、煙道を延ばす。確認長0.91m、燃焼部幅38cm。燃焼部内から竈前に

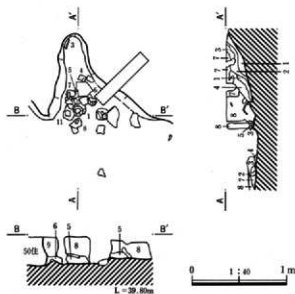
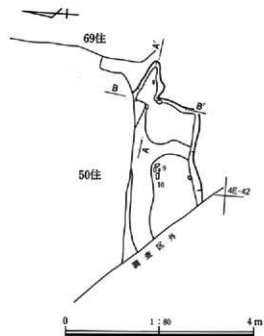


かけて炭化物や粘土の薄い層が広がる。燃焼部内には右袖部近くを中心に砂岩の亜角礫や円礫が認められるが、構造上の位置を保っているものではない。埋没土には構築材に用いられたと考えられる青灰色粘土塊が竈前から南東隅にかけて点々と見られる。重複 50号住居より古い。

遺物と出土状況 ごく狭い範囲の調査だが、遺物数は比較的多い。竈内と、南壁中央近くに当たると思われる確認範囲の中央付近から、大小の羽釜片をはじめとする大型の土器破片が小さなまとまりを持って出土している。また、床面下から、坏が出土している。

その他 平安時代(10世紀中葉)

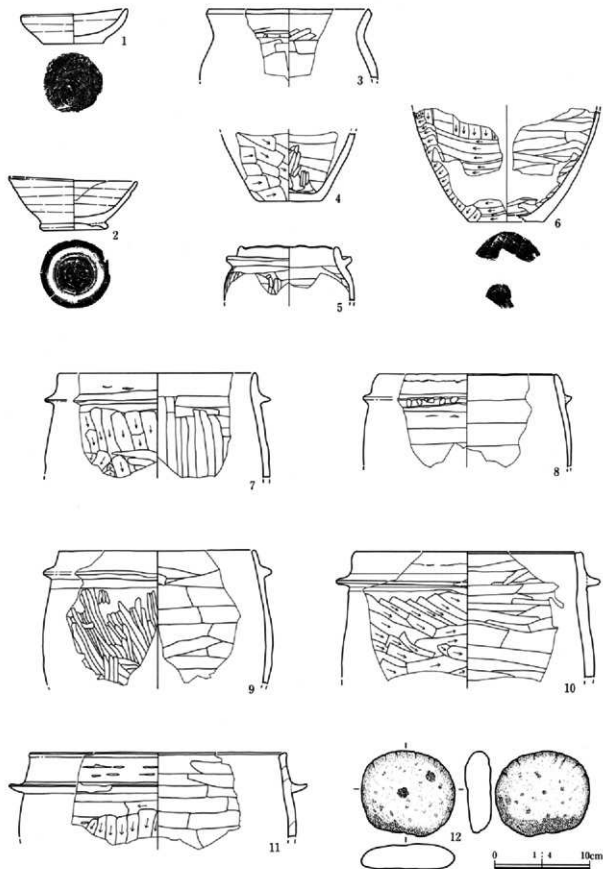
第3章 検出された遺構と遺物



79号住居 縦 A-A' B-B'

- 1 褐灰色土 灰色粘質土に焼土塊混じり。
- 2 にぶい褐色土 灰白・黄白色シルト塊入り混じる。
- 3 灰褐色土 灰色粘質土塊・焼土塊・灰含む。
- 4 黒褐色土 炭粒含む灰層。
- 5 暗褐色土 炭粒・暗褐色粘土塊含む。
- 6 灰色土 青灰色粘土多量に含む、焼土粒・炭粒僅かに含む。粘性しまり強い。(天井崩落土)
- 7 灰褐色土 8層に炭粒・焼土粒含む。
- 8 灰褐色土 灰白色粒・小塊僅かに見られる。
- 9 灰褐色土 灰褐色砂質シルトに灰白シルト・青灰色粘土塊混じり。

第227図 78号住居



第226図 79号住居の出土遺物

80号住居(第229・230図 PL69・159 遺物観察表P.385)

位置 A6区4C, 4D-40, 41グリッド

形状 南北に長い横長方形の平面形を呈するものと思われる。南西部が調査区外となるため、全体の形状は分からない。東壁の両隅はやや丸みを持って屈曲する。

規模 東辺 5.42m 東西確認長 3.96m

方位 N-80°-E (北壁)

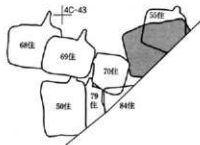
柱穴 東南隅近くにあるピットを柱穴とした。上端直径49cm、深さ23cmで、柱痕はない。

周溝 なし。

貯蔵穴 南東隅にある。東西111cm、南北73cmほどの楕円形で、床面からの深さは16cmほどである。底部は凹凸があるが平坦な面があり、断面形は広いコの字状を呈する。青灰色粘土の小塊を含む、粘性の強い灰褐色土で埋まる。

埋没土 青灰色粘土、灰白色土を含む細砂混じりのぶい黄橙色土の単層で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 21cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。



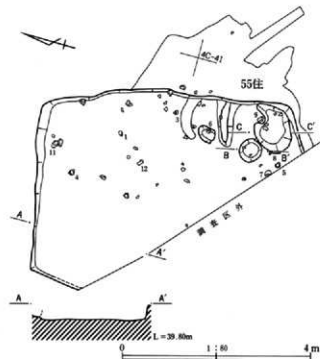
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

壁 東壁南寄りに青灰色粘土が袖状に張り出す部分があり、灰や焼土塊が集中する。この部分を竈と想定した。壁外への掘り込みは認められない。確認長1.0m、内側幅60cm。両袖の端部中央にピットがあり、下層は黒色の灰と焼土塊で埋まり、表層は青灰色粘土で埋められる。

重複 55号住居より古い。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。貯蔵穴周辺から大型の土器破片が出土している。他は住居全体に小破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)

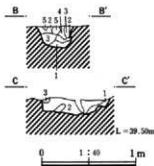


80号住居 貯蔵穴 C-C'

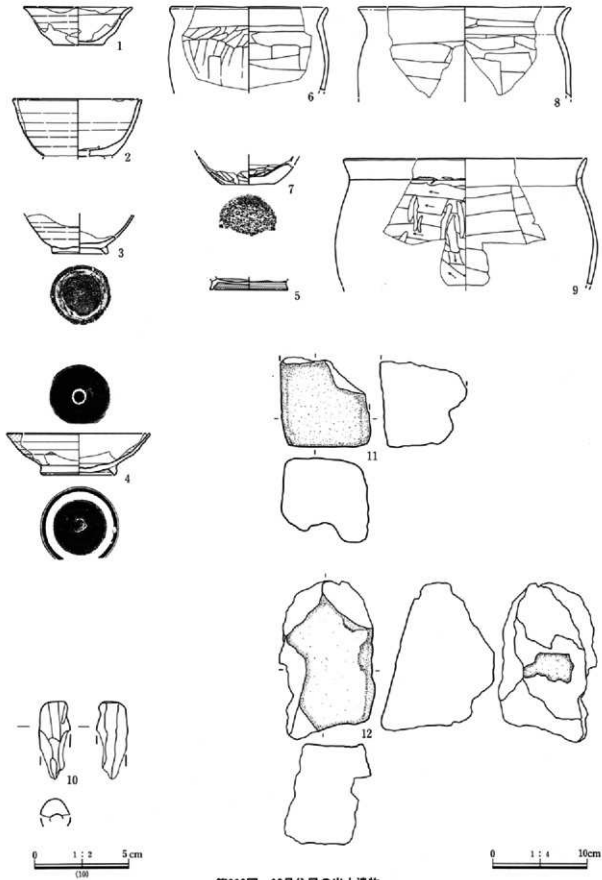
- 1 灰褐色土 青灰色粘土塊混じり、粘性強く、しまりあり。
- 2 灰褐色土 土質均質、青灰色粘土小塊含む。粘性強く、しまりあり。
- 3 粘土。

80号住居 柱穴 B-B'

- 1 灰褐色土 青灰色粒僅かに含む。シルト質粘土。
- 2 灰褐色土 青灰色粘土塊・粒混じり。
- 3 灰褐色土 青灰色粒・炭粒含む。土質密、粘性強い。
- 4 暗灰褐色土 青灰色粒・炭粒僅かに含む。
- 5 褐色土 青灰色粒、炭粒僅かに含む(やや茶色)。



第229図 80号住居



第230図 80号住居の出土遺物

81号住居 (第231・232図 PL.69・70・159 遺物観察表P.386)

位置 A6区3W, 3X-40, 41グリッド

形状 南北に長い横長長方形の平面形を呈するものと思われる。南半は57号住居、61号住居に切られる。南東以外の隅部は丸みを持って屈曲する。

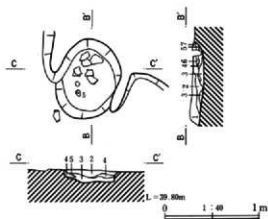
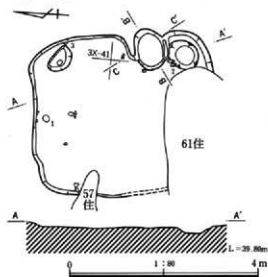
規模 長辺 3.54m 短辺 3.30m

方位 N-79°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 東南隅にある。直径62cmほどのゆがんだ円形の窪みで、断面形は皿状を呈する。埋没土の下位は細砂凝じりの黄褐色土で、中位以上に炭化物を含む。

埋没土 わずかに焼土、炭化物を含む褐灰色のシルト質砂土で埋まる。床面直上にはごく薄い灰褐色シルトが2の。



第231図 81号住居

確認最大壁高及び壁の状況 4cm。丸みを持って立ち上がりわずかに上方に開く。

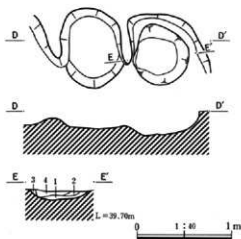
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床が認められる。

竈 東壁の南端近くを半円形に掘り込んで燃焼部の半ばをつくる。長さ0.84m、幅57cmの楕円形の窪みが燃焼部としてとらえられる。埋土には構築材と考えられる青灰色粘土の小塊が混じり、燃焼部奥には天井部が崩落したものと思われる粘土塊がある。

重複 57号住居、61号住居より古い。

遺物と出土状況 遺物数は少ない。貯蔵穴左手に大型の土器破片がみられるが、他は住居全体に小破片が散在する。

その他 平安時代 (10世紀前葉)

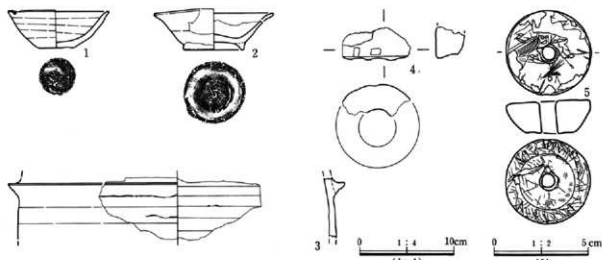


81号住居 竈 B-B' C-C'

- 1 灰黄褐色土 青灰色の灰に焼土が凝じる。灰層。フカフカした層。
- 2 褐色土 焼土塊主体。天井崩落土。
- 3 浅黄シルト質 炭粒・黄白色粒含む。サクサクした層。
- 4 くすんだ灰黄色シルト質 3層より炭粒少ない。
- 5 灰褐色土 焼土小塊・青灰色小塊をまだらに含む。
- 6 灰褐色土 炭粒・灰を含む。サクサクした層。
- 7 赤褐色土 焼土塊・灰褐色小塊凝じり。

81号住居 貯蔵穴 E-E'

- 1 黄褐色土 細砂に黄色小塊含む。
- 2 黄褐色土 砂質、僅かに炭粒含む。
- 3 灰褐色土 炭化物多く含む、褐色粘土小塊凝じり。
- 4 褐灰色土 炭粒含む、砂質・青白色小塊見られる。



第232図 81号住居の出土遺物

82号住居 (第233・234図 PL70 遺物観察表P.386)

位置 A6区3P, 3Q-31, 32グリッド

形状 計測数値上ではわずかに南北に長いが、ほぼ整った方形の平面形を呈している。南壁の南端部に竈と並ぶように小さな張り出しが造られている。他の各隅はやや丸みを持って屈曲する。南壁中央に小さな突出部がある。

規模 長辺 3.76m 短辺 3.64m 面積 13.49m²
方位 N-64°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 わずかに黄白色土の小塊を含む、褐灰色のシルト質砂土の単一層で埋まっている。周辺地山と、容易には判別しがたいほどに類似した土質である。確認最大壁高及び壁の状況 12cm。わずかに上方に開きながら、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平坦に仕上げられている。貼り床はない。

竈 上面の削平が著しいため、下底の一部を把握し得たのみである。東壁南寄りを壁外に半円形に掘り込んで燃焼部の半ばを作っている。煙道は確認できない。袖はなく、石などを設置した痕跡も認められない。確認長0.57m、燃焼部幅40cm。埋没土中には構築材に用いられたと考えられる黄灰色粘土が見られる。

重複 なし。

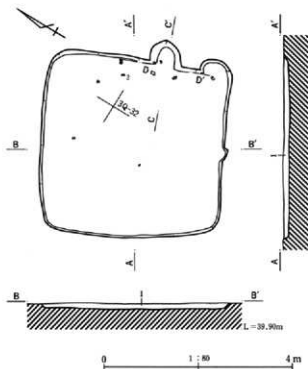
遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。竈内とその左手壁際、住居中央近くなどに小破片が点在するのみである。

その他 平安時代(10世紀前葉)



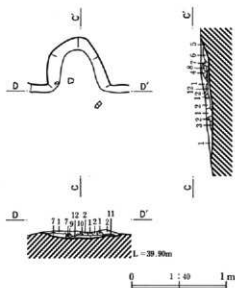
第233図 82号住居の出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



82号住居 A-A' B-B'

1 褐色土 僅かに黄白色土小塊含む。茶色粒見られる。砂質シルト(周辺地山と判別しにくい層)。



82号住居 竈 C-C' D-D'

- 1 オリーブ褐色 粘性は強く固い。
- 2 灰黄褐色 砂状土。
- 3 黄色みがかった粘土。
- 4 黄灰色粘土。
- 5 炭化物、焼土混じりの褐色土。
- 6 炭化物。
- 7 焼土。
- 8 粘土・炭化物混じり。
- 9 黒い砂。
- 10 焼土・灰混じり。
- 11 灰白色の砂。
- 12 灰。

第234図 82号住居

84号住居 (第235図 PL70)

位置 A6区4D, 4E-41, 42グリッド

形状 北東隅部のみを調査したもので、他は調査区外となる。北壁、東壁ともに直線的で膨らみを持たず、北東隅部はあまり丸みを持たずに、ほぼ直角に屈曲する。方形ないし長方形の平面形を呈するものだろう。

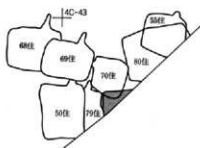
規模 東西確認長 2.05m 南北確認長 2.74m

方位 N-4°W (東壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 29cm。わずかに上方に開くが、ほとんど丸みを持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。住居中央寄りがやや高く

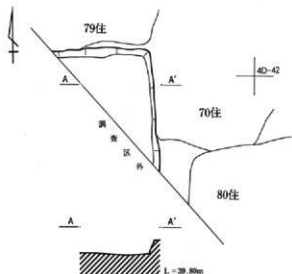


なる傾向がある。貼り床はない。

重複 70号住居より古い。79号住居とは直接切り合わない。

遺物と出土状況 なし。

その他 平安時代か



第235図 84号住居



85号住居 (第236図 PL70)

位置 A6区3Y-44,45グリッド

形状 南西隅に相当すると思われる部分のみを調査した。東は調査区外となり、北は旧河道より古い。隅丸方形ないし長方形を呈するものと思われ、隅部は丸みを持って屈曲する。

規模 南北確認長 2.04m 東西確認長 1.56m

方位 N-82°-E (西壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

埋没土 褐灰色砂質壤土で埋まる。

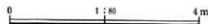
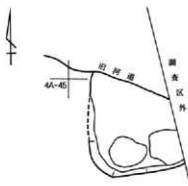
確認最大壁高及び壁の状況 10cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。掘り方を褐灰色土で埋め、炭化物を多く含む暗褐色土を貼って床としたもの考えられる。

重複 旧河道より古い。

遺物と出土状況 なし。

その他 平安時代か



第236図 85号住居

86号住居(第237~241図 PL.71-159-160 遺物観察表P.386-387)

位置 A6区4G-44グリッド

形状 電部を含む東壁の一部のみを確認したもので、他は調査区外となるため、平面形状を把握することはできなかった。

規模 東壁確認長 2.7m

方位 N-122°-E (電)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

埋没土 ローム粒、炭化物粒を含む黒褐色土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 5cm。上面の削平が激しく、調査がごく部分的であることと併せて詳細な観察はできていない。東壁北部では、わずかに上方に開くが、あまり丸みを持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

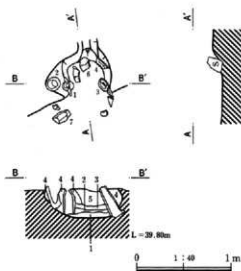
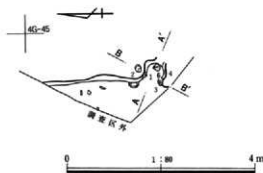
電 東壁の南寄りに相当すると思われる部分を、壁

外にC字形に掘り込んで燃焼部を作り、細い煙道を通すが、煙道部はほとんど確認できない。燃焼部と煙道は小さな段をもって接続している。燃焼部と住居壁との接続部近くに、右袖相当の位置には靴形の、左袖相当の位置には鬩形の形象埴輪を立てている。左袖の鬩形埴輪のさらに左にも円筒埴輪を立てて、焚き口部を構成している。燃焼部奥には支脚かと思われる礫が立っている。左袖部前にも角礫があるが、これは構造を示す位置を保っていない。確認長0.6m、左右の埴輪間の内側幅26cm。埋没土中には構築材に用いられたと考えられる白色粘土が見られる。

重複 なし。

遺物と出土状況 電内からは構築材の埴輪や礫が出土しているが、他の遺物はない。電右手の壁際に羽釜、土釜の小片が散在している。

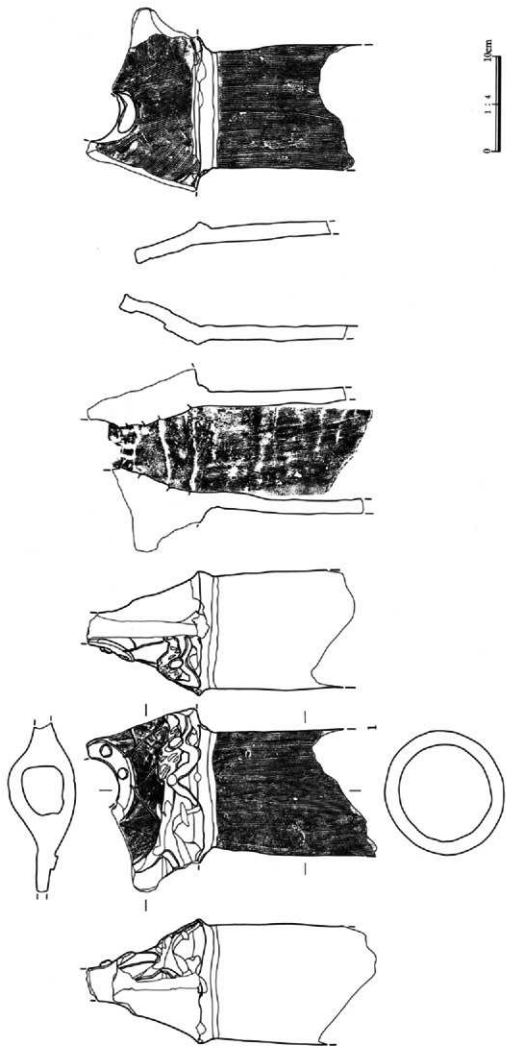
その他 平安時代か



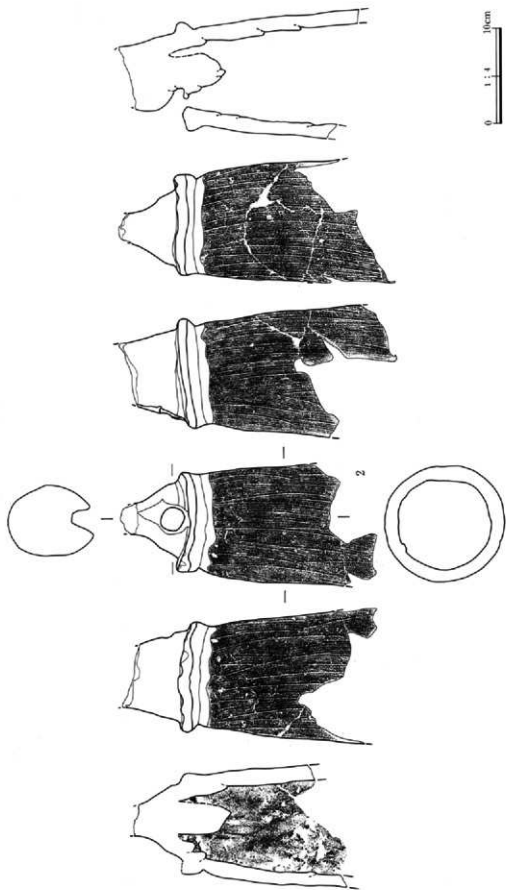
86号住居 電 B-B'

- 1 暗褐色土 ローム層移層。
- 2 黒色土 灰主体。しまりあり。
- 3 黒色土 灰主体。焼土粒含む。
- 4 白色粘土
- 5 暗褐色土 焼土粒・白色粘土粒含む。

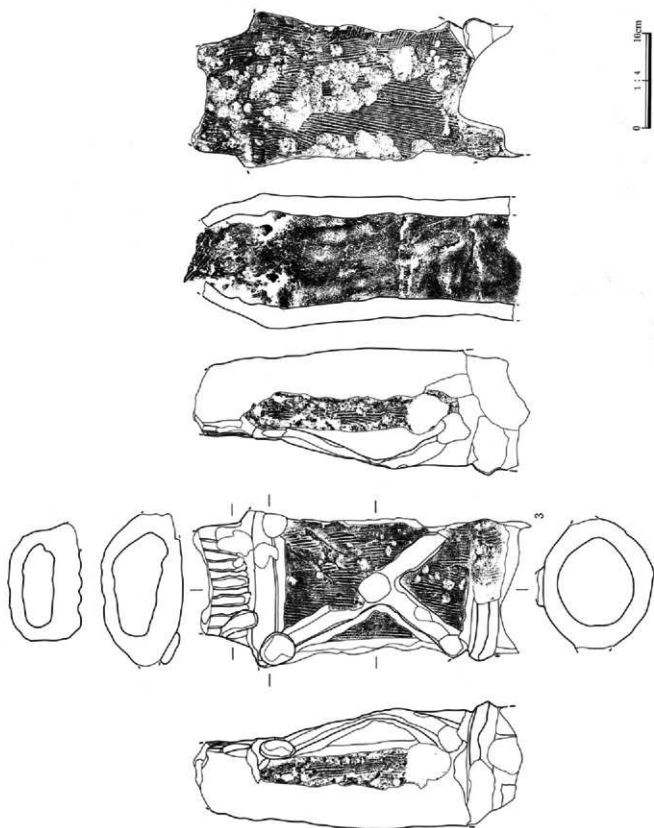
第237図 86号住居



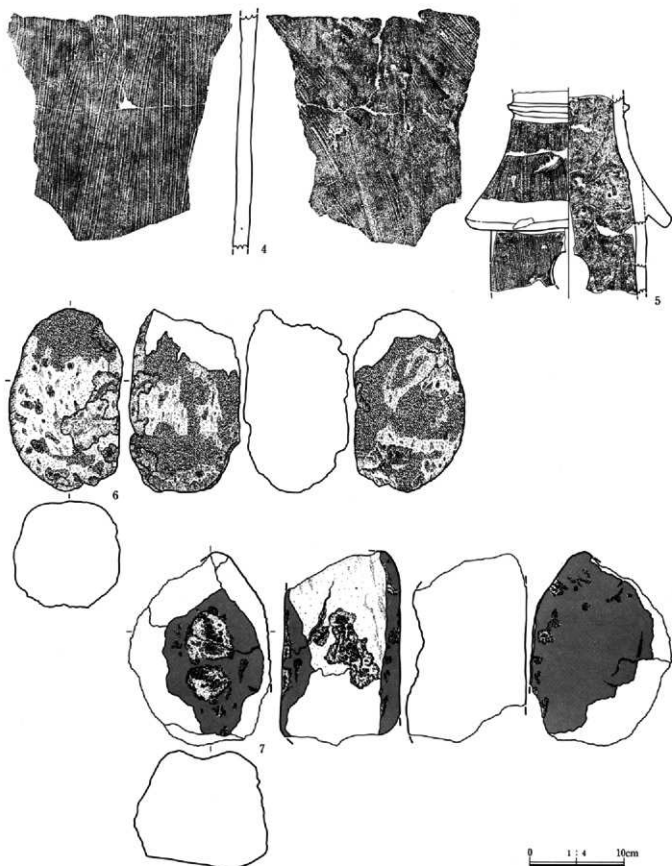
第218図 86号住居の出土遺物（1）



第238図 86号住居の出土遺物（2）



新240図 88号住居の出土遺物(3)



第241図 86号住居の出土遺物(4)

87号住居 (第242図 PL71)

位置 A6区3H, 3I-21, 22グリッド

形状 南西部が調査区外となるため、全体の形状は分からない。上面の削平が著しく、ごく一部を除いて床面のみを検出している。長方形ないし方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 東辺長 2.3m 東西確認長 1.02m

方位 N-58°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

確認最大壁高及び壁の状況 2.5cm。東壁北寄り部分のみ観察できた。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立する。他は床面のみ

を確認している。

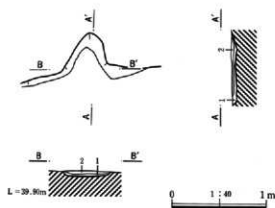
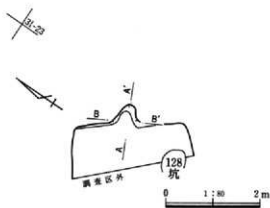
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。

竈 東壁のほぼ中央と思われる部分をU字形に掘り込んで燃焼部を作る。袖はない。確認長0.5m、燃焼部幅33cm。埋没土には多くの焼土粒と炭が混入する。図示していないが、竈前に2個、燃焼部左奥に1個小ピットがあった。構造と関連をもつものかどうか分からない。

重複 128土坑より古い。

遺物と出土状況 なし。

その他 平安時代か



87号住居 竈 A-A' B-B'

1 灰色砂質土 灰色の砂を主とした層。

2 灰褐色土 灰含む砂質土、多くの焼土粒と炭を含む。

第242図 87号住居

88号住居 (第243図 PL71・72 遺物観察表P.387)

位置 A6区3H, 3I-23, 24グリッド

形状 床面のみを検出した。ほぼ方形と考えられる。

規模 長辺 3.10m 短辺 3.00m 面積 9.12m²

方位 N-114°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

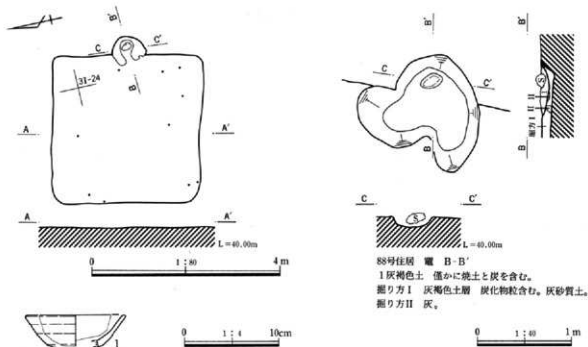
竈 東壁のほぼ中央と思われる部分をC字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作る。燃焼部の底面のみを検

出したもので、袖は確認できない。確認長60cm、燃焼部幅70cm。構築材に用いられたと考えられる灰白色粘土が燃焼部をとりまいてC字状に残っている。燃焼部中央に礎があるが、やや浮いた状態にあり、構造と関連をもつものかどうか分からない。

重複 なし。

遺物と出土状況 住居全体に小片が散在する。

その他 平安時代(9世紀後半)



第243図 88号住居と出土遺物

89号住居(第244図 PL72-160-161 遺物観察表P.387)

位置 A6区3J~3L-26,27グリッド

形状 上面のほとんどを削平されており、わずかに床面のみを検出したものである。確認した床面から想定すると、方形ないし隅丸長方形の平面形であったものと考えられる。北辺と西辺は直線的でこの両辺に挟まれた北西隅はほぼ直角に屈曲する。東辺はやや西に傾き、竈部は内側にゆがむ。南辺は緩やかにふくらみ、南東隅はなだらかな丸みを持っているものと思われる。

規模 長辺 3.5m 短辺 3.2m 面積 11.54㎡

方位 N-124°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられている。貼り床はない。

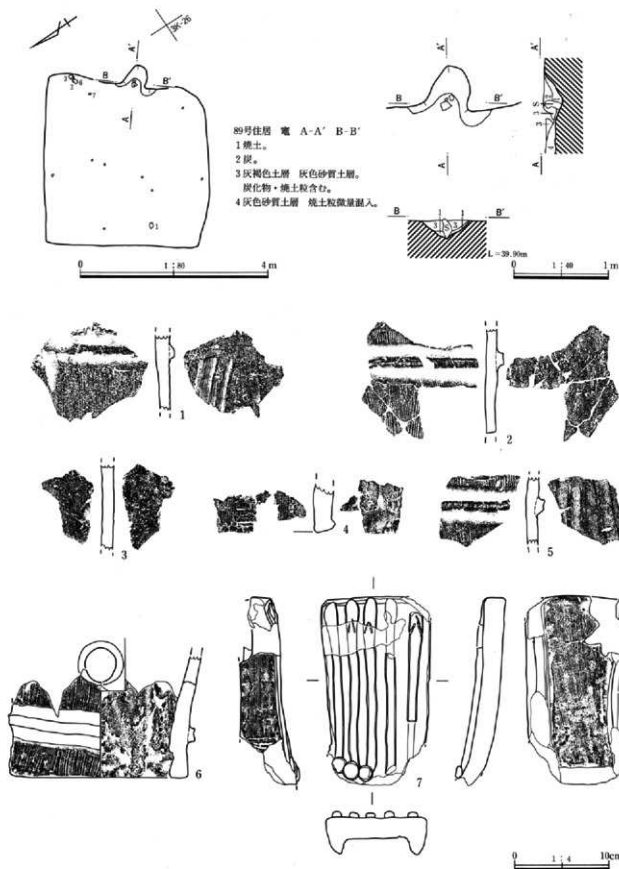
竈 燃焼部底面のみを検出している。東壁の中央をU字形に掘り込んで燃焼部の半ばを作る。煙道・袖は確認できない。袖部では若干地山を掘り残したようになだらかな傾斜が残るが、袖石などの設置痕跡も確認できない。確認長60cm、燃焼部幅46cm。燃焼

部奥よりの中央近くには、支脚に用いられたものと思われる隙が立てられている。

重複 なし。

遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。東壁北寄り、比較的大型の破片が、小さなまとまりを持って出土しているが、他は住居全体に小片が散在するのみで、特定の分布傾向も見いだせない。埴輪片が多く、円筒埴輪片に混じて初形の形象埴輪片も出土している。床面に接する位置からの出土が多い。本遺跡では埴輪が構造物材として用いられる例が少なくないが、本住居の埴輪片は竈からは出土しておらず、やや離れた位置からの出土である。

その他 平安時代か



第244図 89号住居と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

90号住居 (第245図 PL72 遺物観察表P.387)

位置 A6区3K, 3L-24, 25グリッド

形状 竈の燃焼部底面と床面と思われる硬化面、その周辺に分布する土器片群から住居としたもので、平面的な規模や形状は分からない。床面としてとらえられる範囲から復元すると、東西にやや長い縦長長方形の平面形を呈するものと思われる。

規模 長辺推定長 3.3m 短辺推定長 2.6m

方位 N-109°-E

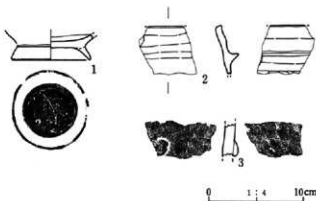
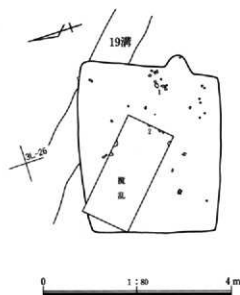
柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

竈 東壁の南寄りに相当すると思われる部分の壁面をU字形に掘り込んで燃焼部を作る。袖は認められない。確認長40cm、燃焼部幅52cm。

重複 98号住居より新しい。

遺物と出土状況 住居全体に小破片が散在する。

その他 平安時代 (10世紀前葉)



第245図 90号住居と出土遺物

92号住居 (第246図 PL72・73・161 遺物観察表P.387)

位置 A6区3M, 3N-28, 29グリッド

形状 方形を基本とする平面形を持つものと考えられるが、北東隅部は大きく丸みを持っている。東壁は竈を壁内に取り込むように膨らんでいる。南壁は直線的で、南東・南西隅部はあまり丸みを持たずに屈曲する。

規模 長辺 2.7m 短辺 2.7m 面積 7.89㎡

方位 N-130°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 焼土粒、灰を含む灰褐色砂質土で埋まる。確認最大壁高及び壁の状況 4.8cm。わずかに上方に開くが、やや丸みを持って立ち上がり、ほぼ直立す

る。

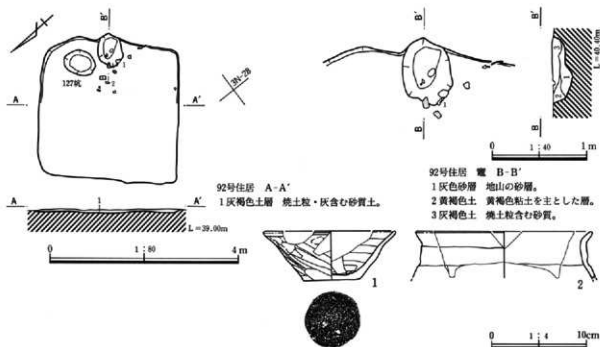
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、中央部がやや窪む。貼り床はない。

竈 東壁の南寄りをわずかに掘り込んで燃焼部奥を張り出させる。煙道は認められない。燃焼部は大半が住居内に作られるが、袖は確認できない。確認長0.7m、燃焼部幅50cm。埋没土には構築材に用いられたと考えられる黄褐色粘土が見られる。

重複 127号土坑より古い。

遺物と出土状況 竈及びその周辺に小破片が散在する。

その他 平安時代 (9世紀後葉)



第246図 92号住居と出土遺物

94号住居 (第247図 PL73-161 遺物観察表P.387)

位置 A6区3N-27,28グリッド

形状 竈底面及び床面を確認した。東西にやや長い縦長長方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 長辺 2.6m 短辺 2.34m 面積 6.52㎡

方位 N-90°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、

ほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

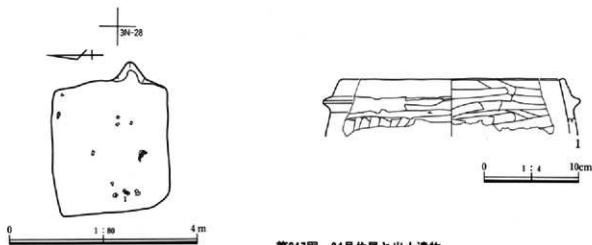
竈 東壁の南寄りをU字形に掘り込んで燃焼部を作っている。煙道、袖は確認できない。確認長45cm、燃焼部幅42cm。

重複 なし。

遺物と出土状況 住居中央より南寄りに散在する。

南西四半に比較的大型の破片がみられる。

その他 平安時代(10世紀中葉)



第247図 94号住居と出土遺物

98号住居 (第248~250図 PL73・162 遺物観察表P.387・388)

位置 A6区3K, 3L-24~26グリッド

形状 上面の削平が著しく、形状を明確にとらえることができていない。ゆがんだ方形の平面形を呈するものと考えられる。西壁は直線的に掘られるが他の三壁はゆがんでいる。南北壁ともに、中央部近くで南に小さく折れるため、北西隅はやや鋭角に、南西隅はやや鈍角になっている。南東隅はあまり丸みを持たずに屈曲するが、東壁の北部は中央近くの竈に向かって膨らんでいて、北東隅は大きな丸みをもって北壁に連続している。

規模 長辺 4.1m 短辺 3.9m 面積 17.94㎡

方位 N-105°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

埋没土 ローム塊を含む茶褐色砂質土で埋まる。

確認最大壁高及び壁の状況 14cm。わずかに上方に開くが、あまり丸みを持たずに直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があり、

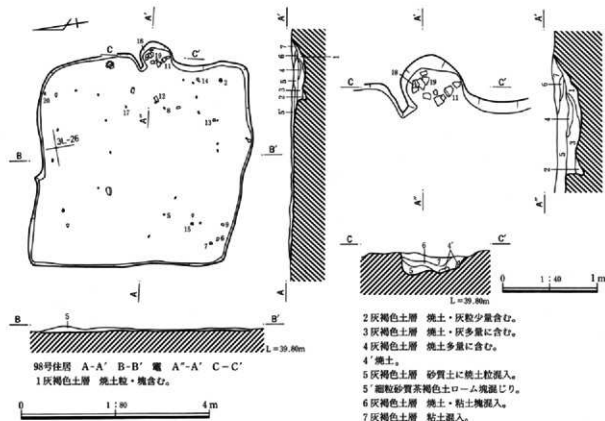
南西隅がわずかに低くなるが、全体的にはほぼ平らに仕上げられている。貼り床はない。

竈 東壁のほぼ中央を、壁外に半円形に掘り込んで燃焼部の一部を作り、煙道を立ち上げている。燃焼部の主体は住居壁内にある。煙道との接続部には小さな段差がもうけられている。左袖は地山を小さな長方形に削り残しているが、右袖部ではややならかな傾斜で壁が削られているもの、明瞭にはとらえられない。埋没土には構築材として用いられたと考えられる粘土塊が混入している。確認長0.6m、燃焼部幅50cm。

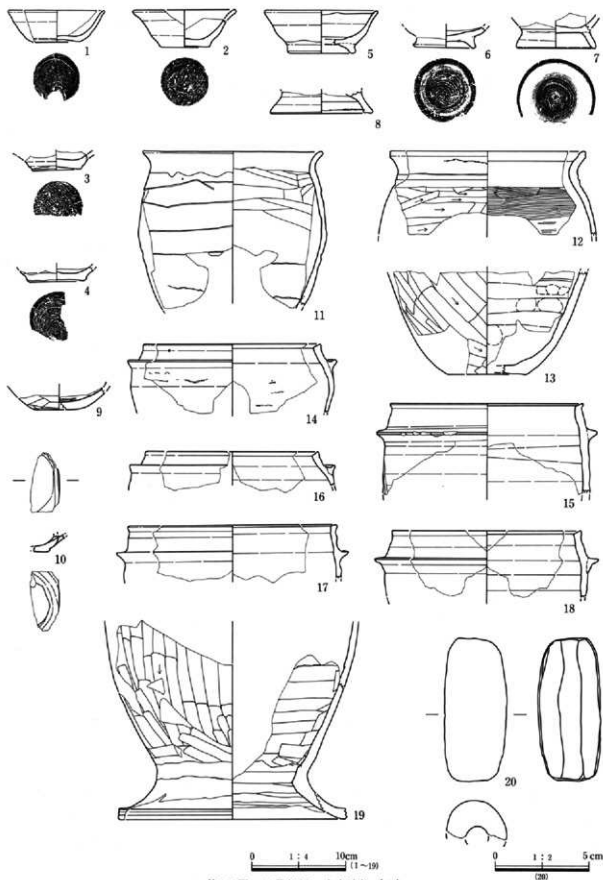
重複 90号住居より古い。

遺物と出土状況 住居全体に坏、甕、羽釜などの土器片が散在するが、竈及びその周辺と南西隅部近くに比較的大型の破片が集中するまとまりがあるようだ。しかし、須恵器椀の底部片は竈内、南壁中央際と、南西隅部にある破片が接合している。

その他 平安時代(10世紀前葉)

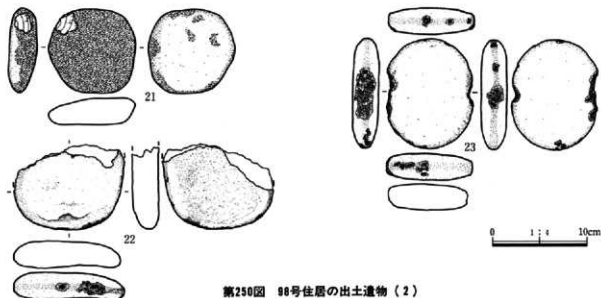


第248図 98号住居



第249図 98号住居の出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第250図 98号住居の出土遺物(2)

105号住居 (第251図 PL74)

位置 A6区3G, 3H-23, 24グリッド

形状 調査区界近くで竈燃焼部底面にあたるものと思われる炭と焼土の集中を検出したものである。この周辺には掘り方の底面と考えられる小さな凹凸が集中していることが認められたため、住居の痕跡と判断したものである。このため、規模・形状を判断する材料には乏しい。掘り方の残痕と想定される凹凸の分布範囲をたどってみると、南西辺相当長3.5m、北西辺相当部分の確認長3.24mの規模となり、この分布範囲の形状から見て、方形ないし長方形の平面形を呈する住居であった可能性が高いものと思われる。

方位 N-58°-E (南西壁想定線)

柱穴・周溝・貯蔵穴 確認できない。

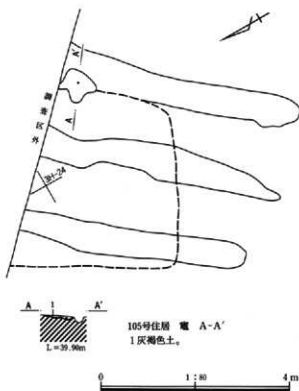
竈 南東壁に作られているものと思われる。掘り方残痕から想定した住居平面からみると、壁外に燃焼部の半ばを張り出すように掘られていたものと考えられる。北西-南東方向に主軸をもつものと思われ、確認長70cm、幅80cmほどの大きさの不整な浅い窪みの中に、焼土や炭が堆積する状態であった。

重複 品より新しい。

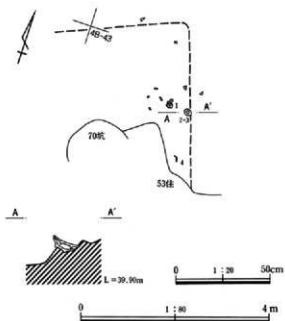
遺物と出土状況 竈想定部分やその周辺に土器細片

が点在するが、この住居にともなうものかどうか判断できない。

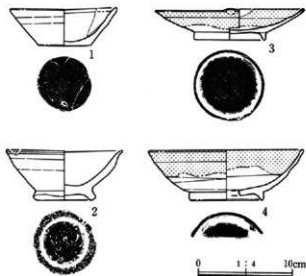
その他 平安時代



第251図 105号住居



第252図 106号住居と出土遺物

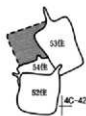


106号住居

(第252図 PL66・162 遺物観察表P.388)

位置 A6区4A・4B-42, 43グリッド

形状 明確な遺構としてはとらえられない。53号住居調査時に、東壁の延長線近くからまとまった遺物の出土を見た。特に、坏2個体が重なった状態で出土したため、これも53号住居に



ともなう遺物と考えたが、床面レベルが異なること、53号住居出土遺物との間に時期差があることなどから、別個の住居が存在したものと見るに至ったものである。床面と思われる硬化面及び遺物の分布状態から想定すると、方形ないし長方形の平面形であったものと思われる。

規模・方位 不明。

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

重複 53号、54号住居より古い。

遺物と出土状況 東壁想定線のやや北寄りかと思われる位置に坏を中心に土器がまとまる。

その他 平安時代(10世紀前半)

99号住居(第253図 PL74・162 遺物観察表P.388)

位置 A7区5F, 5G-22, 23グリッド

形状 南北にやや長い長方形ないし隅丸長方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 南北確認長 3.24m 南辺長 3.30m

方位 N-108°-E

柱穴・周溝・貯蔵穴 なし。

確認最大壁高及び壁の状況 7cm。わずかに上方に開くが、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるがほぼ平らに仕上げられる。貼り床はない。

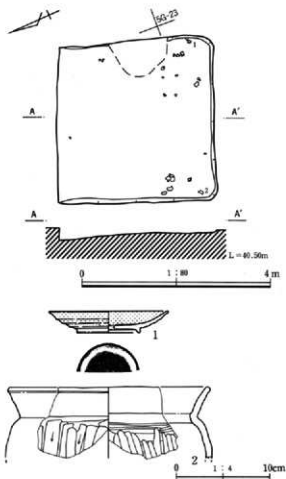
竈 東壁のやや南寄りに相当するかと思われる位置に痕跡的に残されているのみであった。

重複 なし。

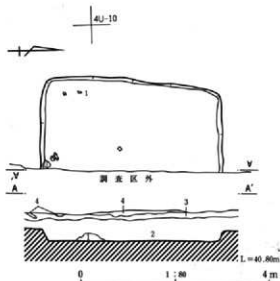
遺物と出土状況 遺物量はすくない。甕右手及び南西隅部近くに土器破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前半)

第3章 検出された遺構と遺物



第253図 99号住居と出土遺物



- 102号住居 A-A'
 1 暗褐色土 ローム塊混じり。
 2 褐色土 火山灰なし。
 3 褐色土 火山灰混じり(火山粒)。
 4 粘土 火山灰混じり。

102住居 (第254図 PL70 遺物観察表P.388)

位置 A7区4T-10,11グリッド

形状 東部が調査区外となり、全体の形状は不明。確認した範囲では3壁は直線的に掘られており、西壁の両隅はあまり丸みを持たずに屈曲している。長方形ないし方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 西辺 3.58m 南辺確認長 1.30m

方位 N-13°-E (西壁)

柱穴・周溝・貯蔵穴・竈 確認できない。

埋没土 火山灰を含まない褐色土で埋まる。一部にローム塊を混じる暗褐色土が見られる。

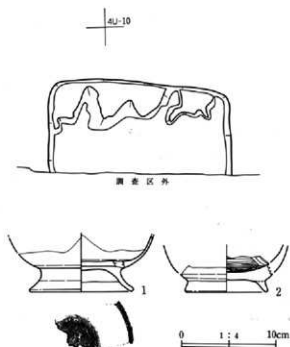
確認最大壁高及び壁の状況 15cm。わずかに上方に開くが、あまり丸みを持たずにほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 非常に均平に仕上げられる。西壁際の一部を除いて、床下10cmほどに不整形の掘り方があるが、これも凹凸はさほど大きなものではない。

重複 なし。

遺物と出土状況 遺物数はごく少ない。南部に土器片が点在し南壁調査区界に隣りまわりが見られる。

その他 平安時代(10世紀後半)



第254図 102号住居と出土遺物

96号住居 (第255~257図 PL75-161 遺物観察表P.388-389)

位置 B3区2V, 2W-46, 47グリッド

形状 東西に長い縦長長方形の平面形を呈する。各隅はあまり丸みをもたずに屈曲するが、北東隅はやや丸みが強い。

規模 長辺3.78m 短辺 2.90m

方位 N-119°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈の右手前にあたる、南壁東寄りの位置にある土坑を貯蔵穴とした。直径50cmほどの大きさで、ゆがんだ円形の平面形を呈している。深さは20cmほどである。底面はやや窪んでいて、U字形に近い断面形を示す。

確認最大壁高及び壁の状況 20.5cm。わずかに上方に開くが、丸みをあまり持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

床面の状況及び床下施設等 ゆるやかに波打つような凹凸があり、中央部がわずかに窪む。掘り方では

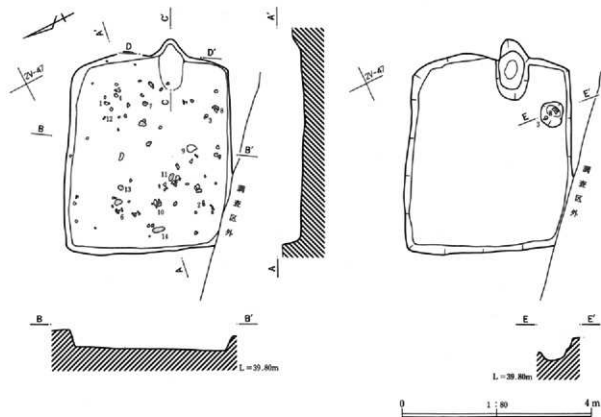
壁に沿ってやや深く掘られている部分がある。

竈 東壁の中央やや南寄りにある。燃焼部の主体は住居壁内であって、壁を浅いU字形に掘り込んで煙道を立ちあげているものらしい。袖は認められない。燃焼部は長さ1.3m、幅70cmほどの楕円形の平面形状で、床面からの深さ5cmほどの窪みとしてとらえられる。

重複 なし。

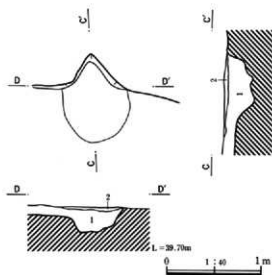
遺物と出土状況 床面からはやや浮いたものが多いが、坏をはじめとする土器の比較的大きな破片や円礫が、住居全体に散在している。竈周辺と北西隅部では遺物が少ない。

その他 平安時代(10世紀中葉)



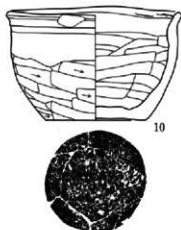
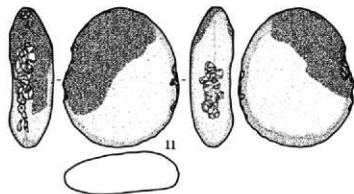
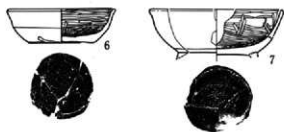
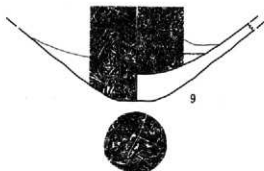
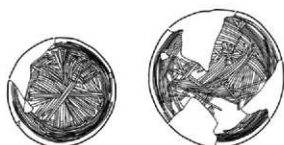
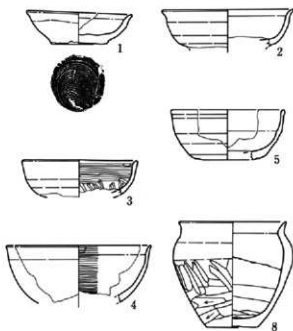
第255図 96号住居

第3章 検出された遺構と遺物



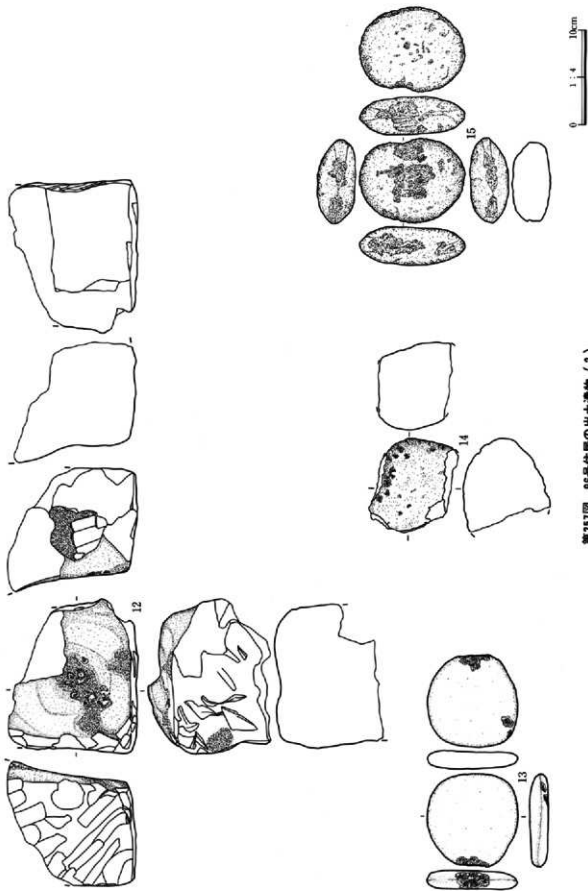
96号住居 竪 C-C' D-D'

1 灰褐色土と茶褐色土焼土塊混じり。
2 灰褐色土層 焼土粒・塊・灰含む。



0 1:4 10cm

第236図 96号住居竪と出土遺物(1)



第257図 96号住居の出土遺物(2)

97号住居(第258・259図 PL75・161 遺物観察表P.389)

位置 B3区2W, 2X-48グリッド

形状 竈を含む南東隅部のみを検出したもので、他は調査区外となるため全体の形状は分からない。南東隅は丸みをもたずに屈曲しており、長方形ないし方形の平面形を呈するものと考えられる。

規模 南北確認長 2.54m 東西確認長 1.90m

方位 N-120°-E

柱穴・周溝 なし。

貯蔵穴 竈右手にあたる南東隅部にある。上面は壁の屈曲をなぞるような不整なL字状の平面形を呈するが、基本的には直径40cmほどの大きさの、円形ないし楕円形の平面形を持つものとして意識されたとと思われる。床面からの深さは35cmほどで、底面は楕円形の平坦面をもつ。

埋没土 焼土粒、炭化物粒を少量含む暗褐色土で埋

まる。

確認最大壁高及び壁の状況 15cm。わずかに上方に開くが、あまり丸みを持たずに立ち上がり、ほぼ直立する。

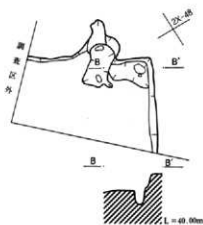
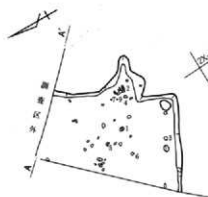
床面の状況及び床下施設等 わずかに凹凸があるが、ほぼ平らに仕上げられる。掘り方には円形ないし半円形の刺突状の痕跡が認められる。

竈 東壁の南寄りに相当すると思われる部分を半円形に掘り込んで燃焼部の一部を作り、煙道を延ばす。袖はない。燃焼部の主体は住居壁内であって、ここから電手前にかけて、不整形の窪みがある。確認長1.4m、燃焼部幅45cm。

重複 なし。

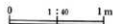
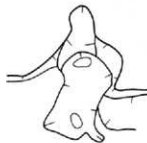
遺物と出土状況 住居全体に坏類を中心とする土器破片が散在する。

その他 平安時代(10世紀前葉)

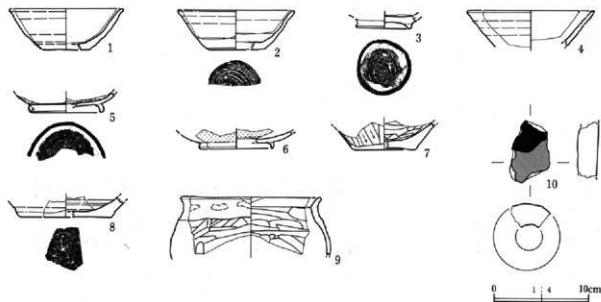


97号住居 A-A'

1暗褐色土 焼土粒・炭化物微量含む。



第258図 97号住居



第259図 97号住居の出土遺物

2. 土坑 (第260~288図 PL76~99・165・166)

遺物観察表P.389~392)

三ツ木皿沼遺跡では、総数150基の土坑が調査された。このうち16基が縄文時代後期、2基が古墳時代、1基が近世の遺構である。残りの131基は、すべての時期が確定できる状態ではなかったが、古代の遺物を出土するものが多いこと、古代の住居と遺構の分布がほぼ一致することから、ここでは古代の遺構として扱った。

土坑が最も多く分布するのはA6区で、113基が調査された。これらの土坑は、住居の分布と重なる位置にあったが、A6区北部では住居の空白部に土坑が位置する地点もあった。A2区・B2区は住居の分布はなかったが、土坑が数基ずつ位置していた。

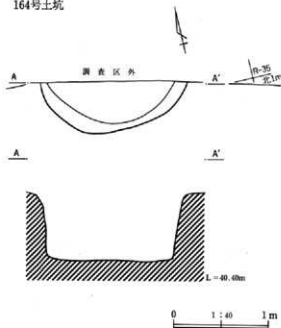
古代の131基の土坑は、平面形によって円形・楕円形・隅丸方形・長方形・不定形の5種に分けられた。各土坑の規模や方向は遺構一覧表(第4章第6表)にまとめて記載してある。ここでは土坑の平面図と断面図を平面形ごとに掲載した。

円形・楕円形の土坑は、小型の土坑が多かったが、いくつか直径が1mを超える大型の土坑がある。これらは、土器などの遺物を多く出土する傾向がある。円形の94号土坑や楕円形の55号土坑は出土土器の特徴から9世紀末の土坑と考えられ、畠から居住域に

変わった当初につくられた遺構といえる。

細長い長方形の土坑はA2区・B2区・B3区に多く分布していた方位を意識した方向に掘られており、後述する中世・近世以降の溝と方向性が共通する土坑も見られるので、これらの長方形土坑は平安時代より新しい可能性が高い。

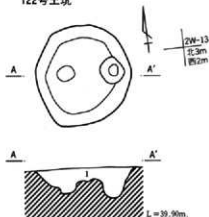
164号土坑



第260図 A2区の円形土坑

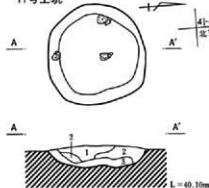
円形

122号土坑



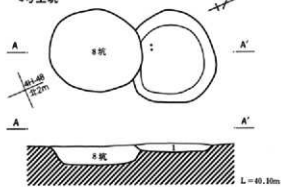
1 暗褐色 ローム粒、ローム塊が多量混じる。

11号土坑



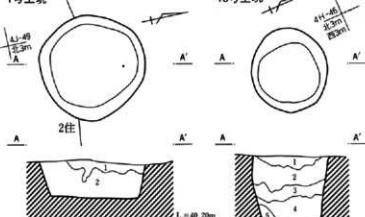
1 暗褐色土(10YR3/4)黄色砂質土塊を少量混入。
2 暗褐色土(10YR3/4)黄色砂質土塊を1層より多く含む。燻土粒子を含む。
3 暗褐色土(10YR3/4)黄色砂質土を混入。

4号土坑



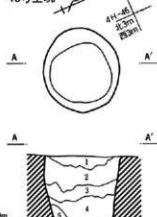
1 黒褐色(7.5YR3/2)シルト、しまり中。粘性弱。φ10mm以下の黄色粒を多く含む。

1号土坑



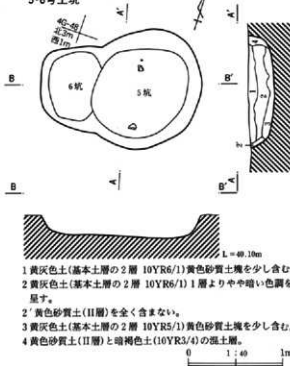
1 暗褐色土(7.5YR)黄色砂質土塊(II層、5~10mm)を混入。
2 暗褐色土(7.5YR)1層よりやや暗い色調を呈す。1層と同様に黄色砂質土塊(II層、5~25mm, ave. 5~10mm)を混入。
1層、2層とも一括埋土の状態を示している。

13号土坑

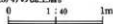


1 暗褐色(10YR3/3)シルト、しまり中。粘性弱。φ10mm以下の白色粒を少量含む。
2 暗褐色(10YR3/4)シルト、しまり強。粘性弱。φ10mm以下の白色粒を少量含む。
3 褐色(10YR4/4)シルト、しまり強。粘性弱。φ10mm以下の白色粒を少量含む。
4 黒褐色(7.5YR3/2)粘土質シルト、しまり強。粘性弱。φ10mm以下の白色、黄色粒を少量含む。
5 暗褐色(10YR3/4)シルト、しまり中。粘性弱。

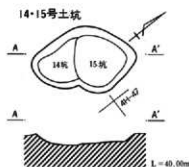
5-6号土坑



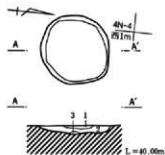
1 黄灰色土(基本土層の2層 10YR6/1)黄色砂質土塊を少し含む。
2 黄灰色土(基本土層の2層 10YR6/1)1層よりやや暗い色調を呈す。
2' 黄色砂質土(II層)を全く含まない。
3 黄灰色土(基本土層の2層 10YR5/1)黄色砂質土塊を少し含む。
4 黄色砂質土(II層)と暗褐色土(10YR3/4)の混土層。



第261図 A4区・A6区の円形土坑(1)

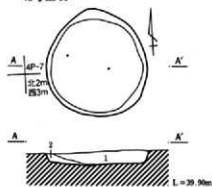


14・15号土坑

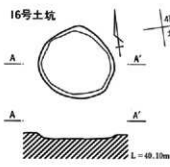


- 1 暗灰黄褐色土(2.5Y4/1)炭化物(1~2mm大)を少量含む。堆積は緻密である。
- 2 暗褐色土(2.5Y3/2)白色土粒(0.5~1cm)を多量に含む。やや粘性が強い。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)粘質土。白色土粒(0.5~1mm程)を少量含む。

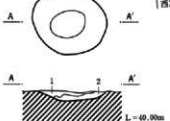
42号土坑



- 1 灰白色土(2.5Y8/2)φ1~2cmの褐色土(10YR8/2)塊を含む。
- 2 灰白色土(2.5Y8/2)少量の褐色土粒を含む。

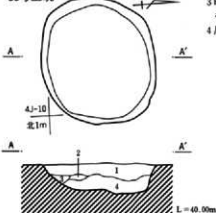


16号土坑



- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)灰白色土粒小塊(φ1~2cm)、炭化物粒を多量に含む。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)灰白色土粒小塊(φ1~2cm)、炭化物粒を含む。

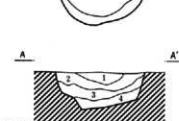
38号土坑



- 1 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)白色土粒を含む。シルト質。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)焼土粒と炭化物粒を含む。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/2)固く締まっている。やや粘質。
- 4 暗灰黄色土(2.5Y4/2)やや砂質。

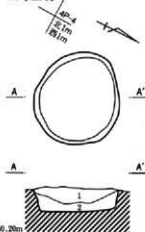


25号土坑



- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/1)炭化物(1~2mm)、灰白色土粒(1~10mm)を多量に含む。粘性、しまりや砂質。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/1)白色土粒(1~5mm大)を多量に含む。炭化物を少量含む。粘性、堆積弱。
- 3 暗灰黄色土(2.5Y4/1)白色粒(1~5mm)を少量含む。粘性弱。堆積は緻密。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)

36号土坑

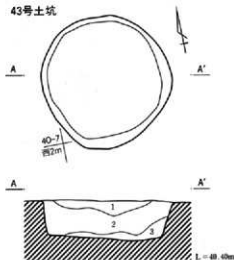


- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)白色土粒(1~10mm大)、焼土。炭化物を少量含む。粘性弱。堆積は緻密でない。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土。炭化物を少量含む。白色土粒(1~5mm大)を極少量含む。粘性やや強。

第262図 A6区の円形土坑(2)

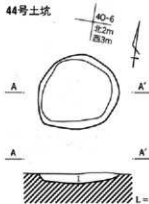
第3章 検出された遺構と遺物

43号土坑



- 1 褐灰色土 (10YR5/1) ϕ 1~2cmの灰白色土 (10YR8/2) 塊を少量に含む。
- 2 灰白色土 (2.5Y8/2) ϕ 1~2cmの褐灰色土 (10YR8/2) 塊・粒を多く含む。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 少量の焼土粒を含む。

44号土坑



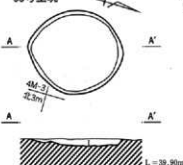
- 1 暗灰黄褐色土 (2.5Y4/2) ϕ 1~5mmの砂粒を少量含む。

45号土坑



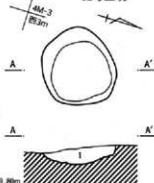
- 1 暗灰黄褐色土 (2.5Y4/2) ϕ 0.5~1mmの灰白色粒子を少量含む。
- 2 褐灰色土 (10YR4/1) ϕ 0.5mm以下の砂粒を少量含む。
- 3 灰白色土 (10YR6/1) ϕ 0.5~2・3mmの砂粒を微量含む。

53号土坑



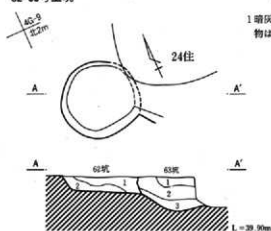
- 1 暗灰黄褐色土 (2.5Y5/2) シルト質。夾雑物はほとんどない。

52号土坑



- 1 黄灰褐色土 (10YR4/2) やや砂質。灰白色土粒を少量含む。

62・63号土坑



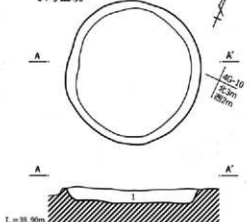
62号土坑

- 1 灰黄褐色土 (10YR0/2) 焼土粒、炭化物粒、灰白色砂小塊を含む。
- 2 灰黄褐色土 (10YR0/2) 少量の炭化物粒を含む。

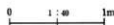
63号土坑

- 1 褐灰色土 (10YR6/1) やや粘質。
- 2 黄灰色土 (2.5Y6/1) 炭化物粒を含む。
- 3 黄灰色土 (2.5Y6/1) 炭化物粒、褐灰色土 (10YR5/1) 小塊 (ϕ 0.5cm) を多量に含む。

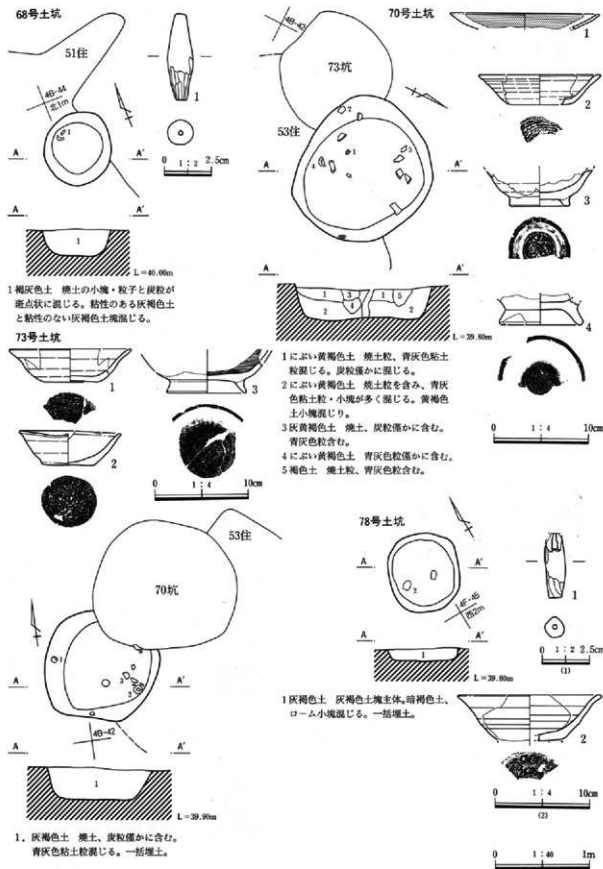
64号土坑



- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物粒、焼土粒を少量含む。

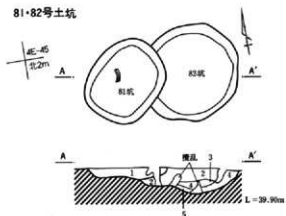


第263図 A6区の円形土坑(3)



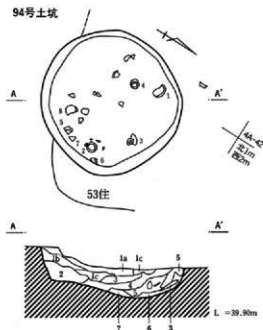
第264図 A6区の円形土坑(4)

81・82号土坑

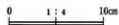
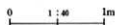
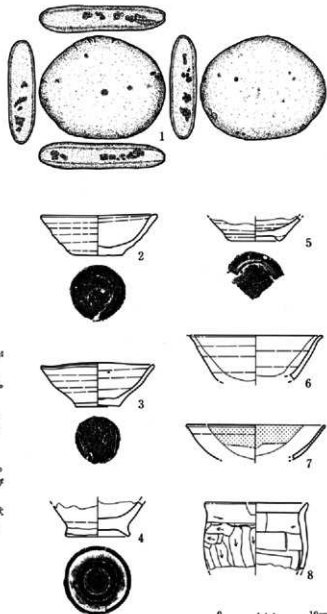


- 1 暗灰褐色土 黄白粒、灰褐色土小塊含む。ネクホクした層。
- 2 灰黄褐色土 黄褐色シルト主体。灰褐色シルト塊混じる。
- 3 灰黄褐色土 2層と逆に灰褐色シルトに黄褐色シルト小塊混じる。
- 4 灰黄褐色土 2層と3層の間。同シルト小塊で混じる。
- 5 褐灰色土 粘性、しりり強く、黄白色粒含む。

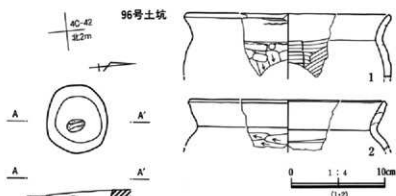
94号土坑



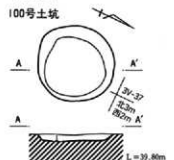
- 1 a 褐灰色土 青灰色粘土小塊を斑点状に含む。炭粒、焼土粒が見られる。
- 1 b 褐灰色土 青灰色粘土小塊・灰白色シルト含む。細砂混じる。
- 1 c 褐灰色土 青灰色粘土小塊多く混じる。粘性かなり強い。
- 2 褐灰色土 細砂主体。灰白色・灰褐色小塊が点々と見られる。
- 3 暗青灰色土 青灰色粘土塊主体。粘ったものか、流れ込みか、判断つきづらい。
- 4 灰褐色粘質土 夾雑物少ない。
- 5 暗灰褐色土 灰白色粘土塊・白色粗砂・灰混じりの固くしまった粘性の強い土。(粘土が一時乾燥状態になり、再度粘性を呼び戻す)
- 6 暗灰褐色土 灰・黄白色シルト・灰褐色土が数ミリ単位に縞状に入り、縞み縞められた土。粘泥面が塊状になり、落ち込む。
- 7 灰褐色土 細砂・僅かに黄白色シルト塊含む。



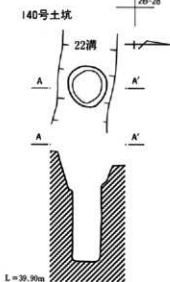
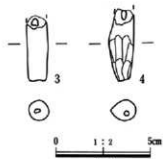
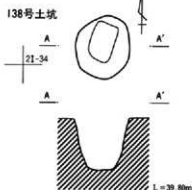
第265図 A 6 区の円形土坑(5)



1 灰黄褐色土 シルト質。僅かに灰白色粒を含む。

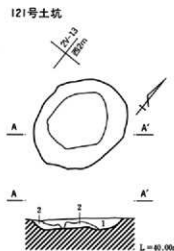


1 オリーブ黄 砂質土(細砂)灰白色シルト。褐色粘土小塊含む。

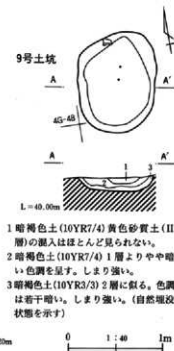
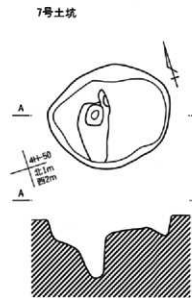


第266図 A 6区・B 2区の円形土坑(6)

楕円形



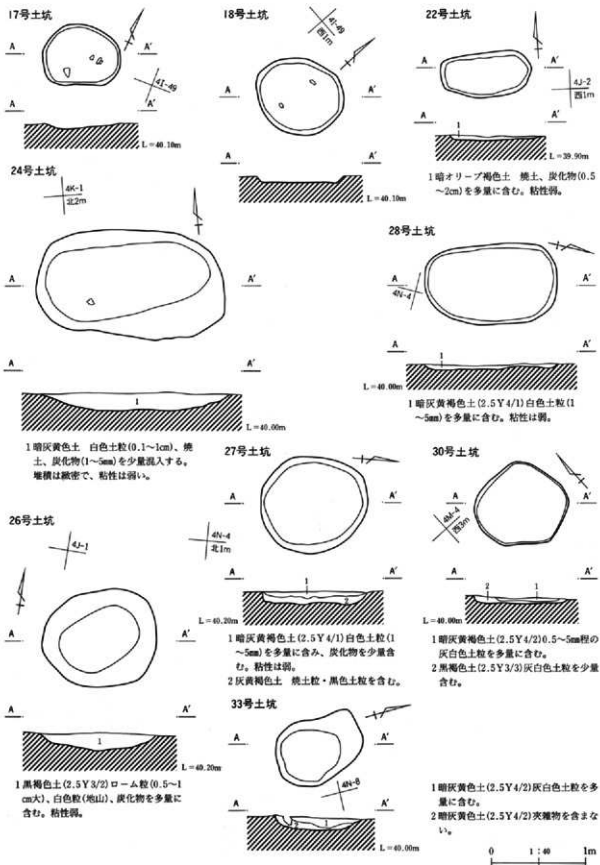
1 暗褐色 ローム粒混じり。
2 黄褐色 ローム混じり。



1 暗褐色土(10YR7/4)黄色砂質土(II層)の混入はほとんど見られない。
2 暗褐色土(10YR7/4)1層よりやや暗い色調を呈す。しまり強い。
3 暗褐色土(10YR3/3)2層に似る。色調は若干暗い。しまり強い。(自然埋没状態を示す)

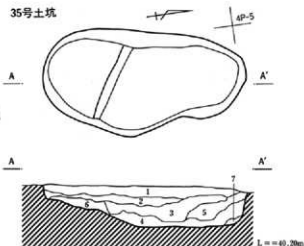
第267図 A 4区・A 6区の楕円形土坑(1)

第3章 検出された遺構と遺物



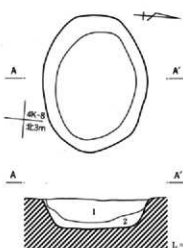
第288図 A区の精円形土坑(2)

35号土坑



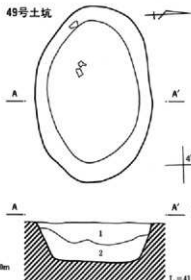
- 1 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)炭化物・焼土を少量含む。白色粒(2~5mm)を少量含む。粘性弱。
- 2 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土・白色土粒(2~5mm)を少量含む。粘性弱。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土を少量含む。(鉄分の凝聚が著しい)粘性やや強。
- 4 黒褐色土(2.5Y3/2)焼土・炭化物を極少量含む。堆積は緻密であり、粘性やや強。
- 5 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/2)炭化物・焼土を少量含む。堆積は緻密であり、粘性やや強。
- 6 暗灰黄色土(2.5Y4/2)炭化物・白色土粒を少量含む。粘質土。
- 7 黒褐色土(2.5Y3/1)ローム土粒が極少量混入する。粘質土。

47号土坑



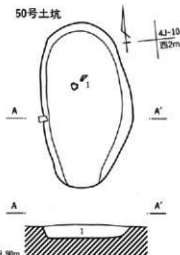
- 1 黄灰色土(2.5Y6/1)φ1~2mmの黄褐色粒子を極少量含む。
- 2 暗灰黄褐色土(2.5Y4/2)φ0.5~1.2mmの砂粒を若干含む。

49号土坑



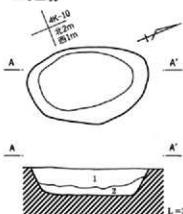
- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)炭化物(1~5mm)、焼土を多く含む。白色粒(0.5~2mm)を少量含む。粘性弱。堆積はやや緻密である。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)炭化物、焼土を少量含む。(上層より炭化物の数は多い。0.5~1cm大)

50号土坑



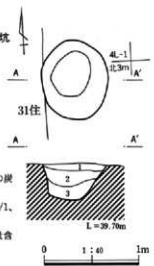
- 1 暗灰黄色土(2.5Y5/2)炭化物(1~5mm)、焼土を多く含む。白色土粒を少量含む。粘性弱。堆積は緻密である。

51号土坑



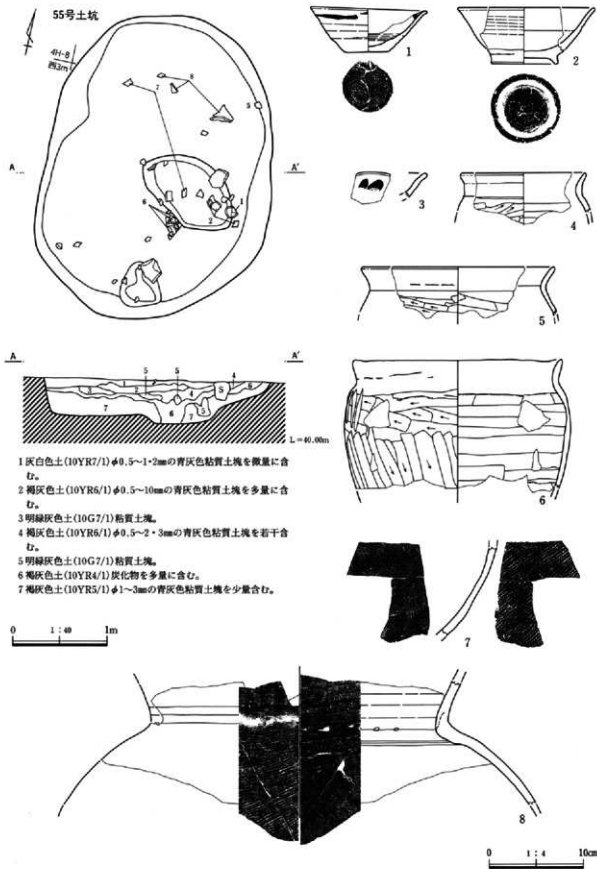
- 1 暗灰黄色土(2.5Y4/2)焼土、炭化物(1~5mm)、白色土粒(0.5~1cm)を少量含む。粘性弱。堆積は緻密である。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)焼土、炭化物(1~5mm)を少量含む。粘性弱。堆積は緻密である。

57号土坑

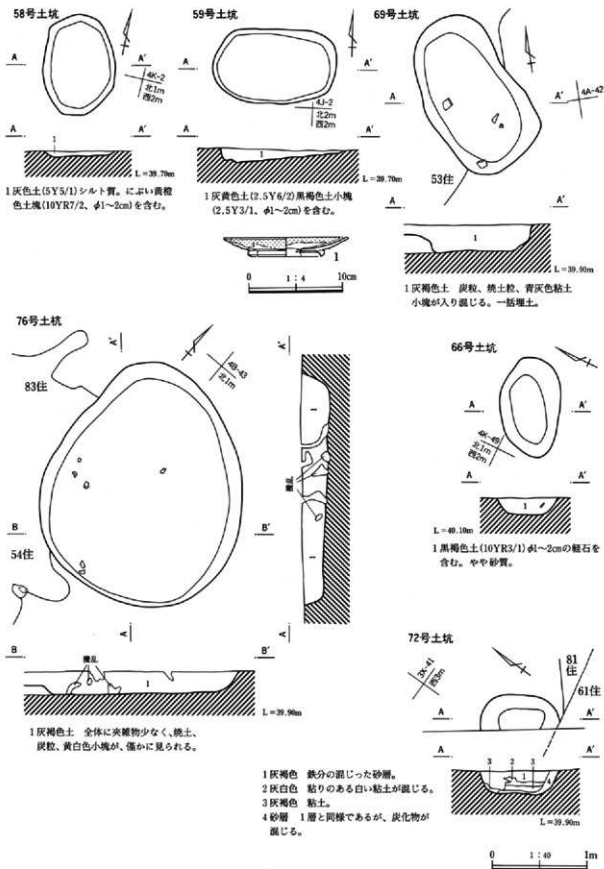


- 1 灰色土(5Y5/1)シルト質。極少量の炭化物を含む。
- 2 灰色土(5Y5/1)灰白色土塊(5Y7/1、φ0.5~1cm)を含む。
- 3 灰色土(5Y4/1)灰白色土粒を少量含む。やや粘質。

第269図 A6区の楕円形土坑(3)

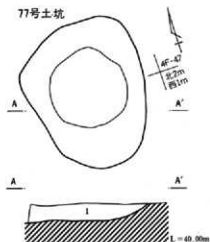


第270図 A 6 区の精円形土坑(4)

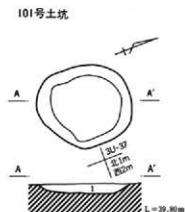
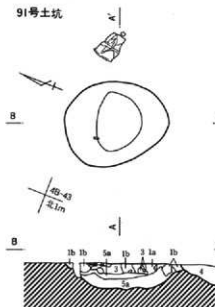


第271図 A 6 区の楕円形土坑(5)

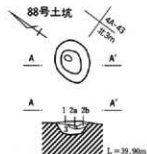
第3章 検出された遺構と遺物



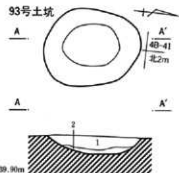
1 灰褐色土 炭粒含む。シルト質土。立ち上がり部分に炭層あり。



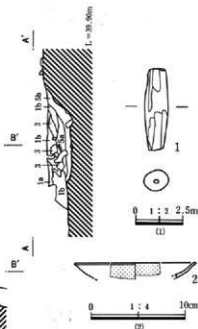
1 オリーブ黄 砂質土(細砂)、灰白色シルト、褐色粘土小塊を含む。



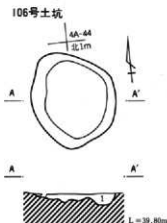
1 におい黄褐色土 炭粒、焼土粒僅かに含む。
2 a 黒褐色土 炭化物主体。
2 b におい黄褐色土 炭化物混じり。
3 におい黄褐色土 炭化物僅かに含む。(1層に似る)



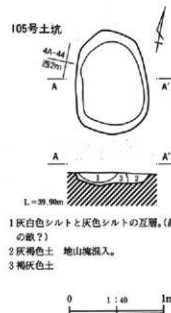
1. 灰褐色土 炭粒、灰白色粒僅かに混じる。
2. 灰褐色土 灰褐色シルトと灰白色シルトの混土。



1 a 暗褐色土 灰白色小塊、焼土、炭粒少量含む。
1 b 暗褐色土 焼土小塊を含み、僅かに炭粒含む。
2 におい赤褐色土 焼土小塊多く混じり、暗褐色塊含む。
3 赤褐色土 焼土塊主体。
4 におい黄色土 焼土、青白色粘土小塊を含み、下に向かって、灰・炭化物含む。灰層状の堆積あり。
5 a 黒色土 シルトと細砂混じりの土に、灰が入り混じり、黒色にくすんだような土。焼土化したシルト細砂も混入し、やや赤味を持つ。
5 b 黒色土 5 a 層の焼土化したシルトは、あまり含まない。

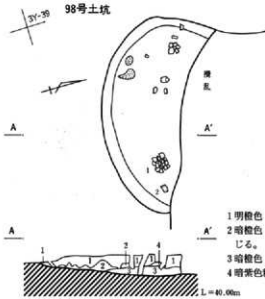


1 灰褐色土 やや地山塊混入。

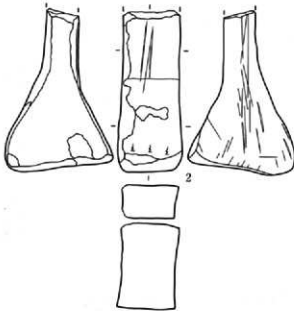
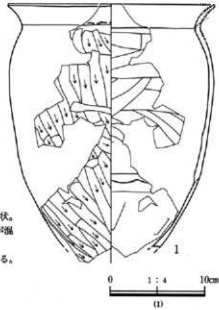


1 灰白色シルトと灰色シルトの互層。(鳥の糞?)
2 灰褐色土 地山塊混入。
3 褐色土

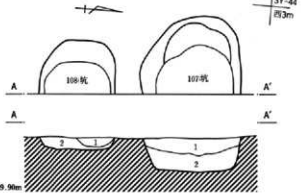
第272図 A 8 区の精円形土坑(8)



- 1 明黄色 固く締まっている、シルト状。
 2 暗黄色 粘性を帯びている炭化物が混じる。
 3 暗黄色 砂状の土。さらさらしている。
 4 暗紫色粘土 固い。



107・108号土坑

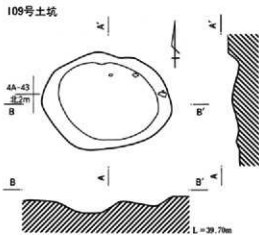


107号土坑

- 1 灰褐色土 褐色土小塊・青白色粘土小塊を含み、炭粒層かを含む。
 2 灰褐色土 1層に比べ、混入土大粒になる。

108号土坑

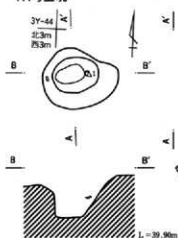
- 1 灰白色シルトと灰色シルトの互層。
 2 灰褐色土 地山塊混入。



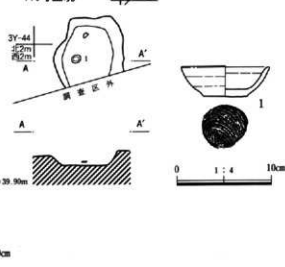
第273図 A区の精円形土坑(7)

第3章 検出された遺構と遺物

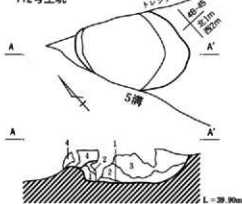
111号土坑



110号土坑

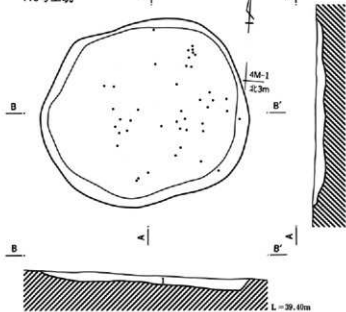


112号土坑



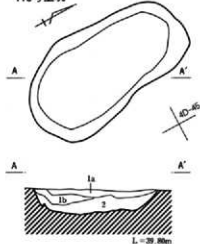
- 1 (7.5YR3/3) 地山の崩壊土を若干含む。
- 2 (10YR3/3) 白色鉱物粒を含む。炭化物粒を含む。
- 3 (10YR3/2) 炭化物粒を多く含む。地山の崩壊土塊を含む。
- 4 (10YR4/3) 炭化物粒少量含む。白色鉱物粒を含む。固く締まっている。

118号土坑



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)シルト質。炭化物粒、炭化物片(φ1~2cm)を含む。炭化物は、特に裏に固まっている。φ1cmほどの軽石を少量含む。焼骨片を多量に含む。

113号土坑



- 1 a 灰褐色土 灰白色粘土塊、褐色土塊の混土。全体にまだらに入る。
- 1 b 灰褐色土 1層より褐色土多く含む。
- 2 ぐすんだ褐色土 灰褐色土、ローム塊の混土。しまり弱く、ふかふかした層。

第274図 A 6区の楕円形土坑(8)

127号土坑



- 1 灰褐色土 灰褐色砂層を主とし、少量の黄褐色粘質土を含む。
2 黄褐色粘質土 灰褐色砂を全く含まない。

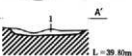
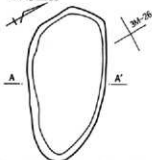


131号土坑



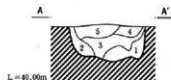
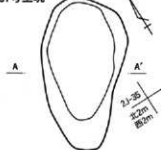
1 灰褐色土層 砂質土。

144号土坑



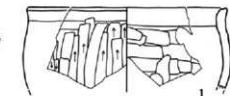
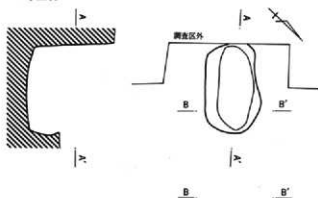
1 茶褐色土 細粒、粘質なし。黒色焼土混じり。

137号土坑

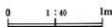
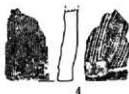


- 1 ローム。
2 ローム焼混じりの暗灰褐色。
3 ローム焼混じりの暗褐色。
4 粒々、塊ローム混じりの褐色。
5 粒々ローム混じりの焼土。

128号土坑

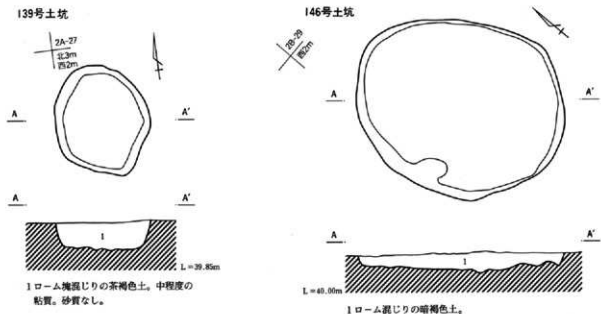


- 1 灰褐色土 焼土粒を少量含む。灰色砂質土。
2 灰褐色土 焼土粒を含む。灰色砂質土。
3 灰褐色土 焼土塊を多量に混入。
4 灰褐色土 焼土粒を微量に含む。



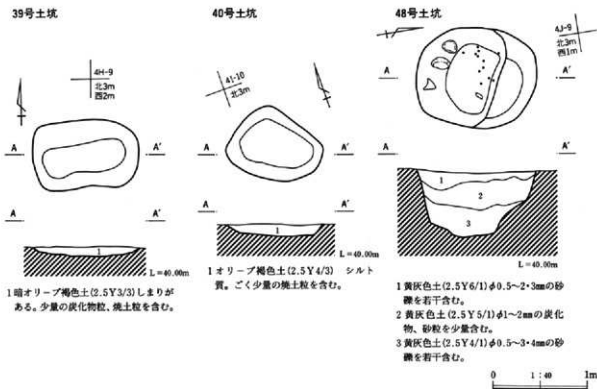
第275図 A6区・B2区の精円形土坑

第3章 検出された遺構と遺物

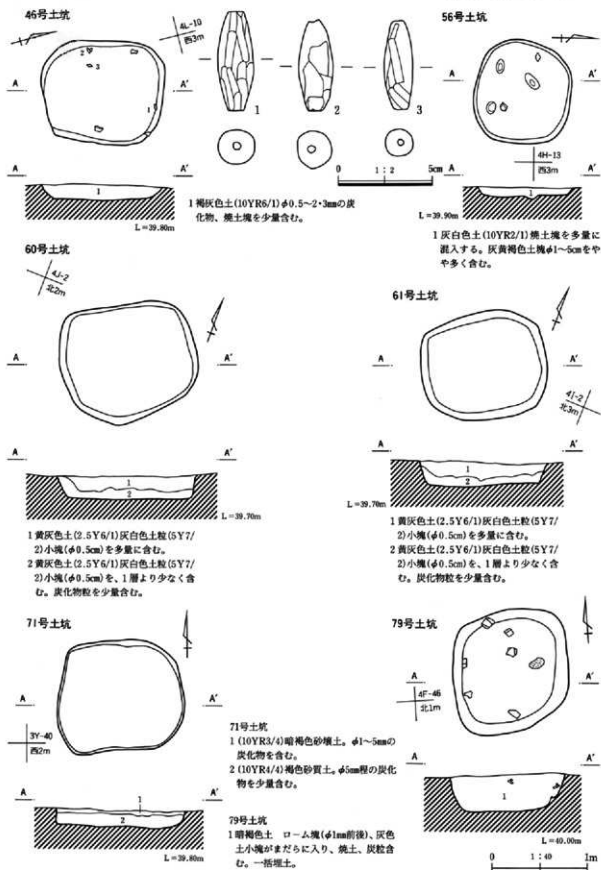


第276図 B2区の楕円形土坑

隅丸方形



第277図 A6区の隅丸方形土坑(1)



第278図 A6区の隅丸方形土坑(2)

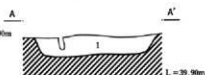
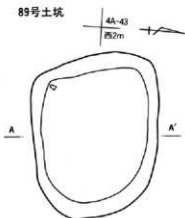
第3章 検出された遺構と遺物

87号土坑



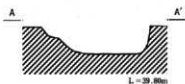
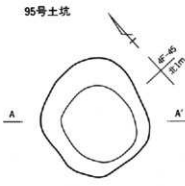
- 1 灰黄褐色 灰白色塊、細砂含み、僅かに焼土、炭粒見られる。
- 2 濃い黄褐色土 灰白色塊、褐色土小塊が混じり、細砂含む。
- 3 濃い黄褐色 細砂に灰褐色土塊混じる。ザクザクした層。

89号土坑

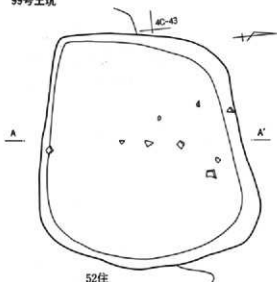


- 1 灰黄褐色土 細かな焼土、炭粒、灰白粒が、全体にごま塩状に混じる。

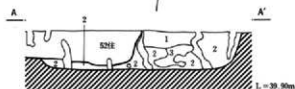
95号土坑



99号土坑



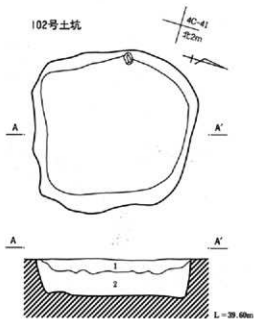
52住



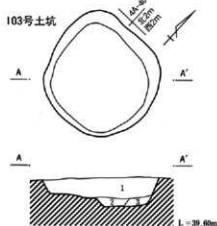
- 1 褐灰色土 僅かに焼土、炭粒含む。土質。砂質。
- 2 褐灰色土 炭粒、灰白小ブロッコ混じり、細砂、焼土粒含む。
- 3 褐灰色土 土質均質 粒子のやや粗い砂含む。(木の根の擾乱)



第279図 A 8 区の隅丸方形土坑(3)



- 1 灰褐色土 青灰色粘土小塊が点々と見え、僅かに焼土・炭粒を含む。
- 2 灰褐色土 青灰色粘土粒僅かに含み、細砂・粘質土塊混じる。



- 1 灰褐色土 青灰色粘土粒僅かに含み、細砂・粘質土塊混じる。
- 2 黄褐色土 細砂、白色シルト混じり。
- 3 灰褐色 粘質土。

第280図 A 6 区の隅丸方形土坑(4)

隅丸長方形

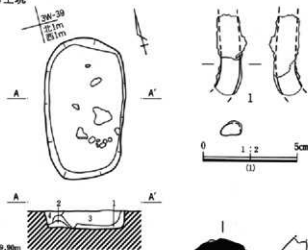
31号土坑



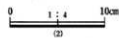
- 1 黄灰色土(2.5Y5/1)φ0.5~1cmの灰白色土塊を含む。
- 2 暗黄灰色土(2.5Y4/2)φ0.5~1cmの灰白色土塊・粒を多量に含む。
- 3 黒褐色土(2.5Y3/2)灰。



75号土坑



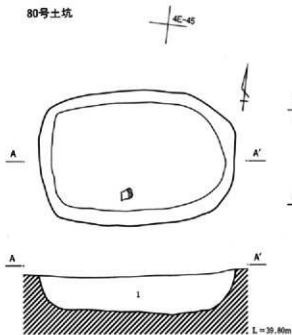
- 1 褐色埴壇土(10YR4/3)混入物なし。しまり薄い。
- 2 暗褐色砂壇土(10YR3/3)細粒の炭化物を少量含む。
- 3 褐色砂壇土(10YR4/3)細粒~長10mm程の炭化物を多く含む。焼土粒(φ2~5mm)を少量含む。
- 4 暗褐色砂壇土(10YR3/4)細粒~φ2mm程の炭化物を多く含む。



第281図 A 6 区の隅丸長方形土坑(1)

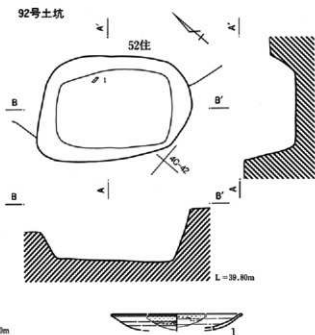
第3章 検出された遺構と遺物

80号土坑



1 灰褐色土 ローム塊(1~3cm)、黒褐色土塊、灰色土塊が入り混じる。一括埋土。

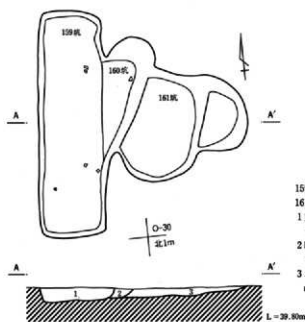
92号土坑



第282図 A6区の隅丸長方形土坑(2)

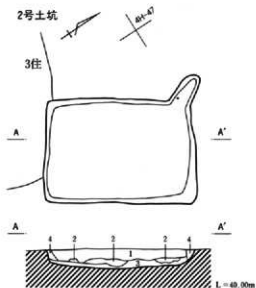
長方形

159・160・161号土坑

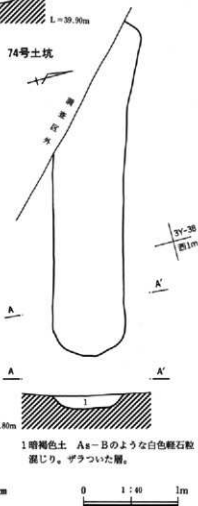
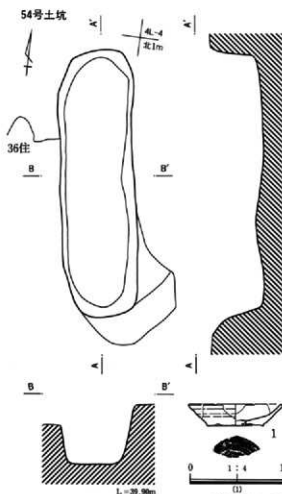
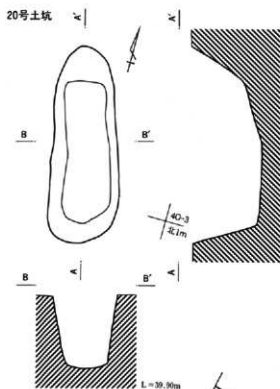


- 159号(長方形)・160号(長楕円形)・
161号(不定形)土坑
- 1 黄灰色土(10YR4/1)φ0.5~2・3mmのローム粒子、塊を若干含む。
 - 2 暗黄褐色土(2.5Y5/3)φ0.5~3・4mmのローム粒子、塊を多く含む。
 - 3 オリーブ褐色土(2.5Y4/3)φ0.5~2・3mmのローム粒子、塊をやや多く含む。

第283図 A2区の長方形土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/3)黄色砂質土塊を少し含む。
- 2 褐灰色土(10YR6/1)暗褐色土との混土层。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)黄色砂質土塊を少し含む。1層に比べ、やや暗い色調を呈す。
- 4 黄色砂質土の剥落層。

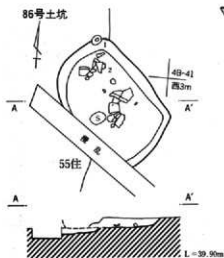


- 1 暗褐色土。As-Bのような白色軽石粒混じり。ザラついた層。

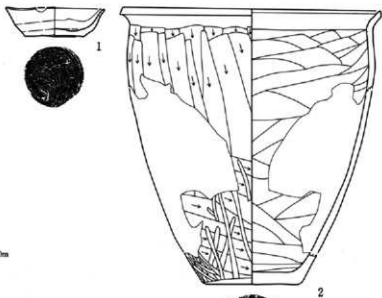


第284図 A5区の長方形土坑(1)

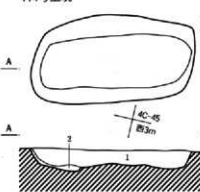
第3章 検出された遺構と遺物



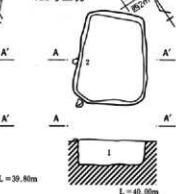
1 褐灰色土 灰白色粒、炭粒種かに含む。ややしまり、粘性あり。焼土塊などが時々出土し、55号住居跡と思われたが、竈のようなまとまりは見られず、土坑とした。新田については、土坑を新とする。



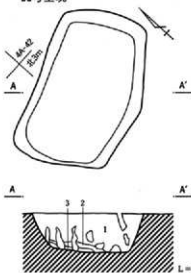
114号土坑



125号土坑



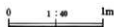
90号土坑



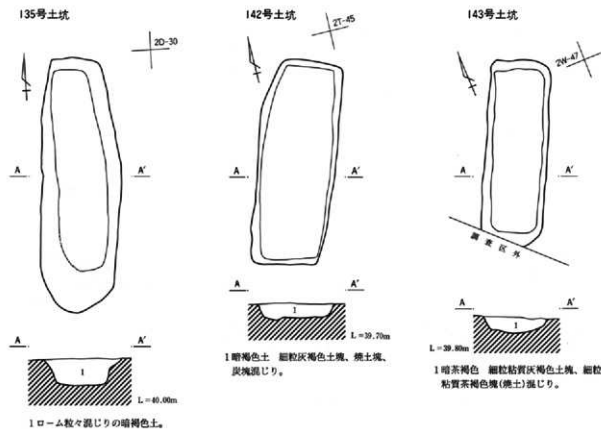
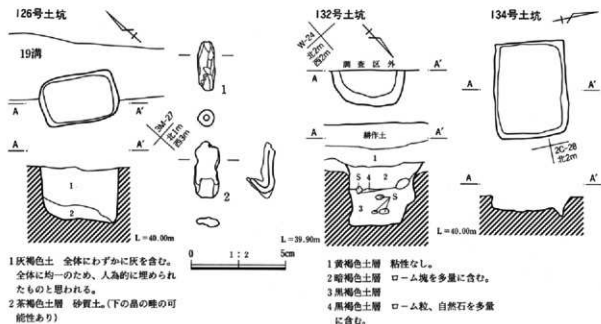
1 灰褐色土 灰白色粘土塊、褐色土塊の強土。全体にまだらに入る。
2 暗褐色土 漸位層地山。

1 灰褐色土 全体にわずかに灰を含む。全体に均一のため、埋められたものと思われる。

1 灰黄褐色土 灰白色シルト塊、炭粒、焼土粒、青灰色粘土小塊点在する。
2 灰白色シルト 灰白色シルトに細砂混じり。僅かに炭粒含む。
3 灰黄褐色土 シルトと細砂の混土。



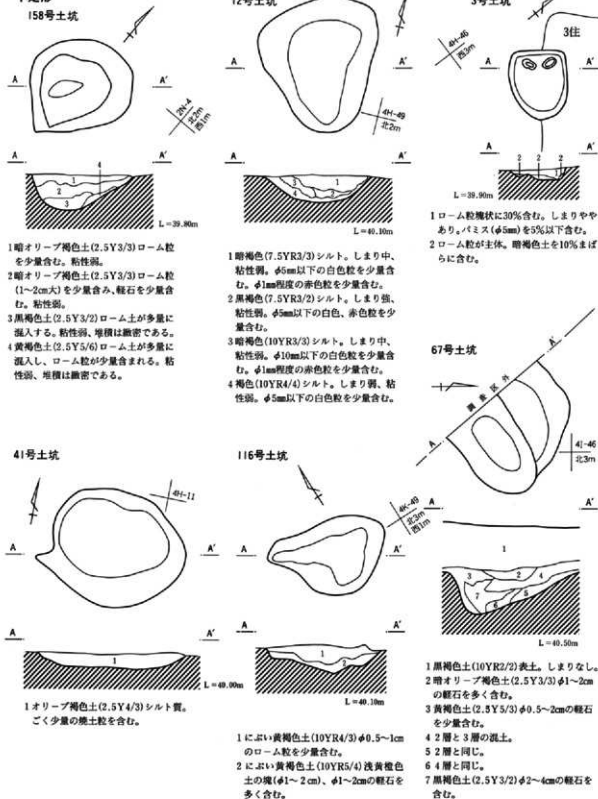
第285図 A6区の長方形土坑(2)



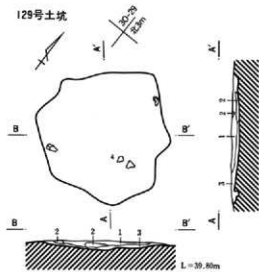
第266図 A8区・B2区・B3区の長方形土坑

第3章 検出された遺構と遺物

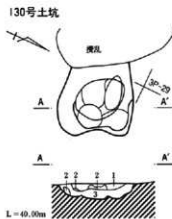
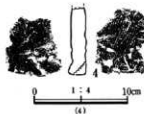
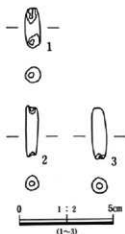
不定形



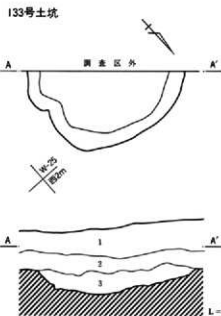
第287図 A3区・A6区的不定形土坑(1)



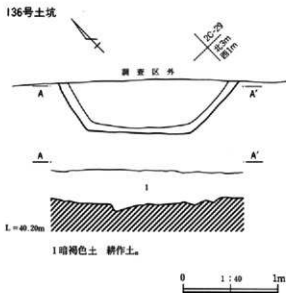
- 1 灰褐色土 少量の粘土と焼土粒を含む。
 2 炭化物。
 3 黒褐色土 多くの灰と粘土を含む。



- ・1 灰色砂層 わずかに焼土粒を含む。
 2 焼土。
 3 赤褐色土 灰色砂層中に、多くの焼土粒を含む。



- 1 茶褐色土 耕作土。
 2 暗褐色土 ローム粒を混じる。
 3 黒褐色土 ローム塊を混じる。



- 1 暗褐色土 耕作土。

第288図 A6区・B2区の不整形土坑

3. 祭祀址

(第289・290図 PL99・164 遺物観察表P.392)

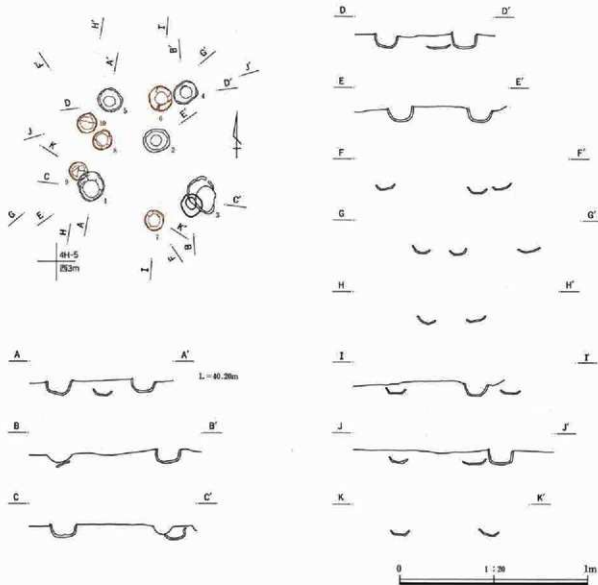
A 6 区北区の表土直下の遺構を調査後、下層の住居の確認面まで掘り下げていく途中で、2層にわたって遺存している土器を検出した。位置は4H-5グリッドで、土器の標高は40.1~40.5mである。

この遺物を検出したのはA 6 区の低地部であり、黄灰色の砂質土で遺物は埋まっていた。土器の出土した位置は住居の分布のない空白部である。この層位では、低地部に広がる住居群の平面形も同時に確認できていた。したがってこの土器群と住居の

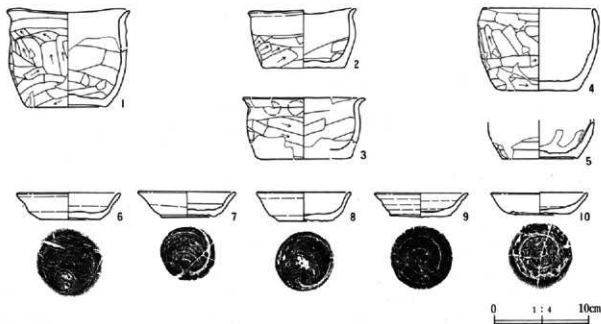
時期は明確な重複関係は確認できていない。土器の型式からは近接した時期と考えられる。

掘り下げ当初は5個の土器小型平底鉢形土器を検出した。これらの配置は台形の四隅とそのほぼ中央の位置になっていた。土器はすべて正位で置かれていた。土器の遺存状態は極めて悪く、器壁は脆弱になっていたので、取り上げはバインダー液を塗布して行った。

小型鉢形土器群を記録して取り上げた後、周辺を精査したところ、鉢形土器の直下で須恵器小型坏形土器を5個検出した。それぞれの5個の坏形土器の



第289図 A 6 区祭祀址



第290図 A6区祭祀址の出土遺物

配置は上層の鉢形土器の真下ではなく、ややずれた位置にあった。しかし、環形土器の配置も鉢形土器と同様に、台形の四隅に4個と、一方に偏ってはいるが四隅の内側に1個となっていた。

出土した土器は、以上の土師器小型平底鉢形土器5個と須恵器小型環形土器5個のみである。鉢形土器は、口縁部が外反するタイプと、頸部がなく内湾するタイプの2種類があった。また器高が口径と同じくらいのタイプと口径より小さく浅いタイプの2種類がある。この鉢形土器は住居の出土物にはあまり類例のない形態のものであるが、三ツ木皿沼遺跡では口縁部が外反し深いタイプのものがA2区109号住居に出土している。環形土器は小型で浅く、口縁部が直線的に開くタイプである。底部の切り離しには回転ヘラ削りと回転ヘラ起こしの2種類があった。これらの環形土器は住居で出土するものと同様のものである。

これらの特徴から、土器はいずれも10世紀後半のものと考えられ、住居群の継続時期に合致している。土器群の性格は確定できないが、集落内の祭祀の可能性が高いと考えられる。

集落内の祭祀については農耕にかかわるもの、鎮

めにかかわるもの、戸にかかわるもの等が想定されるが未解明である。三ツ木皿沼遺跡の祭祀に関わると考えられる土器群は2層に分かれて、少し配置を変えて重なっていた。これは2種の土器が無造作に置かれた可能性も考えられるが、若干の時間差をもって同じ場所に置かれたことが考えられよう。また土器群が住居群の分布しない空白地に出土したことも祭祀の性格を考えるうえで重要であろう。

集落の中に煮沸具や供膳具を置き祭祀空間とする例は、黒井峯遺跡のような古墳時代の例が知られているが、古代の例はあまり確認されていない。三ツ木皿沼遺跡の例は古代の集落内の祭祀を考える上で重要な資料となろう。これらの土器がどのような場面に使われたのかは、類例を調査して再考しなければならない。

4. 鉄生産関連遺構

三ツ木血沼遺跡では、鉄生産に関連すると考えられる遺構として、炉の痕跡2基と鉄滓等が廃棄された土坑7基が検出された。また周辺にある平安時代の住居からも多くの鉄滓や羽口等の鉄生産に関係する遺物が出土した。

鉄生産関連遺構を含む平安時代の集落が確認されたのはA6区低地部である。ここは洪水砂で周囲のローム台地とほとんど同じ高さまで低地が埋まり居住域になった地点である。特に炉が検出されたところは、平安時代の住居が最も著しく重複している。これらの住居の埋没土や住居中央部床面には炭化物層があり、埋没土中に鉄滓や炉壁の破片が顕著に出土する住居や土坑があった。(第2表・第291図)土坑の一部には埋没土に焼土や炭化物が多量に含まれ

ていて、羽口や鉄滓の破片および一部に鍛造薄片も出土していることから廃棄に使われたとみられるものも含まれている。

このような遺物の出土状況は、炉の操業に伴う廃棄物が、周囲の埋没途中の住居や土坑に棄てられたものと推定される。また、埋没土に目立った炭層等は検出されなくても鉄滓や炉壁の破片を出土した住居もあった。これらは住居埋没途中で遺物が混入したものと考えられる。

1号・2号炉の時期は、時期のわかる炉からの出土遺物等がなかったために不明である。しかし1号・2号炉の周辺にある鉄滓等が棄てられたか混入した住居の時期をみると、10世紀初頭から11世紀前半の100年間に及んでいる。この状況から、三ツ木血沼遺跡で炉の操業がおこなわれていたのは、10世紀前半の住居が埋まる途中の時期から11世紀前半の住居

第2表 三ツ木血沼遺跡鉄生産関連遺物出土遺構一覧表

発掘区	出土遺構	遺構の時期	遺構の種類	鉄生産関連遺物												
				製品	鍛造薄片	鉄滓			スチール土状物質			鉄土状物質	羽口		鉄塊	
						塊形滓	塊形滓	塊形滓	部分分離	発泡	酸化		内径3cm未満	内径3cm以上		
A6区	S3号住居	10世紀前半	特になし。			1						1				
A6区	66号住居	10世紀前半	埋没土に焼土・粘土			1						1				
A6区	81号住居	10世紀前半	61号と重複							1						1
A6区	71号住居	10世紀前半	住居西側埋没土に炭層								1					
B3区	97号住居	10世紀前半	特になし。											1		
A6区	88号住居	10世紀前半	特になし。			1		1								
A6区	51号住居	10世紀中葉	埋没土中に炭化物層			1										1
A6区	52号住居	10世紀中葉	特になし。	2	刀子・釘					1						
A6区	56号住居	10世紀中葉	住居中央に炭化物層	3	不明	1	1	4					3		2	
A6区	62号住居	10世紀中葉	住居中央部に炭層	2	不明	3				1						6
A6区	69号住居	10世紀中葉	住居中央部に炭層	4	刀子・釘	13	1	6		6						5
A6区	77号住居	10世紀中葉	埋没土中に炭化物層			8	1	2		2		2				4
A6区	60号住居土層	10世紀前半より新	農業用土坑か。		○	8	1	5	1	4		4				2
A6区	1号炉	10世紀前半より新	単独炉外炉	2	土状	8	2	10	13							1
A6区	2号炉	10世紀前半より新	単独炉外炉		○	9	3	5	15	1	6					1
A6区	54号住居	10世紀後半	特になし。	1	釘					1						
A6区	61号住居	10世紀後半	埋没土に炭			1				2	2					
A6区	65号住居	10世紀後半	住居中央部に炭層			2				1						
A6区	73号住居	10世紀後半	特になし。			1										
A6区	75号住居	10世紀後半	礫土			2	1							1		1
B3区	96号住居	10世紀後半	特になし。							1						
A6区	83号土坑	11世紀前半	農業用土坑か。			3		2	2			1	1			2
A6区	11号住居	11世紀前半	区に入った床下土坑	1	刀子	1										
A6区	30号住居	11世紀前半	住居中央に炭化物層													1
A6区	64号住居	11世紀前半	埋没土に炭化物			11	1	2								5
A6区	74号住居	古代	住居北西部に炭層			1				1						
A6区	89号住居	古代	特になし。							1						
A6区	71号土坑	古代	特になし。					1	1							
A6区	78号土坑	古代	埋没土に炭化物多量	1	不明	2										1
A6区	76号土坑	古代	特になし。			2				1						
A6区	84号土坑	古代	農業用土坑か。							1						
A6区	97号土坑	古代	農業用土坑か。		○	1	1			1						1

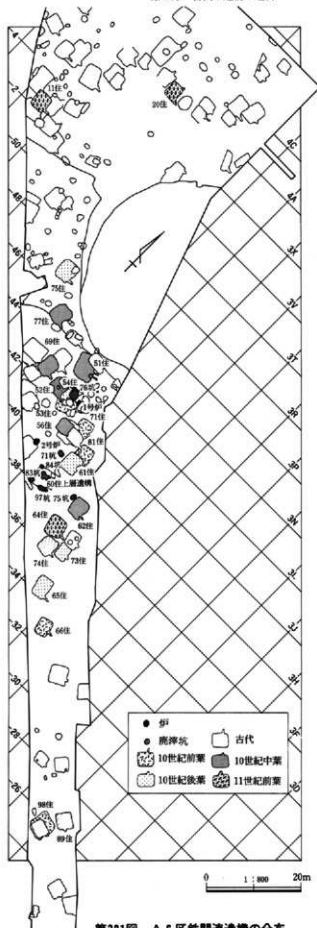
が埋まる途中の時期までということになる。

10世紀中葉と考えられる62号住居には、竈の支脚に羽口が転用されていた。これは住居の時期あるいはそれ以前に、周辺で炉の操作があったことを示唆している。また62号住居の中央部床面には炭層があり、鉄滓が床面から2～3cm上で、羽口が住居中央部床面直上で出土している。これらは廃絶直後の埋没過程にある住居の中央部が埋まらないうちに、鉄滓等が捨てられたのであろう。

このような鉄生産関連遺物が棄てられたか、混入した住居の分布と廃棄物の多寡を時期別に見ると、やや偏在傾向が見られる。10世紀前葉の住居は1号・2号炉の周辺に散在しており、棄てられた遺物も断片的である。10世紀中葉の住居は炉を取り巻くような位置にあり、炉の出土遺物と同じようなものが棄てられている。10世紀後葉の住居はそれまでより炉から離れた位置になる。炉と同じようなものが棄てられているが、量は少なくなる。

一方、鉄生産関連遺物が出土した土坑の時期は不明なものが多い。しかしその分布は住居と同様に1号・2号炉の周辺に集中している。このうち71号・76号土坑は埋没土の炭化物や焼土が少なく、75号土坑はやや1号・2号炉から離れていたため本書では一般の土坑として報告した。しかし出土遺物や位置からは鉄生産に関連する土坑と見ることもできる。そのほかの83号・85号・84号・97号土坑は、廃棄あるいは鉄生産に何らかの関連があった遺構と考えられる。

三ツ木皿沼遺跡の鉄生産関連の炉と考えられる遺構は2基ともに遺存状態が極めて悪く、生産の実態を遺構のみから推定することは困難であった。そこで、遺構の検討とともに、多くの遺構から出土した鉄生産関連遺物を詳細に検討して、三ツ木皿沼遺跡内で行われた鉄生産の実態に迫ることとした。ここではまず、三ツ木皿沼遺跡の鉄生産関連遺構を個別に報告し、その内容を整理した。次に出土遺物の外観を観察し、分類を試みた。遺物の詳細は第3表にまとめた。



第291図 A6区鉄関連遺構の分布

1号炉

(第292・293図 PL100-166-167 遺物観察表P.392)

位置 A6区4A-42グリッド

重複 53号住居を切っている。

形状 南側がややすばまる楕円形の掘り方をもっている。深さは中央で確認面から12cmほどであり、北西部がやや深くになっている。断面形は短軸は箱形、長軸は皿状を呈する。

規模 長軸 1.45m 短軸 0.75m

深さ 0.12m

長軸方位 N-11°-W

埋没土 焼土や炭化物塊を混じる暗褐色土や橙色土と、炉壁の破片や鉄滓を多く含む暗褐色土が攪乱された状態で北寄りに集中して埋まっていた。

遺構の状況 南寄りでは炭化物が多く出土し、木炭が外部で燃やされたような残存状態であったが、上層の攪乱が著しく炉壁の痕跡や立ち上がり等、炉の構造を示す状況は明瞭に確認できなかった。底面は地山のシルトがやや焼土化した部分が南半部に確認できた。壁面には焼土化した部分は確認できなかった。

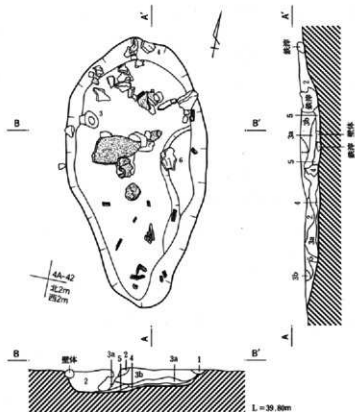
遺物と出土状況 出土遺物は、鉄滓、スサ入粘土状物質、羽口、針状の鉄製品である。遺構を確認した時点で、攪乱が底部付近にまで及び、鉄滓等の遺物は埋没土上面に露出していた。これらの遺物は焼土や炭化物塊とともに埋没土と混じって出土した。

鉄滓は碗形滓が2点、塊状滓が8点、粘土状物質が付着した塊状滓が10点出土している。碗形滓(4・6)は長径13cmほどの楕円形を呈する。厚さは3cmほどの薄いものと、7cmほどもあるものが出土している。塊状滓は小破片が多く、流れた跡のようにひも状に固まった塊状滓も含まれていた。また片面に粘土状物質を

付着して固結している塊状滓が目立った。塊状滓のなかには木片によると見られる攪拌痕跡が残っているものもあった。

スサ入粘土状物質は部分溶解したと思われるものは13点が出土した。第293図5は反応容器の底部と見られ、内側の凹みは碗状滓の外側の形状と一致する。

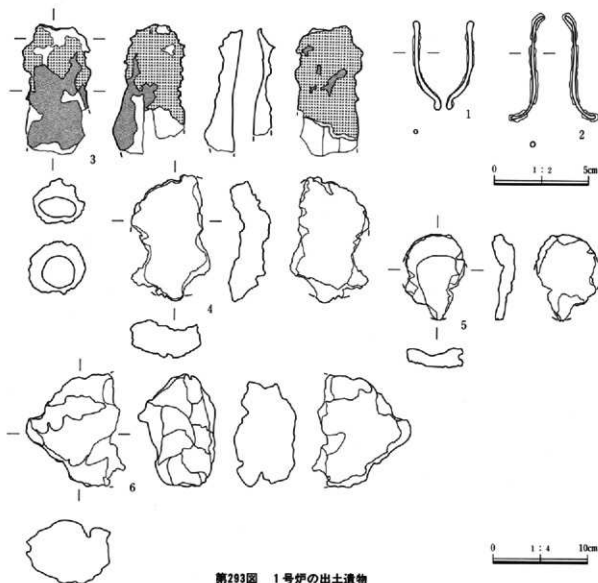
羽口はいくつかの破片が接合したが1個体が認められた。先端部側半分のみが残存である。先端側はつぶされたように扁平になっており、先端部の周囲には鉄滓が付着し、その下位は著しい反応によって珪化部分が発達していた。またねじれて湾曲した針状の鉄製品が2点出土した。



- 1 灰褐色土 焼土塊、炭、黄褐色土塊を含む。
- 2 暗褐色土 炉体の崩落塊。鉄滓、スラグ等混じる。
- 3 a 黄褐色土 2層同様、炉体の崩落部ではあるが、構築材である黄白色粘土がボソボソ見られる。
- 3 b 褐色土 焼土塊のみ。
- 4 ぐすんだ褐色土 地山シルトが火熱を受け、焼土化した。
- 5 暗褐色土 炭を多く含む、焼土塊混じる。

0 1:20 50cm

第292図 1号炉



第293図 1号炉の出土遺物

分析試料は、塊状滓1点、粘土状物質が付着した塊状滓1点、椀形滓1点、部分溶融したスサ入粘土状物質4点、羽口1点である。

2号炉

(第294~299図 PL101・167~170 遺物観察表P.392・393)

位置 A6区4A-39グリッド

重複 58号住居を切っている。

形状 北側がややすぼまる楕円形の掘り方をもって
いる。深さは中央で確認面から17cmほどである。断面形は短軸および長軸ともにだらだらとした皿状を呈する。

規模 長軸 1.40m 短軸 1.05m

深さ 0.17m

長軸方位 N-9°-E

埋没土 最下部には炭化物を含む暗褐色土が一部に

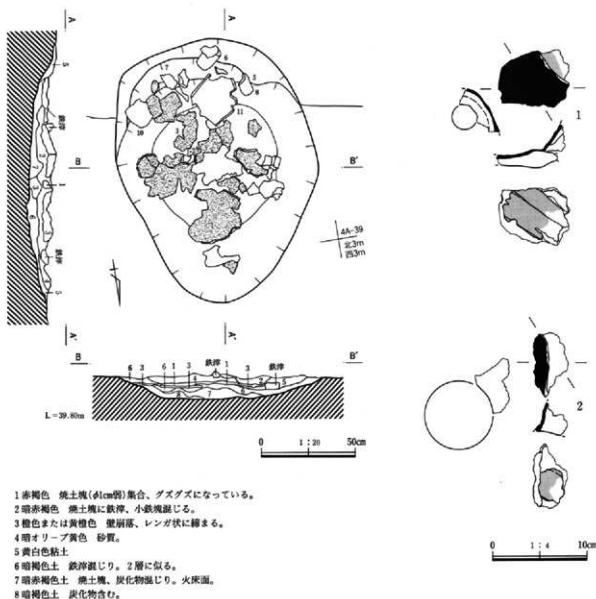
第3章 検出された遺構と遺物

あり、その上に全体的に焼土塊・炭化物を混じる暗赤褐色土があった。その上位には大型の炉壁が崩落したと思われるレンガ状の橙褐色土や鉄滓・焼土塊を混じる暗赤褐色土が平らに堆積していた。西側・北側の縁に近い方には黄白色粘土が残っていた。遺構の状況 攪乱が著しく、炉壁の痕跡や立ち上がり等、炉の構造を示す状況は1号炉と同様に明瞭に確認できなかった。

しかし、西縁には黄白色粘土が残っており、周囲に粘土による構造物があったことが推定される。ま

た底面には暗赤褐色に焼けた面が一部に残存していた。

遺物と出土状況 出土遺物は、鍛造薄片、鉄滓、スサ入粘土状物質、羽口である。遺構を確認した時点で、攪乱が炉底部までおよび、鉄滓等の遺物は埋没土上面に露出していた。炉壁や容器の破片は比較的中央部にほぼ平らに出土し、鉄滓や羽口はその周囲に放置されていた。鍛造薄片は埋没土中で検出した。埋没土層の全体を洗浄調査したものではない。



- 1 赤褐色 焼土塊(φ1cm程度)集合、グズグズになっている。
- 2 暗赤褐色 焼土塊に鉄滓、小鉄塊混じる。
- 3 橙色または黄褐色 壁崩落、レンガ状に締まる。
- 4 暗オリーブ黄色 砂質。
- 5 黄白色粘土
- 6 暗褐色土 鉄滓混じり、2層に似る。
- 7 暗赤褐色土 焼土塊、炭化物混じり。火床面。
- 8 暗褐色土 炭化物含む。

第294図 2号炉と出土遺物(1)

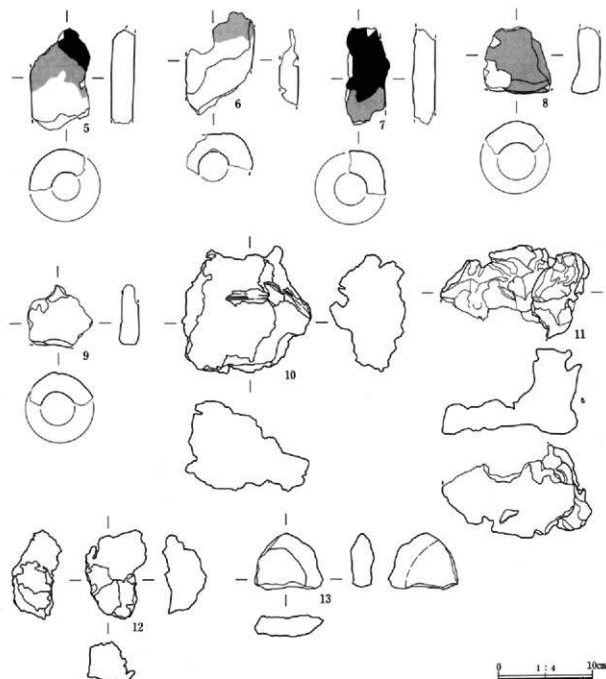


第295図 2号炉の出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

鉄滓は粘土状物質が付着した塊状滓が3点、同じく粘土状物質が付着した碗形滓が3点、塊状滓が14点、碗形滓が3点出土した。塊状滓には羽口が付着しているものもある。碗形滓のうち10は短径13cmほどの楕円形を呈する。厚さは9cmと厚い。上面に木片に拠るとみられる攪拌痕跡がある。13は厚さ2cmほどの薄い塊状滓である。また、羽口に付着して丸くカーブした鉄滓の破片が2点出土している。

スサ入粘土状物質は22のまとまりが出土した。これらは火熱による反応の全くない炉壁外側の酸化状態の破片と、反応が鈍い発泡状態の破片、反応が激しく部分溶融している破片に分けられる。部分溶融した破片は溶解・固結の過程で曲がりくねり、接合作業は困難であった。しかし一部に接合する破片が



第296図 2号炉の出土遺物(3)

あり、壁体の全体の復元まではできなかったが部分的には炉の構造を推定させる資料となった。

なかでも第294図に図示した羽口が付着したままの資料(1)と、羽口の挿入痕跡が残る資料(2)は、羽口が炉壁に対して斜めに挿入されていたことを示している。他に羽口は7点が出土した。内径・外径のわかる5点を図示した。還元部分で計測した羽口内径で比べると、3cm未満の細いものと、3cm以上の太いものに分けられる。羽口の全体がわかる資料は無い。

分析した試料は、粘土状物質が付着した椀形洋1点、塊状滓6点、スサ入粘土状物質が部分溶融した資料6点、酸化状態のスサ入粘土状物質1点である。

60号住居上層遺構

(第297図 PL102・103・170 遺物観察表P.393)

位置 A6区3X・3Y-38グリッド

重複 60号住居を切っている。

形状 60号住居上層遺構は複数の土坑の集合である。西側には長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.2mの隅丸三角形の土坑の北西側縁に、内径28cmほどの円形に焼けた部分があった。焼けた厚さは13～15cm、残存していた高さは10cmほどである。

その南東側に隣接して3基の土坑が団子状に掘り込まれていた。北からA土坑、B土坑、C土坑とする。土坑の規模は以下の通りである。

	A	B	C
長軸	0.45m	1.00m	1.10m
短軸	0.33m	0.80m	0.73m
深さ	0.21m	0.32m	0.29m
長軸方位	N-26°E		

A・B・C土坑を貫く方位はN-49°Eである。

埋没土 60号住居上層は60号住居の床面精査の時点で北壁中央に集中して灰や炭化物・鉄滓が出土し始めたことから確認された。当初60号住居の床面とした面と、鉄滓等が出土した面は高低差がほとんどなく同時に調査することになった。鉄滓等の出土する

土坑群を調査後、60号住居を精査したところ、住居の壁は北に広がり床面はさらに下位に検出された。

そこで60号住居の埋没土を詳細に観察すると、炭化物・焼土の層が土坑群からつながって60号住居埋没土より高い位置で北側に広がっていた。このことから、これらの土坑群は60号住居を切って掘られた新しい遺構と考えた。

遺構の状況 60号住居上層遺構の西半には内径28cm、外径40cmの円形で、3～10cmの厚さで周囲が焼土化した土坑があった。深さは確認面から12cmほどの窪みが出された。北から西の縁にはスサ入粘土状物質の断片が壁に沿うように出土したが、炉との確信を得るまでには至らなかった。

東側にあるA・B・C土坑は鉄滓や炭が混在する褐色土で埋まっていたが、内部で反応があったような焼土化した痕跡はなかった。

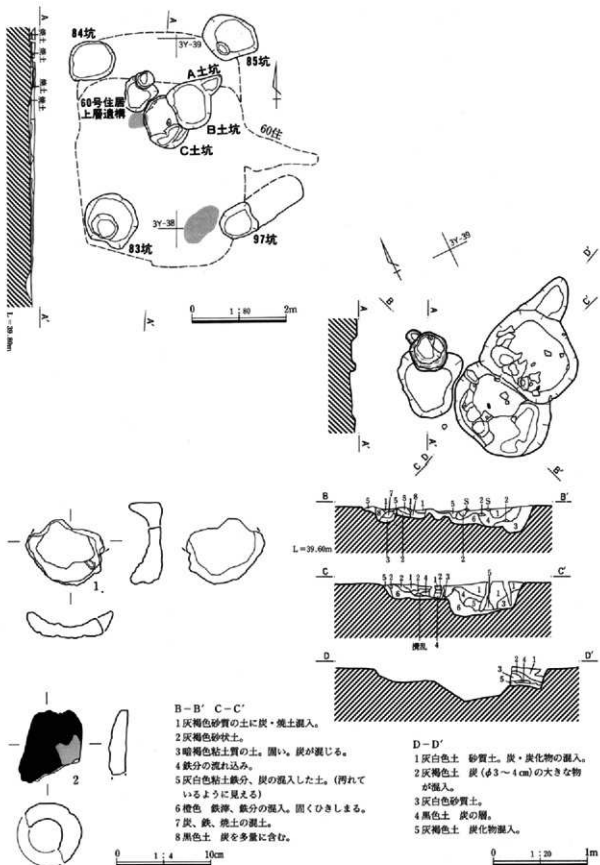
遺物と出土状況 出土遺物は、鍛造薄片、鉄滓、スサ入粘土状物質、羽口である。遺構を確認した時点で、鉄滓等の遺物は埋没土上面に露出していた。B・C土坑の遺物は南西縁に偏在していた。

鍛造薄片はB土坑とC土坑から出土した鉄滓の固まりとともに検出された。埋没土層の全体を洗浄調査したものではない。

鉄滓は粘土状物質が付着した塊状滓が5点、椀形滓が1点、塊状滓が8点出土した。鉄滓はC土坑にやや偏って捨てられていた。椀形滓は図示した1で、B土坑の南縁で検出された。長径9cmほどの楕円形を呈する。厚さは6cmである。塊状滓は数cm角の固まりが多いが、錆が顕著である。また、粘土状物質が付着した塊状滓には羽口と反応したものがあつた。スサ入粘土状物質は部分溶融した破片が1点だけ出土している。何らかの炉の胴部の破片とみられる。

羽口は2点が出土した。図示した2はC土坑の北東で出土した。内径3.4cmである。

分析した資料は、塊状滓1点、椀形滓1点、粘土状物質が付着した塊状滓2点、羽口と反応した塊状滓1点、スサ入粘土状物質1点である。



第297図 60号住居上層遺構と出土遺物

鉄生産に関連する土坑

(第297～299図 PL103・104・171 遺物観察表P.393)

60号住居のほぼ四隅にあたる位置には4個の不正円形の土坑が検出された。83号・84号・85号・97号土坑である。これらの土坑の存在は60号住居の上層で何らかの鉄生産が行われていたことを示唆する。

このうち、埋没土に焼土や炭化物粒が顕著に混じっていることや出土した鉄生産関連遺物から、83号・84号・97号土坑は廃棄坑と考えられる。しかし、85号土坑は焼土粒や炭化物粒を含むシルト質の褐色土で埋まっていたが、他の3つの土坑と埋没土や出土遺物が異なっていることから、鉄生産に関わる遺構とは断定できなかった。

83号土坑 直径1.16m、深さ0.36mの円形の土坑で、断面形は箱形である。底面は南東部がやや円形に窪んでいた。埋没土の大半が炭化物を含む黄灰色土で、一度に埋められた様相を示す。遺物も埋没土に混じった形で出土した。土器に混じって羽口3点、塊状滓3点、粘土状物質が付着した塊状滓2点、粘土状物質1点、スサ入粘土状物質2点が出土している。一緒に出土した土器は11世紀初頭と考えられる。

84号土坑 長軸0.94m、短軸0.8m、深さ0.31mの隅丸方形の土坑である。断面形は箱形で、底面は平坦である。埋没土は炭・焼土の粒や塊を含む黄灰色土で羽釜等の土器に混じって、羽口片が付着したスサ入粘土状物質1点が出土した。

97号土坑 長軸1.5m、短軸1.3mの隅丸台形の土坑である。その東西には炭の広がりが検出された。特に東側は幅0.8m、長さ1.2mの範囲に0.2mほど掘り窪んでいて灰や粘土の層が見られた。土坑内は鉄滓や炭化物粒、焼土粒を多量に含む灰褐色土で埋まっていた。遺物は羽口1点、鍛造薄片、塊状滓1点、塊状滓1点、粘土状物質が付着した塊状滓1点が出土した。

その他の土坑 これらのほかに一般の土坑として報告したなかにも鉄生産関連遺物を出土した土坑があった。それは71号土坑(第278図)、75号土坑(第281図)、76号土坑(第271図)、126号土坑(第286図)で塊

状滓・発泡した炉壁等の鉄生産関連遺物数点を出土した。これらの土坑は埋没土に顕著な炭化物・焼土の堆積は見られなかったが、1号・2号炉の近くにあり、鉄生産関連遺物を出土している。土坑の埋没途中で鉄生産関連遺物が混入した可能性が高い。

鉄生産関連遺物(第3表)

三ツ木皿沼遺跡では前述したようにA6区で鉄生産関連遺物が検出されたが、そこから鉄生産に関連する遺物が305点出土している。これらは概ね、鉄製品、鍛造薄片、鉄塊、鉄滓、粘土状物質、羽口、その他に分けられる。

鉄製品は遺跡全体では41点が出土したが、A6区から出土したのは31点である。これらはほとんど埋没土中からの出土であり、遺跡内で鍛造鍛冶炉が検出されていないので、本遺跡で生産された遺物とは断定できなかった。また鍛造薄片は2号炉と60号住居上層遺構で数片を確認したにとどまる。

鉄塊はA6区75号住居の埋没土中で鉄塊が1点出土したのみである。

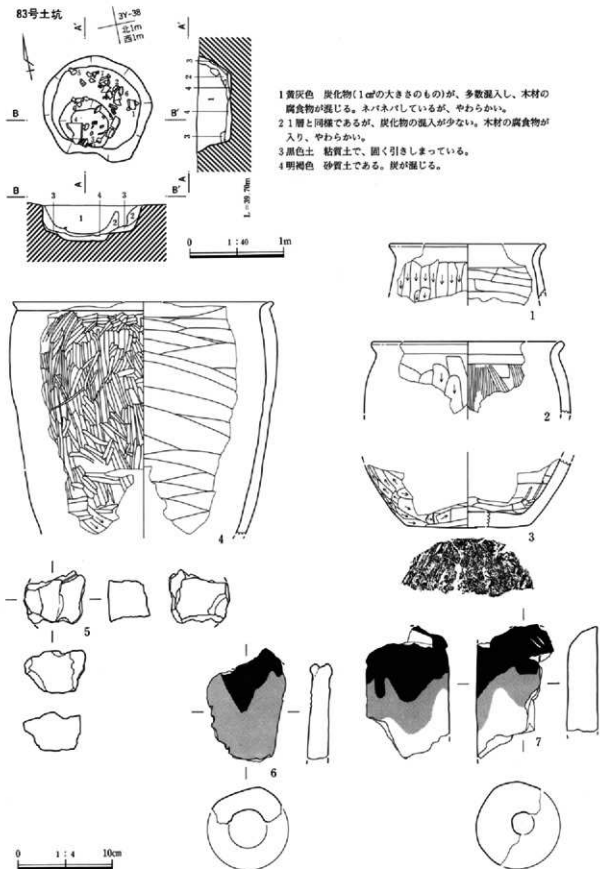
鉄滓は遺跡全体で136点、A6区では133点が出土した。このうち塊状滓は121点で、炭の噛み込みが見られないのが特徴である。なかには羽口や炉壁の粘土状物質が付着したものも含まれている。またA6区では13点の塊状滓が出土した。直径が13cmと9cmの2種類にほぼ分けられる。

炉壁とみられる粘土状物質は、A6区に76点が集中して出土した。A6区で出土した粘土状物質にはスサの入った65点とスサの入らない11点がある。前者は炉壁、後者は何らかの反応容器と推定した。

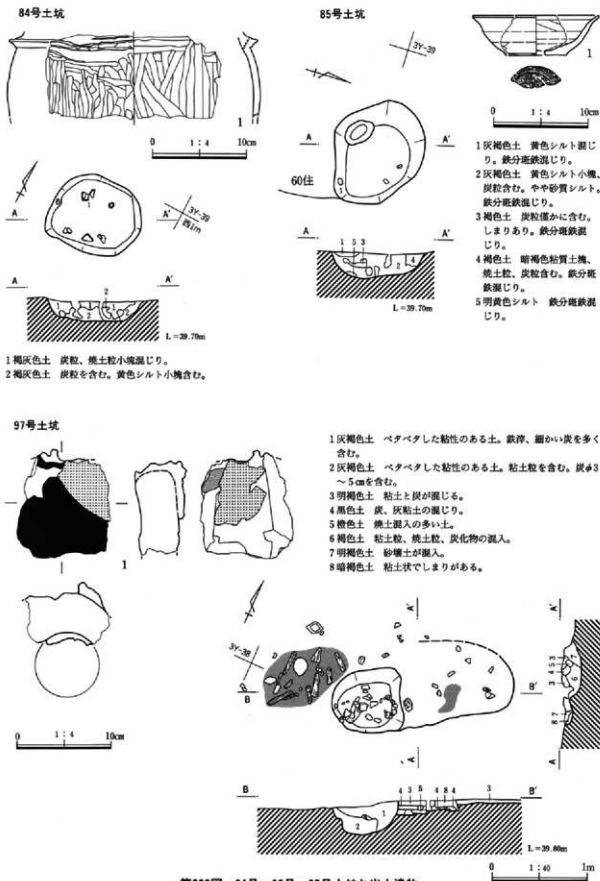
羽口は全体で49点が出土した。A6区では48点の羽口が集中して出土している。送風端の形態や内径でいくつかに分けられる。

これらの鉄生産関連遺物は外観形状を観察し、第3表のように分類した。さらに金属学的分析との総合化によって三ツ木皿沼遺跡での鉄生産活動の復元を試みた。詳細は第6章～8に記述した。

第3章 検出された遺構と遺物



第298図 83号土坑と出土遺物



第299図 84号・85号・97号土坑と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

第3表 ツツ木皿沼遺跡跡生産関連遺物一覧表 *割合%

取納番号	類別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	埋没%	分析%
40-00046	粘土質物質	スサ無し・磨蝕・磨化	A 6区	53号住居	10世紀前半	埋		
40-00045	鉄滓	塊状	A 6区	53号住居	10世紀前半	埋		
40-00047	鉄滓	塊状	A 6区	66号住居	10世紀前半	+ 6		
40-00048	粘土状物質	鉄屑混でない。比動無。	A 6区	66号住居	10世紀前半	床面直上		
10-000816	羽口	4.0-9.0	A 6区	81号住居	10世紀前半	埋	第232図4	
40-00049	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	81号住居	10世紀前半	埋		
40-00001	製品	釘	A 6区	70号住居	10世紀前半	埋	第208図6	106
40-00002	製品	釘	A 6区	70号住居	10世紀前半	埋	第208図5	107
40-000050	スサ入粘土状物質	酸化	A 6区	71号住居	10世紀前半	- 8		
10-000887	羽口	2.8-7.0	B 3区	97号住居	10世紀前半	+2.5	第259図10	
40-000052	鉄滓	塊状・粘土状物質付着	A 6区	98号住居	10世紀前半	埋		
40-000051	鉄滓	塊状	A 6区	98号住居	10世紀前半	+22		
40-000003	製品	刀子	A 6区	31号住居	10世紀中葉	+29.5	第139図1	109
10-000595	羽口	4.6-8.0	A 6区	51号住居	10世紀中葉	埋	第164図22	
40-000053	鉄滓	塊状	A 6区	51号住居	10世紀中葉	埋		
40-000004	製品	釘	A 6区	52号住居	10世紀中葉	埋	第171図23	102
40-000005	製品	刀子	A 6区	52号住居	10世紀中葉	埋	第171図22	110
40-000054	スサ入粘土状物質	部分磨蝕	A 6区	52号住居	10世紀中葉	埋		
40-000006	製品	断面△棒状	A 6区	55号住居	10世紀中葉	埋	第178図4	
10-000662	羽口	2.4-6.3	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 6	第181図15	
10-000660	羽口	2.6-6.9	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 4	第181図13	
10-000663	羽口	3.3-7.8	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+19	第181図16	
10-000661	羽口	2.7-6.2	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+10	第181図14	
10-001100	羽口	3.0-7.5	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
40-000058	製品	不明	A 6区	56号住居	10世紀中葉	床面直上	第181図12	114
40-000007	製品	不明	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 2	第181図11	115
40-000009	製品	不明	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 3	第181図10	116
40-000062	鉄滓	塊状・粘土状物質付着	A 6区	56号住居	10世紀中葉	- 6		
40-000064	鉄滓	塊状・粘土状物質付着	A 6区	56号住居	10世紀中葉	- 6		
40-000063	鉄滓	塊状・粘土状物質付着	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
40-000065	鉄滓	塊状・(大葉・径12~16) ・粘土状物質付着	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+25	第181図17	
40-000061	鉄滓	塊状	A 6区	56号住居	10世紀中葉	- 2		
40-000060	スサ入粘土状物質	部分磨蝕	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 4		
40-000055	スサ入粘土状物質	酸化・スサ太い。	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
40-000057	スサ入粘土状物質	酸化・スサ太い。	A 6区	56号住居	10世紀中葉	+ 3		30
40-000059	スサ入粘土状物質	接合部	A 6区	56号住居	10世紀中葉	埋		
10-000690	羽口	3.8-5.2	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上	第190図7	
10-001102	羽口	3.0-7.0	A 6区	62号住居	10世紀中葉	- 6		
10-000691	羽口	3.2-7.9	A 6区	62号住居	10世紀中葉	- 6	第190図8	201
10-001103	羽口	4.0-9.0	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上		
10-001104	羽口	3.5-8.0	A 6区	62号住居	10世紀中葉	+ 2		
10-000689	羽口	3.5-9.0	A 6区	62号住居	10世紀中葉	- 4	第190図6	
40-000010	製品	不明	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上		402
40-000011	製品	不明	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上	第190図5	401
40-000069	鉄滓	塊状	A 6区	62号住居	10世紀中葉	- 3		
40-000070	鉄滓	塊状	A 6区	62号住居	10世紀中葉	+ 3		204
40-000068	鉄滓	塊状	A 6区	62号住居	10世紀中葉	埋		
40-000067	スサ入粘土状物質	部分磨蝕	A 6区	62号住居	10世紀中葉	床面直上		
10-000734	羽口	4.0-7.1	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+30	第206図24	
10-000737	羽口	3.9-9.1	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+ 7	第206図27	
10-000736	羽口	3.8-7.8	A 6区	69号住居	10世紀中葉	- 3	第206図26	
10-000735	羽口	3.4-6.9	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+13	第206図25	
10-001108	羽口	? -7.6	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000017	製品	不明	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000012	製品	釘	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+ 6	第206図19	105
40-000013	製品	釘	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋	第206図20	104
40-000014	製品	釘	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+ 2	第206図21	103

第3節 古代の遺構と遺物

収納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	棟間No	分析No
40-000016	製品	刀子	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+17	第206図22	112
40-000015	製品	刀子	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋	第206図23	111
40-000092	鉄片	塊状片・粘土状物質付着	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+7		
40-000091	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+25		
40-000089	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+8		
40-000090	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+11		
40-000077	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+17		
40-000080	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+12		
40-000079	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+24		
40-000078	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000082	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+22		
40-000084	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋	第206図26	10
40-000087	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+9		
40-000083	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000081	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+7		
40-000088	鉄片	塊状片	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+36	第206図29	
40-000072	スッ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000076	スッ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
40-000071	スッ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+25		
40-000074	スッ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+4		
40-000075	スッ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	69号住居	10世紀中葉	+12		
40-000073	スッ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	69号住居	10世紀中葉	埋		
10-001110	羽口	3.0-9.0	A 6区	77号住居	10世紀中葉	+10		
10-000775	羽口	2.4-7.2	A 6区	77号住居	10世紀中葉	床面直上	第222図 5	
10-000774	羽口	3.4-8.0	A 6区	77号住居	10世紀中葉	-11	第222図 4	
10-000776	羽口	3.1-7.9	A 6区	77号住居	10世紀中葉	-2	第222図 6	
10-001111	羽口	2.3-?	A 6区	77号住居	10世紀中葉	埋		
10-001112	羽口	?	A 6区	77号住居	10世紀中葉	埋		
40-000095	鉄片	塊状片	A 6区	77号住居	10世紀中葉	+5		
40-000096	鉄片	塊状片	A 6区	77号住居	10世紀中葉	-3		
40-000087	鉄片	塊状片	A 6区	77号住居	10世紀中葉	埋		
40-000098	鉄片	塊状片	A 6区	77号住居	10世紀中葉	-3		
40-000099	鉄片	塊状片	A 6区	77号住居	10世紀中葉	-2		
40-000100	鉄片	塊状片	A 6区	77号住居	10世紀中葉	埋		
40-000101	鉄片	塊状片	A 6区	77号住居	10世紀中葉	+10	第222図 2	16
40-000103	鉄片	鏡形片 (大型・径13cm) ・粘土状物質付着	A 6区	77号住居	10世紀中葉	-5	第222図 3	
40-000102	鉄片	塊状片	A 6区	77号住居	10世紀中葉	+11	第222図 1	21
40-000094	スッ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	77号住居	10世紀中葉	+9		
40-000093	スッ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	77号住居	10世紀中葉	32		
40-000018	製品	刀子	A 6区	94号住居	10世紀中葉	-2		113
10-000970	羽口	3.4-7.4	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+13	第297図 2	
10-001101	羽口	?-8.0	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+5		
40-000105	鋳造薄片		A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+9		
40-000106	鋳造薄片		A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+8		
40-000111	鉄片	塊状片	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+10		
40-000114	鉄片	塊状片	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	床面直上		
40-000109	鉄片	塊状片	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+6		
40-000107	鉄片	塊状片	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	埋		5
40-000112	鉄片	塊状片	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+13		
40-000113	鉄片	塊状片	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+6		
40-000108	鉄片	塊状片	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	埋		
40-000110	鉄片	塊状片	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+12		
40-000120	鉄片	鏡形片 (小型・径9.3cm)	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+5	第297図 1	19
40-000116	鉄片	塊状片・粘土状物質付着	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	-10		4
40-000115	鉄片	塊状片・粘土状物質付着	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	-2		
40-000119	鉄片	塊状片・粘土状物質付着	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+11		
40-000117	鉄片	塊状片・粘土状物質付着	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+10		309
40-000118	鉄片	塊状片・粘土状物質付着	A 6区	60号住上層遺構	10世紀前期以降	+11		308

第3章 検出された遺構と遺物

収納番号	類別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	押込No	分析No
40-000104	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	60号往上層遺構	10世紀前期以降	+11		308
40-000122	粘土状物質	スサ入り?	A 6 区	60号往上層遺構	10世紀前期以降			
40-000121	粘土状物質		A 6 区	60号往上層遺構	10世紀前期以降			
40-000124	粘土状物質	薄片を織み込んでいる。	A 6 区	60号往上層遺構	10世紀前期以降	+ 4		
40-000123	粘土状物質	薄片を織み込んでいる。	A 6 区	60号往上層遺構	10世紀前期以降	+ 8		
10-000964	羽口	3.5-6.8	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 2	第293図3	1
40-000143	鉄片	塊状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000145	鉄片	塊状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	- 3		
40-000140	鉄片	塊状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000139	鉄片	塊状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000144	鉄片	塊状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000141	鉄片	塊状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 3		12
40-000142	鉄片	塊状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 7		
40-000146	鉄片	塊状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 3		
40-000154	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000153	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 3		
40-000152	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 7		
40-000155	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000156	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 4		
40-000150	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 3		
40-000151	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 7		
40-000148	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000149	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 5		13
40-000147	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000157	鉄片	鏡形片 (大皿・径13cm) ・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降		第293図4	17
40-000158	鉄片	鏡形片 (大皿・径13cm) ・粘土状物質付着	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降		第293図6	
40-000135	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 5		
40-000134	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 5		23
40-000137	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 6		
40-000136	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 8		301
40-000138	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 6		
40-000125	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000126	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000128	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000127	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 2		
40-000130	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 6		24
40-000131	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000129	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降	+ 7		
40-000132	スサ入粘土状物質	部分分離	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降			
40-000019	製品	針状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降		第293図5	25
40-000020	製品	針状	A 6 区	1号炉	10世紀前期以降		第293図2	
10-000966	羽口	2.6-5.6	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+10	第296図6	
10-000965	羽口	3.1-7.5	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	-13	第296図5	
10-001113	羽口	3.2-7.6	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+ 5		
10-000968	羽口	4.1-7.4	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	-13	第296図8	
10-001114	羽口	3.4-6.4	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降			
10-000969	羽口	3.7-7.4	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+ 8	第296図9	
10-000967	羽口	3.5-7.5	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+ 5	第296図7	
40-000192	織造薄片		A 6 区	2号炉	10世紀前期以降			
40-000214	薄片		A 6 区	2号炉	10世紀前期以降			
40-000204	鉄片	塊状・羽口付着	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+ 6		
40-000183	鉄片	羽口付着	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+10		
40-000207	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+ 9	第296図11	
40-000206	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+ 8		
40-000205	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降	+12		302
40-000210	鉄片	塊状・粘土状物質付着	A 6 区	2号炉	10世紀前期以降			14

第3節 古代の遺構と遺物

収納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	押印No.	分析No.
40-000213	鉄滓	楕形滓 (大型・復元径13cm)・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+2		
			A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+6		
			A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+4		
40-000209	鉄滓	楕形滓 (大型・径13cm)・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋		
40-000212	鉄滓	楕形滓 (大型・径復元平円)・粘土状物質付着	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+8		303
40-000195	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+6	第296図10	
40-000194	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+5		
40-000202	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋		
40-000203	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋		8
40-000196	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋	第296図12	2
40-000200	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+3		
40-000201	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+6		
40-000199	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋		33
40-000197	鉄滓	塊状滓	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋	第296図13	18
40-000170	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+6		
40-000171	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋		
40-000172	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+9		26
40-000173	スズ入粘土状物質	部分溶融・発泡	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+2	第295図3	306
40-000174	スズ入粘土状物質	部分溶融・羽口挿入孔	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+8	第294図2	
40-000175	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+3		
40-000176	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋	第295図4	307
40-000178	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+8		
40-000179	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+8		
40-000180	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+6		
40-000181	スズ入粘土状物質	部分溶融・羽口突き着	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+8	第294図1	
40-000182	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+8		305
40-000184	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+9		27 304
40-000187	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+3		
40-000188	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+4		
40-000189	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+9		29
40-000159	スズ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+7		28
40-000162	スズ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+6		
40-000163	スズ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋		
40-000166	スズ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+9		
40-000165	スズ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	+9		
40-000167	スズ入粘土状物質	酸化	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋		
40-000168	スズ入粘土状物質	発泡	A 6区	2号炉	10世紀前半以降	埋		
40-000021	製品	針	A 6区	54号住居	10世紀後半	埋	第176図6	101
40-000215	スズ入粘土状物質	酸化	A 6区	54号住居	10世紀後半	埋		
40-000218	鉄滓	塊状滓	A 6区	61号住居	10世紀後半	埋		
40-000219	粘土状物質	スズ無し。片面平ら。	A 6区	61号住居	10世紀後半	床面直上		
40-000220	粘土状物質	スズ無し。片面平ら。	A 6区	61号住居	10世紀後半	床面直上		
40-000217	スズ入粘土状物質	酸化・スズ太い。	A 6区	61号住居	10世紀後半	床面直上		
40-000216	スズ入粘土状物質	酸化	A 6区	61号住居	10世紀後半	床面直上		
40-000222	鉄滓	塊状滓	A 6区	65号住居	10世紀後半	埋		
40-000223	鉄滓	塊状滓	A 6区	65号住居	10世紀後半	埋		
40-000221	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	65号住居	10世紀後半	埋		
40-000224	鉄滓	塊状滓	A 6区	73号住居	10世紀後半	埋		
10-001109	羽口	?	A 6区	75号住居	10世紀後半	埋		
40-000225	鉄塊	鉄塊	A 6区	75号住居	10世紀後半	埋	第218図6	117
40-000227	鉄滓	塊状滓	A 6区	75号住居	10世紀後半	埋		
40-000226	鉄滓	塊状滓	A 6区	75号住居	10世紀後半	+10	第218図5	
40-000228	鉄滓	楕形滓 (小型・径9~10)	A 6区	75号住居	10世紀後半	+5	第218図7	20
40-000229	木炭	破片	A 6区	75号住居	10世紀後半	埋		
40-000230	スズ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	96号住居	10世紀後半	+25		
10-001115	羽口	3.0-9.4	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
10-000975	羽口	4.0-8.1	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋	第298図6	

第3章 検出された遺構と遺物

取柄番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	棟趾No	分析No
10-000976	羽口	2.4-9.0	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋	第298図7	
40-000236	鉄滓	塊状滓	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		7
40-000235	鉄滓	塊状滓	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000234	鉄滓	塊状滓	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000238	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋	第298図5	11
40-000240	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000241	粘土状物質	炭屑・砂・平ら	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000232	スチ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000233	スチ入粘土質物質	部分溶融・酸化	A 6区	83号土坑	11世紀初頭	埋		
40-000022	製品	刀子	A 6区	11号住居	11世紀前半	埋	第106図23	108
40-000231	鉄滓	塊状滓	A 6区	11号住居	11世紀前半	埋		
10-000447	羽口	2.4-8.5	A 6区	20号住居	11世紀前半	床面直上	第123図6	
10-001105	羽口	4.0-8.6	A 6区	64号住居	11世紀前半	+4		
10-000699	羽口	3.1-8.7	A 6区	64号住居	11世紀前半	+11	第192図4	
10-001106	羽口	?	A 6区	64号住居	11世紀前半	-3		
10-001107	羽口	?	A 6区	64号住居	11世紀前半	+9		
10-001117	羽口	?	A 6区	64号住居	11世紀前半	埋		
40-000244	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+7		
40-000247	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	不明	第193図6	
40-000249	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+14		
40-000249	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+8		
40-000254	鉄滓	塊状滓・羽口付着	A 6区	64号住居	11世紀前半	+15		
40-000245	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	埋		
40-000248	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+9		
40-000253	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	床面直上		
40-000252	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+10		
40-000251	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	+5	第193図5	9
40-000250	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	埋	第193図7	
40-000246	鉄滓	塊状滓	A 6区	64号住居	11世紀前半	床面直上	第193図8	15
40-000255	鉄滓	塊状滓 (小型・径8~10)	A 6区	64号住居	11世紀前半	+4	第193図9	202
40-000242	スチ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	64号住居	11世紀前半	+9		31
40-000243	スチ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	64号住居	11世紀前半	+7		
40-000257	鉄滓	塊状滓	A 6区	74号住居	古代	+4		6
40-000256	スチ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	74号住居	古代	埋		
40-000258	スチ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	89号住居	古代	埋		
40-000623	製品	刀子	A 6区	54号土坑	古代	埋	第284図2	
40-000260	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	71号土坑	古代	埋		
40-000259	スチ入粘土質物質	部分溶融	A 6区	71号土坑	古代	埋		
40-000624	製品	不明	A 6区	75号土坑	古代	+13	第281図1	118
40-000262	鉄滓	塊状滓	A 6区	75号土坑	古代	+13		
40-000261	鉄滓	塊状滓	A 6区	75号土坑	古代	+13		
10-000942	羽口	3.5-?	A 6区	75号土坑	古代	+13	第281図2	
40-000263	鉄滓	塊状滓	A 6区	76号土坑	古代	埋		
40-000264	鉄滓	塊状滓	A 6区	76号土坑	古代	埋		
40-000265	粘土状物質	炭屑	A 6区	76号土坑	古代	埋		
40-000267	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	84号土坑	古代	+5		
40-000272	不明	6.9-?	A 6区	97号土坑	古代	+29		
40-000268	鍍金薄片		A 6区	97号土坑	古代	+2		
40-000269	鉄滓	塊状滓・鏽	A 6区	97号土坑	古代	+2		
40-000271	鉄滓	塊状滓 (小型・直径5.5)	A 6区	97号土坑	古代	+29		
40-000270	鉄滓	炭屑・粘土状物質付着	A 6区	97号土坑	古代	埋		
10-000979	羽口		A 6区	97号土坑	古代	+19	第299図1	403
40-000029	製品	銅鏝	A 4区	107号住居	10世紀中葉		第88図13	119
40-000028	製品	不明	A 6区	126号土坑	不明	埋	第286図2	
40-000276	鉄滓	塊状滓	A 6区	126号土坑	不明	埋		
40-000279	鉄滓	塊状滓	B 3区	2号溝	不明	埋		3
40-000036	製品	不明	A 6区	3号溝	不明	+8	第322図1	

第3節 古代の遺構と遺物

取納番号	種別	形態 (cm)	発掘区	出土遺構	出土遺構の時期	床面比高	押印No	分析No
40-000274	鉄滓	塊状滓	A 6区	1001号溝	不明	底面直上		
40-000275	鉄滓	塊状滓・粘土状物質付着	A 6区	1001号溝	不明	埋		
40-000273	スヤ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	1001号溝	不明	埋		
40-000026	製品	鏝		表探	不明	埋	第331図22	203
40-000027	製品	不明		表探	不明	埋	第331図24	
40-000041	製品	不明	A 4区	壘穴状遺構	不明	埋	第311図10	
40-000277	鉄滓	塊状滓	A 4区	壘穴周辺	不明	埋	第312図12	22
40-000278	鉄滓	塊状滓	A 4区	2V-12G	不明			
40-000030	製品	刀子	A 4区	2W-13G	不明		第312図11	
40-000031	製品	釘	A 4区	2XV-13G	不明			
40-000281	スヤ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	表探	不明			
40-000033	製品	釘	A 6区	3H-22G	不明		第330図32	
40-000034	製品	不明	A 6区	3H-23G	不明			
40-000035	製品	釘	A 6区	3I-25G	不明		第330図33	
40-000282	鉄滓	塊状滓	A 6区	3T-35G	不明			
40-000283	鉄滓	塊状滓	A 6区	4B-46G	不明			
10-001076	甕口	2.7φ、0	A 6区	4E-46G	不明		第330図31	
40-000037	製品	刀子	A 6区	4E-45・46G	不明		第330図34	
40-000038	製品	不明	A 4区	トレンチ掘作中	不明		第331図21	
40-000286	鉄滓	解部(以書)田口粘土状物質	A 6区	田河道	不明		第328図9	
40-000285	スヤ入粘土状物質	部分溶融	A 6区	田河道	不明			
40-000288	粘土状物質	発泡	A 3区	田河道	不明			
40-000039	製品	鏝	A 3区	表探	不明			
40-000040	製品	不明	A 3区	表探	不明			
40-000289	鉄滓	塊状滓		表探	不明			
40-000042	製品	釘		鼎	不明			
40-000043	製品	不明	A 4区	表探	不明			
40-000044	製品	釘	A 6区	表探	不明		第331図20	
40-000290	鉄滓	塊状滓	A 7区	表探	不明			
40-000291	粘土状物質			表探	不明			
40-000292	鉄滓	塊状滓		表探	不明			
40-000284	鉄滓	塊状滓	A 2区	W-37G	不明			
10-001116	羽口	?		表探	不明			

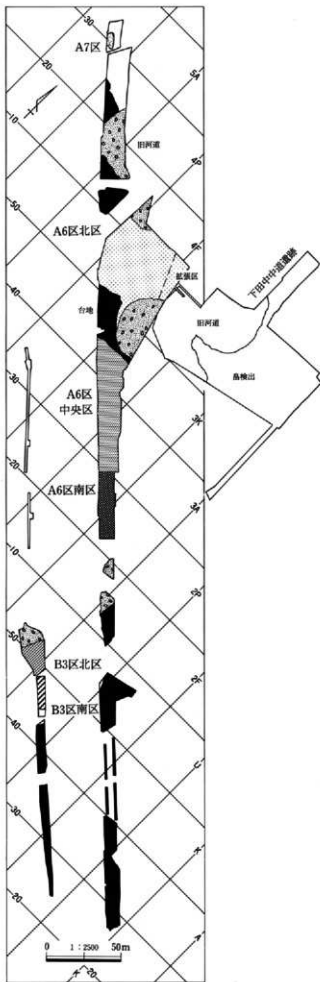
5. 畠

三ツ木皿沼遺跡の畠は低地部のほぼ全域で、早川の氾濫による洪水砂層の直下で検出された。調査は3か年に亘り、A6区・A7区・B3区の3地区で実施した。これらの畠は、用地解決に伴って細かく分断されながら、それぞれ異なる担当者によって発掘されたため、調査区間の調整が不十分にならざるを得なかった。そこで本報告書ではあえて統一の記載をせずに各発掘区の観察視点をそのまま記述したい。そのため畠に関する記述や図面・写真の掲載は、原則として調査年度ごとに行うこととした。また、畠の層位の名称や、出土遺物・プラントオパール分析についても、各調査区で統一することができなかったため、同じ調査区単位で述べる。

(1) 記述の前提

畠の調査区と調査面 畠の調査区の呼称は第300図のようにした。最も北にあるA7区は単年度で調査できたので、そのままA7区とする。A6区は調査年度で3分割して調査された。調査区は北から、平成5年度調査のA6区北区、平成7年度調査のA6区中央区、平成9年度調査のA6区南区と呼称する。北東部の三角形の部分は、隣接する下田中道遺跡の調査の際に用地が未解決で調査が完了していなかった地点であるが、三ツ木皿沼遺跡の中で調査できることになった部分で、特に拡張区と呼ぶ。B3区は調査年度で2分割して調査された。平成5年度調査のB3区北区と平成9年度調査のB3区南区と呼称する。

畠の層位の名称は前述のような理由で調査区ごとの名称をそのまま使用した。また畠が重層している地区では、畠と畠の間に間層がはいっていて、作付面がそれぞれ確認できる場合と、方向の異なる畠間列が同一面で確認される場合とがある。これについては前者を「〇〇面畠」とし、後者の同じ方向の畠間列を「××群」とした。



畠周辺の地形 三ツ木皿沼遺跡の発掘区の地形は、概ね台地部・低地部・旧河道に分けることができる。(第300図)畠は低地部のほぼ全域で検出された。

A 6区北区の南東部には台地が削り残されていて、A 6区中央区との境になっていた。またA 6区北区の北部と南東部は10世紀後半以降の曲流する旧河道に切られていた。A 6区中央部の北部も同じ旧河道で切られていた。なお、畠を埋めた洪水砂をもたらした旧河道は発掘調査では確認できなかった。

A 7区の畠は、畠の南東側の台地から落ち込む低地部に立地している。B 3区の畠も南東側の台地から落ち込む低地部に立地している。またB 3区の北西部は旧河道で切られている。

この低地の原形は、出土材の放射線年代測定の結果、3300年前以降には埋積が始まっていた古い谷であることがわかっている。縄文時代から古代にかけて早川の侵食と堆積を繰り返して、低地は洪水砂で埋まっていた。畠がつくられた時期には浸潤ではないある程度乾燥した低地となっていたのだろう。埋積によって高燥化したために畠がつけられるようになったと考えられる。

畠の形態と計測値 畠の発掘調査では多くの場合、上半部の耕作土を検出できずに畠間の溝下半部を列状に確認することがほとんどである。これは畠の畠の一部を確認できたにとどまり、畠の主要部分である作付面は未検出ということになる。しかし三ツ木皿沼遺跡は、畠面がそのまま洪水砂で覆われていたために畠の作付面を確認することができた数少ない遺跡の一つである

畠の形状や規模は栽培されている作物を反映しているはずである。しかし、平面図を記録する際の上幅・下幅の描画は調査担当者の感覚に任されていた。また、規模の計測も一定していないのが現状である。

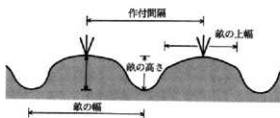
発掘された畠遺構からわかる畠の形状や規模は、作物を特定したり、耕作方法を知る上で重要な項目である。畠の幅は作付けの条やその間隔を反映しているし、畠の高さは作物の作付け深度や作物の違い

を示している可能性がある。したがって、畠の形状については断面図を示し、遺構を計測した面を明らかにして一定の計測値を掲げる必要があるだろう。

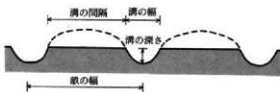
これらのことをふまえて、本報告書では畠の計測値を次のように整理した(第301図)。作付間隔は、中央に1条作付けされていた場合最も作物の生育に関係すると考えられる。これは畠間の中央と中央の間隔と等しくなることから、これを畠の幅の計測値とした。この方法にすれば、作付面が確認できない場合(第301図下)でも、畠の幅は他資料と比較可能な計測値を得ることができる。この場合、畠間の溝の幅は確認面の高さによって変動するので意味がない。

畠の高さは畠の頂部と畠間の底面の差を計測した。この値は作付面が確認できない場合は計測できない。この場合も畠間下部の深さは確認面の高さによって変動するので意味が無い。なお、畠の頂部は作付面と表記する。

作付面が検出できた場合の計測値



作付面がみつからなかった場合の一般的な計測値



第301図 畠の畠と計測値

(2) A6区北区の畝 (付図2~4 PL105~111)

A6区北区は平成5年度に調査した。A6区の最も北に位置する。ここでは、約2300m²の範囲に6面の畝が検出された。検出した畝は上層から、最上面畝・上面畝・下面畝・拡張区最下面畝である。最上面畝と最下面畝を除く4面は作付面を洪水砂が覆った状態で検出されたが、最上面畝と最下面畝は畝間の下半部のみが検出された。すべての畝は平安時代住居より下層に堆積している砂層に挟まれてみつかったので、住居以前の年代の畝である。

最上面畝は、後出する住居に切られている部分が多く、発掘区の全域で検出することはできなかった。わずかに西側の土層断面と、北東隅の拡張区で良好に遺存していたのみである。上面畝・下面畝は全域で検出された。最下面畝は、下位の黒色砂質土面で3群の畝間の溝列を検出した。

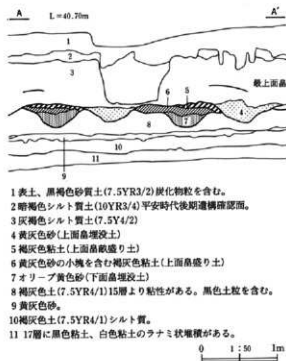
最上面畝 (付図2 PL105)

最上面の畝は、発掘区西側の土層断面で確認した。西側土層断面では、平安時代の住居の確認面から5~10cm下で畝を覆うような形の特徴的な白色の洪水砂が1~2mおきに薄く観察できた。

この断面にあらわれた畝の面は、北区の調査においては見逃してしまった。そこで、隣接する下田中道遺跡で検出された畝との関係を探ることを目的とした拡張区の調査で、最上面畝の層位に留意したところ、その一部を確認することができた。しかし拡張区の調査を開始できたのは、全体の上面畝の調査が終了し、下面畝の検出に入った段階であった。そのため、拡張区では最上面畝を検出できなかった。

拡張区で検出された最上面畝は、遺構としては作付面を確認できなかったところもあり、畝間の溝列のみの平面図となった。後に拡張区北側土層断面を精査したところ、標高39.60m前後に畝状の凹凸が見られた。これが最上面畝の畝と畝間にあたるかと考

えられた。この土層断面は畝列を斜めに横断している



- 1 表土、黒褐色砂質土(7.5YR3/2)炭化物粒を含む。
- 2 暗褐色シルト質土(10YR3/4)平安時代後期遺構確認面。
- 3 灰褐色シルト質土(7.5Y4/2)
- 4 黄灰色砂(上面畝埋設土)
- 5 褐灰色粘土(上面畝畝盛り土)
- 6 黄灰色砂の小塊を含む褐灰色粘土(上面畝盛り土)
- 7 オリーブ黄砂(下面畝埋設土)
- 8 褐灰色土(7.5YR4/1)15層より粘性がある。黒色土粒を含む。
- 9 黄灰色砂。
- 10 褐灰色土(7.5YR4/1)シルト質。
- 11 17層に黒色粘土、白色粘土のラナミ状堆積がある。

第302図 A6区北区西壁の土層断面 (付図2 A-A'部分)

られた。この土層断面は畝列を斜めに横断している

ので、畝の幅を表していないが、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.2mであることが確認できた。畝の幅には2種類あり、10ライン以北は畝の幅が1.6~1.9mと広いのに対して、10ラインから南は0.7~0.9mと狭くなっている。また11ラインに近い畝間は接するように隣の畝間があり、一時期の畝でないことをうかがわせている。広い畝と狭い畝は、調査時には1時期と考えていたが、畝間の方向が1本おきに似ていることから、2時期の畝間下半部を同時に掘り上げた可能性もあると考えられる。

上面畝 (付図2 PL105~108)

上面畝はA6区北区の低地部全域で検出された。A6区北区は南に削り残された台地があり、南東隅と北西隅は蛇行する旧河道によって切られている。畝の検出面は、北から南へは緩く傾斜しているが、西から東への傾斜は4~5mの比高がある。東端の拡張区はさらに0.8m一段ほど下がる地形になっていた。

上面畝の畝はシルトで覆われていたので、作付面

を検出することができた。ただし10ラインより北部は確認面よりもう少し上位に作付面がつくられていたとみられるが、平安時代後半期の遺構調査作業に際して作付面を削りってしまったところがある。

上面畠を埋めていた洪水砂は概ね3層に分けられる。畝間の下層にはノロのような細かい粘土質の濃灰色土が溜まり、中位には灰色の砂が堆積していた。上位には灰褐色シルトが畝間と畝全体を覆うように堆積していた。この洪水砂の上層には水平に堆積する灰黄褐色シルト・暗褐色シルト層があった。この暗褐色シルト層を9世紀末以降の堅穴住居が掘り込んでいた。前述した最上面畠もこの層中で一部に確認されたことから、ともに9世紀末以前の畠ということになる。

A6区北区の上面畠には、ほぼ東西方向の畝が30～31条検出された。畝は各地点で直線的でなく湾曲していた。地形に起伏があったために、湾曲してしまったのであろう。畝の形は頂部が平坦で、畝の作付面の幅は1.0～1.3m、畝の高さは畝間の底面から0.3m、畝の幅は1.9～2.0mである。作物の痕跡がないかと作付面を精査したが、確認することはできなかった。

A6区北区の南部は台地になっていたが、この台地との比高は0.4mで、台地上まで畠は広がっていなかった。台地の北側は畝の向きと台地の網線が一致し、東側は台地の裾から0.5mのところまで畝立てが終っていた。

畠の中には畝間が細くとぎれているところが南北方向に3列確認できた。これは畝を横切る農作業道

になっていたと考えられる。中央の道は発掘区を北から南に縦断する長さが確認できた。左右の2列は南から発掘区ほぼ中央の5ラインあたりまでを確認することができた。

また、二股に分かれる畝が数か所できていた。これは湾曲の向きが逆になった畝の間にできた余剰地を調節するためにつくられている。二股の畝には3つのパターンが見られた。一つは二股に分かれた畝が長くつながるもので、4J-4・10グリッドや4N-9グリッドに見られた。二つ目は入れ子状に隣の畝と絡んでいるもので、4G-3・4J-2グリッド、4F-6・4I-6グリッドの二組に見られた。もう一つは二股畝が部分的につくられている場合で、4I・4J-4グリッド、4K-6グリッド、4K-4M-7グリッド、4L-10グリッドに見られた。

発掘区内には4か所の畝の空白地帯があった。4P・4Q-6～8グリッド、4M-1グリッドは畝間が止まって、その西側につくられていないために畝が空白になっている。4E-6グリッドは畝間が止まって畝が東側につくられていない。また、4I・4J-11・12グリッドでは2.5mの間隔で畝溝がとぎれていた。これらの空白部については、現状では詳細は不明である。

一方、拡張区では上面畠に連続する層位で畠は確認できなかった。拡張区の土層断面を見ると北区西半とは若干異なっている。(第304図)上面畠の畝溝の下層を直接埋めたノロ状の堆積物は拡張区では厚くなり、低い方へ流れ込んでいた。しかし、拡張区ではこの直下で畠を検出することはできなかった。



第303図 A6区北区の畠土層断面
(付図3 C-C'部分)

下面畝 (付図3 PL105・109・110)

下面畝もA6区北区の低地部全域で検出された。上面畝と同様に、南は台地まで畝がつくられ、南東隅と北西隅は蛇行する旧河道によって切られていた。下面畝の検出面も、北から南へ緩く傾斜し、西から東への傾斜は3~4mの比高がある。東端の拡張区はさらに一段1~2m下がる地形になっていた。一つ異なっていたのは、拡張区で畝が確認されたことである。これについては後述する。

下面畝も洪水砂が作付面を覆っていたが、その中央部は、上面畝の畝間として掘られていた。したがって調査で下面畝の畝全体を検出することはできなかった。しかし、上面畝の畝間は下面畝の畝の中央を掘っているため、畝の規模や配置を確認することは可能であった。

下面畝を埋めていた洪水砂は概ね2層に分けられる。畝間の下層にはノロのような細かい粘土質の濃灰色土が溜まり、上半には灰色シルトが作付面の端を覆うくらいまで堆積していた。

A6区北区下面畝では、ほぼ東西方向の畝が31~32条検出された。畝の列は直線的でなく、緩く湾曲していた。畝の形は頂部が平坦で、作付面の幅は1.0~1.3m、畝の高さは畝間の底面から0.15~0.25m、畝の幅は1.9~2.0mである。畝の形態や規模は基本的に上面畝と同じである。高さは作付面中央部が上面畝の畝間として掘られているので確定的でない。下面畝の畝は、地山の白色軽石を少量含む黒褐色砂質土に畝間を掘ってつくられていた。

作業道は、下面畝4Pラインの西側で1列検出することができた。二段の畝は上面畝と同じ位置にできていた。また、畝の空白地帯は、上面畝で確認されていた4か所の空白部のうち、4M-1グリッド・4E-6グリッド・4I-4J-11・12グリッドは下面畝でも畝はつくられていなかった。一方、4P・4Q-6~8グリッドでは下面畝の畝がつけられていた。

拡張区では、上面畝を埋めていたノロ状の堆積物直下では畝を確認できなかったが、下面畝を埋めて

いたノロとシルトと同じ洪水砂で埋まった畝を検出することができた。この下面畝を埋めていたノロと拡張区で検出された畝を埋めていたノロは層としては連続していないので、同じ洪水によるかどうかは、厳密には判定できないが、堆積の層序を対比すれば下面畝を埋めていたノロと拡張区の畝を埋めていたノロは同じ層位と考えられる。

拡張区で検出された下面畝は、5条の畝が検出された。畝はN-20°-Wの方向につくられており、北区の畝の方向とほぼ直交していた。拡張区の畝の作付面の幅は0.6~1.0mで、北部でやや細くなっている。畝の高さは畝間の底面から0.12~0.2m、畝の幅は1.9~2.0mである。

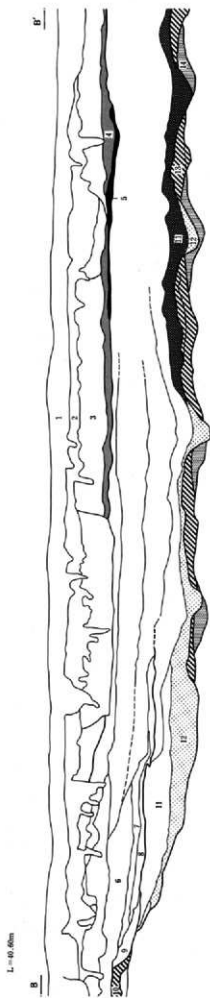
拡張区最下面畝 (付図3 PL110)

拡張区では下面畝の下層に畝を検出したが、この畝が後述するA6区北区の最下面畝と同じ面として対比できる根拠がない。この畝を覆っている砂は、拡張区のみが被災した洪水による可能性もある。したがって拡張区に限定して報告する。また、拡張区の最下面畝は当初1面と考え、図化・写真撮影した。しかしその後の土層断面の精査によって2面に分けられることが判明した。ここではその上面を最下面畝1面、下面を最下面畝2面と呼ぶ。

最下面畝1、2面ともに洪水砂で覆われていたため、作付面を検出することができた。1、2面の畝は交互に並んでいる。二者の畝の幅は同じであるが、2面畝の方が、作付面の幅が広く、畝間が狭く深い。

最下面畝1面の畝は5条が検出された。この畝は拡張区西端まで畝立てされており、限界まで土地利用している。作付面の幅は1.0~1.4m、畝の高さは畝間底面から0.15m、畝の幅は1.7~1.8mである。この畝の畝間は最下面畝2面の作付面の中央を掘ってつくられていた。

一方、最下面畝2面の畝も5条が検出された。この畝は地山の黒褐色砂質土に畝間を掘ってつくられていた。作付面の幅は1.0~1.6m、畝の高さは畝間底面から0.20~0.25m、畝の幅は1.7~1.8mである。



- 1 黄土、暗褐色土(10YR3/3)砂質。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/7)シルト質。砂質土を含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2)砂。
- 4 灰白色砂(5Y7/1)最上面高埋没土。
- 5 暗灰色粘土(10YR4/1)最上面高埋没土。
- 6 暗灰色粘土(5Y4/2)やや粗い。(上面高埋没土)
- 7 灰白色粘土(2.5Y5/1)ノロ (上面高埋没土)
- 8 黄灰色粘土(2.5Y6/1)ノロ (上面高埋没土)
- 9 10層の崩落土。西区西上面高埋没土。
- 10 上面高の盛り土。
- 11 オリーブ褐色砂(5Y6/3)(下面高埋没土)
- 12 灰褐色粘土(7.5YR6/2)(下面高埋没土)
- 13 藍灰色下面高の盛り土。
- 14 灰黄褐色砂(10YR5/2)(藍灰色下面高埋没土)

第304図 A6区北北壁の土層断面
(付図3 B-B'部分)

最下面畠 (付図4 PL110)

A6区北区最下面畠は方向の異なる畝間下部の溝列である。これらの溝列は、8世紀後半および9世紀初頭と考えられる住居とともに黒色砂質土上面で検出された。上層の畠はいずれも洪水砂に覆われていたために作付面まで保存されていたが、最下面畠は溝状の畝間下部しか確認できなかった。

上層の下面畠調査後、下位の遺構の有無を確認するために地山の黒褐色土にトレンチ調査をおこなった。この時点で畠の畝を覆うテフラや洪水砂などの鍍層を確認できなかったため、0.4~0.7m下位の黒色砂質土面まで掘り下げることにした。

後に北側土層断面を精査したところ、畝間に隣接する位置に黒色土塊を混じる褐色土が堆積していた。これが畠の畝の可能性があったかもしれない。しかし、この土層の上位にある褐色土を掘り下げ

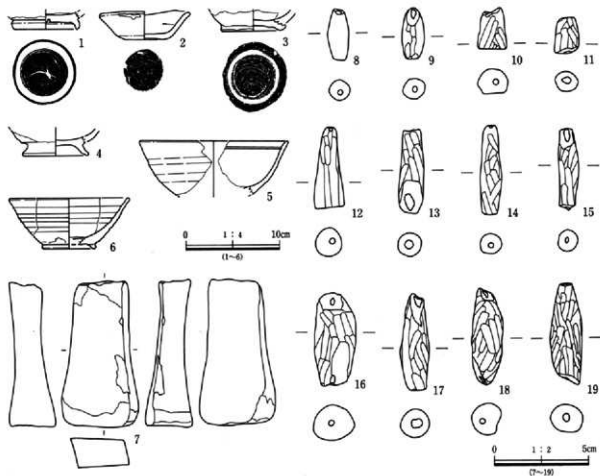
る際に畝の列を認識することはできなかった。

畝間下部の溝群は溝の方向や間隔の違いで3群に分けられた。それぞれは平行あるいは斜行して重なっているため3時期の畠を表していることになる。しかし畝間を埋めていたのはいずれの溝もノロが溜まったような灰白色の粘質土で、新旧関係を明瞭に判断することはできなかった。

1群は4K~4O-9~12グリッドに広がる長短12条の畝間下部の溝列で、N-58°-Eに傾いている。最長13.2mが調査できた。規模は溝幅0.20~0.35m、深さ0.1m、畝の幅は1.1~1.7mである。

2群は4N~4O-4~10グリッドに連なる長短16条の畝間下部の溝列で、N-75°-Eに傾く。最長12.5mが調査できた。規模は溝幅0.20~0.30m、深さ0.12m、畝の幅は1.1~2.0mである。

3群は4L・4M-4・5グリッドで検出された長



第305図 A6区北区畠の出土遺物

短7条の畝間下部の溝列で、N-68°-Eに傾いていた。最長0.4mが調査できた。規模は溝幅0.2~0.26m、深さ0.08m、畝の幅は1.60~2.2mであった。

1群と2群は傾きは異なるが、畝間の規模や間隔が似ている。特に狭い方の溝の間隔は、上層にあった上面畝と下面畝の隣接する畝間の間隔とほぼ同じである。

A 6区北区の出土遺物と畝の時期

(PL171・172 遺物観察表P.393・394)

第305図にA 6区北区の畝から出土した遺物を示した。1~5の土師器・須恵器、7の砥石は上面畝の作付面と洪水砂で埋まった畝間の竪横様を確認する作業中に畝上層から出土した。いずれも畝の上層にあった住居(9~10世紀代)の時期のもので、畝より新しい遺物である。8の土鍾は下面畝調査中に畝間を埋めていた洪水砂中から出土した。6の須恵器境、9~19の土鍾は下面畝の耕作土中から出土した。

特に6の須恵器境はその出土状況から、確実に畝が耕されていた時期あるいはそれ以前の遺物と考えられる。土器の時期は、直線的に開く口縁部や高台の特徴から9世紀後半ころと見られる。上面畝の上層につくられた住居のうち最も古いのは9世紀末の住居であった。また下面畝の下層で検出された住居のうち最も新しいのは9世紀初頭の住居であった。畝の年代は上下の遺構の存在時期から9世紀初頭から9世紀末の間に限定される。6の須恵器境はこの間に入り、矛盾しない。

A 6区北区畝のプラントオパール分析

A 6区北区では、10か所の地点で合計65点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなった。分析の詳細な報告は第5章に掲載した。

分析した試料のうち、最上面畝では5点すべて、上面畝では20点中19点、下面畝では15点中12点、拡張区最下面畝では7点中3点にイネのプラントオパールが検出された。したがって三ツ木皿沼遺跡の低

地部に立地した畝でつくられていた作物のひとつには陸稲があったことがわかる。

また、A 6区北区では畝より下位の土層から16点中6点からイネのプラントオパールが検出されている。この土層は榛名二ツ岳火灰(Hr-FA)や浅間C軽石(As-C)を含む層準で、いずれも古墳時代の土層と考えられる。これらの土層でプラントオパールが検出されたことは、水田か畝かは明らかでないが、ここで古墳時代に稲作がおこなわれていたことを示唆する。

(3) A 6区中央区の畝(付図5~7 PL112~115)

A 6区中央区は平成7年度に調査した。A 6区の中央に位置する。A 6区中央区では、1200m²の範囲に2~5面の畝が検出された。A 6区北区とは隣接するが、直接連続する畝を確認することができなかった。A 6区北区とは、間にある台地の東側でわずかに低地部がつながる部分があった。しかし、畝より新しい早川の旧河道によってちょうどこの部分が削られていたために、畝の連続を確認することができなかった。したがってA 6区北区とA 6区中央区の畝を埋めた洪水層の厳密な対比は行えなかった。

A 6区中央区で検出した畝は上層から、1面畝・2面畝・3面畝・4面畝・5面畝である。これらの畝も北区と同様に、平安時代住居より下層に堆積している洪水砂層に挟まれて検出されたので、それ以前の年代の畝である。1面、2面畝は上層の住居の掘り込みが著しく畝間の下半部しか検出されなかったが、3面~5面畝は洪水砂が作付面を覆った状態で検出された。

調査工程の都合により、A 6区中央区はさらに北と南に2分割して調査を進めた。ここではそれぞれを中央区北半、中央区南半と呼ぶ。写真撮影は調査工程にそって中央区南半・中央区北半を分けて撮影した。図面も2区に分割して航空測量を実施し、同じ面を合成した。

1・2面畠 (付図5 PL112)

A6区中央区は台地に近い北西が高く、南にやや傾斜した地形になっている。A6区中央区北半は上層の住居の重複が著しく調査が手間取ったため中央区南半から畠の調査に入った。

中央区南半では、住居確認面より0.2m下位で1・2面畠の畝間下部の溝列を確認した。当初は畠が2面あることを認識できずに、一括して掘り下げ、図化・撮影した。後の土層断面の精査によれば、狭い範囲の畠の方が古い2面畠で、北西に畝間溝が長くなった方の畠が新しい1面畠である。この長さの違いは畝間溝1本おきになっており、畝の方向が同じ2時期の畠を示している。この様相はA6区北区で見た上面畠と下面畠の関係に良く似ている。

畠を埋めた土層を中央の土層断面G-G'で見ると、最上層から一定間隔で落ち込んでいるU字形の断面が見られる。これは土層断面位置では確認できていない1面畠の畝間と考えられる。とすれば、その下位の3層で埋まった畝間が2面畠である。

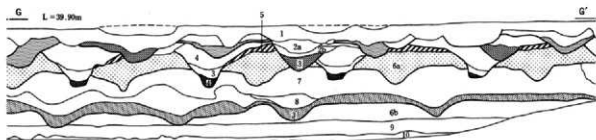
しかし畝間溝を埋めていたのは、1面・2面とも下層に灰褐色のシルト、上層に褐灰色の砂質土という似た土であったことから、確認面で新旧関係を明確に判断することはできなかった。

1面畠の畝間は3N~3T-30~34グリッドに広がる長短9条の畝間下部の溝群で、ほぼN-17°-Wに傾いている。最長15mほどが調査できた。規模は溝幅0.4~0.5m、深さ0.08~0.15m、畝の幅は1.9mであった。1面畠の畝は土層断面G-G'(第306図)でも明らかなように作付面が剛平されているので、畝の高さは不明である。

2面畠の畝間は3N~3Y-30~38グリッドに広がる13条の畝間下部の溝群が検出できた。南半分は1面畠と同じN-17°-Wに傾くが、北半はN-27°-Wと西にやや方向を変え、北端は北に湾曲する。最長33mが調査できた。規模は溝幅0.2~0.3m、深さ0.3m、畝の幅は0.7mであった。土層断面から推定すると、2面畠の畝の高さは溝底から作付面まで0.2mほどである。

3P・3Q-32~34グリッドに2面畠の畝から北に分かれる2条の畝間が検出されている。これについては別の時期の畝間と考えられるが、2面畠との新旧関係等を調査で確認することはできなかった。

中央区北半は、住居群の確認面とほぼ同じ面かやや下がる層位で、3単位の畝間を検出した。北の1・2群は散在的で畝間の痕跡が部分的に残ったものと見られる。3群はややまとまって畝間下部の溝群



- 1 褐灰色土 灰色シルトを主とし、細砂混じり。
- 2 a 褐灰色土 砂質土。1層と連。
- 2 b 褐灰色土 灰色シルトに白色微砂塊を多く含む、細砂が混じる。
- 3 灰褐色シルト 粘性強く、上層に白色微砂が見られる。
- 4 オリーブ褐細砂層 部分的に1mm前後の白色パミスを含む。
- 5 灰褐色土 3層の乾いたような砂。
- 6 a 浅黄色土 細砂。

- 6 b 浅黄色土 暗く、白色軽石(φ1mm前後)を含む。
- 7 灰オリーブ 砂質土。小礫を含む。
- 8 暗灰褐色土 砂と1~3mmの白色軽石が混じる。ザラついた層。
- 9 上層灰色土。下層白色粘質土。
- 10 砂層。

第306図 A6区中央区の畠土層断面
(付図5 G-G'部分)



が検出されたが、1本おきに間隔が変わる溝列の様相は、A6区北区で検出された上面畝と下面畝の関係に似ており、同様な耕作方法がとられていたことを推定させる。これらの中央区北半の畝間下部溝群と中央南区の1・2面畝は、ともに平安時代の住居群の下層に検出されており、ほぼ同層位の遺構面と考えられるが、直接の土層の対比はできなかった。

1群は3Y・4A-44・45グリッドにあった2条の畝間下部の溝群で、N-76°-Wに傾いている。最長5.0mが調査できた。規模は溝幅0.3~0.4m、深さ0.15~0.4m、畝の幅は1.9mであった。

2群は3Y-42グリッドにある3条の畝間下部の溝群で、N-18°-Wに傾く。最長4.5mが調査できた。規模は溝幅0.3m、深さ0.13m、畝の幅は0.7mであった。

3群は3Y~4C-39~41グリッドに広がる長短10条の畝間下部の溝群で、N-53°-Eに傾いていた。最長7.5mが調査できた。規模は溝幅0.3~0.8m、深さ0.1~0.3m、畝の幅は1.1mあるいは0.4~0.7mであった。

3群の北西部には、1本おきに長さに違いのある畝間下部溝群があった。土層断面G-G'(第306図)対応させると、短い方の畝間が広い畝間の間を掘っていることがわかる。したがって短い方の畝が新しくつくられた畝と考えられる。

また、ここでは同じ間隔で並んでいる一時期の畝と考えられる場合でも、溝幅に広いもの(0.8m)と狭いもの(0.3m)の差が顕著であった。しかし畝の幅は1.55~1.6mで一定している。これは本来の畝間に形態差があるか、遺構確認面の高低差によると考えられる。畝は水田と違い、必ずしも水平ではない。その土地の起伏のままに畝立している。したがって、畝や畝間をどの層位で確認しているかは常に留意しなければならない。

3面畝(付図6 PL113-114)

3面畝はA6区中央区の低地部全域で検出された。A6区中央区の北端にはA6区北区から続く台地が

ある。3面畝はその台地裾部まで畝立てされていたが、西側の一部(4C~4E-41~43グリッド)に畝立てがされていない楕円形の凹地が検出された。台地裾に畝立てされないうへへの施設があったと考えられるが、調査ではこの凹地の性格を知ることができなかった。

畝の検出面は、北のローム台地裾部はやや低く、南へだんだん高くなり、中央付近が最も高くなって南半はまたやや低くなっている。このように少し起伏があるが、比高1m以内に収まる緩やかな起伏である。

3面畝を埋めていた洪水砂は概ね3層に分けられる。畝間の下層にはオリブ褐色細砂層が溜まり、中位には灰褐色シルトが堆積していた。上位には再びオリブ褐色細砂層が畝間と作付面を覆うように堆積していた。

中央区3面畝では、畝の方向が違う3区画が検出された。

最も北にある区画は幅15m、長さ35mの範囲に20条の畝が検出された。畝の方向はほぼN-83°-Eであるが、西端は南に、東端は北へ地形に則して湾曲していた。この区画は平安時代の住居が重複していたので、作付面が削平されていた。したがって畝の形は不明であるが、頂部が平坦な形と推定される。畝間の間隔は確認面で1.0~1.3m、畝の高さは不明であるが確認面から畝間の底面まで0.1~0.3、畝の幅は1.4および1.9mである。

最も北の畝の西端は前述した楕円形凹地の東側でとぎれていた。二設になった畝も2か所に見られた。

中央の区画は幅15m、長さ25mの範囲に10条の畝と畝間が検出された。畝の方向はN-26°-Wであった。ここでは、畝の上部まで細砂で覆われていたので、作付面を検出することができた。しかし上位の2面畝の畝間が掘り込んでいて壊されていたところもある。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部に丸みがある。作付面の幅は0.9~1.2m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.4~0.55m、畝の幅は1.5~2.2mである。

第3章 検出された遺構と遺物

南の区画は幅15m、長さ13mの範囲に8条の畝間を検出した。畝の方向はN-65°-72°-Eである。ここでも、作付面まで細砂で覆われていたので、作付面を検出することができた。しかし2面の方向の異なる畝間と交差して重複していた。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦である。作付面の幅は1.2~1.5m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.35~0.4m、畝の幅は1.8mである。

畝の方向が違う3区画の境には、目立った施設は見られなかった。それぞれの畝間の端は接するようにして立ち上がっていた。

4面畠(付図7 PL114-115)

4面畠もA6区中央区の低地部全域で検出された。ほぼ3面畠と同じ範囲である。また、3面畠に見られた畝の方向が違う3つの区画は4面畠にも同様に検出された。

4面畠を埋めていた洪水堆積物は浅黄色のシルトおよび細砂である。この堆積物の特徴は3つの区画に共通する。洪水堆積物の対比はわずかしいが、堆積物の類似と堆積物層の連続からこの3区画が同じ面と考えられる。

最も北にある区画は幅15m、長さ35mの範囲に20条の畝と21条の畝間溝が検出された。北区画は平安時代の住居との重複が著しく、畠の検出面がやや下位に下がったので、作付面が削平されていた。また上位の3面畠の畝間の掘り込みが他のところより広く4面畠の遺存状態はあまり良くない。

畝の方向は3面と同様で、ほぼN-83°-Eであるが、西端は南に、東端は北へ湾曲していた。畝の形態は土層断面から、頂部が平坦な形と推定される。作付面の幅はほぼ0.9m、畝間の幅は0.8~1.1m、深さは0.25~0.35m、畝の幅は1.8~2.0mである。

3X-39・40グリッドで畝が検出されないのは上層の平安時代の遺構が深かったためである。また、4面畠でも最も北の畝の西端は楕円形凹地の東側でとぎれていた。二股の畝も2か所に見られた。

中央の区画は幅15m、長さ25mの範囲に9条の畝と畝間溝が検出された。畝の方向は3面畠と同様にN-26°-Wである。ここでは、浅黄色の細砂が畝の上部まで厚く堆積していたので、作付面を検出することができた。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦な形である。作付面の幅は1.1~1.3m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.15~0.25m、畝の幅は1.7mである。

4面畠には北の区画と中央の区画との境に10cm前後の明瞭な段が検出された。南西側も3面畠にはなかった落ち込みが確認できたが、詳細は不明である。

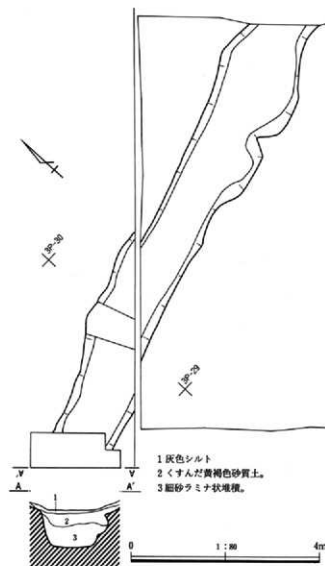
南の区画は幅15m、長さ13mの範囲に7条の畝間溝を検出した。畝の方向は3面と同様でほぼN-65°-72°-Eである。ここでも、作付面の上部まで浅黄色細砂で覆われていたので、作付面を検出することができた。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦である。作付面の幅は1.0~1.8m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.15~0.2m、畝の幅は1.8および2.5mである。中央の区画との境は、T字形に畝間溝がつながって検出された。

4面畠の畝は黒みがかった灰オリブ砂質土でつくられている。下位には一部で5面畠を検出しているが、4面畠との間にはこの砂質土が0.4mも堆積している。この土は、畠耕作土と砂が形成されたとみられる。また土層断面G-G'(第306図)を見ても5面畠の畝の中央に畝間溝を掘った痕跡は残っていない。これらのことから、4面畠は5面畠埋没後、そのままある期間耕作が継続された段階で洪水に埋まったと考えられる。

また、4面では発掘区南端の3O・3P-29グリッドで6号溝を検出した。6号溝の走向は、4面畠の畝の方向と一致するとともに、同じ細砂で埋まっていたことから4面畠に伴う溝の可能性が高い。畠に伴うと確定できる唯一の溝である。溝のなかには細砂のラミナ状堆積が残っていた。この溝の東の延長は、後述するA6区南区の北端に確認された。

5面畠 (付図7 PL115)

5面畠は3R~3U-35~37グリッドで検出された。4条の畝間を図化したが、その広がり記録できなかった。畝はほぼ直線的で、方向はN-43'-Wである。畝の直上が灰褐色シルトで覆われていたので、作付面を検出することができた。土層断面G-G'(第306図)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦な形である。作付面の幅は0.8~1.0m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.15~0.3m、畝の幅は1.8mである。



第307図 6号溝

A6区中央区畠のプラントオパール分析

A6区中央区では、2カ所で合計10点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなった。分析の詳細な報告は第5章に掲載した。

分析した試料のうち、2面畠および3面畠の試料にイネのプラントオパールが検出された。したがって中央区でも低地部の畠で陸稲栽培がおこなわれていたことが判明した。

また、畠より下位の土層から4点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなったが、4点中2点の試料にイネのプラントオパールが検出されている。この土層は榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA)や浅間C軽石(As-C)を含む層準で、いずれも古墳時代の土層と考えられる。これらの土層でプラントオパールが検出されたことは、水田か畠かは明らかでないが、ここで古墳時代にも稲作がおこなわれていたことを示唆する。

A6区中央区の出土遺物と畠の時期

(PL171・172 遺物観察表P.394)

A6区北区では、4面畠耕作土中から須恵器環(第308図1)、5面耕作土から土師器壺(2)、磁石(3)が出土した。1の須恵器環は畠の上層にあった平安時代の住居の時期のもので、畠より新しい遺物である。2の土師器壺は頸部のコの字形がやや崩れた形態を示しているので9世紀後半から10世紀頃の土器で、畠の耕作時に伴う遺物と考えられるものである。



第308図 A6区中央区畠の出土遺物

(4) A6区南区の畠 (付図8・9 PL116)

A6区南区は平成9年度に調査した。A6区の南部に位置する。A6区南区では、320m²の範囲に2面の畠が検出された。検出した畠は上層から、I面畠・II面畠である。I面畠は上層の平安時代住居の調査の際に削りとった部分があり、作付面は検出できなかった。II面畠は畠を茶褐色砂が覆っていたので作付面を検出することができた。いずれの畠も平安時代住居の確認面より下位の層位にあり、畠の年代は洪水砂堆積以前である。しかし本区で洪水砂を切ってつくられた最も古い住居は10世紀中葉の99号住居である。この洪水砂がA6区北区や中央区と同じ層と考えれば9世紀後半まで洪水砂堆積の年代をあげて考えることができるが、A6区中央区との土層対比や遺構の連続については資料がない。

なお、南区ではプラントオパール分析は実施しなかった。

I面畠 (付図8 PL116)

A6区南区のI面畠は、方向の異なる3つの畠間下半部の溝列が調査できた。

1群は3H・3J-26~30グリッドで検出した5条の畠間下半部溝列で、N-8°-Wに傾いている。最長13mが調査できた。規模は溝幅0.4~0.6m、深さ0.05~0.15m、畠の幅は1.7および2.3mであった。

2群は3I・3J-24~26グリッドにある5条の畠間下半部溝列で、N-72°-Eに傾く。最長5.8mが調査できた。規模は溝幅0.5~0.7m、深さ0.05~0.24m、畠の幅は2.3mであった。

3群は3G・3H-22グリッドに1条のみ検出された畠間下半部溝列で、N-21°-Wに傾いていた。4.2mが調査できた。規模は溝幅0.25m、深さ0.08~0.13mであった。

これらの溝群は同一遺構面であると確定できないが、平安時代の遺構面よりやや下位で検出できる畠としてより近い層位が想定できる。また、1群はや

や空白部があってA6区中央区の南端とつながる。このI面島の層位では6号溝はまだ確認されなかった。畝間の走向と確認面のレベルから推定すれば、中央区の1・2面島のどちらかが南区I面の畝と連続することが想定できる。

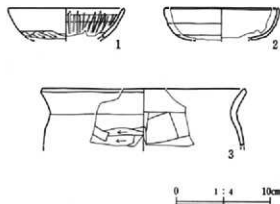
II面畝 (付図9 PL116)

A6区南区のII面畝は、ほぼ全域で検出された。畝面は北西部が最も高く、南東部へ緩やかに傾斜していた。

畝は幅8m、長さ43mの範囲に13条の畝と14条の畝間を検出した。畝の方向はN-10°-Wである。土層断面M-M'(付図8)を見ると、畝の断面形は頂部が平坦な形である。作付面の幅は1.1~1.5m、畝の高さは土層断面から0.1~0.28mである。畝の幅は2.0~2.3mである。

3N・3O-29グリッドでは、A6区中央区の南端で検出された4面畝に伴う6号溝の延長が検出された。畝方向を変える区画の境につくられた溝であり、重要である。同じ面で6号溝を確認したことから、A6区南区のII面畝はA6区中央区4面畝と対比できると考えられる。

3O-28、3N-29グリッドには、畝間の間に短く1本ずつ溝が検出された。これは本来畝のところに畝間が検出されたもので、A6区北区の上面畝と下面畝、中央区の3面畝・4面畝の関係に似ている。



第309図 A6区南区畝の出土遺物

南区も同様の作業がおこなわれたとすれば、土層断面M-M'(付図9)に現れた畝間の上層に畝間は確認できないことから、この短い畝間の方が古い畝の畝間と推定される。

A6区南区の出土遺物と畝の時期

(PL171-172 遺物観察表P.395)

A6区南区では、畝の耕作土中から第309図のような土器が出土した。いずれも8~9世紀の遺物で、畝の耕作時期がそれ以前の土器と思われる。

A6区北区の最下面畝の畝間は、8世紀末の住居とともに確認されているが、住居と畝の関係は不明である。三ツ木血沼遺跡の畝の耕作開始時期はよくわかっていないが、A6区南区出土の土器はそれに関わる遺物とも考えられよう。

(5) A7区の畝 (付図10 PL116)

A7区は平成9年度に調査した。A6区の北方に位置し、早川に最も近い調査区である。A7区では、低地部に長短5条の畝間が検出されたが、溝の下半部の列が残っているだけであった。畝の検出面は表土直下である。A7区では上層に平安時代の住居等は検出されていないので、畝の年代は不明である。また他の低地部の発掘区との土層対比は、間に地形が分断されているのでできなかった。なお、A7区ではプラントオバール分析は実施しなかった。

畝間下半部の溝は5N・5O-29~31グリッドで検出した5条で、このうち4条はN-21°-Wに、1条はN-40°-Wに傾いている。最長6.5mが調査できた。規模は溝幅0.4~0.6m、深さ不明、畝の幅は1.2mであった。1条だけ方向の違う溝は幅1.2m、長さ0.7mであった。

(6) B3区の畝 (付図11 PL116)

B3区はA6区南区の南西部に位置する。平成5年度に調査したB3区北区と、平成9年度に調査したB3区南区に分けられた。畝は低地で検出されたが、B3区北区の北西側は旧河道で切られている。南区は北西部から畝が続き、南東部は台地へ上がっていく斜面になっていた。台地のすぐ北西側は凹地になっており、南東斜面は畝立てされていた。

両地区合わせて320m²の範囲に、1面の畝が検出された。両地区は最大5m離れているが、両端の畝間の標高はどちらも39.0mで傾斜も連続すると考えられることから、両地区で検出された畝は同一面と考えられる。

畝の検出面は表土下の砂層中であり、にぶい黄褐色砂で覆われていたので作付面を検出することができた。ここでは平安時代の遺構がなかったので、平安時代の遺構との層位的関係は不明である。

B3区北区の畝 (付図11 PL116)

B3区北区では幅15m、長さ22mの範囲に11条の畝と13条の畝間を検出した。畝の方向はほぼN-45°-Eで、北西側の畝はやや北に湾曲していた。畝の走向は、ほぼ中央で南西と北東に二分する位置で少しずれており、耕作単位が異なっていたことが推定される。

本区では作付面を検出することができたが、現代のゴボウ耕作による掘り込みが畝まで達して遺存状態は良くなかった。畝は灰黄褐色シルトを掘り込んでつくられていた。畝の形状には2種類がある。

一つは土層断面O-O'(付図11)に現れた畝で、断面形は頂部が平坦な形である。この土層断面周辺の作付面の幅は1.0~1.5m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.15~0.2m、畝の幅は2.2mである。

もう一つは、2Y-48~50グリッド、3A-49・50グリッドにある4条の畝である。この畝の断面形は頂部が丸みをもっており畝の幅は0.5~0.7m、畝の高さは畝頂から畝間の底面まで0.3~0.35m、畝の幅は

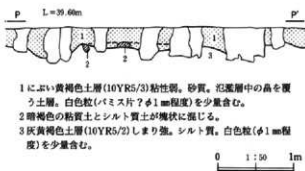
1.9mである。

一方、3A-48グリッドや3C-49・50グリッドには他より狭い間隔で畝間がつくられているところがあった。これらをよく見ると、畝間底面の高さは1つおきに異なっていた。これは広い畝の中央で別の畝間が掘られていることによる。3C-49・50グリッドの畝間を土層断面N-N'(第310図)で見ると、ちょうどこの位置に含むにぶい黄褐色砂が畝上に部分的に確認されている。この状況はA6区北区や中央区で検出した畝土層断面と同じであり、B3区の暗褐色粘質土のブロックを含む洪水砂をのせていた畝間は下位の古い畝の畝間である可能性が高い。しかし、この下位の畝はB3区北区全域に広がってはいなかった。

B3区南区の畝 (付図11 PL116)

B3区北区では幅3.5m、長さ33mの範囲に6条の畝と6条の畝間、それとほぼ直交する方向の1条の畝と2条の畝間を検出した。畝はほぼ直線的である。畝間の溝は黄褐色砂質土で埋まり、上層に白色砂が堆積していた。畝の上部は黒色砂で覆われていたので、作付面を検出することができた。

北にある畝はほぼN-52°-Eの方向で、断面形は頂部が平坦な形である。作付面の幅は1.0~1.3m、畝の高さは作付面から畝間の底面まで0.17~0.3mである。畝の幅は1.8~2.0mである。



1 にぶい黄褐色土層(10YR5/3)粘性弱。砂質。花崗層中の畝を覆う土層。白色粒(バミス片?φ1mm程度)を少量含む。
2 暗褐色の粘質土とシルト質土が塊状に混じる。
3 灰黄褐色土層(10YR5/2)しまり強。シルト質。白色粒(φ1mm程度)を少量含む。

第310図 B3区北区の畝土層断面 (付図10 N-N'部分)

南の畝はN-45°-Wの方向で、南東向き斜面に直交する位置にあった。この畝の断面形は頂部が平坦で、作付面の幅は1.0~1.2m、畝の高さはデータがなく不明である。畝の幅は1.5mである。

B3区のプラントオパール分析

B3区は、北区の3か所で合計22点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなった。分析の詳細な報告は第5章に掲載した。

分析した試料のうち、平安時代の畝で採取した試料17点中12点の試料にイネのプラントオパールが検出された。したがってB3区でも低地部の畝で平安時代に陸稲栽培がおこなわれていたことがわかった。

また、畝より下位の土層から5点の試料を採取し、プラントオパール分析をおこなったが、5点中2点の試料にイネのプラントオパールが検出されている。この土層は榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA)や浅間C経

石(As-C)を含む層準で、いずれも古墳時代の土層と考えられる。これらの土層でプラントオパールが検出されたことは、水田か畝かは明らかでないが、B3区低地部でも古墳時代に稲作がおこなわれていたことを示唆する。

第4表 畝計測表

区	面	群	作付面が検出された畝			畝の幅		作付面が検出されなかった畝							
			畝の形態	作付面の幅	畝の高さ	2.5	2.3	畝間下部部 溝の幅	畝間下部部 溝の深さ	畝間下部部 溝の間隔					
A6区北区	最上段畝					2.5									
A6区北区	上段畝		溝部が平坦	1.0~1.3	0.3	1.9~2.0	2.3	0.4~0.7	0.08~0.20	1.6~1.9	0.7~0.9				
A6区北区	下段畝		溝部が平坦	1.0~1.3	0.15~0.25	1.9~2.0									
松原区	下段畝		溝部が平坦	0.6~1.0	0.12~0.20	1.9~2.0									
松原区	最下段畝1面		溝部が平坦	1.0~1.4	0.15	1.7~1.8									
松原区	最下段畝2面		溝部が平坦	1.0~1.6	0.20~0.25	1.7~1.8									
A6区北区	最下段畝	1群				1.1	1.7	0.30~0.35	0.1	1.7	0.8				
A6区北区	最下段畝	2群				1.1	2.0	0.30~0.30	0.12	1.7	0.8				
A6区北区	最下段畝	3群				1.6	2.2	0.30~0.36	0.08	0.95	0.33				
A6区中央区	1面南半					1.9		0.40~0.50	0.08~0.15	1.4~1.7					
A6区中央区	2面南半				(0.2)	0.7		0.30~0.30	0.3	1.4~1.6					
A6区中央区	1・2面北半	1群				1.9		0.30~0.40	0.15~0.40						
A6区中央区	1・2面北半	2群				0.7		0.3	0.13						
A6区中央区	1・2面北半	3群				1.1	0.4~0.7	0.30~0.36	0.10~0.30						
A6区中央区	3面北区域					1.4	1.9	0.3~0.5	0.1~0.3	1.0~1.3					
A6区中央区	3面中央区域		溝部に丸みがある	0.9~1.2	0.4~0.55	1.5	2.2								
A6区中央区	3面南区域		溝部が平坦	1.2~1.5	0.35~0.4	1.8									
A6区中央区	4面北区域		溝部が平坦			1.8~2.0									
A6区中央区	4面中央区域		溝部が平坦	1.1~1.3	0.15~0.25	1.7									
A6区中央区	4面南区域		溝部が平坦	1.0~1.8	0.15~0.20	1.8	2.5								
A6区中央区	5面		溝部が平坦	0.8~1.0	0.15~0.30	1.8									
A6区南区	1面	1群				1.7	2.3	0.40~0.60	0.05~0.15	1.2~1.8					
A6区南区	1面	2群				2.3		0.50~0.70	0.05~0.24	1.7~1.9					
A6区南区	1面	3群				***		0.25	0.08~0.13	***					
A6区南区	2面		溝部が平坦	1.1~1.5	0.10~0.28	2.0	2.3								
A7区						1.2		0.40~0.60	***	0.6					
B3区	北区		溝部が平坦	1.0~1.5	0.15~0.20	2.2									
B3区	北区		溝部に丸みがある	0.5~0.7	0.3~0.35	1.9									
B3区	南区	1群	溝部が平坦	1.0~1.3	0.17~0.30	1.8	2.0								
B3区	南区	2群	溝部が平坦	1.0~1.2	?	1.5									

第4節 近世と時期不明の遺構

三ツ木皿沼遺跡では近世の遺構が少数検出された。A2区には石製骨蔵器が出土した土坑が検出された。A4区には竪穴状遺構が検出され、陶器・磁器や軟質陶器が多量に出土した。出土状態からは廃棄穴と考えられる。

また、各調査区で溝が検出されたが、これらの大半は時期が不明であるので、本章で一括して報告する。遺跡南東部の台地上で検出された溝は、隣接して発掘調査された小角田前遺跡(上武道路)で検出し

た溝につながる例も確認された。(付図1)

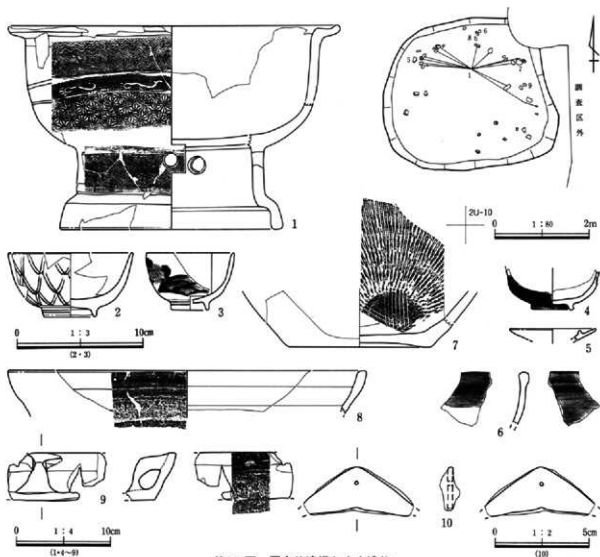
また10世紀後半または中世より新しいと考えられる旧河道が埋まってから掘られた溝も検出された。

1. 竪穴状遺構及びその周辺

(第311～313図 PL117・172・173 遺物観察表P.)

竪穴状遺構はA4区の南東隅で検出された。平面形は東西方向に長軸をもつ隅丸方形で、規模は長軸3.7m、短軸3.2mである。破損した器類の廃棄坑と考えられる。

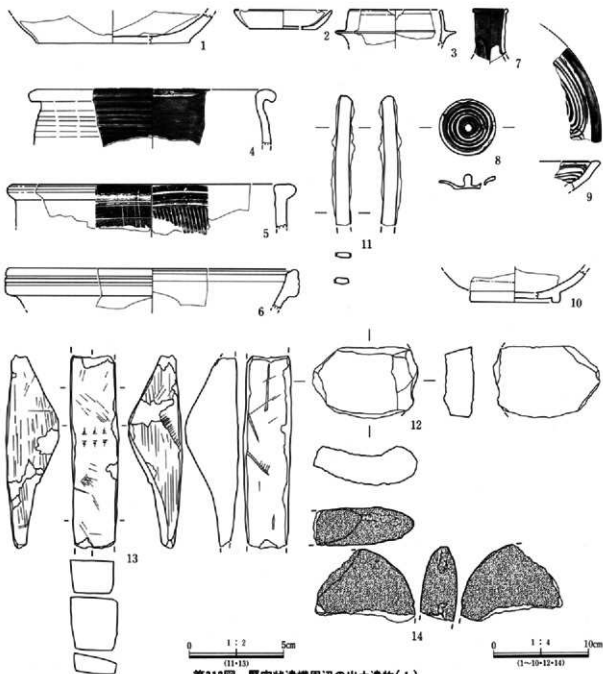
竪穴状遺構からは18・19世紀と見られる陶磁器類



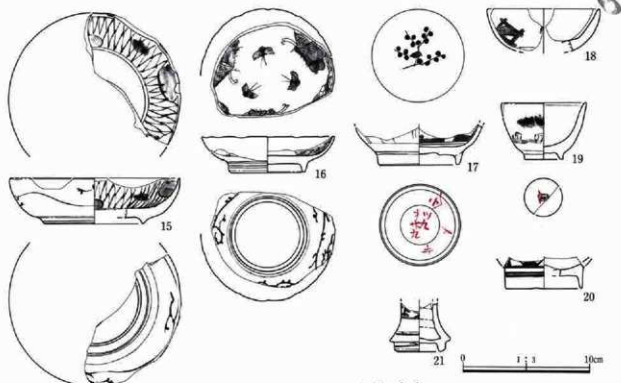
第311図 竪穴状遺構と出土遺物

が多量に出土した。特に第311図1に示した軟質陶器火鉢は竪穴に投げ捨てられて割れたように散乱して出土したがほぼ完形に復元された。他の陶器・時期は破損した状態で出土し、破片遺物が多い。すべてを図示していないが、磁器6点、陶器21点、軟質陶器29点等が出土している。

A4区竪穴状遺構の周囲からは、表土掘削後の以降確認作業時に多量の陶磁器類が出土した。第312・313図に示したのはその一部である。時期は18・19世紀のものが中心で、竪穴状遺構の時期とも対応する。17の染付磁器向付けには底外面に和数字が焼き付けられている。描い物の記号と考えられる。



第312図 竪穴状遺構周辺の出土遺物(1)



第313図 竪穴状遺構周辺の出土遺物(2)

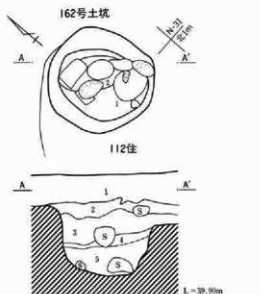
2. 土坑(第314・315図 PL117-174 遺物観察表P.395)

A 2 区のN-31グリッドで円形の土坑を検出した。6世紀中葉の112号住居と北西隅で重複する。出土した骨蔵器からは近世の土坑と考えられる。

規模は直径1.10m、深さ0.81mで、断面形はUの字形に近い。埋没土の下半部は緻密な堆積の粘性のある黒色土であったが、上半部は堆積が脆弱な粘性の無い黒色土や黒褐色土で埋まっていた。浅間Bテフラは確認されなかった。

出土遺物は大型の礫と板碑の破片で、間層において埋没土のなかに埋まっていた。礫の大半は自然礫であったが、なかに2個体の骨蔵器があった。いずれも一抱えもある榛名軽石で一端を平らに整形して、窪みを掘り込んでいる。窪みの平面形はほぼ正方形の箱形で整形時のノミ痕が顕著に残っていた。

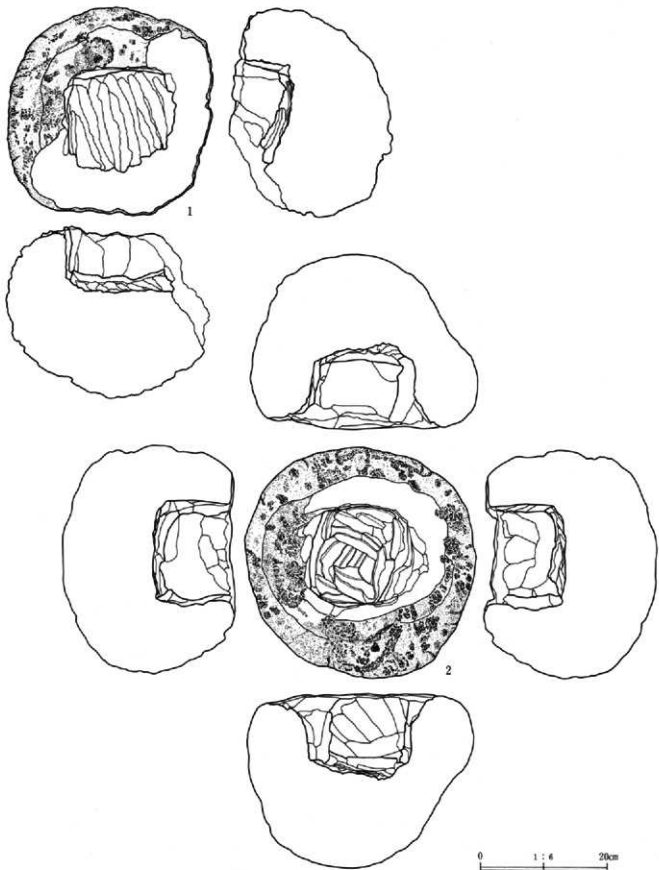
土坑の性格は、骨蔵器と板碑破片の出土から墓坑と考えられる。



- 1 粉作土(10YR3/3)
- 2 黒褐色土(10YR2/2)φ0.1~1cmのローム粒を少量含む、白色粒子(軽石)を少量含む。堆積は脆弱である。
- 3 黒色土(10YR2/1)φ0.1~0.5cmのローム粒を少量含む。やや粘性は強いが、堆積は脆弱である。
- 4 黒色土(10YR2/1)φ0.5~2cmのローム粒を多量に含む。やや粘性が強く、緻密な堆積である。
- 5 黒色土(10YR2/1)φ0.5~1cmのローム粒を、極少量含む。やや粘性が強く、緻密な堆積である。



第314図 112号土坑



第315図 162号土坑と出土遺物

3. 溝

(第316～326図 PL118～122・174 遺物観察表P.395)

三ツ木皿沼遺跡では、総数24条の溝が調査された。このうち前述した畠に伴って検出されたA 6区6号溝の年代が9世紀と判明した。しかし、他の溝は出土遺物が少なく、混在しているため、遺物から年代を決めるのに決め手を欠く。遺構の重複関係からは古墳時代以降としか判断できなかった。

また、A 6区の低地部にある溝の多くは、10世紀以降と考えられる旧河道が埋積した後に掘られていた。A 4区では旧河道の埋積の上位に浅間Bテフラがほぼ水平堆積していた。他の旧河道には浅間Bテフラの堆積が見られないので、A 4区以外の旧河道の埋積が完了するのは浅間Bテフラ降下(1108年)以降と考えられよう。したがってそれを掘り込む溝の年代も12世紀以降となるが、下限は判然としない。

そこで、A 6区6号溝を除き、他の溝は時期不明として本節で報告した。ここでは各区ごとに特徴を述べ、それぞれの溝の位置や規模等は第4章の遺構一覧表に記載した。

A 2区には、直線の溝が多い。第316図に示したのは、なかでも走向が南北あるいは東西方向をとっている溝である。それぞれは間隔をおいて直交しているが、何らかの区画溝と考えられる。17号溝は途中でとぎれるが、東側に16号溝が続く。(P.15第8図)これらの溝は幅1m前後で断面形が箱形である。一方、14号溝や15号溝は断面U字形で浅い。15号溝は鍵の手に西に曲がっている。その北には159号土坑として報告した細長い掘り込みが連なっている。(P.15第8図)何らかの関連があるかもしれない。

第317図のA 2区12号溝、13号溝も直交する関係にあるが、前述の溝と異なり、溝の走向は北あるいは東にやや傾いている。これもまた別の時期の区画溝と考えられる。なお、遺構全体図を合成したところ、三ツ木皿沼遺跡13号溝は隣接する上武道路小角田前遺跡の28号溝に連続する溝と判明した。(付図1)

A 3区では、直線走向の溝と曲線走向の溝合わせで5条が検出された。南東部にある7号溝・8号溝

(第318図)はほぼ直線の溝である。7号溝は隣接する上武道路小角田前遺跡の全体図と合成すると、矩形に展開する33号溝の北辺に連続し、方形の区画を形成しているとも考えられる。

9号溝・10号溝は曲線走向の溝で台地の縁辺に掘られた溝である。土層断面から9号溝の方が新しく、掘り直された溝とわかる。これらの溝も隣接する上武道路小角田前遺跡の全体図と合成すると、9号溝が35号溝に、10号溝が小角田前遺跡36号溝に連続することがわかり、台地の縁をぐるりと巡る溝の走向が一層明確になる。

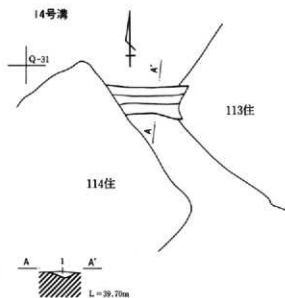
11号溝は1号・2号方形周溝墓を切って掘られている。緩やかな曲線を描いた走向である。埋設土は砂が主体で、他と際だっている。低地部で検出された平安時代の遺構とも考えられるが、洪水砂の対比ができないので、断定できない。

A 4区では北西部で旧河道埋積後に掘られた18号溝が検出された。台地の縁の線に沿うような走向である。第317図には断面図のみ示した。平面図はP.17第10図に示した。

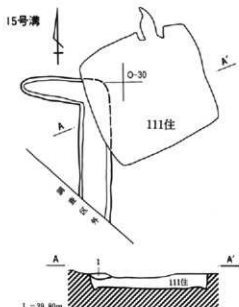
A 6区では6条の溝が検出されたが、6号溝は平安時代の畠に伴う溝である。ここで報告する5条の溝は9世紀～11世紀前半の住居の上層で検出されているので、それ以降の年代が考えられる。

1～3号溝は旧河道の埋積後に掘られていた。特に3号溝は旧河道の縁に沿うように掘られていて、A 4区18号溝と規模は異なるが、類似する。4号溝、5号溝、19号溝は直線走向の溝である。5号溝は51号住居より新しいが、51号住居南側に掘り込みが確認できなくなった。

B 2区では台地上に3条の溝が検出された。21号・22号溝は直線走向の溝である。22号溝の西端の底面からは上下面を平らに整形された二ツ岳軽石が出土した。これらの溝は、隣接する上武道路小角田前遺跡の全体図と合成すると21号溝は小角田前遺跡27号溝と、22号溝は小角田前遺跡31号溝とそれぞれ連続することが判明した。23号溝は緩く湾曲する。2号古墳の周堀を切っている。

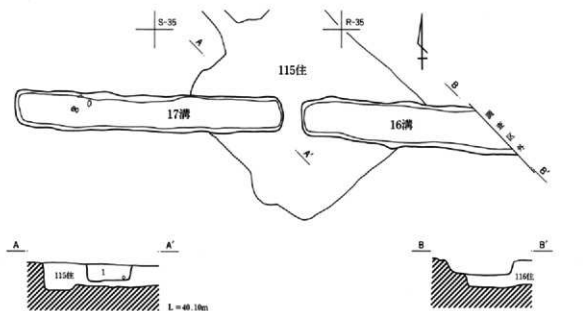


1 黒褐(10YR2/1)ローム粒($\phi 0.5 \sim 1\text{cm}$)を少量含む。地積はもろく、脆弱である。軽石(船川テフラか?)を多量に含む。

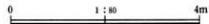


1 暗赤褐色土(5YR3/2)ローム粒を少量含む。砂質。

16・17号溝

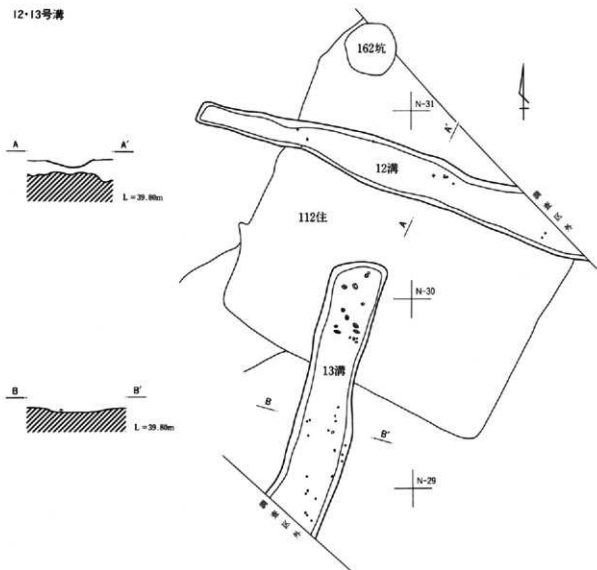


1 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒($\phi 1 \sim 5\text{mm}$)が少量含まれる。地積はもろい。

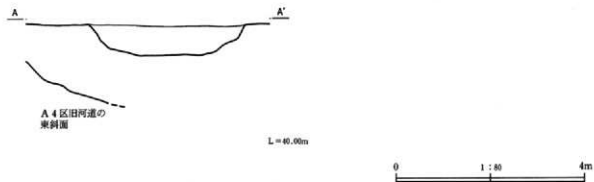


第316図 14号・15号・16号・17号溝

12・13号溝

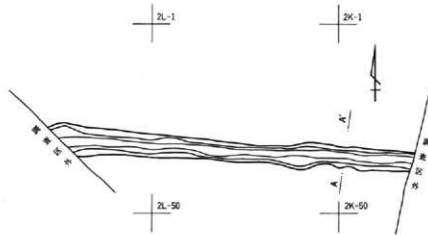


A4区18号溝



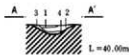
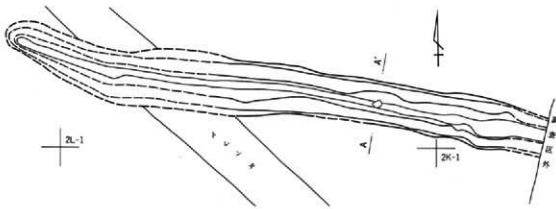
第317図 12号・13号・18号溝

7号溝



- 1 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(5mm程度)をごく少量含む。し
まり強、粘性弱。
- 2 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(5mm程度)を少量含む。し
まり弱、粘性弱。

8号溝

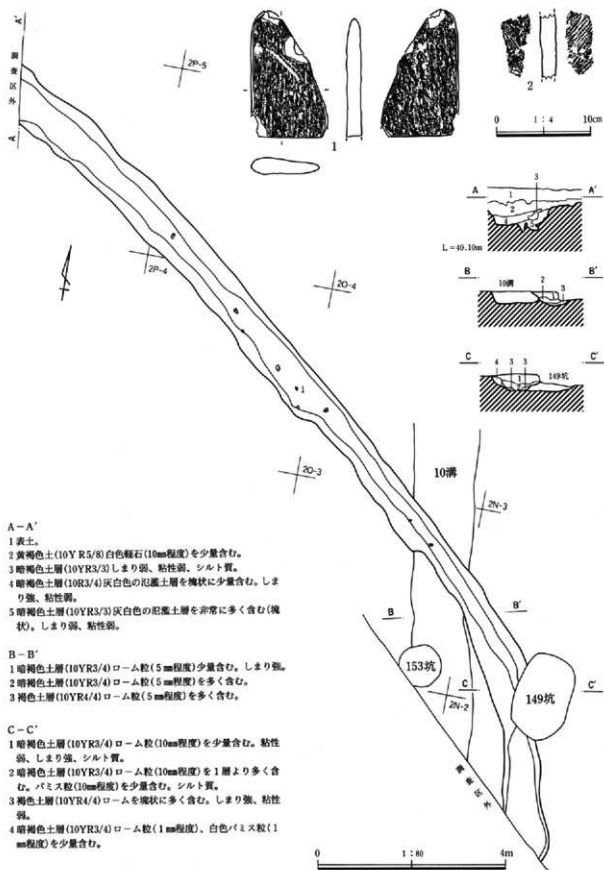


- 1 褐色土層(10YR4/4)ローム粒、焼土粒(5mm程度)をごく少量
含む。
- 2 2にぶい黄褐色土層(10YR4/3)ローム粒、焼土粒(5mm程度)を1
層より多く含む。
- 3 褐色土層(10YR4/4)ローム粒(10mm程度)を多く含む。
- 4 黄褐色土層(10YR5/8)しまり強、ロームを塊状に多く含む。

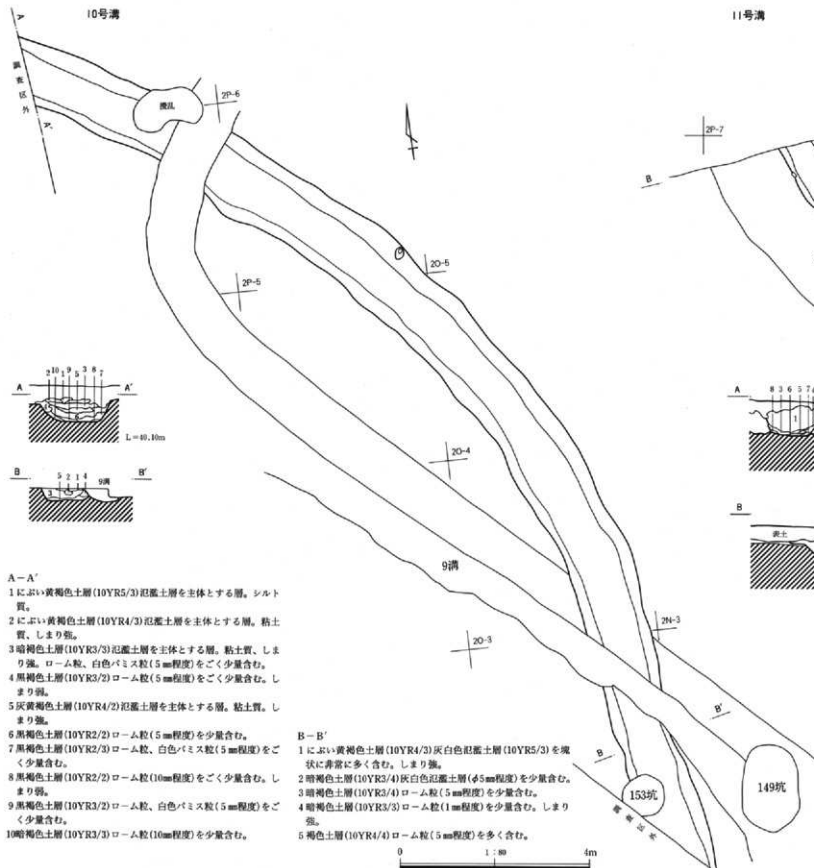


第318図 7号・8号溝

第3章 検出された遺構と遺物

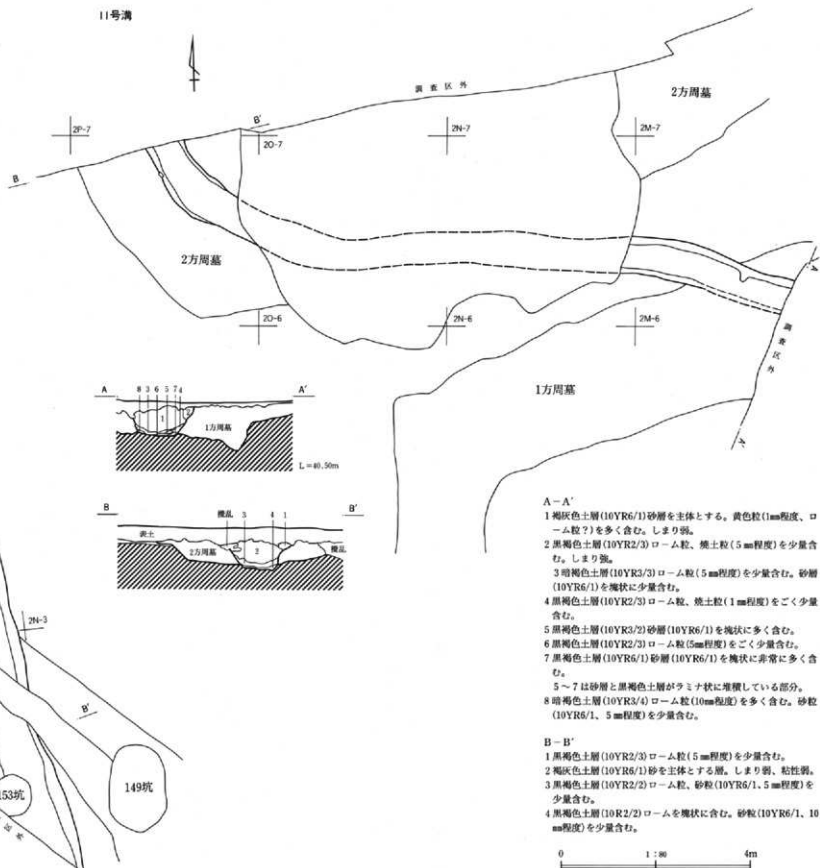


第319図 9号溝と出土遺物



- A-A'
- 1 灰黄色土層(10YR5/3)肥礫土層を主体とする層。シルト質。
 - 2 灰黄色土層(10YR4/3)肥礫土層を主体とする層。粘土質。しまり強。
 - 3 暗褐色土層(10YR3/3)肥礫土層を主体とする層。粘土質。しまり強。ローム粒、白色バミス粒(5mm程度)をごく少量含む。
 - 4 黒褐色土層(10YR3/2)ローム粒(5mm程度)をごく少量含む。しまり強。
 - 5 灰黄色土層(10YR4/2)肥礫土層を主体とする層。粘土質。しまり強。
 - 6 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒(5mm程度)を少量含む。
 - 7 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒、白色バミス粒(5mm程度)をごく少量含む。
 - 8 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒(10mm程度)をごく少量含む。しまり強。
 - 9 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒、白色バミス粒(5mm程度)をごく少量含む。
 - 10 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(10mm程度)を少量含む。

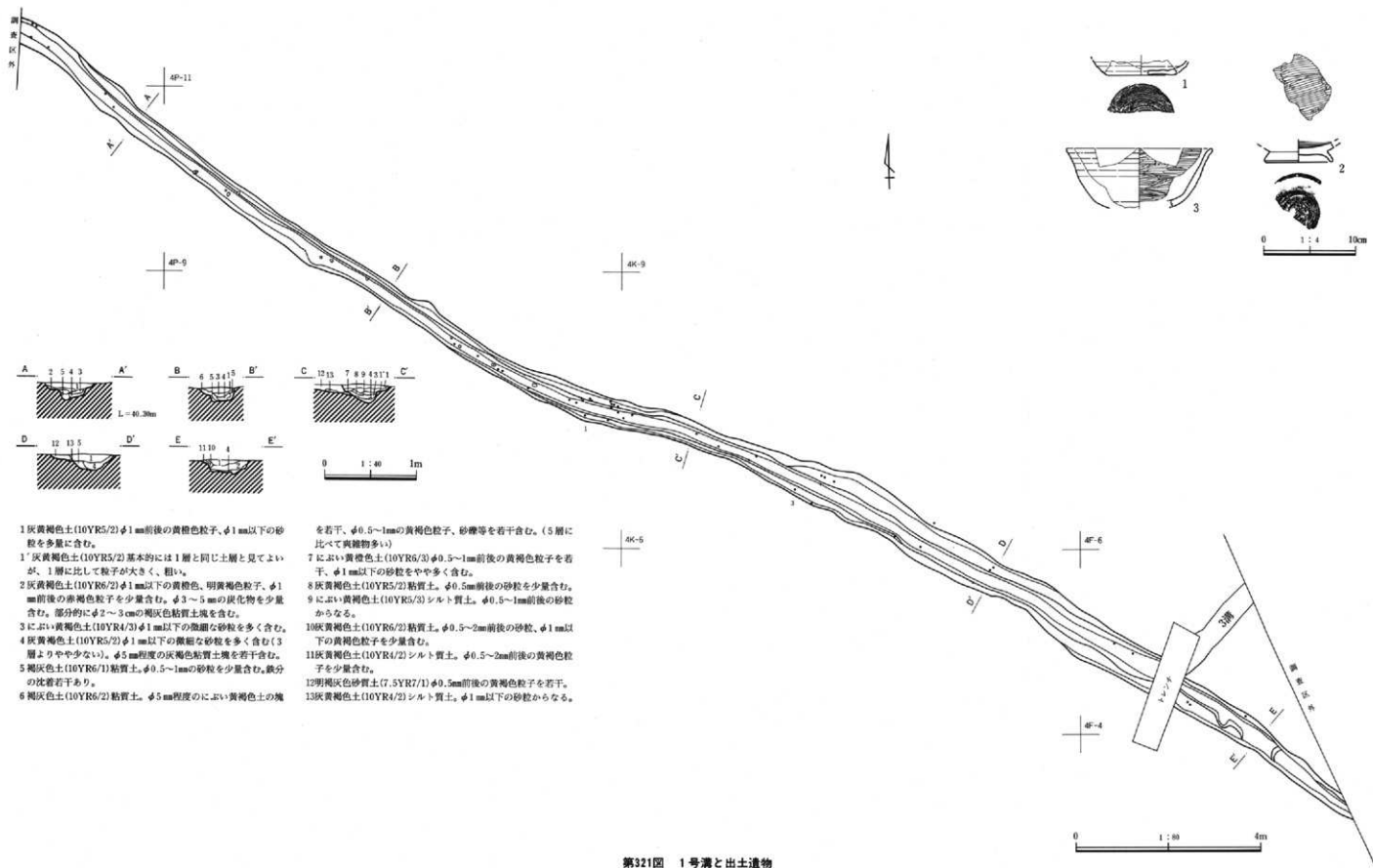
- B-B'
- 1 灰黄色土層(10YR4/3)灰白色肥礫土層(10YR5/3)を塊状に非常に多く含む。しまり強。
 - 2 暗褐色土層(10YR3/4)灰白色肥礫土層(45mm程度)を少量含む。
 - 3 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(5mm程度)を少量含む。
 - 4 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(1mm程度)を少量含む。しまり強。
 - 5 褐色土層(10YR4/4)ローム粒(5mm程度)を多く含む。



- A-A'
- 1 褐色土層(10YR6/1)砂層を主体とする。黄色粒(1mm程度、ローム粒?)を多く含む。しまり強。
 - 2 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒、焼土粒(5mm程度)を少量含む。しまり強。
 - 3 暗褐色土層(10YR3/3)ローム粒(5mm程度)を少量含む。砂層(10YR6/1)を塊状に少量含む。
 - 4 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒、焼土粒(1mm程度)をごく少量含む。
 - 5 黒褐色土層(10YR3/2)砂層(10YR6/1)を塊状に多く含む。
 - 6 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒(5mm程度)をごく少量含む。
 - 7 黒褐色土層(10YR6/1)砂層(10YR6/1)を塊状に非常に多く含む。5~7は砂層と黒褐色土層がウミナ状に堆積している部分。
 - 8 暗褐色土層(10YR3/4)ローム粒(10mm程度)を多く含む。砂粒(10YR6/1、5mm程度)を少量含む。

- B-B'
- 1 黒褐色土層(10YR2/3)ローム粒(5mm程度)を少量含む。
 - 2 褐色土層(10YR6/1)砂を主体とする層。しまり弱。粘性弱。
 - 3 黒褐色土層(10YR2/2)ローム粒。砂粒(10YR6/1、5mm程度)を少量含む。
 - 4 黒褐色土層(10YR2/2)ロームを塊状に含む。砂粒(10YR6/1、10mm程度)を少量含む。

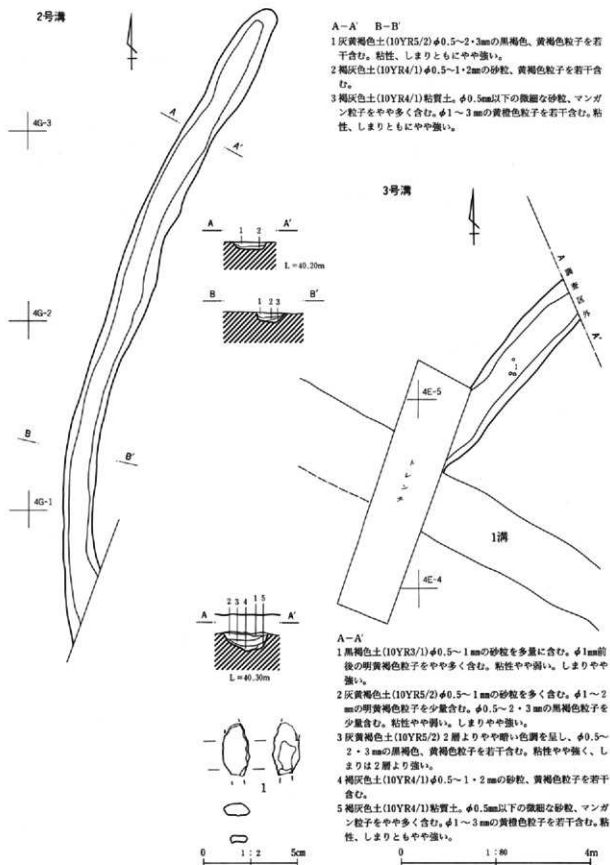
附320図 10号・11号溝



- 1 灰黄褐色土(10YR5/2) ϕ 1mm前後の黄褐色粒子、 ϕ 1mm以下の砂粒を多量に含む。
- 1' 灰黄褐色土(10YR5/2) 基本的に1層と同じ土層と見てよいが、1層に比して粒子が大きく、粗い。
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) ϕ 1mm以下の黄褐色、明黄褐色粒子、 ϕ 1mm前後の黄褐色粒子を少量含む、 ϕ 3~5mmの炭化物を少量含む。部分的に ϕ 2~3cmの塊状粘質土塊を含む。
- 3 におい黄褐色土(10YR4/3) ϕ 1mm以下の微細な砂粒を多く含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2) ϕ 1mm以下の微細な砂粒を多く含む(3層よりやや少ない)。 ϕ 5mm程度の灰褐色粘質土塊を若干含む。
- 5 褐色土(10YR6/1) 粘質土、 ϕ 0.5~1mmの砂粒を少量含む、鉄分の比着若干あり。
- 6 褐色土(10YR6/2) 粘質土、 ϕ 5mm程度のおい黄褐色土の塊

- を若干、 ϕ 0.5~1mmの黄褐色粒子、砂粒等を若干含む。(5層に比べて異雑物多い)
- 7 におい黄褐色土(10YR6/3) ϕ 0.5~1mm前後の黄褐色粒子を若干、 ϕ 1mm以下の砂粒をやや多く含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘質土、 ϕ 0.5mm前後の砂粒を少量含む。
- 9 におい黄褐色土(10YR5/3) シルト質土、 ϕ 0.5~1mm前後の砂粒からなる。
- 10 灰黄褐色土(10YR6/2) 粘質土、 ϕ 0.5~2mm前後の砂粒、 ϕ 1mm以下の黄褐色粒子を少量含む。
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト質土、 ϕ 0.5~2mm前後の黄褐色粒子を少量含む。
- 12 明褐色砂質土(7.5YR7/1) ϕ 0.5mm前後の黄褐色粒子を若干。
- 13 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト質土、 ϕ 1mm以下の砂粒からなる。

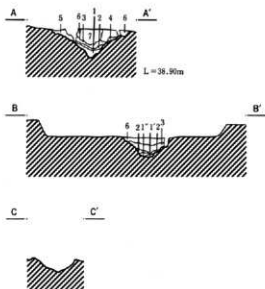
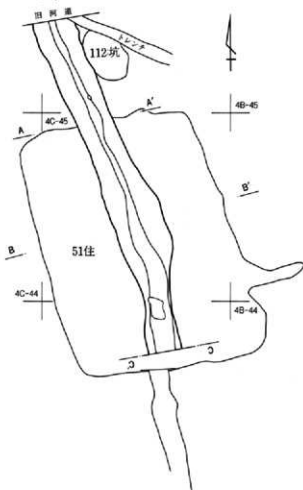
第321図 1号溝と出土遺物



第322図 2号・3号溝と出土遺物

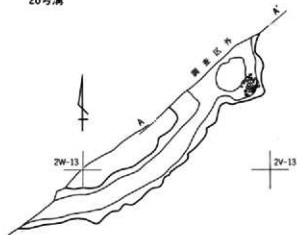
第3章 検出された遺構と遺物

5号溝



- 1 黒褐色土(10YR3/2) 地山の崩壊粒子を含む。
- 1' 地山の崩壊土を主に、10YR3/2を含む。
- 1'' 地山の崩壊土を多く含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 床状に固くしまる。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 少量の炭化物粒を含む。
- 4 褐色土(10YR4/4) 地山の崩壊粒子を多く含む。
- 5 褐色土(10YR4/4) 地山の崩壊粒子を多く含む。少量の炭化物粒を含む。
- 6 濃い黄褐色土(10YR5/3) 少量の炭化物粒を含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物粒、焼土粒を含む。

20号溝

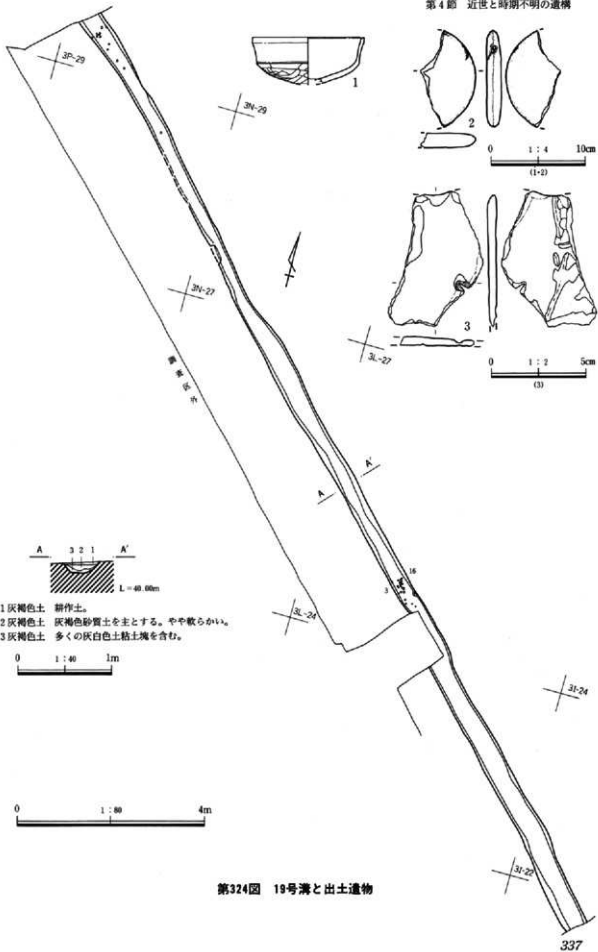


- 1 表土。
- 2 暗褐色土 砂質土。
- 3 暗褐色土 ローム塊多量を含む。



第323図 5号・20号溝

第4節 近世と時期不明の遺構

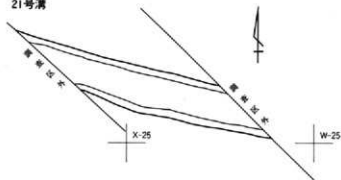


- 1 灰褐色土 耕作土。
 2 灰褐色土 灰褐色砂質土を主とする。やや軟らかい。
 3 灰褐色土 多くの灰白色粘土塊を含む。

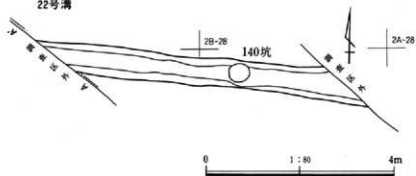
第324図 19号溝と出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

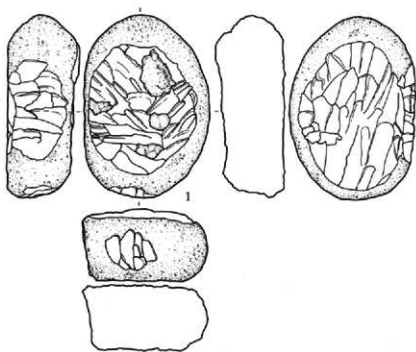
21号溝



22号溝

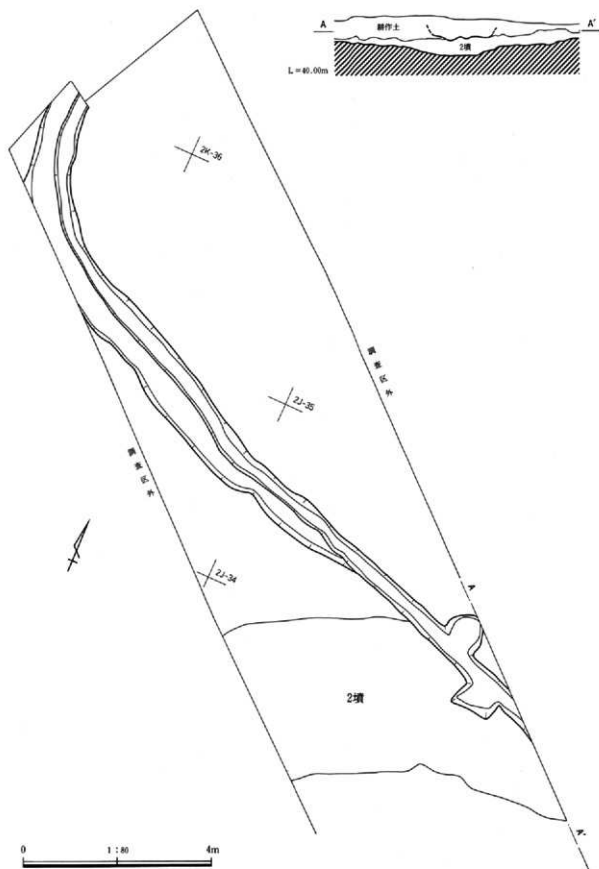


- 1 茶褐色土 耕作土。
- 2 茶褐色土 黒色の砂質土が混じる。さらさら、粘性なし。
- 3 暗褐色土に茶褐色土の混じり。中程度の粘質。
- 4 ロームに暗褐色土の混じり。



第325図 21号・22号溝と出土遺物

第4節 近世と時期不明の遺構



第326図 23号溝

第5節 遺構外の遺物

三ツ木皿沼遺跡では遺構に伴わない形で、遺物が出土している。ここでは、それらの遺物を旧河道出土遺物(第327・328図)、グリッド出土遺物(第329・330図)、表面採集遺物(第331図)に分けて報告する。

旧河道出土遺物は主としてA6区中央区で弧状に検出された上層部で出土した。この旧河道年代は10世紀後半の住居を切っていることから、それ以降ということになる。遺物は河道が流下する際に遺構を破壊して遺物を巻き込んだものと考えられる。遺物の主体は平安時代の土器で、他に鉄滓や埴輪等が含まれていた。第328図9は椀状滓、10は穀形埴輪の破片と考えられる。

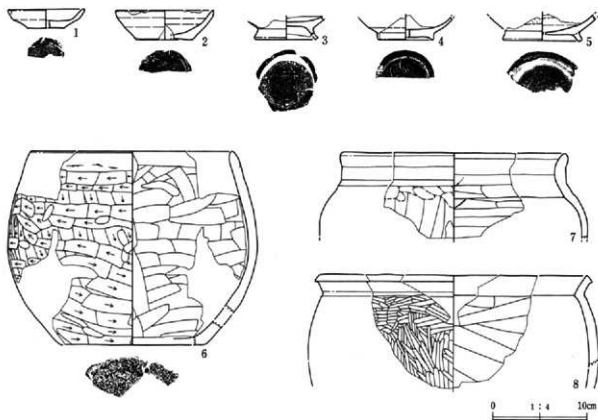
グリッド出土遺物の多くはA6区低地部の9世紀末から11世紀前半の住居群の遺構確認作業時に出土した。他はA2区の遺構確認作業中に出土したもの

もある。各遺物の出土位置と層位は第4章遺物観察表(P.395~397)に記載した。

第329図に示した土師器・須恵器は住居群の時期に対応する。第329図22の円筒埴輪も同様な位置で出土した。三ツ木皿沼遺跡では平安時代の竪穴住居内で埴輪を電機築材として再利用していた。この埴輪もその類であろう。第330図に示した土壘も、平安時代の竪穴住居内で出土しているものと同じものである。36・39の石器も土器と同じ層位で出土した。

37・38・40の石器は台地部のA2区で遺構確認作業中に出土した。

第331図に示した遺物は出土地点の明確でない遺物を集めた。



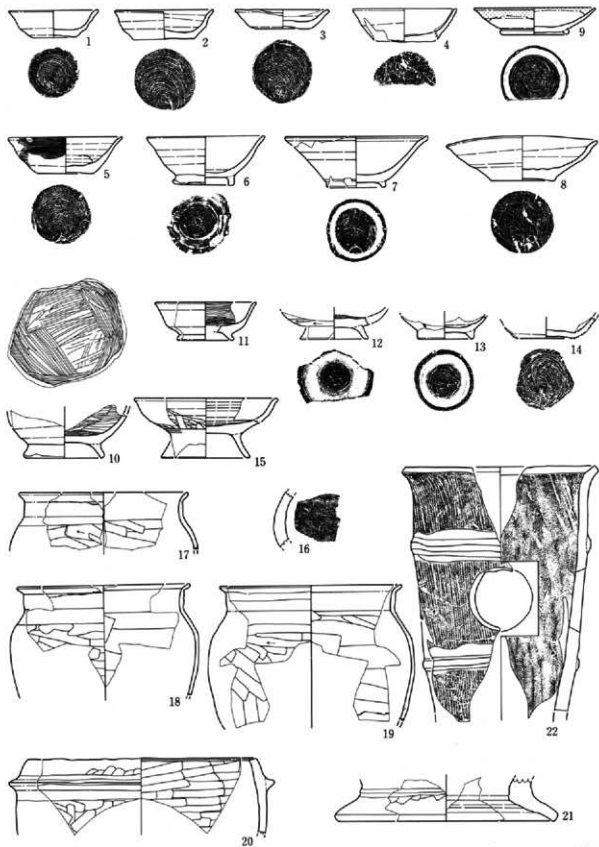
第327図 旧河道の出土遺物(1)



第328図 旧河道の出土遺物(2)

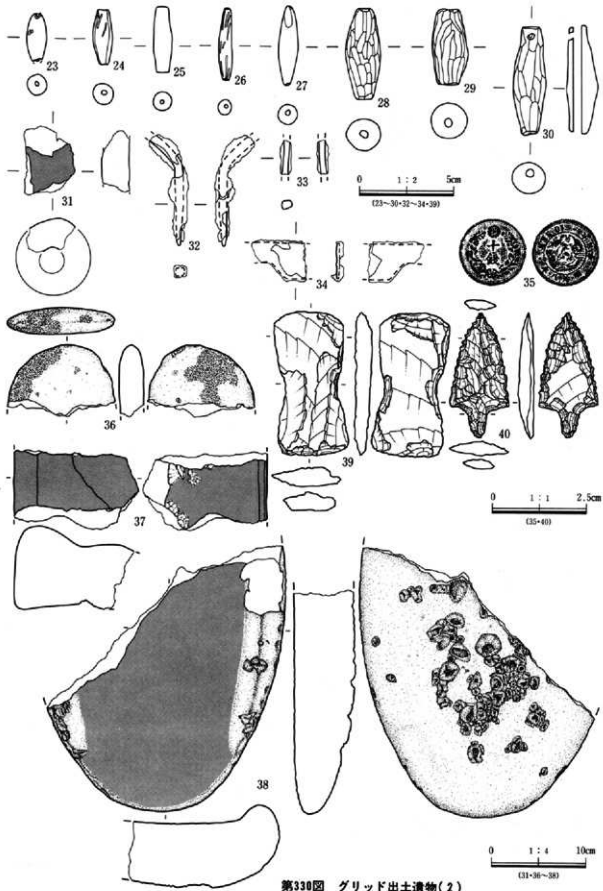
0 1:4 10cm

第3章 検出された遺構と遺物



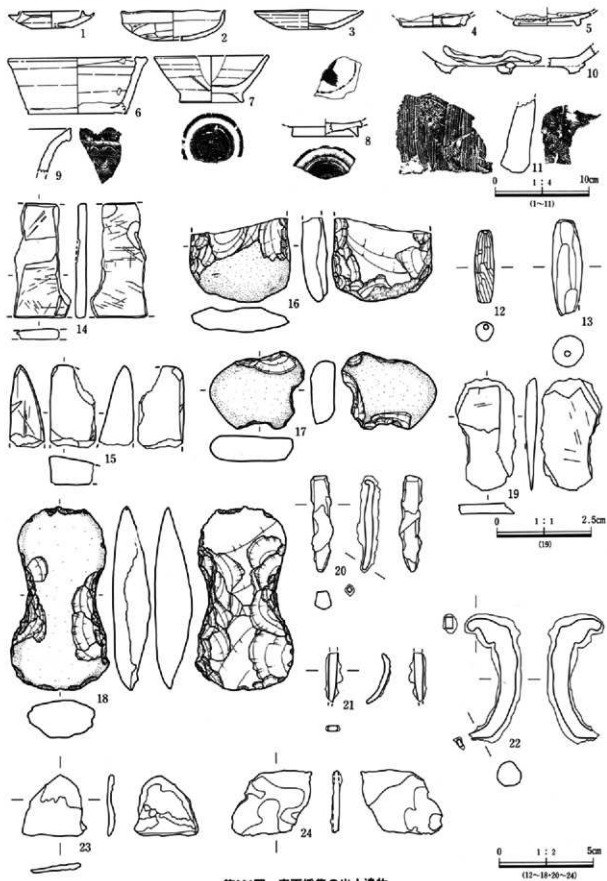
第329図 グリッド出土遺物(1)

第5節 遺構外の遺物



第330図 グリッド出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第331図 表面採集の出土遺物

第4章 遺構・遺物の一覧表

本章には、下記のような三ツ木血沼遺跡の遺構・遺物の一覧表を掲げた。

- 第5表 三ツ木血沼遺跡住居一覧表
- 第6表 三ツ木血沼遺跡土坑一覧表
- 第7表 三ツ木血沼遺跡溝一覧表
- 第8表 三ツ木血沼遺跡土器埋設土坑一覧表
- 第9表 三ツ木血沼遺跡基関連遺構一覧表
- 第10表 三ツ木血沼遺跡鉄生産関連遺構一覧表
- 第11表 三ツ木血沼遺跡品一覧表
- 第12表 三ツ木血沼遺跡その他の遺構一覧表
- 第13表 三ツ木血沼遺跡出土遺物一覧表

凡例

1. 遺構の一覧表は、左記のように各遺構ごとに作成した。
2. 遺構はA2～7区、B2、B3区の発掘区の番号順で並べた。報告書作成時に番号をかえた遺構は、調査時の番号を併載した。
3. 掲載頁・図は第3章で報告した頁・図番号を、掲載写真は第2分冊写真図版編に遺構・遺物を掲載したPL番号を記入した。
4. 遺構の計測値は、重複等で計測できないものは計測不可とした。また本来計測値のない欄には*マークを記入した。
5. 遺物一覧表は土器・石器・鉄生産関連遺物・銅製品を一表にしている。
6. 法量欄の()は復元値である。残存値については残存と明記した。
7. 出土位置欄は、竈・貯蔵穴・壁際・隅等の平面的位置と床面比高を併記した。
8. 外観の特徴のうち、土器の胎土は特徴的な扶雑物について記載した。
9. 外観の特徴のうち、土器の焼成は酸化焰か還元焰かを記載した。
10. 外観の特徴のうち、色調は「標準土色帖」を用い、最も大きな面積の器面の色名を記載した。なお焼成に伴う黒斑は記載した。
11. 備考欄は黒色処理や付着物・塗彩・穿孔等を記載した。また型式名や窯式名を記載した。
12. 鉄生産関連遺物の外観の特徴は第3章-4、第5章-9、第6章-8を参照されたい。

第5表 三ツ木川沿道跡住居一覧表

住居番号	調査時番号	種類	時期	高さ	高さ変化	写真撮影	グループ	形状	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	残存高さ (m)	長軸方位
調査方法													
調査位置	A 4区	築込土	22-30	30-32	67-122-125		4D-4 F-4P-4E						
立地状況													
12号住居	小内田前 19号	A 2区	6号築込土	40-40	30-41	13-123-120		K-M-2E-2D	横長長方形	5.00	5.0	24.82	40 N-67°E
13号住居	小内田前 19号	A 2区	6号築込土	30-31	42-43	13-119-130		N-O-2E-2D	方形	2.54	2.49	5.25	30 N-9°W
12号住居	小内田前 19号	A 2区	6号築込土	32-34	44-46	14-119-131		M-N-2E-2D	方形あるいは横長長方形	測定不可	測定不可	測定不可	30 N-27°E (推定)
12号住居	小内田前 19号	A 2区	6号築込土	33-38	47-50	15-116-132		N-P-2E-2D	方形	4.8	4.72	19.49	30 N-47°E
13号住居	小内田前 19号	A 2区	6号築込土	30-41	31-53	15-116-132		F-Q-2E-2D	矩形?	4.26	3.70	測定不可	35 N-130°E
15号住居	小内田前 19号	A 2区	6号築込土	40-48	39-50	17-120-133		Q-R-2E-2D	横長長方形	3.88	3.94	12.51	30 N-130°E
18号住居	小内田前 19号	A 2区	6号築込土	44-46	37-58	18-110-134		P-Q-2E-2D	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	33 N-18°E (推定)
15号住居	小内田前 19号	A 2区	6号築込土	42-48	39-60	18-119-134		R-S-2E-2D	横長長方形	4.02	3.98	測定不可	44 N-40°E
16号住居	8号区	6号築込土	35-42	41-62	19-116		X-Y-2E-2D	横長長方形あるいは方形	測定不可	測定不可	測定不可	35 N-63°W	
16号住居	A 7区	6号築込土	35-54	42-64	19-120-135		V-W-2E-2D	方形	2.2	2.3	12.14	30 N-34°E	
16号住居	A 7区	6号築込土	35	48-60	20-120		T-U-2E-2D	長方形	4.14	3.5	15.03	31 N-168°E	
16号住居	A 7区	6号築込土	36-38	47	21-120		U-V-2E-2D	横長長方形?	2.2	2.8	測定不可	32 N-11°E (推定)	
16号住居	A 7区	6号築込土	40-42	48-70	21-120-136		U-V-2E-2D	方形	4.82	4.72	23.49	23 N-58°E	
平定状況													
16号住居	小内田前 19号	A 3区	10号築込土	52-55	53-65	20-120		Z K・Z L・2・3	墓穴台形状	3.8	2.8	7.82	30-32
16号住居	A 4区 1号	A 4区	10号築込土	36-38	40-49	20-102-103		Z T・2 U・9・10	不明	測定不可	測定不可	測定不可	N-N°E
17号住居	A 4区	10号築込土	39-100	49-50	20		4・1・4 J-4E-4E	方形あるいは横長長方形	4.67	4.7	18.88	30 N-7°E (推定)	
2号住居	A 4区	10号築込土	101-103	94-95	20-120-130		4・1・4 J-4E-4E	横長長方形	4.67	3.13	11.14	32 N-90°E	
3号住居	A 4区	10号築込土	102-104	96-100	20-120		4 G・4 H-4E-4E	墓穴台横長長方形	2.81	3.04	9.10	30 N-122°E	
4号住居	A 4区	10号築込土	104-105	86	21-120		4 H・4 I-4E-4E	横長長方形?	測定不可	測定不可	測定不可	4 N-102°E	
5号住居	A 4区	11号築込土	105-114	96-98	21-120-140		4 N・4 O-4・5	横長長方形	2.75	3.02	9.42	40 N-37°E	
6号住居	A 4区	10号築込土	106-109	89	22-140		4 O・4 P-5・4	横長長方形	2.6	3.15	10.02	24 N-102°E	
7号住居	A 4区	10号築込土	110-111	100-101	22-140		4 O・4 P-7	横長長方形	2.28	2.2	6.9	24 N-92°E	
8号住居	A 4区	10号築込土	112-113	102-103	24-140		4 P・4 Q-8・9	横長長方形	3.8	3.0	10.47	22 N-101°E	
8号住居	A 4区	10号築込土	114	104	34		4 P・4 Q-10-11	方形あるいは横長長方形	測定不可	測定不可	測定不可	8.5 N-100°E	
9号住居	A 4区	10号築込土	115-118	103-106	25-140		4 L・4 M-8・3	横長長方形	4.42	3.4-3.7	14.88	30 N-9°E	
11号住居	A 4区	11号築込土	117-120	107-110	25-140-141		4 M・4 N-2・2	方形	3.2	3.1	11.42	30 N-87°E	
10号住居	A 4区	10号築込土	120-122	111-112	13-140-143		4 N・4 O-3・3	横長長方形	4.92	3-3.5	16.26	36 N-50°E	
14号住居	A 4区	10号築込土	123-124	111-114	17-143		4 M・4 N-4・6	横長長方形	5.24	3.53	測定不可	25.3 N-2°W	
15号住居	A 4区	10号築込土	125	115	38		4 K・4 L-5・6	横長長方形	2.4	2.56-2.9	9.88	5 N-1°W	
16号住居	A 4区	10号築込土	126-127	110-117	30-143		4 K・4 L-6・8	横長長方形	2.2	2.38	7.28	11 N-90°E	
17号住居	A 4区	10号築込土	127-128	118	30-143		4 K・4 L-6・8	横長長方形	2.6	3.4	13.56	12 N-90°E	
18号住居	A 4区	10号築込土	129	119	30		4 K-7・8	墓穴台横長長方形	2.74	1.94	5.44	4 N-101°E	
19号住居	A 4区	10号築込土	130-132	120-121	30-143		4 J・4 K-8・9	長方形	5.8	3.54	20.11	25 N-94°E	
19号住居	A 4区	10号築込土	132-133	122-123	40-143		4 E・4 I-7・8	横長長方形	3.42	2.84	測定不可	9.5 N-97°E	
21号住居	A 4区	10号築込土	134	124	40-41-143		4 G-8	横長長方形	3.36	2.29	6.96	12.5 N-90°E	
22号住居	A 4区	10号築込土	135-136	125-125	41-143-144		4 P・4 G-2・8	中平墓穴台形状	2.58	2.56	6.20	29 N-91°E	
23号住居	A 4区	10号築込土	136-137	127	41-144		4 E・4 F-2・5	墓穴台横長長方形	測定不可	測定不可	測定不可	3.5 N-82°E	
24号住居	A 4区	10号築込土	138-140	128-130	42-144-145		4 E・4 F-9・10	横長長方形	3.24	2.68	9.82	20 N-104°E	
25号住居	A 4区	10号築込土	140-141	131	42-145		4 E・4 F-8・9	横長長方形	2.42	2.14	6.20	32 N-97°E	
27号住居	A 4区	10号築込土	142-143	132-133	43-145		4 I・4 J-7・8	方形	3.18	3.12	8.62	23 N-7°E (推定)	
28号住居	A 4区	10号築込土	143-144	134	44-145		4 M・4 N-1・2	横長長方形	測定不可	測定不可	測定不可	28 N-80°E	
29号住居	A 4区	10号築込土	145-146	135-138	44-145		4 K・4 L-10-11	横長長方形	3.5	2.9-3.1	10.47	12.5 N-80°E	
30号住居	A 4区	10号築込土	146-147	137	45-145-146		4 K・4 L-10-11	横長長方形	4.14	2.60	11.47	23 N-97°E	
31号住居	A 4区	10号築込土	148-149	139-139	45-146-146		4 L・4 M-1・2	横長長方形	3.78	2.68-3.1	11.45	22.5 N-1°W	
32号住居	A 4区	不明	139	140	46		4 J・4 K-6	不明	測定不可	測定不可	測定不可	3.5 N-70°E (推定)	
33号住居	A 4区	10号築込土	139-142	141-142	46-47-146		4 L・4 M-2・3	横長長方形	3.24	2.74	測定不可	35 N-2°E	
34号住居	A 4区	平定状況	142-143	143	47-146		4 P-4・5	不明	測定不可	測定不可	測定不可	20 N-2°E	
35号住居	A 4区	10号築込土	153	144	47		4 I・4 J-1・2	墓穴台形状	2.4	1.7	4.33	15 N-20°E (推定)	
36号住居	A 4区	10号築込土	154-155	145-146	47-49-146		4 K・4 L-2・3	横長長方形	3.32	2.94	9.8	17 N-13°W	
37号住居	A 4区	10号築込土	156	147			4 P・4 Q-5	不明	測定不可	測定不可	測定不可	13 N-7°W (推定)	
38号住居	A 4区	10号築込土	156-157	148	48-147		4 D・4 E-6・7	長方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	12.7 N-97°E	
39号住居	A 4区	10号築込土	158-159	149-150	48-49-147		4 F・4 G-11-12	長方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	24 N-101°E	
40号住居	A 4区	10号築込土	159-160	151	49		4 F・4 G-12-12	方形	2.6	2.5	測定不可	24 N-90°E	
41号住居	A 4区	10号築込土	161	152	49		4 E・4 F-12-13	方形	2.1	1.9	4.77	5 N-90°E	
42号住居	A 4区	平定状況	161-162	153	50		4 G-13	不明	測定不可	測定不可	測定不可	19 N-97°E (推定)	
43号住居	A 4区	11号築込土	162-163	154-155	50-147		4 E-9・10	横長長方形	3.5	2.9	12.14	6.8 N-100°E	
44号住居	A 4区	平定状況	163-164	156	50		4 C・4 D-6・7	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	21 N-7°E (推定)	
45号住居	A 4区	10号築込土	164	157	50		4 N-11-12	方形あるいは長方形	測定不可	測定不可	測定不可	1 N-90°E	
46号住居	A 4区	8号築込土	165	158	50-51		4 K・4 L-9・10	横長長方形	3.1	2.56	9.32	8.5 N-48°E	
47号住居	A 4区	8号築込土	166-167	160-160	51-147		4 I・4 J-7・8	横長長方形	2.8	1.94	6.47	12 N-104°E	

第4章 遺構・遺物の一覧表

住所番号	遺構時番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	写真図例	プラン	断面	高さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	埋没深度 (m)	方位
48号住居	A 6区	平安時代	157	161	51		4 P・4 Q-6・7	不明					6.5 N-77° E
49号住居	A 6区	11世紀後半	158	162	51-52		4 C・4 D-41・43	楕圓長方形	3.2	1.8	6.32	17° N-80° E	
50号住居	A 6区	10世紀後半	159-171	163-165	52-147-148		4 D・4 E-42・43	楕圓長方形	4.6	2.30		42° N-90° E	
51号住居	A 6区	10世紀後半	172-175	166-168	52-146-149		4 A・4 C-43・44	楕圓長方形	5.0	3.64	17.46	52° N-87° E	
52号住居	A 6区	10世紀後半	176-178	169-171	54-146-149		4 B・4 C-43・42	楕圓長方形	2.96	2.9	9.62	27° N-80° E	
53号住居	A 6区	10世紀後半	179-182	172-174	55-149-150		3 Y・4 A・4 B-43・42	楕圓長方形	4.06	2.70		15° N-70° E	
54号住居	A 6区	10世紀後半	182-183	175-176	55-150		4 A・4 B-42	楕圓長方形?				楕圓不可	22.5 N-80° E
55号住居	A 6区	10世紀後半	184-185	178	56-150		4 B・4 C-40・41	方形	3.16	3.1		楕圓不可	13° N-114° E
56号住居	A 6区	10世紀後半	186-188	179-181	56-157-158-151		3 Y・4 A-40・41	方形	2.34	2.54	7.33	26° N-89° E	
57号住居	A 6区	10世紀後半	189-190	182-183	57-151		3 X・3 Y-40・41	楕圓長方形	3.34	2.2		楕圓不可	14° N-91° E
58号住居	A 6区	10世紀後半	191-192	184-185	57-150-151		4 A・4 B-38・39	楕圓長方形?	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	17° N-88° E
59号住居	A 6区	10世紀後半	193-193	186	58-150-151		3 X・3 Y-37-39	楕圓長方形	4.71	4.1		楕圓不可	10° N-87° E
61号住居	A 6区	10世紀後半	194-195	187-189	59-152		3 W・3 X-38・41	楕圓長方形	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	12° N-84° E
62号住居	A 6区	10世紀後半	195-199	189-191	59-160-152-153		3 U・3 V-38・39	楕圓長方形	3.06	3.2	11.45	8° N-91° E	
64号住居	A 6区	11世紀前半	199-200	192-194	60-153		3 U・3 W-36・37	楕圓長方形	3.5	3.4	14.24	22.5° N-71° E	
65号住居	A 6区	10世紀後半	201-200	195-196	61-153-154		3 T・3 U-35-35	方形	4.0	3.06	11.42	7° N-87° E	
66号住居	A 6区	10世紀後半	202-204	197	61-154-154		3 N・3 S-35-33	楕圓長方形	3.04	2.7	8.68	13° N-77° E	
67号住居	A 6区	平安時代	205	204	62		3 N・3 O-23-22	方形 3 A・2 A・12 長方形	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	10° N-47° E (遺構不明)
68号住居	A 6区	10世紀後半	206-207	199-201	62-154		4 B-4 D-43・44	楕圓長方形	3.34	3.40		楕圓不可	24° N-95° E
69号住居	A 6区	10世紀後半	207-213	201-208	62-154-156-158		4 C・4 D-42・43	楕圓長方形	3.3	2.90	10.3	23° N-105° E	
70号住居	A 6区	10世紀後半	214-215	207-208	64-156		4 C・4 D-41・42	楕圓長方形	2.88	2.36		13° N-13° E	
71号住居	A 6区	10世紀後半	216-216	209	64-156-156		3 X・3 Y-41・42	楕圓長方形?	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	8° N-82° E
72号住居	A 6区	10世紀後半	217-219	211	65-156		3 U-36・37	楕圓長方形	2.86	2.3	7.86	5° N-79° E	
73号住居	A 6区	10世紀後半	218-220	212-213	65-156-157		3 T・3 U-36	楕圓長方形	3.22	2.34	8.20	14° N-87° E	
74号住居	A 6区	平安時代	221-223	214-216	66-157		3 U・3 V-35-36	楕圓長方形	2.82-2.36	3.06	16.75	21° N-93° E	
75号住居	A 6区	10世紀後半	224-225	217-218	66-157		4 B-4 C-46・47	楕圓長方形	4.14	3.54		楕圓不可	26° N-89° E
76号住居	A 6区	10世紀後半	226-227	219-220	67-157-158		4 A・4 B-44・45	楕圓長方形?	3.48	2.52		楕圓不可	2.5° N-92° E
77号住居	A 6区	10世紀後半	228-231	221-224	67-160-158-159		4 D・4 E-44・45	楕圓長方形	4.2	3.2	13.40	26° N-117° E	
78号住居	A 6区	10世紀後半	232-233	225-226	68-159		3 Y・4 A-40・41	楕圓長方形	4.14	3.16		楕圓不可	11.6° N-80° E
79号住居	A 6区	10世紀後半	234-235	227-228	68-160-159		4 D・4 E-42	不明	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	24° N-97° E (遺構不明)
80号住居	A 6区	10世紀後半	236-237	229-230	69-159		4 C・4 D-40・41	楕圓長方形?	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	21° N-87° E (遺構不明)
81号住居	A 6区	10世紀後半	238-239	231-232	69-159-159		3 W・3 X-40・41	楕圓長方形?	3.34	3.3		楕圓不可	4° N-79° E
82号住居	A 6区	10世紀後半	239-240	233-234	70		3 P・3 Q-21-22	楕圓長方形	3.76	3.44	13.49	12° N-64° E	
83号住居	A 6区		240-244	177	70-56		4 B-42・43	不明	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	29° N-17° E
84号住居	A 6区	平安時代	240-241	235	70		4 D・4 E-41・42	方形 3 A・12 長方形	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	29° N-4° E (遺構不明)
85号住居	A 6区	平安時代	241	236	70		3 Y-44・45	楕圓長方形 楕圓長方形 3 A・12 長方形	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	11° N-67° E (遺構不明)
86号住居	A 6区	平安時代	242-243	237-241	71-139-168		4 G-44	不明	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	5° N-127° E
87号住居	A 6区	平安時代	242	242	71		3 B・3 I-21-22	長方形 3 A・12 長方形	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	2.5° N-50° E
88号住居	A 6区	9世紀後半	242-244	243	71-71		3 B・3 I-23-24	方形	3.1	3.0	9.12	0° N-114° E	
89号住居	A 6区	平安時代	244-249	244	72-168-161		3 J-3 L-26-27	方形	3.5	3.2	11.54	0° N-124° E	
90号住居	A 6区	10世紀前半	250	245	72		3 E・3 L-24-25	楕圓長方形?	3.3	2.4		楕圓不可	0° N-109° E
91号住居	A 6区	9世紀後半	250-251	246	72-73-161		3 M・3 N-38-39	方形	2.7	2.7	7.80	4.8° N-134° E	
92号住居	A 6区	10世紀後半	251	247	73-161		3 N-27-28	楕圓長方形	3.6	2.34	6.82	0° N-90° E	
93号住居	A 6区	10世紀後半	252-254	248-250	73-162		3 E・3 L-24-26	長方形	4.1	3.9	17.94	14° N-107° E	
94号住居	A 6区	平安時代	254	251	74		3 G・3 H-23-24	不明	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	0° N-30° E (遺構不明)
95号住居	A 6区	10世紀後半	255	252	66-162		4 A・4 B-42・43	不明	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	8° N-8° E
99号住居	A 7区	10世紀後半	255-256	253	74-162		5 P・5 G-22-23	長方形	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	7° N-108° E
100号住居	A 7区	10世紀後半	256	254	74		4 T-10-11	長方形 3 A・12 長方形	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	15° N-17° E (遺構不明)
101号住居	B 1区	10世紀後半	252-259	255-257	75-161		2 W・2 V-46・47	楕圓長方形	3.78	2.9		楕圓不可	28.5° N-117° E
102号住居	B 1区	10世紀後半	260-261	258-259	75-161		2 W・2 X-48	長方形 3 A・12 長方形	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	楕圓不可	15° N-127° E

第6表 三ツ木皿沼遺跡土坑一覧表

土坑番号	調査時番号	発見区	発見深	発見回数	発見写真	グリット	形態	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	長軸方位	備考	
縄文時代													
163号土坑	小角田2号土坑	A 区 3	37	29	8	O-P-30-31	円形	1.12	★	0.40	N-47°-北		
147号土坑	小角田1号土坑	A 区 3	34	26	8-126	2K-50	楕円長方形	1.84	0.55	0.44	N-12°-W		
148号土坑	小角田2号土坑	A 区 3	34	26	8-126	2K-50+1	長方形	1.80	0.53	0.23	N-0°-北		
149号土坑	小角田2号土坑	A 区 3	35	27		2M-1+2	楕円形	1.85	1.19	0.36	N-4°-北	3号溝に切られる。	
150号土坑	小角田4号土坑	A 区 3	35	27	8-126	2M-4	不定形円形	2.00	0.68	0.62	N-21°-W		
151号土坑	小角田5号土坑	A 区 3	35	27	9	2M-3+4	長方形	2.04	0.59	0.52	N-28°-W		
156号土坑	小角田9号土坑	A 区 3	35	29	9	2O-3+4	長方形	2.51	0.69	0.45	N-35°-W	3号溝に切られている。	
152号土坑	小角田6号土坑	A 区 3	36	29	9-126	2L-3	円形	0.96	★	0.39	★		
153号土坑	小角田7号土坑	A 区 3	36	29	9-126	2N-2	円形	0.92	★	0.40	★		
157号土坑	小角田12号土坑	A 区 3	37	29	9	2N-4	楕円形	0.82	0.63	0.31	N-50°-E		
130号土坑	A 区 4 区 6号土坑	A 区 3	37	29		2U-12	楕円形	0.76	0.61	0.38	N-15°-E		
123号土坑	A 区 4 区 9号土坑	A 区 3	37	29	10	2W-11-12	楕円形	2.18	1.28	0.34	N-28°-E		
124号土坑	A 区 4 区 10号土坑	A 区 3	37	29	10-127	2V-2W-12	円形	1.82	★	1.06	★		
8号土坑	A 区 6 区 38	38	30	10-126	4G+4H-68	円形	0.98	★	0.20	★			
10号土坑	A 区 6 区 38	38	30	11-127	4H-68	円形	1.25	★	0.21	★			
115号土坑	A 区 6 区 38	38	30	11	4D-64+65	楕円形	1.44	1.18	0.49	N-0°-北			
古墳時代													
141号土坑	1017号土坑	A 区 2	79	71	22-137	V-36-37	楕円形	1.04	0.82	1.08	N-89°-北		
145号土坑	1021号土坑	A 区 7	81	74	22-137	2V-33	円形	0.64	★	0.43	★		
平安時代													
164号土坑	小角田2号土坑	A 区 2	261	260	76	B-35	円形	1.56	★	0.73	★		
122号土坑	A 区 4 区 8号土坑	A 区 2	262	261	76	2F-13	円形	1.13	★	0.32	★		
1号土坑	A 区 6 区 262	261	76	41-43-49-50	円形	1.10	★	0.80	★			2号住より新しい。	
4号土坑	A 区 6 区 262	261	76	4G-4H-48	円形	0.99	★	0.10	★			8号土坑より新しい。	
5号土坑	A 区 6 区 262	261	76	4F-4G-48	円形	1.28	★	0.28	★			5・6号土坑の新田開墾は不明。	
6号土坑	A 区 6 区 262	261	76	4P-4G-48	円形	0.88	★	0.22	★			5・6号土坑の新田開墾は不明。	
11号土坑	A 区 6 区 262	261	77	4H+4I-47+48	円形	1.03	★	0.24	★				
13号土坑	A 区 6 区 262	261	77	4H-49	円形	0.82	★	0.74	★				
15号土坑	A 区 6 区 263	262	77	4H-46+47	円形	0.68	★	0.12	★				
16号土坑	A 区 6 区 263	262	77	4I-49	円形	0.81	★	0.07	★				
25号土坑	A 区 6 区 263	262	77-165	4L-3	円形	0.94	★	0.40	★				
29号土坑	A 区 6 区 263	262	78	4N-3	円形	0.72	★	0.98	★				
32号土坑	A 区 6 区 263	262	78	4N-7	円形	0.74	★	0.10	★				
36号土坑	A 区 6 区 263	262	78	4O+4P-4	円形	0.58	★	0.26	★				
38号土坑	A 区 6 区 263	262	78	4I-43-10	長方形	1.36	★	0.32	★				
42号土坑	A 区 6 区 263	262	78-79	4Q-7	円形	1.15	★	0.74	★				
43号土坑	A 区 6 区 264	263	79	4O-6+7	円形	1.40	★	0.42	★				
44号土坑	A 区 6 区 264	263	79	4O-6	円形	0.86	★	0.10	★				
45号土坑	A 区 6 区 264	263	79	4O-4	円形	0.78	★	0.10	★				
52号土坑	A 区 6 区 264	263	79-80	4M-3	円形	0.82	★	0.19	★				
53号土坑	A 区 6 区 264	263	80	4M-3	円形	1.05	★	0.98	★				
62号土坑	A 区 6 区 264	263	80	4P-9	円形	0.82	★	0.15	★				
63号土坑	A 区 6 区 264	263	80	4P-9								62号土坑と重複。	
64号土坑	A 区 6 区 264	263	80	4G-10	円形	1.53	★	0.15	★				
68号土坑	A 区 6 区 265	264	80-165	4A-4B-44	円形	0.74	★	0.28	★			51号住と重複。	
70号土坑	A 区 6 区 265	264	81	4A-42	円形	1.48	★	0.34	★			53号住より新しい。	
73号土坑	A 区 6 区 265	264	81-165	4A-4B-42	円形	1.20	★	0.23	★			53号住より新しい。	
78号土坑	A 区 6 区 265	264	81-165	4F-45	円形	0.73	★	0.14	★				
82号土坑	A 区 6 区 266	265	81	4D-45	円形	1.05	★	0.27	★				
94号土坑	A 区 6 区 266	265	82-165	4A-41+42	円形	1.53	★	0.56	★			53号住より新しい。	
98号土坑	A 区 6 区 267	266	82-165	4B-42	円形	0.71	★	0.49	★				
100号土坑	A 区 6 区 267	266	82	3U-37	円形	0.92	★	0.87	★				
138号土坑	1014号土坑	B 区 2	267	266	82	2H-32-34	円形	0.65	★	0.55	★		
140号土坑	1016号土坑	B 区 2	267	266		2A-27	円形	0.44	★	1.15	★		
160号土坑	小角田15号土坑	A 区 2	280	183	94-95	N-O-30	長方形	1.06	0.50	0.10	N-28°-E		
121号土坑	A 区 4 区 7号土坑	A 区 2	267	267		2V-12-13	楕円形	1.60	0.87	0.12	N-10°-E		
7号土坑	A 区 6 区 267	267	82	4H-50	楕円形	1.33	1.10	0.65	N-20°-E				
9号土坑	A 区 6 区 267	267	82	4F+47-48	楕円形	1.06	0.83	0.15	N-23°-E				
14号土坑	A 区 6 区 263	262	77	4H-46+47	楕円形	★	0.50	0.15	N-37°-W				
17号土坑	A 区 6 区 268	268	77	4I-48+49	楕円形	0.83	0.63	0.05	N-66°-E				
18号土坑	A 区 6 区 268	268	77	4I-48	楕円形	0.91	0.80	0.07	N-69°-E				
22号土坑	A 区 6 区 268	268	82-83	4J-1-2	楕円形	0.97	0.47	0.06	N-90°-E				
24号土坑	A 区 6 区 268	268	83	4J+4K-1	楕円形	1.98	1.12	0.19	N-92°-E				
26号土坑	A 区 6 区 268	268	83	4I+4J-50	楕円形	1.19	1.08	0.18	N-52°-E				
27号土坑	A 区 6 区 268	268	83	4M-4	楕円形	1.14	1.02	0.13	N-14°-W				
28号土坑	A 区 6 区 268	268	84	4M+4N-4	楕円形	1.41	0.85	0.06	N-18°-W				
30号土坑	A 区 6 区 268	268	84	4M-3+4	楕円形	1.90	0.86	0.07	N-48°-W				
33号土坑	A 区 6 区 268	268	84	4N-7+8	楕円形	0.95	0.70	0.13	N-17°-W				
35号土坑	A 区 6 区 269	269	84	4O+4P-4	楕円形	2.08	1.13	0.43	N-10°-E				
47号土坑	A 区 6 区 269	269	84	4J+4K-8+9	楕円形	1.44	1.12	0.30	N-90°-E				
49号土坑	A 区 6 区 269	269	85	4H+4I-9	楕円形	1.85	1.25	0.40	N-90°-E				
50号土坑	A 区 6 区 269	269	85	4J+4I-10	楕円形	1.73	0.95	0.14	N-3°-E				
51号土坑	A 区 6 区 269	269	85	4J+4K-10	楕円形	1.28	0.80	0.28	N-14°-E				
55号土坑	A 区 6 区 270	270	85-88+163	4H-7+8	大形楕円形	2.36	2.43	0.46	N-1°-E				
57号土坑	A 区 6 区 269	269	86	4L-1	楕円形	0.83	0.70	0.38	N-1°-E			30号住貯蔵穴の可能性がある。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

土坑番号	調査時番号	発掘区	発掘日	発掘時刻	発掘寸法	グロット	形状	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸方位	備考
58号土坑	A 6区	271	271	86	4K-2		横円形	1.05	0.76	0.95	N-16°-W	
59号土坑	A 6区	271	271	86	4J-2		横円形	1.31	0.72	0.15	N-52°-W	
60号土坑	A 6区	271	271	86-87	4K-49		横円形	1.03	0.62	0.12	N-50°-E	
69号土坑	A 6区	271	271	87	4A-41-42		横円形	1.68	0.57	0.24	N-24°-W	50号位より新しい。
72号土坑	A 6区	271	271	87	3X-40		横円形	0.84			N-35°-W	
76号土坑	A 6区	271	271	87	4A-4B-42-43		横円形	2.56	2.16	0.31	N-33°-W	
77号土坑	A 6区	272	272	87	4F-47		横円形	1.56	2.20	0.20	N-7°-W	77号位と重複。
80号土坑	A 6区	272	272	88	4A-43		横円形	0.45	0.36	0.14	N-48°-E	
91号土坑	A 6区	272	272	88-165	4A-43		横円形	1.12	0.86	0.46	N-24°-W	
93号土坑	A 6区	272	272	88	4A-4B-41		横円形	1.04	0.83	0.19	N-18°-W	
98号土坑	A 6区	273	273	88-166	3X-39		横円形	2.08	1.56	0.23	N-95°-E	長径・短径は復元長。
101号土坑	A 6区	272	272	82-88	2U-37		横円形	1.02	0.89	0.11	N-22°-E	
105号土坑	A 6区	272	272	88	4A-43-44		横円形	1.10	0.76	0.13	N-16°-W	
106号土坑	A 6区	272	272	88	2Y-4A-43-44		横円形	1.02	0.90	0.12	N-24°-W	
107号土坑	A 6区	273	273	88	2Y-43		横円形	0.82	1.06	0.35	N-87°-E	
108号土坑	A 6区	273	273	88	2Y-43		横円形	0.57	0.80	0.13	N-87°-E	
109号土坑	A 6区	273	273	89	2Y-43		横円形	1.38	1.00	0.15	N-90°-E	
110号土坑	A 6区	274	274	70-80-165	2Y-44		横円形	0.75	0.67	0.15	N-0°-E	
111号土坑	A 6区	274	274	70-80-165	2Y-44		横円形	0.81	0.65	0.46	N-6°-W	往時の可視性はないのか。
112号土坑	A 6区	274	274	89	4B-45		横円形	1.22	0.77	0.35	N-40°-W	
113号土坑	A 6区	274	274	89	4D-44・45		横円形	1.84	0.91	0.26	N-16°-W	
118号土坑	4M-50G土坑	A 6区	274	274	89	4L-4M-1	大形横円形	2.30	1.80	0.14	N-80°-E	
127号土坑	1003号土坑	A 6区	275	275	90	2M-28	横円形	0.70	0.54	0.14	N-40°-E	
128号土坑	1004号土坑	A 6区	275	275	90	2N-21	横円形	0.95	0.56	0.35	N-52°-E	
131号土坑	1007号土坑	A 6区	275	275	90	2N-27	横円形	0.48	0.39	0.09	N-105°-W	
144号土坑	1026号土坑	A 6区	275	275	90	2L-2M-25	横円形	1.64	0.83	0.06	N-53°-W	
137号土坑	1013号土坑	B 2区	275	275	90-91	2J-25	横円形	1.38	0.88	0.39	N-32°-E	
139号土坑	1015号土坑	B 2区	276	276	91	2A-27	横円形	1.22	1.02	0.30	N-18°-W	
146号土坑	1022号土坑	B 2区	276	276	91	2B-28	横円形	2.26	1.85	0.22	N-20°-W	
39号土坑	A 6区	276	277	91	4H-9		瓢丸方形	1.12	0.71	0.12	N-82°-E	
40号土坑	A 6区	276	277	91	4H-11-10		瓢丸方形	0.95	0.68	0.13	N-51°-W	
48号土坑	A 6区	277	278	91-166	4E-3		瓢丸方形	1.20	1.08	0.16	N-18°-E	
48号土坑	A 6区	276	277	91-165	4J-9		瓢丸方形	1.25	1.05	0.45	N-18°-E	
56号土坑	A 6区	277	278	92	4H-11-12・13		瓢丸方形	1.10	1.01	0.11	N-90°-E	
60号土坑	A 6区	277	278	92	4E-2		瓢丸方形	1.44	1.22	0.24	N-40°-E	
61号土坑	A 6区	277	278	92	4E-2		瓢丸方形	1.32	1.12	0.26	N-117°-W	
71号土坑	A 6区	277	278	92	2Y-29・40		瓢丸方形	1.32	1.15	0.18	N-83°-E	
79号土坑	A 6区	277	278	93	4E-46		瓢丸方形	1.30	1.23	0.38	N-0°-E	
81号土坑	A 6区	266	266	81	4D-45		瓢丸方形	0.91	0.74	0.06	N-48°-E	
87号土坑	A 6区	278	279	87-93	4A-43		瓢丸方形	1.37	1.29	0.18	N-50°-W	
89号土坑	A 6区	278	279	87-93	4A-42-43		瓢丸方形	1.69	1.34	0.22	N-82°-E	
95号土坑	A 6区	278	279	93	4F-45		瓢丸方形	1.15	1.05	0.30	N-3°-E	
99号土坑	A 6区	278	279	93	4D-42-43		瓢丸方形	2.47	2.34	0.39	N-2°-W	
102号土坑	A 6区	279	280	93	4B-41		瓢丸方形	1.68	1.63	0.43	N-16°-W	
105号土坑	A 6区	279	280	93-94	4A-40		瓢丸方形	1.21	1.17	0.31	N-0°-E	
119号土坑	A 6区	281-168	92	29	4I-49		瓢丸方形	0.83		0.38	N-9°-E	2号位の図に併載。
33号土坑	A 6区	279	281	94	4M-4		瓢丸長方形	1.20	0.79	0.24	N-4°-E	
73号土坑	A 6区	279	281	94-166	2W-28・39		瓢丸長方形	1.48	0.85	0.19	N-18°-E	
80号土坑	A 6区	280	282	94	4D-4E-44		瓢丸長方形	2.09	1.42	0.42	N-76°-E	
92号土坑	A 6区	280	282	82-94	4B・4C-42		瓢丸長方形	1.60	1.10	0.55	N-41°-W	
159号土坑	小内田14号土坑	A 2区	280	283	94-95	O-30	長方形	2.41	0.71	0.15	N-7°-E	
2号土坑	A 6区	281	284	95	4G-45-47		長方形	1.60	1.12	0.21	N-34°-E	3号位より新しい。
20号土坑	A 6区	281	284	95	4O-3		長方形	2.07	0.65	0.76	N-15°-W	
54号土坑	A 6区	281	284	95-166	4K-4L-3・4		縦長方形	3.02	0.78	0.60	N-9°-W	
74号土坑	A 6区	281	284		2Y-37・38		長方形	3.54	0.75	0.16	N-71°-W	60号位と重複。
86号土坑	A 6区	282	285	96-166	4B・4C-40-41		長方形	1.32	0.81	0.10	N-50°-W	55号位より新しい。
90号土坑	A 6区	282	285	87-96	2Y・4A-42		長方形	1.68	1.11	0.41	N-65°-E	
114号土坑	A 6区	282	285	89	4C・4D-45		長方形	1.74	0.91	0.23	N-107°-W	
125号土坑	1801号土坑	A 6区	282	285	96-166	2M-27・28	長方形	0.96	0.72	0.27	N-28°-E	
128号土坑	1802号土坑	A 6区	282	286	96-166	2M-27	長方形	0.82	0.54	0.59	N-55°-W	
132号土坑	1808号土坑	B 2区	282	286	96	2W-29	長方形		0.47	0.63	N-4°-E	
134号土坑	1810号土坑	B 2区	282	286	96	2C-28	長方形	1.03	0.78	0.19	N-80°-W	
113号土坑	1811号土坑	B 2区	282	286	97	2D-29	長方形	2.78	0.83	0.28	N-3°-E	
143号土坑	1818号土坑	B 3区	282	286	97	2T-44	長方形	2.16	1.33	0.15	N-20°-E	
143号土坑	1819号土坑	B 3区	282	286	97	2W-46-47	長方形	1.94	0.64	0.18	N-25°-E	
161号土坑	小内田16号土坑	A 2区	280	283	94-95	N-O-30	不定形	1.08	1.06	0.10	N-12°-E	
15号土坑	小内田13号土坑	A 3区	284	287	97-98	2N-4	不整形	1.10	0.93	0.37	N-38°-E	
3号土坑	A 6区	284	287	98	4H-46		不定形	0.74	0.60	0.11	N-58°-W	3号位と重複。
17号土坑	A 6区	284	287	98	4H-49		不定形	1.40	1.15	0.29	N-23°-W	
41号土坑	A 6区	284	287	98	4G-4H-19		不定形	1.45	1.22	0.16	N-91°-E	
67号土坑	A 6区	284	287	98	4H-41-46		不定形	1.26		0.47	N-40°-W	
116号土坑	A 6区	284	287	98	4K-49		不定形	1.20	0.83	0.28	N-60°-W	105号土坑
129号土坑	1005号土坑	A 6区	285	288	99-166	2N・2O-29	不定形	1.20		0.10	N-50°-E	
130号土坑	1006号土坑	A 6区	285	288	99	3O-2P-28	不定形	0.80	0.77	0.17	N-28°-W	
133号土坑	1009号土坑	B 2区	285	288	99	W-24-25	不定形	1.67		0.24	N-132°-E	
136号土坑	1042号土坑	B 2区	285	288	99	2C-29	不定形	1.90		0.43	N-47°-W	
162号土坑	小内田21号土坑	A 2区	320-324	314-315	117-174	N-31	円形	1.10	●	0.81	●	4号位を参照。

第7表 三ツ木皿沼遺跡跡一覧表

跡番号	調査時番号	発掘区	発掘頁	発掘回数	発掘写真	グリッド	最大幅(m)	最小幅(m)	深さ(m)	調査長(m)	走向方位	備考	
14号跡	小角田10号溝	A2区	323	316	118	P-31	0.58	—	0.12	—	N-82°-W	19号跡-5号住-6号住と重畳。	
15号跡	小角田11号溝	A2区	323	316		O-29・30	0.68	0.52	0.18	東西1.94 南北3.14	N-83°-W N-9°-E	17号土坑-3号住と重畳。 地割図と書えられる。	
16号跡	小角田12号溝	A2区	323	316	118	Q-R-34	0.95	—	0.36	4.58	N-87°-W	19号土坑-6号住と重畳。 8号住より新しい。	
17号跡	小角田13号溝	A2区	323	316	118	R・S-34	0.80	—	0.48	4.68	N-50°-E	20号土坑-7号住と重畳。	
12号跡	小角田7号溝	A2区	324	317	118	M~O-30-31	1.00	0.46	0.46	8.00	N-113°-W	7号跡-4号住と重畳。4号住を切る。	
13号跡	小角田8号溝	A2区	324	317	118	N-28~30	1.25	1.13	0.68	5.78	N-14°-E	8号跡-4号住と重畳。4号住より新しい。	
7号跡	小角田1号溝	A3区	325	318	118・119	2J~2L-58	0.66	0.35	0.12	7.48	N-87°-W		
8号跡	小角田2号溝	A3区	325	318	118・119	2J~2M-59-1	2.28	0.84	0.26	11.75	N-82°-W	地割の跡と書われる。	
9号跡	小角田3号溝	A3区	326	319	119-174	2M~2P-1~4	1.02	0.60	0.25	19.49		ほぼ東西低状	3号土坑を切る。4号溝を切る。
10号跡	小角田4号溝	A3区	327-328	320	119	2M~2Q-1~6	1.50	1.10	0.78	22.88		南北低状	3号溝に切られる。7号土坑(竈穴)を切る。 遺区50mの円形周溝の可能性もある。 砂状ガラスの破片から、周溝の可能性が高い。1、2号周溝基より新しい。
11号跡	小角田5号溝	A3区	327-328	320	119-120	2L~2Q-6	0.80	—	0.10	17.40		東西低状	
18号跡	A4区1号溝	A4区	324	317	120	2Y-3A-13-15	3.00	—	0.60	11.00	N-5°-E		
1号跡		A6区	329-330	321	120-121	4C~4Q-3~11	1.74	0.78	0.41	68.40	N-55°-W N-62°-W		
2号跡		A6区	331	322	121	4E~4P-59~3	0.84	0.68	0.30	13.50		南北低状	
3号跡		A6区	331	322	121	4D・4・5	0.92	—	0.42	4.22	N-50°-E	1号溝より古い。	
4号跡		A6区	12	12		3R~3U-32~39							
5号跡		A6区	332	323	121	4B・4C-43~45	1.06	0.80	0.60	6.50	N-23°-W		
6号跡		A6区	313	307	121	3M~3P-29-30	1.36	—	0.95	5.20	N-67°-E		
19号跡	1001号溝	A6区	333	324	122-174	3H~3O-21~29	1.05	0.78	0.22	64.00	N-64°-W		
20号跡	1004号溝	A7区	332	323		4V・4W-12-13	0.80	—	0.46	5.50		南北低状	北東端で145号土坑と重畳するが新田開 掘は不明。
21号跡	1003号溝	B1区	334	325		W・X-25	0.87	—	—	4.62	N-27°-W	上式道路本線調査小角田の遺跡 27号溝	
22号跡	1003号溝	B2区	334	325	122-174	2A-2B-27-28	0.68	—	0.70	6.16	N-84°-W		
23号跡	1005号溝	B2区	335	326	122	2H~2K-33~35	1.01	0.38	0.14	17.20		東西低状	

第4章 遺構・遺物の一覧表

第8表 三ツ木血沼遺跡 土器埋設土坑一覧表

番号	旧番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	発掘写真	グリッド	形態	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸方位
1		A 4区	後期縄ノ内式	31-32	22-24	7-125	2W-12	楕円形	0.93	0.7	0.27	N-11°-E
2		A 4区	後期縄ノ内式	31-33	25	7-125	2W-14	楕円形	0.75以上	0.8	不明	N-10°-E

第9表 三ツ木血沼遺跡 墓関連遺構一覧表
周溝墓

番号	旧番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	発掘写真	グリッド	形態	直径(m)	周溝幅(m)	周溝深さ(m)	長軸方位
1		A 3区	古墳時代前期	82-84	75-76	23-24・137	2K~2N-2~6	方形	9.6	北 2.56 南 2.8 南 3.5	0.63 0.82 1.26	N-18°-W
2		A 3区	古墳時代前期	85	77	34	2K~2O-6+7	方形	不明	不明	不明	不明

古墳

番号	旧番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	発掘写真	グリッド	形態	直径(m)	周溝幅(m)	周溝深さ(m)	長軸方位
1	1号墳	A 4区	古墳時代中期	86	78	35・137	2V~2X-10~13	円形	23.8	1.68	0.32	*
2	1号古溝	B 2区	古墳時代後期	87-88	79	11-26	2E~2I-30~34	方形	14	3.27	0.26	N-27°-W
3	2号古溝	B 3区	古墳時代後期	87-89	80	36・137	2O~2R-28~41	円形	不明	2.38	0.68	*

第10表 三ツ木血沼遺跡 鉄生産関連遺構一覧表
炉

番号	旧番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	発掘写真	グリッド	形態	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸方位
1		A 6区	平安時代	290-291	292・293	100-166-167	4A-42	楕円形	1.45	0.75	0.12	N-12°-W
2		A 6区	平安時代	291~295	294~296	101-167~170	4A-39	楕円形	1.40	1.05	0.17	N-90°-E

関連土坑

番号	旧番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	発掘写真	グリッド	形態	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸方位
69号住居上層	60在内	A 6区	平安時代	295・296	296	102-103-170	3X-3Y-38					
83		A 6区	平安時代	297・298	298	103-104-171	3Y-37-38	円形	1.16	*	0.26	*
84		A 6区	平安時代	297・299	299	104	3Y-38	楕円形	0.95	0.8	0.2	N-90°-E
97		A 6区	平安時代	297・299	299	104-171	3X-37-38	楕円形	0.72	0.65	0.33	N-62°-E
85		A 6区	平安時代	297・299	299	104	3X-38-39	楕円形	1.19	0.93	0.26	N-112°-E

第11表 三ツ木血沼遺跡 畠一覧表

番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	行目	発掘写真	遺構面	面積(m ²)		
1	A 6区	北沢	平安時代	308	302	2	105	171	畠上表面	250
2	A 6区	北沢	平安時代	308-309	303	2	105~108	172	上表面	2140
3	A 6区	北沢	平安時代	310	3	105-109-110			下表面	2231
4	A 6区	北沢	平安時代	310	304	2	110		拡張区最下表面	210
5	A 6区	北沢	平安時代	312	305	4	111		最下表面	408
6	A 6区	中央区	平安時代	313~315	306	5	112		1層	1196
7	A 6区	中央区	平安時代	313~315	306	5	112		2層	
8	A 6区	中央区	平安時代	315	6	113-114			3層	1050
9	A 6区	中央区	平安時代	316	307	7	114-115		4層	1040
10	A 6区	中央区	平安時代	217	7	115			5層	77
11	A 6区	南区	平安時代	318	8	4			1層	154
12	A 6区	南区	平安時代	319	9	116			11層	319
13	A 7区		平安時代	319	10	116				41
14	B 3区	北沢	平安時代	320	310	11	116			321
15	B 3区	南区	平安時代	320・321	11	116				

第12表 三ツ木血沼遺跡 その他の遺構一覧表
祭祀遺構

番号	旧番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	発掘写真	グリッド	形態
1		A 6区	10世紀後半	296-297	290-290	99-164	4H-5	

竪穴状遺構

番号	旧番号	発掘区	時期	発掘区	発掘区	発掘写真	グリッド	形態	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸方位
1		A 4区	近世	322-324	311~312	117-172-173	2T-2U-10-11	隅丸方形	3.7	3.18	不明	N-90°-E

第13表 ツツ木沼遺跡出土遺物観察表

108号住居出土遺物観察表 第13表～第23表・P.L.123, 124, 125

番号	種類	残存	寸法 (cm)	出土位置	加工・焼成・色調・材質等	文様・彫刻の特徴	番号
1	石磨 石磨	宛形	長さ 2.9 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.51	4E-45G 遺物包含層	石材褐色安山石。	素材切片の形態は不明である。入念な二次加工により成形されている。	
2	石磨 石磨	宛形	長さ 2.2 幅 1.7 厚さ 0.3 重さ 0.55	4E-46G 遺物包含層	石材黒曜石。	素材切片の形態は不明である。入念な二次加工により成形されている。	
3	石磨 打磨石磨	宛形	長さ 7.8 幅 5.5 厚さ 1.7 重さ 2.9	4E-46G 遺物包含層	石材黒色頁岩。	片面に自然面を残す。	
4	石磨 コップ	宛形	長さ 5.6 幅 4.1 厚さ 0.3 重さ 139.1	4E-46G 遺物包含層	石材黒色頁岩。	小形磨を分割したもので、あるいは厚形磨の小形片を割削した痕跡有り。	
5	石磨 磨石	宛形	長さ 11.6 幅 9.0 厚さ 3.8 重さ 550	4E-46G 遺物包含層	石材粗粒輝石安山石。	扁平な楕円形の心臓。上下の平らな面は磨かれており、上下両面の中央に磨打痕が残る。両側面にも磨打痕が残る。	
6	風文土器 磨鉢	口縁一部上位3/5	器高 20.4残存 口径 20.4	9F	波状口縁の磨鉢。器底部から側面にかけて縦文が彫られる。波線により文様構成されるが、器内には縦文、朝杖文はみられない。彫刻は良好で、内外面とも平滑である。		称名寺日式
7	風文土器 磨鉢	体部上位へ下位	器高 29.4残存	4E-46G 遺物包含層	波線により「Y」字文が構成される。器内には朝杖文が加えられる。器面は良好で、内外面とも平滑である。		称名寺日式
8	風文土器 磨鉢	口縁部一部 破片	器高 29.4残存 口径 29.4	4E-46G 遺物包含層	小平口縁の磨鉢。口縁は外側に面を持つ。口縁無文帯下に波線が走り、以下に格子文が彫られる。		称名寺日式
9	風文土器 磨鉢	口縁一部	器高 10.2残存 口径 13.9	4E-46G 遺物包含層	波状口縁の磨鉢。小型の磨鉢で縦文である。		加賀判目3式?
10	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 22.8残存 口径 21.8	4E-46G 遺物包含層	水平口縁の磨鉢。口縁は外側に面を持つ。波線により「Y」字文が構成される。器内には部分的に縦文が加えられる。縦文は彫磨で、平滑であるが、磨削しによる彫削痕跡が認められる。波線は手鋸状工具が用いられて、主として外側の縦文であるが、部分的に内側が利用されている。口縁下に接線孔を穿つことが確認できないと認められる。		称名寺日式
11	風文土器 磨鉢	口縁一部下位2/3	器高 29.7残存 口径 27.8	9F	水平口縁の磨鉢。口縁上に平滑面を持つ。波線により「Y」字文が構成される。器内には縦文や列点文等は彫られない。波線は厚い彫磨である。側面上部は赤化し、下部はススの付着が見られる。		称名寺日式
12	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 10.4残存	4E-46G 遺物包含層	口縁部は内側に面を持つ。波線には朝杖の把手が付けられ、その両側に波線が加えられる。波線には区画内には「上」が彫られるが、縦文方位は不規則で、未定向きは赤化し、下部はススの付着が見られる。		瀬ノ内式
13	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 13.5残存	9F	器内には赤化の小突起があり、内面には内形朝杖文が加えられる。波線により文様が構成されるが、縦文は認められない。		瀬ノ内日式
14	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 9.4残存	4E-46G 遺物包含層	把手内側には朝杖の波線、朝杖文が加えられる。口縁は短く内側に内折し、外側に面を持つ。		瀬ノ内式
15	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 6.2残存	4E-45G 遺物包含層	波線部に朝杖の突起が付けられる。口縁は中や直立きで、外側に面を持つ。		瀬ノ内1式
16	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 8.8残存	4E-46G 遺物包含層	把手部分。		称名寺日式
17	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 8.0残存	4E-46G 遺物包含層	口縁部頂部の円孔の両側に弧状の波線が加えられる。器面には波線の彫磨が確認される。		瀬ノ内1式
18	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 7.1残存	4E-46G 遺物包含層	波状口縁の磨鉢。器面には弧状の朝杖文が加えられる。		称名寺日式
19	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 7.5残存	4E-46G 遺物包含層	口縁部は厚く、上端は丸みを帯びる。		称名寺日式
20	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 6.4残存	4E-46G 遺物包含層	弧状の波線部に朝杖文が加えられる。		称名寺日式
21	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 13.0残存	4E-46・4F・47G 遺物包含層	波線により「Y」字文が構成される。器内には朝杖文が加えられる。		称名寺日式
22	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 18.9残存	4F-46G 遺物包含層	水平口縁の磨鉢。広い口縁無文帯下に深く引磨かれた波線が走る。側面は波線により「Y」字文等が構成される。器内には縦文が彫られる。縦文は厚手の磨鉢が磨製であるため、磨りかたが不揃いである。		称名寺日式
23	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 12.6残存	4E-46G 遺物包含層	口縁外側に面を持つ。波線により「Y」字文が構成されるが、縦文は丁寧である。		称名寺日式
24	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 8.9残存	9F	口縁が短く内折し、外側に波線が走る。波線により「Y」字文が構成される。器面には彫磨に伴う彫削痕跡が多数残る。		称名寺日式
25	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 11.8残存	4E-45G 遺物包含層	波状口縁の磨鉢。口縁は短く内折し、外側に面を持つ。波線は深く引磨である。		称名寺日式
26	風文土器 磨鉢	体部破片	器高 16.3残存	9F	波線により「Y」字文、縦文が彫られる。縦文、列点文等は認められない。		称名寺日式
27	風文土器 磨鉢	口縁部破片	器高 5.4残存	4E-45G 遺物包含層	波線は深く引磨で「Y」字文が構成される。器内には列点文が加えられる。		称名寺日式
28	風文土器 磨鉢	体部破片	器高 11.4残存	9F	波線により格子文が構成される。		加賀判目3式?
29	風文土器 磨鉢	体部破片	器高 21.1残存	9F	波線により「Y」字文等が構成される。器内には朝杖文が加えられる。縦文は彫磨で、波線の高低は不揃いである。		称名寺日式
30	風文土器 磨鉢	体部破片	器高 17.3残存	9F	波線により文様構成される。器内には朝杖文が加えられる。波線は深く引磨である。		称名寺日式
31	風文土器 磨鉢	体部破片	器高 11.4残存	4E-46G 遺物包含層	集合多輪が磨下する。2帯間められるが、両者の波線の縦文状態が類似しているため、8本1単位の磨製工具による可能性がある。		称名寺日式
32	風文土器 磨鉢	体部破片	器高 7.5残存	4E-45・46G 遺物包含層	波線による器内面に、集合多輪が加えられる。器面には、土磨製作に伴う接合面の痕跡が観察される。		称名寺1式

第4章 遺構・遺物の一覧表

1号土坑部出土土遺物観察表 第24回・P.L125

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	縄文土器 埴輪	ほぼ完整	高さ 56.9 口径 42.8 底径 11.6	土坑中央部・横 位・底面上5cm	胎土中央部・横 位・底面上5cm	口縁下からV字状隆起文を垂下させ、交差部以下には肩目加えられる。縄文は 上Rが用いられ、彫文方位は不明である。	甕ノ内1式
2	縄文土器 埴輪	口縁部破片	高さ 7.8残存	埋没土中		口唇は尖りあみで、外面に段を持つ。沈線により横位、張状、新位の文様が構成さ れる。彫文は丁字で不明である。	甕ノ内2式

2号土坑部出土土遺物観察表 第25回・P.L125

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	縄文土器 埴輪	口縁部・体部下段1/5	高さ 62.5残存 口径(41.8)	土坑中央部・横 位・底面上5cm	胎土中央部・横 位・底面上5cm	V字状および張状隆起文より文様は構成される。彫文はやや不明瞭で縄文は加え られない。	称名寺1式
2	縄文土器 埴輪	口縁部破片	高さ 8.1残存	北東 面上10cm		口唇は内側に持った。口縁に沈線が走り、以下に矢引状、斜行沈線が施される。 断面は平直で、内外面に彫刻の彫痕が残る。	甕ノ内2式

147号土坑部出土土遺物観察表 第26回・P.L126

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	縄文土器 埴輪	口縁部破片	高さ 11.1残存	埋没土中		胎土中央部・横 位・底面上5cm	張状口縁の跡跡。肥子部が欠け下る。腹縁下に付った沈線が走り文様が構成される。 甕ノ内1式

148号土坑部出土土遺物観察表 第26回・P.L126

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	縄文土器 埴輪	破片	高さ 3.6残存	埋没土中		沈線により横位、同心円文が構成される。地文には、凹・横位が施される。	加賀野B1式

150号土坑部出土土遺物観察表 第27回・P.L126

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	縄文土器 埴輪	口縁部破片	高さ 5.5残存	埋没土中		口唇は深く内折する。横位の腹縁上には肩目加えられる。断面は平直で、内外面 には彫刻の彫痕が施される。	甕ノ内2式
2	縄文土器 埴輪	底部 2/3	高さ 5.5残存 底径 8.3	埋没土中		底部はやや張り出しがみで、断面は平直である。一部に凹・横位がみられる。	

152号土坑部出土土遺物観察表 第28回・P.L126

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	縄文土器 埴輪	破片	高さ 9.1残存	中央部 底面上22cm		肥子部分。断面は平直で彫形は丁字である。肥子下に張状の沈線が認められる。	称名寺1式
2	縄文土器 埴輪	口縁部破片	高さ 10.1残存	中央部 底面上14cm		張状口縁の跡跡。口唇上は平直面となる。沈線は彫文が不明瞭で、細く鋭い沈線と 浅く太い沈線がみられる。	称名寺1式
3	縄文土器 埴輪	体部破片	高さ 7.8残存	中央部 底面上5cm		口唇が深く内折する。沈線により丁字文、張状文が構成される。彫文は丁字で埴輪工 具が用いられる。縄文や列点文は認められない。	称名寺1式
4	縄文土器 埴輪	破片	高さ 9.4残存	中央部 底面上2cm		沈線により丁字文が構成される。縄文や列点文は認められない。	称名寺1式
5	縄文土器 埴輪	体部破片	高さ 15.4残存	中央部 底面上2cm		胴部中央が折れる箇所。沈線は彫文がやや不明瞭で、丁字文が構成される。区内面に 加えられる列点文が施される。	称名寺1式

153号土坑部出土土遺物観察表 第28回・P.L126

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	縄文土器 埴輪	体部破片	高さ 8.1残存	南西壁脚 底面上2cm		彫文する沈線はよく明瞭である。胴部はやや不明瞭であるが、ほぼ一般輪郭文とな る。地文には縄文が施される。彫の形状を觀察すると鋭角状合線(異形縄文)の可能 性もあるが、沈線により消失する部分もあり、確定できない。断面には土器製作に 伴う割目が認められる。接合関係はないが同一個体とみられる。	甕ノ内1式
2	縄文土器 埴輪	体部破片	高さ 8.3残存	南西壁脚 底面上2cm		彫文する沈線はよく明瞭である。胴部はやや不明瞭であるが、ほぼ一般輪郭文とな る。地文には縄文が施される。彫の形状を觀察すると鋭角状合線(異形縄文)の可能 性もあるが、沈線により消失する部分もあり、確定できない。断面には土器製作に 伴う割目が認められる。接合関係は同一個体とみられる。	甕ノ内1式
3	縄文土器 埴輪	底部	高さ 14.3残存 底径 11.9	南西壁脚 底面上2cm		彫文する沈線はよく明瞭である。胴部はやや不明瞭であるが、ほぼ一般輪郭文とな る。地文には縄文が施される。彫の形状を觀察すると鋭角状合線(異形縄文)の可能 性もあるが、沈線により消失する部分もあり、確定できない。断面には土器製作に 伴う割目が認められる。接合関係は同一個体とみられる。	甕ノ内1式

124号土坑部出土土遺物観察表 第29回・P.L127

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	縄文土器 埴輪	腹部破片	高さ 8.1残存	中央部西寄り 底面上20cm		彫文が強く屈曲する埴輪。太沈線により、横門文が施され、その周囲に列点文が加 えられる。地文には上層位が施される。下半部は彫文による。	称名寺1式
2	縄文土器 埴輪	口縁部破片	高さ 8.3残存	中央部東寄り 底面上14cm		口唇は平直面を持つ。口唇に横位の彫文等があり、横位の沈線下には集合条 紋が加えられる。	称名寺1式

8号土坑部出土土遺物観察表 第30回・P.L128

番号	類別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材質	文様・彫刻の特徴	備考
1	石 器	完形	高さ 1.4 幅 1.5 厚さ 0.2 重さ 0.46	北西壁脚 底面上13.5cm		石材黒曜石。	素材割片の形態は不明であるが、入念な二次 加工により成形されている。
2	石 器	完形	高さ 1.4 幅 1.4 厚さ 0.3 重さ 0.2	北西壁脚 底面上18.5cm		石材黒曜石。	素材割片の形態は不明であるが、入念な二次 加工により成形されている。
3	石 器	完形	長さ 2.3 幅 1.7 厚さ 0.4 重さ 1.6	埋没土中		石材黄色安山石。	未成品の可能性有り。本石器は大量のチップ (黒色安山石)とともに8号土坑より出土した。 チップには石磨加工跡に生じると考えられる 物が存在した。
4	石 器	完形	高さ 2.7 幅 2.5 厚さ 1.1 重さ 4.6	埋没土中		石材チャート。	上下面に同様の面によると考えられる刻線が 溝状に認められる。
5	縄文土器 埴輪	口縁部・体部破片	高さ 11.6残存 底径 (17.8)	南東壁脚 底面上13.5cm		沈線により丁字文および張状文が施され、腹縁向側に沈線が加えられる。口縁には 横位肥子をもち、縦や中位が沈線を呈する。	甕ノ内1式

10号出土土遺物観察表 第30回・P.L127

番号	類別	残存	数量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	文様・形状の特徴	備考
1	石碗	光彩	長さ 2.9 幅 2.3 厚さ 0.5 重さ 1.5	埋設土中	石材チャート。	先端部にドリルとしての使用時に生じたと考えられる微細刺痕あり。	

A3区の包含層出土土遺物観察表 第31回・P.L127

番号	類別	残存	数量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	文様・形状の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	破片	高さ 10.8残存	1号方形周溝墓 周室土層上層	厚く明かな沈線により文様構成され、縁部無文文文には項目が加えられる。区域内にはほぼ認められない。	称名寺1式	
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 6.4残存	1号方形周溝墓 周室土層上層	口部外側に面を持ち、この部分に浅い凹形の刺突文が通る。沈線があらわれるが、文様構成は不明である。	称名寺1式	
3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 5.8残存	1号方形周溝墓 周室土層上層	暗く明かな沈線の厚線、裏面に縦位の刺突文が通る。その両側に太沈線が通る。重下する沈線には凹位が施される。縄文、沈線とも不明瞭である。	堀ノ内1式	
4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 5.2残存	1号方形周溝墓 周室土層上層	尖りあみの口部部を持ち、外側に沈線が通る。裏面の沈線が複数加えられ、地文に暗く明かな沈線の厚線、裏面に縦位の刺突文が通る。その両側に太沈線が通る。重下する沈線には凹位が施される。	堀ノ内1式	
5	縄文土器 深鉢	体部破片	高さ 8.8残存	1号方形周溝墓 周室土層上層	沈線により十字文が構成される。区域内には不明瞭であるが、L型が加えられる。	称名寺1式	
6	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 5.2残存	1号方形周溝墓 周室土層上層	口縁は短く内折し、外側に面を持つ。平行する低い隆起帯には、D字形の刻目が加えられる。	堀ノ内1式	
7	縄文土器 深鉢	体部破片	高さ 8.2残存	1号方形周溝墓 周室土層上層	沈線により格子状、矢羽状の文様が構成される。沈線は深く狭い。地文にはL型が加えられるが、縄文方位は不明瞭である。	堀ノ内1式	
8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 3.8残存	1号方形周溝墓 周室土層上層	口縁は丸みを帯び、口縁下に刻目を帯びて不明瞭であるが、浅く広い項目が縦方向に通る。裏面の沈線には、L型刻目が施される。	加賀川B1式?	
9	石碗 二次加工 ある破片	光彩	長さ 3.1 幅 4.4 厚さ 0.8 重さ 15.37	表土層	石材チャート。	割片を素材とし、主要刺痕を背面側方に二次加工が認められる。	

B2・B3区の包含層出土土遺物観察表 第32回・P.L127、128

番号	類別	残存	数量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	文様・形状の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 5.8残存	2号古墳 埋設土中	凹状口縁は丸みを帯び、沈線は深く明瞭である。	称名寺1式	
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 8.8残存	3号古墳 埋設土中	口縁は内側に面を持ち、外側に太沈線が一帯通る。沈線により簡文が構成され、地文には凹位が施される。	堀ノ内1式	
3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 7.4残存	3号古墳 埋設土中	口縁下に太沈線が一帯通る。裏面には浅く不明瞭な縄文が施される。影が観察されないため、反転の可能性がない。	堀ノ内1式	
4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 6.2残存	3号古墳 埋設土中	口縁は僅かに内折する。口縁下に刻目を帯びて縦方向に一帯通る。その上に8の字状の刻目が加えられる。裏面の沈線は深く明瞭で、区域内には粗線な凹位が施される。	堀ノ内1式	
5	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 4.5残存	3号古墳 埋設土中	影手部分。口縁は丸みを帯び、L線に沿って沈線が通る。	堀ノ内1式	
6	縄文土器 深鉢	把手	高さ 8.2残存	3号古墳 埋設土中	影手部分。	称名寺1式	
7	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 5.1残存	3号古墳 埋設土中	口縁は内側に面を持ち、外側に太沈線が通る。器内外面とも平滑で、横位の整形成が顕著に観察される。	加賀川B1式	
8	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 4.2残存	3号古墳 埋設土中	器面が8の字状に屈する沈線、突出部に線状工具による刻目が加えられ、内側に太沈線が通る。器面には横位の整形成が顕著である。	加賀川B1式	
9	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 5.6残存	3号古墳 埋設土中	口縁上端は水平面を持つ。5条並に横位の沈線には項目が加えられる。なお、沈線は全周しないものもあり、上から2条目の沈線は一時的に途切れた部分がある。	加賀川B1式	
10	縄文土器 不可	体部破片	高さ 3.7残存	3号古墳 埋設土中	細い沈線により縦文があらわれる。縄文は凹で沈線を通した後に加えられる。	堀ノ内1式	
11	縄文土器 深鉢	体部一断面	高さ 16.6残存 直径 10.2	3号古墳 2J-34G	器面は平滑。器内面には器口に平行する縦位のシガキ目が明瞭に残る。		
12	石碗 石鉢	光彩	長さ 4.6 幅 3.5 厚さ 1.6 重さ 21.16	3号古墳 埋設土中	石材緑色片岩。	上下面に石加工のみの刺痕が認められる。	
13	石碗 石鉢	光彩	長さ 8.6 幅 7.3 厚さ 4.5 重さ 349	2号古墳 埋設土中	石材粗粒輝石火山岩。	下面がやや小口の片面に縦方向の刻目がある。	
14	石碗 石鉢	上端欠損	長さ 7.2 幅 7.5 厚さ 2.2 重さ 180	3号古墳 埋設土中	石材粗粒輝石火山岩。	片面に自然面を大きく残し、中央部で破損している。	
15	石碗 石鉢	上端欠損	長さ 8.3 幅 8.7 厚さ 2.5 重さ 235	2号古墳 埋設土中	石材黒色頁岩。	片面に自然面を大きく残し、中央部で破損している。	
16	石碗 石鉢	光彩	長さ 9.1 幅 5.8 厚さ 2.0 重さ 90	2号古墳 埋設土中	石材黒色頁岩。	片面に自然面を残す。割片素材と考えられる。	

A4区の包含層出土土遺物観察表 第33回・P.L128

番号	類別	残存	数量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	文様・形状の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	体部下半一断面1/2	高さ 12.7残存 直径 9.8	2X Y-12-14G	器面はやや上層部で、器内面に縦位の整形成が顕著である。		
2	石碗 石鉢	光彩	長さ 1.1 幅 2.0 厚さ 0.3 重さ 0.49	表土	石材黒色頁岩。	お盆の一面に素材片の鋭角の刺痕を残す。深形の細小形片を素材としていると考えられる。	

A6区中央区の包含層出土土遺物観察表 第33回・P.L128

番号	類別	残存	数量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	文様・形状の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口縁一体部破片	高さ 13.2残存	3V-3FG包含層 黒色粘質土	凹状口縁の厚線、沈線により8字状の文様が構成される。沈線は浅く不明瞭である。	称名寺1式	
2	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 9.0残存	3T-3FG包含層 灰褐色粘土	口縁は僅かに内折する。項目を持つ隆起帯は浅くやや不明瞭な部分もある。沈線による器内面には、L型刻目が加えられる。	堀ノ内1式	
3	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 3.4残存	3T-3FG包含層 灰褐色粘土	小狭口縁の厚線、裏面に縦位の刺突文が通る。項目を持つ隆起帯には、8の字状の刻目が加えられる。	堀ノ内1式	
4	縄文土器 深鉢	口縁部破片	高さ 5.8残存	3V-3AG包含層 黒色粘質土	器面の刺突文が浅い。浅い太沈線の横位が加えられる。	堀ノ内1式	
5	縄文土器 注口	破片	高さ 4.5残存	3T-3FG包含層 灰褐色粘土	注口土層、把手下に注口が刻み込まれるが、注口部は欠損する。	堀ノ内1式	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	類別	保存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・彫形の特徴	備考
6	石彫 二次加工 ある割片	写形	長さ 3.3 幅 3.9 厚さ 1.0 重さ 8.85	3V-37G	石材黒色頁岩。	小彫刻片を素材とし、主要刻線箇所に二次加工痕が認められる。	

A 6区ローマ台地周辺出土遺物観察表 第35回・P.L129, 185

番号	類別	保存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・彫形の特徴	備考
1	縄文土器 群鉢	口縁部破片	高さ 10.3残存	4G-49G	口縁部は中や中よりびみて、内面に埋めを持つ。沈線の残文が認められる。		赤名寺日式
2	縄文土器 群鉢	口縁部破片	高さ 6.3残存	4G-49G	口縁は丸みを持つ。沈線は深く明確で、区画内に細文が加えられる。		赤名寺日式
3	縄文土器 群鉢	口縁部破片	高さ 6.9残存	埋込土中	口縁上には、8の字状の小突起が付される。口縁は僅かに内折し、内側には平行する沈線が施される。口縁部には沈線により幾何、幾何の文様が構成され、沈線間には1.5mm程度の隙間が認められる。		埋込/内日式
4	縄文土器 群鉢	口縁部破片	高さ 5.3残存	南西部 床面下3cm	逆台形の平づくお盆形。外面を4分割して、溝底状の沈線が施されている。内面には縁に01.5cmの文線帯が区別され、外面と同様に幾何文様の沈線が施されているが、外面のように4分割されていない。		加納跡B1式
5	縄文土器 蓋	ほぼ定形	高さ 2.9 直径 5.7	29号土坑西面 底面16cm			埋込/内1式
6	石彫	写形	長さ 2.1 幅 2.4 厚さ 0.9 重さ 3.37	4J-50G	石材チャート。	石彫の完成品と考えられる。	
7	石彫	写形	長さ 2.0 幅 2.5 厚さ 0.7 重さ 4.79	4G-48G	石材黒色安山岩。	一面片に打削痕が認められるが、下腹部に両側技法によると考えられる刻線帯が認められることから、ビュクスエースと判断した。	
8	石彫	左欠損	長さ 2.1 幅 2.6 厚さ 0.7 重さ 5.02	2号住居埋 込土中	石材黒色安山岩。	石彫の完成品と考えられる。先端の欠損は製作時の破損と見られる。	
9	石彫	写形	長さ 3.4 幅 2.4 厚さ 1.6 重さ 9.22	17号住居埋 込土中	石材チャート。	石彫の完成品と考えられる。	

A 6区低地層出土遺物観察表 第36回・P.L129

番号	類別	保存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	文様・彫形の特徴	備考
1	縄文土器 群鉢	口縁-体部中位1/3	高さ 33.8残存 口径 42.0	4O-8G	水平口縁の群鉢。口唇下に折り返し状の縁帯を帯び、外面には文様を認められる。		埋込/内1式
2	縄文土器 群鉢	口縁部破片	高さ 6.9残存	4J-5G 砂礫層中	口縁は中や中よりび、斜行する2条の沈線は深く明確であり、この沈線帯内側には不明な平行沈線が加えられる。		赤名寺日式
3	石彫	写形	長さ 10.3 幅 3.9 厚さ 2.1 重さ 140	灰褐色粘土層	石材黒色頁岩。	断面が扁平な輪状の小さな彫。片割れが認められる。	
4	石彫	写形	長さ 7.8 幅 2.3 厚さ 1.1 重さ 21.79	灰褐色粘土層	石材黒色頁岩。	大形彫片を素材とし、一面片に主要刻線箇所に背割箇所の両方に二次加工痕が認められる。	

低地層出土遺物観察表 第37回・P.L129, 137

番号	類別	保存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	彫形の特徴	備考
1	土器群 杯	ほぼ定形	高さ 3.3 口径 10.8	B3区12層上層	胎土赤色粒・赤色粒・小石を含む。 焼成酸化褐。色調においぬ。	外面口縁部破片ナ。底部荒削り。内面口縁-底部下平ナ。	
2	土器群 杯	口縁-底部 1/5	高さ 3.3残存 口径 9.9	B3区12層上層	胎土赤粒・小石を含む。 焼成酸化褐。色調においぬ。	外面口縁部破片ナ。	
3	土器群 杯	口縁-底部 1/2	高さ 9.4 口径 16.7	4M-7G 黒色土層	胎土細砂を多量に含む。 焼成酸化褐。色調既食物。	外面口縁部破片ナ。底部部-斜め方向荒削り。内面口縁部破片ナ。体部-底部下平ナ。	
4	土器群 盃	口縁-体部下位1/3	高さ 11.5残存 口径 10.8	4H-9G 黒色土中	胎土赤色粒物質を含む。 焼成酸化褐。色調既白。	外面口縁部破片ナ。体部内方角削り後、縁-斜め方向荒削り。内面口縁部破片ナ。体部外方角削りナ。	
5	土器群 盃	口縁-底部	高さ 4.8残存 口径 12.0	4O-3G 黒色土層	胎土細砂を含む。 焼成酸化褐。色調においぬ。	外面口縁部破片ナ。底部荒削り。内面口縁部破片ナ。底部下平ナ。	
6	土器群 盃	口縁-底部 2/3	高さ 21.6 口径 19.1 重さ 6.4	4L-K-8・6G 黒色土中	胎土細砂を多く含む。 焼成酸化褐。色調においぬ。	外面口縁部破片ナ。体部下平方向角削り。体部下平方向角削りナ。底部平ナ。内面口縁部破片ナ。体部-底部下平ナ。	
7	土器群 盃	口縁-底部 2/5	高さ 44.0 口径 122.4	5G-23G 黒色土層	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元褐。色調既。	外面口縁部4本1部位の環状沈線文を2段残文。体部-底部下平ナ。内面口縁部破片ナ。体部同心四ツタキ。	欠品。
8	土器群 盃	口縁-体部	高さ 7.8残存 口径 15.8	5G-23G 黒色土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化褐。色調既。	外面口縁部破片ナ。下位平ナ。体部破片ナ。内面口縁部破片ナ。底部平ナ。	口縁部ス入ス。
9	土器群 盃	杯底部-体部 1/3	高さ 4.3残存 口径 18.1	5G-23G 黒色土中	胎土赤色粒・赤色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化褐。色調においぬ。	内外面平ナ。	黒い物付。
10	土器群 盃	胴部破片	高さ 2.1残存 直径 11.3	5G-23G 黒色土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化褐。色調においぬ。	内外面平ナ。	

119号住居出土遺物観察表 第40, 41回・P.L129, 130

番号	類別	保存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	彫形の特徴	備考
1	土器群 杯	口縁-体部 1/3	高さ 3.8残存 口径 11.8	電石溝 床面下4cm	焼成酸化褐。色調既赤黒。	外面口縁部破片ナ。底部荒削り。内面口縁部破片ナ。底部下平ナ。	
2	土器群 杯	口縁-底部 1/8	高さ 4.8残存 口径 12.8	埋込土中	胎土赤粒を多く含む。焼成酸化褐。色調においぬ。	外面口縁部破片ナ。底部荒削り。内面口縁-底部下平ナ。	
3	土器群 杯	口縁-底部 1/6	高さ 3.3残存 口径 12.9	埋込土中	胎土赤粒を多く含む。焼成酸化褐。色調においぬ。	外面口縁部破片ナ。底部荒削り。内面口縁-底部下平ナ。	
4	土器群 杯	口縁-底部 1/8	高さ 4.8残存 口径 12.8	電石溝土中	胎土赤粒を含む。焼成酸化褐。色調既。	外面口縁部破片ナ。底部荒削り。内面口縁-底部下平ナ。	
5	土器群 杯	口縁-底部 1/2	高さ 4.7残存 口径 14.2	電石溝土中	胎土細砂を含む。焼成酸化褐。色調既。	外面口縁部破片ナ。底部荒削り。内面口縁-底部下平ナ。	
6	石彫 群鉢	写形	長さ 11.3 幅 3.2 厚さ 3.3 重さ 120	南東壁面 床面下13.5cm	石材黒色安山岩。	断面台形の輪状彫。広い面に中央に斜打痕が認められる。	
7	石彫 群鉢	写形	長さ 11.2 幅 4.5 厚さ 3.8 重さ 285	北西壁面等 床面下11.5cm	石材黒色安山岩。	断面八角形の輪状彫。片面の中央に斜打痕が認められる。	

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材等	形状の特徴	備考
8	石葺 鉢状縁	実形	高さ 10.4 幅 5.9 厚さ 2.2 重さ 228	北西面壁寄り 床面より2.5cm	石材粗粒輝石安山岩。	断面の扁平な小椀。	
9	石葺 鉢状縁	実形	高さ 13.1 幅 4.7 厚さ 4.3 重さ 390	北西面土式 底面より1cm	石材積層石灰片岩。	断面内側の縁部、顕著な使用面は認められなかった。	
10	石葺 鉢状縁	上端欠損	高さ 12.5 幅 6.7 厚さ 4.3 重さ 430	埋没土中上位	石材粗粒輝石安山岩。	断面三角形の鉢状縁。	
11	石葺 鉢状縁	実形	高さ 15.5 幅 7.2 厚さ 3.6 重さ 545	南東壁際	石材アイサイト。	断面の扁平な小椀。	
12	石葺 鉢状縁	実形	高さ 15.5 幅 8.4 厚さ 6.4 重さ 1250	南東壁際 奥面より22cm	石材粗粒輝石。(黄目土)	断面扁平な方形の小椀。	
13	石葺 礎石	破片	長さ 7.1 幅 6.5 厚さ 3.0 重さ 170	埋没土中上位	石材石灰質粘板岩。	扁平縁の破片。	
14	石葺 凹み石?	実形	高さ 10.6 幅 8.3 厚さ 3.3 重さ 370	埋没土中下位	石材粗粒輝石安山岩。	断面内側の扁平な小椀。両側の中央に小さな縁打痕が見える。	
15	石葺 凹み石?	実形	高さ 11.8 幅 10.5 厚さ 2.7 重さ 420	床面	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な凹み形の縁。裏面の一端に縁打痕が見える。	
16	石葺 礎石	実形	高さ 9.7 幅 8.0 厚さ 3.6 重さ 350	埋没土中上位	石材粗粒輝石安山岩。	やや厚い凹み形の小椀。側面の1か所に着打痕が見える。	
17	石葺 礎石	一部欠損	高さ 9.0 幅 9.6 厚さ 3.8 重さ 360	埋没土中上位	石材粗粒輝石安山岩。	表面全面に着打痕がある。側面の1か所とその周辺に縁打痕が見える。	
18	石葺 凹み石?	破片	高さ 8.2 幅 7.2 厚さ 2.6 重さ 120	埋没土中上位	石材粗粒輝石安山岩。	扁平縁の破片。	
19	石葺 凹み石?	上下端欠損	高さ 2.1 幅 1.3 厚さ 0.6 重さ 2.13	埋没土中	石材積層粘板岩。	左右に縁取があり、丁寧に整形されている。両面に磨痕が見える。	
20	石葺 凹み石?	破片	長さ 2.0 幅 1.7 厚さ 0.5 重さ 1.77	埋没土中	石材積層粘板岩。	左右に縁取があり、丁寧に整形されている。両面に磨痕が見える。	
21	石葺 凹み石?	上下端欠損	高さ 1.9 幅 1.8 厚さ 0.4 重さ 1.85	埋没土中位	石材積層粘板岩。	左右に縁取があり、丁寧に整形されている。両面に磨痕が見える。	
22	石葺 凹み石?	上下端欠損	高さ 1.7 幅 2.1 厚さ 0.1 重さ 2.30	埋没土中	石材積層粘板岩。	左右に縁取があり、丁寧に整形されている。両面に磨痕が見える。	
23	石葺 凹み石?	破片	長さ 2.7 幅 2.0 厚さ 0.5 重さ 1.9	埋没土中	石材積層粘板岩。	はがれたような厚さの不均一なところがある。両面に磨痕が見える。	
24	石葺 凹み石?	破片	長さ 3.2 幅 1.7 厚さ 0.4 重さ 1.53	埋没土中位	石材積層粘板岩。	はがれたような厚さの不均一なところがある。両面に磨痕が見える。	
25	石葺 凹み石?	破片	長さ 3.3 幅 1.5 厚さ 0.2 重さ 1.40	埋没土中位	石材積層粘板岩。	はがれたような厚さの不均一なところがある。両面に磨痕が見える。	
26	石葺 凹み石?	破片	長さ 2.4 幅 2.9 厚さ 0.3 重さ 2.02	埋没土中	石材積層粘板岩。	扁平形の石製成形品の未成品。片面に磨痕が見える。	
27	石葺 凹み石?	下端欠損	高さ 4.3 幅 2.0 厚さ 5.1 重さ 6.78	埋没土中	石材積層粘板岩。	表面全面に縁取があり、内側に丁寧に整形されている。表面の中央には磨痕が見える。裏面は磨かれている。	
28	石葺 有孔円板	実形	高さ 2.8 幅 3.6 厚さ 0.5 重さ 6.78	南東壁寄り 床面より18cm	石材積層粘板岩。	上端中央に1個の小孔がある。片面に磨痕が見える。	
29	石葺 有孔円板	実形	高さ 3.0 幅 2.6 厚さ 0.6 重さ 6.30	埋没土中	石材積層粘板岩。	中央に並んで2個の小孔がある。片面に磨痕が見える。	
30	石葺 有孔円板	破片	高さ 4.3 幅 4.0 厚さ 0.7 重さ 11.0	埋没土中	石材積層粘板岩。	扁平形の石製成形品の未成品。片面に磨痕が見える。	

111号住居出土遺物報告書 第43回・P.L130

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	土師器 坪	実形	断面 4.6 口径 13.3	南土	胎土砂粒・赤色粒を含む。 焼成酸化色。色調にぶい。	外周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。内周口縁部～底部取崩れ。	内側の厚減が著しい。
2	土師器 小笠椀	実形	断面 12.4 口径 15.8	中央やや南東 床面直上	胎土砂粒・小石を含む。 焼成酸化色。色調にぶい。	外周口縁部～底部取崩れ。底部～底部取崩れ。内周口縁部～底部取崩れ。体部～下半部取崩れ。	底部に直径2cmの穿孔がある。
3	土師器 小笠椀	ほぼ実形	断面 13.3 口径 14.4 底径 4.8	中央やや南東 床面より6cm	胎土砂粒・白色粒子を多く含む。 焼成酸化色。色調にぶい。	外周口縁部～底部取崩れ。体部上位傾方向取崩れ。中央～下半部方向取崩れ。底部取崩れ。内周口縁部～底部取崩れ。体部上半部方向取崩れ。下半部取崩れが著しい。	
4	土師器 小笠椀	ほぼ実形	断面 19.6 口径 17.7	竈突口部 使用直上	胎土砂粒・白色粒子を多く含む。 焼成酸化色。色調にぶい。	外周口縁部～底部取崩れ。体部上位～下半部方向取崩れ。下位斜め方向取崩れ。内周口縁部～底部取崩れ。体部傾方向取崩れ。	
5	土師器 壺	ほぼ実形	断面 30.1 口径 21.7 底径 4.5	竈突口部 使用直上	胎土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調。	外周口縁部～底部取崩れ。体部上位斜め方向取崩れ。中央部方向取崩れ。下部傾方向取崩れ。底部取崩れ。内周口縁部～底部取崩れ。体部～底部傾方向取崩れ。	

112号住居出土遺物報告書 第46回・P.L130、131

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	土師器 坪	ほぼ実形	断面 4.6 口径 11.1	東壁際	焼成酸化色。色調。	外周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。尾縁のミナズ。内周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。	
2	土師器 坪	実形	断面 4.7 口径 12.2	東壁際	胎土砂粒を含む。焼成酸化色。 色調にぶい。	外周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。内周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。	
3	土師器 坪	ほぼ実形	断面 4.8 口径 11.8	南西面 床面より4cm(壁直上)	焼成酸化色。色調にぶい。	外周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。内周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。	
4	土師器 坪	口縁～底部 5/6	断面 5.2 口径 12.30	東壁際 床面直上	焼成酸化色。色調。	外周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。内周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。指環による凹凸が少し残る。	
5	須恵器 蓋付の壺	実形	断面 4.9 口径 9.7	東壁際	胎土砂粒・小石を含む。 焼成酸化色。色調。	外周口縁部欠ナズ。底部取崩れ。内周口縁部～底部取崩れ。	
6	土師器 壺	体部下部～底部	断面 16.7 残存 底径 8.7	中央やや北東 床面直上	胎土砂粒・小石を含む。 焼成酸化色。色調。	外周体部下位傾方向取崩れ。内周体部下位傾方向取崩れ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
7	土師器 小壺	口縁～体部上段1/4	高さ 5.4 残存 口径 12.4	南西 床面上5.5cm	胎土に砂を多く含む。 焼成酸化色。色調に黄褐色。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部縦・斜め方向ナド。内面口縁部隆起ナド。体部縦方向隆起ナド。	
8	土師器 土師壺	口縁～底部 3/4 口径 17.1	高さ 31.1 口径 17.1 底径 7.0	南西 床面上	胎土に砂・小石を含む。 焼成酸化色。色調黒。	外面口縁部隆起ナド。頸部ナド。体部上半部の縦め方向隆起ナド。中位縦め方向ナド。下位斜め方向隆起ナド。腹下部・斜め方向隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部～底部隆起ナド。	
9	土師器 壺	口縁～底部 1/3	高さ 34.0 口径 17.4 底径 6.0	西面 床面上10.5cm	胎土に砂・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調に黄褐色。	外面口縁～頸部隆起ナド。頸部ナド。体部上半部の縦め方向隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部上段隆起ナド。	
10	土師器 壺	口縁～体部上段1/8	高さ 10.2 残存 口径 18.6	北東部 床面上19.3cm	胎土に砂・小石を含む。 焼成酸化色。色調灰白。	外面口縁～頸部隆起ナド。胎土質硬。体部上段隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部上段隆起ナド。	
11	土師器 壺	口縁～体部下段1/2	高さ 34.0 口径 17.2 底径 7.8	南西 床面上4.5cm	胎土に砂を多く含む。 焼成酸化色。色調黒。	口縁部隆起ナド。頸部縦め方向隆起ナド。体部上位～中位縦め方向隆起ナド。一部に縦め方向隆起ナド。下位斜め方向隆起ナド。腹下部隆起ナド。内面口縁部～頸部隆起ナド。体部～底部隆起ナド。	
12	石製 埴輪	下腹大頭	長さ 14.8 幅 6.2 高さ 5.4 重さ 650	西隅 床面上20cm	石材物産輝石安山岩。	断面三角形の埴輪状。断面は三角形の埴輪状。一面に刻彫痕の縦溝に覆われる。	
13	石製 埴輪	完整	高さ 15.1 幅 5.7 長さ 4.1 重さ 490	中央中や東寄り 床面上4cm	石材質安山岩。	断面三角形の埴輪状。一面に刻彫痕の縦溝に覆われる。	
14	石製 埴輪	完整	高さ 16.1 幅 13.9 長さ 7.3 重さ 2990	南東壁際 床面上	石材質イソライト。	断面長方形の大股方形埴輪。上面は覆われている。	
15	石製 埴輪	完整	高さ 10.2 幅 5.3 長さ 3.5 重さ 310	西隅 床面上18cm	石材質灰緑砂岩。	断面長方形の小埴輪。上下両面に磨面が残る。	

113号住居出土遺物観察表 第49、50図・P.L31、132

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	土師器 鉢	ほぼ完整	高さ 12.9 口径 22.8	中央部 床面上	胎土に砂・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調に黄褐色。	外面口縁部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。下半斜め方向隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部縦め方向隆起ナド。	
2	土師器 小壺	口縁～体部下段2/5	高さ 14.2 残存 口径 18.9	電気設備 床面上	胎土に砂・赤色粒を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部上位斜め方向隆起ナド。中位～下位口縁部隆起ナド。内面口縁部～頸部隆起ナド。体部縦め方向隆起ナド。	
3	土師器 壺	口縁～腹部破片	高さ 5.0 残存 口径 16.9	埋設土中	胎土に砂・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調明赤褐色。	外面口縁部隆起ナド。頸部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	
4	土師器 壺	口縁～体部上段2/3	高さ 5.1 残存 口径 22.0	電気設備貯蔵穴 床面上8.5cm	胎土に砂・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調に黄褐色。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。	
5	土師器 壺	口縁～体部中位1/8	高さ 13.3 残存 口径 22.4	南西壁際 床面上20.5cm	胎土に砂を少量含む。 焼成酸化色。色調明赤褐色。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。	
6	土師器 壺	体部下半～底部1/8	高さ 14.4 残存 口径 4.0	埋設土中	胎土に砂を多く含む。焼成酸化色。 色調に黄褐色。内面に黄褐色。	外面体部下段方角隆起ナド。底部隆起ナド。内面体部下段～底部隆起ナド。	
7	土師器 壺	口縁～体部上位	高さ 13.4 残存 口径 19.4	電気設備 使用面上14.5cm	胎土に砂・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調に黄褐色。内面黄褐色。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。上半部方角隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部縦め方向隆起ナド。	
8	土師器 壺	口縁～体部上半1/3	高さ 12.8 残存 口径 22.4	電気設備 使用面上6cm	胎土に砂・白色粒を含む。焼成酸化色。 色調に黄褐色。内面黄褐色。	外面口縁部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。上半部方角隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部縦め方向隆起ナド。	
9	土師器 壺	口縁～体部上位1/2	高さ 14.8 残存 口径 19.2	電気設備貯蔵穴 床面上12.5cm	胎土に砂・白色粒を多量に含む。 焼成酸化色。色調明赤褐色。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部上位方角隆起ナド。	
10	土師器 壺	口縁～体部 2/3	高さ 19.4 残存 口径 21.7	中央部 床面上2.5cm	胎土に砂・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調黒。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部縦め・縦め方向隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部縦め方向隆起ナド。	
11	土師器 壺	口縁～底部 2/3	高さ 38.1 口径 20.5 底径 3.0	電気口部 使用面上6cm	胎土に砂・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調黒。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部縦め・縦め方向隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部縦め方向隆起ナド。	
12	土師器 壺	ほぼ完整	高さ 37.6 口径 21.2 底径 4.6	電気口部 埋設	胎土に砂・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調黒。	外面口縁～頸部隆起ナド。体部縦・斜め方向隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部縦め方向隆起ナド。	
13	土師器 壺	口縁～体部下位	高さ 31.4 残存 口径 21.1	電気口部 床面上10cm	胎土に砂・白色粒・小石を含む。 焼成酸化色。色調に黄褐色。	外面口縁部隆起ナド。体部縦め・縦め方向隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。体部縦め方向隆起ナド。	
14	土師器 坪	ほぼ完整	高さ 4.2 口径 11.8	西隅 床面上25cm	焼成酸化色。色調に黄褐色。	外面口縁部隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	
15	土師器 坪	口縁～底部 3/4	高さ 3.8 口径 11.3	北東壁際 床面上8cm	胎土に砂を含む。焼成酸化色。 色調明赤褐色。	外面口縁部隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	
16	土師器 坪	口縁～底部 3/4	高さ 4.0 口径 11.2	南東壁際 床面上7cm	胎土に砂を含む。焼成酸化色。 色調に黄褐色。	外面口縁部隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	
17	土師器 坪	口縁～底部 3/4	高さ 4.0 口径 11.8	電気設備貯蔵穴 床面上11.5cm	胎土に砂・赤色粒を含む。 焼成酸化色。色調明赤褐色。	外面口縁部隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	
18	土師器 坪	口縁～底部 1/4	高さ 4.1 口径 11.6	中央部 床面上6cm	胎土に砂・赤色粒を含む。 焼成酸化色。色調に黄褐色。	外面口縁部隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	
19	土師器 坪	完整	高さ 4.5 口径 12.8	西東壁際 床面上22cm	焼成酸化色。色調黒。	外面口縁部隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	
20	土師器 坪	口縁～底部 1/4	高さ 4.5 口径 12.8	埋設土中	胎土に砂を含む。焼成酸化色。 色調に黄褐色。内面に黄褐色。	外面口縁部隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	
21	土師器 坪	口縁～底部 1/3	高さ 4.3 残存 口径 14.2	西隅 床面上18cm	胎土に砂・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁部隆起ナド。底部隆起ナド。内面口縁部隆起ナド。	

番号	種別	形状	寸法 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	彫形の特徴	備考
22	須恵器 壺	胴部～体部上位破片	高さ 4.0 残存	埋没土中	粘土砂粒・白色灰を含む。 焼成還元色。色調均一。内面灰。	外面平行ナメコ目文。内面同心円文。	
23	石器 棒状遺物	矢形	長さ 12.2 幅 4.4 厚さ 3.4 重さ 270	埋没土中	石材龍崎輝石安山岩。	断面風丸方形の棒状遺物。	
24	石器 棒状遺物	下端の一角を欠損	長さ 11.2 幅 5.2 厚さ 3.0 重さ 220	南東壁寄り 床面直上	石材ナット。	断面長方形の棒状遺物。	
25	石器 棒状遺物	矢形	長さ 12.0 幅 5.8 厚さ 3.7 重さ 320	南東壁寄り 床面直上	石材龍崎輝石安山岩。	断面方形の棒状遺物。	
26	石器 棒状遺物	矢形	長さ 14.1 幅 4.2 厚さ 2.9 重さ 240	南東壁寄り 床面直上3cm	石材黄斑緑岩。	断面棒状遺物の棒状遺物。片面に磨り面が残る。	
27	石器 球状磨石	矢形	長さ 7.6 幅 6.7 厚さ 4.7 重さ 190	北東壁寄り 床面直上4cm	石材内尻石安山岩。	断面楕円形の球状の磨石。	
28	石器 棒状遺物	矢形	長さ 13.1 幅 5.3 厚さ 3.3 重さ 320	埋没土中	石材黄斑安山岩。	断面三角形の棒状遺物。	
29	石器 棒状遺物	矢形	長さ 14.5 幅 6.4 厚さ 4.8 重さ 410	中央部 床面直上2cm	石材龍崎輝石安山岩。	断面楕円形の棒状遺物。	
30	石器 棒状遺物	矢形	長さ 12.9 幅 7.3 厚さ 4.0 重さ 320	南東壁寄り 床面直上1.5cm	石材ひん岩。	断面が扁平な方形の小棒。下端が割れている。	
31	石器 棒状遺物	矢形	長さ 11.4 幅 5.4 厚さ 3.9 重さ 330	電筒 床面直上3cm	石材龍崎輝石安山岩。(片目川)	断面風丸方形の棒状遺物。	
32	石器 焼門形器	土層欠損	長さ 13.0 幅 8.9 厚さ 3.5 重さ 350	床面直上3cm	石材石炭質緑岩。	楕円形の扁平な円筒形の石籠。側面に縦打痕が集中して認められ、貼られている。	
33	石器 二次加工ある製刀	矢形	長さ 5.4 幅 4.5 厚さ 8.0 重さ 25.74	埋没土中上層	石材黒色頁岩。	大型製刀を型とらし、主要部磨削面と背面側の両方に二次加工痕が認められる。	

114号住居出土遺物報告書 第32、33回・F L 132

番号	種別	形状	寸法 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	彫形の特徴	備考
1	土師器 杯	矢形	高さ 4.5 口径 12.8	北東壁寄り 床面直上4cm	粘土砂粒を含む。焼成還元色。 色調均一。	外面口縁部磨きナメ。底面磨り。内面口縁～底面丁寧ナメ。	
2	土師器 杯	口縁～底面 1/5	高さ 4.0 残存 口径(13.4)	北東壁寄り 床面直上	粘土砂粒を含む。焼成還元色。 色調にばらつき。	外面口縁部磨きナメ。底面磨り。内面口縁～底面磨きナメ。	
3	土師器 杯	口縁～底面 1/4	高さ 4.0 残存 口径(13.1)	北東壁寄り 床面直上	粘土砂粒を含む。焼成還元色。 色調均一。	外面口縁部磨きナメ。底面磨り。内面口縁～底面丁寧ナメ。	
4	土師器 杯	体部下位破片	高さ 2.5 残存 径(10.7)	南東壁寄り 床面直上1.5cm	南東壁寄り 粘土砂粒を含む。焼成還元色。 色調均一。	外面体部下位方向に磨り。内面体部下位方向ナメ。磨り方向磨きナメ。	
5	石器 磨石	矢形	長さ 2.4 幅 1.4 厚さ 0.5 重さ 1.1	埋没土中	石材ナット。	石籠の一部に素材片の残存が認められる。	
6	石器 磨石	矢形	長さ 15.3 幅 10.0 厚さ 7.2 重さ 1510	北東壁寄り 埋没土中	石材龍崎輝石安山岩。	断面楕円形のやや大型の磨石。上面部に縦打痕が集中して付けられており、磨がつぶれている。下端の一部にも縦打痕がある。	
7	石器 棒状遺物	矢形	長さ 11.9 幅 5.1 厚さ 2.5 重さ 130	電筒 床面直上1.5cm	石材龍崎輝石安山岩。	断面楕円形の棒状遺物。	
8	石器 棒状遺物	矢形	長さ 10.3 幅 4.9 厚さ 3.7 重さ 320	北東壁寄り 床面直上	石材石炭質緑岩。	断面風丸三角形の棒状遺物。	
9	石器 棒状遺物	矢形	長さ 11.6 幅 4.7 厚さ 4.6 重さ 360	中央部 床面直上3.5cm	石材龍崎輝石安山岩。	断面三角形の棒状遺物。	
10	石器 棒状遺物	矢形	長さ 11.9 幅 5.8 厚さ 2.7 重さ 320	南東壁寄り 床面直上	石材ひん岩。	断面風丸方形の棒状遺物。	
11	石器 棒状遺物	矢形	長さ 12.0 幅 5.7 厚さ 4.5 重さ 450	埋没土中	石材龍崎輝石安山岩。	断面方形の棒状遺物。	
12	石器 棒状遺物	矢形	長さ 11.3 幅 4.6 厚さ 4.9 重さ 360	南東壁寄り 床面直上	石材黄斑安山岩。	断面方形の棒状遺物。	
13	石器 棒状遺物	矢形	長さ 12.4 幅 5.6 厚さ 3.8 重さ 310	南東壁寄り 埋没土直上2.5cm	石材石炭質緑岩。	断面三角形の棒状遺物。	
14	石器 棒状遺物	矢形	長さ 12.0 幅 6.3 厚さ 2.8 重さ 330	東側部 床面直上5cm	石材黄斑安山岩。	扁平な小棒。	
15	石器 棒状遺物	矢形	長さ 13.1 幅 5.4 厚さ 4.8 重さ 410	電筒 床面直上	石材ひん岩。	断面方形の棒状遺物。	
16	石器 棒状遺物	半欠	長さ 9.0 幅 5.9 厚さ 4.5 重さ 330	中央や中西寄り 床面直上13.5cm	石材石炭質緑岩。	断面楕円形の棒状遺物。	
17	石器 棒状遺物	矢形	長さ 13.4 幅 5.9 厚さ 4.2 重さ 450	南東壁寄り 床面直上	石材龍崎輝石安山岩。	断面方形の棒状遺物。	
18	石器 棒状遺物	矢形	長さ 12.7 幅 5.8 厚さ 4.2 重さ 450	南東壁寄り 床面直上	石材龍崎輝石安山岩。	断面方形の棒状遺物。	
19	石器 棒状遺物	矢形	長さ 13.8 幅 5.3 厚さ 3.4 重さ 340	北東壁寄り 床面直上	石材黄斑安山岩。	断面楕円形の棒状遺物。	
20	石器 棒状遺物	矢形	長さ 16.2 幅 7.2 厚さ 4.4 重さ 770	中央や中西寄り 床面直上16cm	石材ひん岩。	断面楕円形のやや大型の棒状遺物。	
21	石器 円錐	矢形	長さ 12.0 幅 7.8 厚さ 6.4 重さ 600	中央部 床面直上8cm	石材龍崎輝石安山岩。	断面方形の大型遺物。	
22	石器 磨石	上端欠損	長さ 12.3 幅 6.6 厚さ 3.1 重さ 380	中央部や中西寄り。 床面直上	石材砂岩。	扁平な楕円形の石籠。片方の側面から下面にかけて縦打痕が集中する。	
23	石器 磨石	矢形	長さ 11.2 幅 7.0 厚さ 2.9 重さ 320	北東壁寄り 床面直上	石材龍崎輝石安山岩。	扁平な楕円形の石籠。側面と上下面の一部に縦打痕が集中する。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

115号住居出土遺物観察表 第54図・P.L33, 132

番号	種別	形状	法量 (cm)	出土位置	土土・焼成・色調・石材質	彫刻の特徴	備考
1	土師器	ほぼ円形	器高 4.6 口径 11.7	甕石籠 床直面上	甕石籠 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	
2	土師器	ほぼ円形	器高 3.9 口径 11.6	甕石籠の甕穴 甕直上13cm	甕石籠の甕穴 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部ナ。	
3	土師器	口縁～底部 1/5	器高 3.8残存 口径(11.2)	甕石籠の甕穴 甕直上13cm	甕石籠の甕穴 粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・藍物粒を含む。焼成酸化色調。黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	内黒。外面も黒色。
4	土師器	口縁～底部 1/3	器高 3.5残存 口径(11.2)	甕石籠の甕穴 甕直上10cm	甕石籠の甕穴 粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・藍物粒を含む。焼成酸化色調。赤褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	
5	土師器	口縁～体部下位1/2	器高 25.2残存 口径(18.2)	甕石籠 床直面上	甕石籠 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。赤褐色。	外面口縁部～腹部隆ナド。体部縦・斜め方向既用ナド。内面口縁～腹部隆ナド。体部縦方向隆ナド。	
6	土師器	口縁～体部下位1/6	器高 25.0残存 口径(18.6)	甕石籠・貯蔵穴 貯蔵直面上	甕石籠・貯蔵穴 粘土砂粒を多量に含む。焼成酸化色調。黄褐色。	外面口縁～腹部隆ナド。体部縦・斜め方向既用ナド。内面口縁～腹部隆ナド。体部縦方向隆ナド。	
7	土師器	体部下位～底部	器高 3.8残存 口径 5.8	埋込土中	埋込土中 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。赤褐色。	外面体部下位斜め方向隆ナド。底部既用ナド。内面口縁の方向ナ。	
8	黄瀬器	体部破片	高さ 6.1残存 厚さ 0.9	埋込土中	埋込土中 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。	外面平行方向ナ。内面同心円ナクナ。	
9	石籠	笠形	高さ 4.5 幅 4.3 重さ 63.33	中央部	中央部 石籠破片。	上面と下面には縦筋が残る。側面は磨かれています。	
10	石籠	棒状	高さ 18.0 幅 9.1 厚さ 5.6 重さ 1250	埋込土中	埋込土中 石籠破片。縦筋あり。(黄目)	断面三角形の中大平型の磯。	全面縦筋。
11	石籠	笠形	高さ 11.9 幅 6.1 厚さ 2.6 重さ 240	南面 床直上34.5cm	南面 石籠破片。縦筋あり。	断面菱形の小型磯。	

116号住居出土遺物観察表 第55図・P.L33, 134

番号	種別	形状	法量 (cm)	出土位置	土土・焼成・色調・石材質	彫刻の特徴	備考
1	土師器	口縁～底部 1/8	器高 4.2残存 口径(11.2)	北西側壁 床直上5.5cm	北西側壁 焼成酸化色調。黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	
2	土師器	口縁～底部 1/8	器高 4.2残存 口径(11.9)	南東側の甕穴 甕直上	南東側の甕穴 粘土砂粒・赤色粒を少量含む。焼成酸化色調。赤褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	
3	土師器	口縁～底部 1/4	器高 4.6 口径(11.7)	西側 床直上17cm	西側 焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	外面に黒焼。
4	土師器	笠形	器高 4.5 重さ 63.33	南東側壁 甕直上8cm	南東側壁 粘土赤色粒が多量に含む。焼成酸化色調。黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	
5	土師器	口縁～底部 1/5	器高 4.8残存 口径(12.1)	南西側 床直上17cm	南西側 粘土砂粒・赤色粒を少量含む。焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。ナ。内面口縁部～直下隆ナドナ。	
6	土師器	口縁～底部 2/3	器高 4.7 口径 12.4	内側壁 床直上6cm	内側壁 粘土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化色調。黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	
7	土師器	口縁～底部 1/3	器高 3.9残存 口径 14.2	北西側壁 床直上5.5cm	北西側壁 粘土砂粒・赤色粒を少量含む。焼成酸化色調。黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁～底部下ナドナ。	
8	土師器	胴部のみ	器高 4.8残存	北西側壁 床直上4.5cm	北西側壁 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。赤褐色。	外面口縁部隆ナド。内面口縁部隆ナド。斜め方向隆ナドナ。	
9	土師器	外部 1/4	器高 4.3残存 口径(20.4)	南東側の甕穴北 床直上7.5cm	南東側の甕穴北 焼成酸化色調。色調黄褐色。	内外面下ナドナ。外周既用ナド既用ナド。その上に赤色彫刻の残存あり。内面彫刻は、その上に赤色彫刻の残存がある。	
10	土師器	胴部 1/2	器高 4.8残存 口径(9.7)	北西側壁 床直上5.5cm	北西側壁 粘土砂粒を少量含む。焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面口縁部隆ナド。内面口縁部隆ナドナ。彫刻ナ。	
11	土師器	外部 1/4	器高 6.8残存 口径(14.0)	中央部 床直上17cm	中央部 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。	外面口縁部隆ナド。体部下位隆ナド。胴部ナ。内面口縁部隆ナド。内面口縁部隆ナドナ。	
12	黄瀬器	口縁～底部 1/4 (受部欠)	器高 3.8残存	南東部 床直上4.5cm	南東部 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。	外面口縁部隆ナド。内面口縁部隆ナドナ。内面口縁部隆ナドナ。	
13	土師器	体部下位～底部1/4	器高 2.7残存 口径(6.9)	南東側の甕穴北 甕直上9.5cm	南東側の甕穴北 粘土砂粒・白色粒を含む。全体に砂粒が混入。焼成酸化色調。赤褐色。	外面体部下位斜め・斜め方向隆ナド。底部既用ナド。内面口縁部隆ナドナ。	
14	土師器	体部下位～底部	器高 2.9残存 口径 6.4	南東側の甕穴北 甕直上4cm	南東側の甕穴北 粘土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化色調。色調黄褐色。内面黒。	外面体部下位斜め方向隆ナド。底部既用ナド。内面口縁部隆ナド。斜め方向隆ナドナ。	
15	土師器	口縁～体部下位1/4	器高 6.5残存 口径(12.0)	南西側穴確認部 口径(12.0)	南西側穴確認部 粘土砂粒を多く含む。焼成酸化色調。赤褐色。	外面口縁部隆ナド。体部下位隆ナド。内面口縁部隆ナド。内面口縁部隆ナドナ。	
16	土師器	口縁～体部下位1/8	器高 7.6残存 口径(18.0)	南東側の甕穴北 甕直上4.5cm	南東側の甕穴北 粘土砂粒・白色粒を多く含む。小石を少量含む。焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面口縁部隆ナド。底部既用ナド。内面口縁部隆ナド。体部下位隆ナドナ。	
17	土師器	ほぼ円形	器高 16.0 口径 16.1	南東側壁 床直上5cm	南東側壁 粘土砂粒が多く含む。焼成酸化色調。色調黄褐色。内面黒。	外面口縁部隆ナド。体部縦・斜め方向隆ナド。内面口縁部隆ナド。内面口縁部隆ナドナ。	
18	土師器	口縁～体部下位1/8	器高 10.8残存 口径(25.2)	南東側壁 口径(25.2)	南東側壁 粘土砂粒・赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面口縁部隆ナド。体部下位隆ナド。内面口縁部隆ナド。体部縦方向隆ナドナ。	
19	土師器	口縁～体部下位1/4	器高 13.8残存 口径(21.3)	南東側の甕穴北 甕直上	南東側の甕穴北 粘土砂粒・小石が少量混じり。砂粒よくわかる。焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面口縁部隆ナド。体部下位隆ナド。内面口縁部隆ナド。体部下位隆ナドナ。	
20	土師器	ほぼ円形	器高 15.3 口径 14.4 底径 5.6	南東側壁 床直上4cm	南東側壁 粘土砂粒。焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面口縁部隆ナド。体部縦・斜め方向隆ナド。内面口縁部隆ナド。内面口縁部隆ナドナ。	
21	土師器	体部下半～底部1/8	器高 12.4残存 口径 6.9	南東側壁直上 30.5cm(埋込土中上縁に敷)	南東側壁直上 粘土砂粒・赤色粒を含む。焼成酸化色調。色調黄褐色。	外面体部下半隆ナド。底部隆ナド。内面口縁部隆ナド。内面口縁部隆ナドナ。	
22	土師器	口縁～体部下位1/2	器高 30.8残存 口径(19.4)	南東側壁 床直面上	南東側壁 粘土砂粒を含む。焼成酸化色調。赤褐色。内面黒。	外面口縁部隆ナド。体部下位～下半隆ナド。内面口縁部隆ナド。体部縦方向隆ナドナ。	

番号	種別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材等	彫形の特徴	備考
23	瓦葺器	体部破片	縦高 9.0残存	南西部 床面上22.5cm	胎土砂粒を含む。焼成還元焼。 色調明白。	外面平行タテキ。内面同心円タテキ後、指ナゲ。	
24	土製品 土罐	一底欠損	高さ 3.4残存 幅 1.5 重さ 8.02	南西部 床面上28cm	焼成酸化焼。色調明白。		
25	石製 彫形転石	完整	長さ 10.3 幅 19.7 厚さ 6.6 重さ 290	中央部 床面上40cm	石材ニツ石転石。	断面三角形の転石。	

117号住居出土遺物報告表 第64回 - P.134

番号	種別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材等	彫形の特徴	備考
1	土師器 埴	完整	縦高 4.5 口径 11.4	竈右脇 床面上部	胎土砂粒を含む。焼成酸化焼。 色調明赤焼。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁部一底面丁寧ナゲ。	
2	土師器 埴	口縁一底面上位1/2 残存	縦高 6.3残存 口径 (20.3)	竈右脇貯蔵穴内 底面上8cm	胎土砂粒を多く含む。 焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。体部縦方向磨削り。内面口縁部破片ナゲ。体部横方向磨削り。	
3	土師器 埴	体部 1/3	縦高 18.9残存	竈右脇貯蔵穴内 底面上8cm	胎土砂粒・粘土が見え入る。 焼成酸化焼。色調に白焼。	外面体部上半部方向磨削り。下位斜め方向磨削り。内面体部斜め方向磨削り。	
4	土師器 埴	体部下位一底面 残存	高さ 3.3残存 直径 4.2	北東部 床面上5.5cm	胎土砂粒・白色粒を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面体部下位斜め方向磨削り。底面本葉状の残り。無磨削。内面底面・斜め方向磨削り。	
5	円筒輪埴 円筒	高さ底面破片	縦高 6.2残存	埋設中	胎土砂粒を多く含む。 焼成酸化焼。色調明赤。	外面腹(ハク本)3cm。内面磨削りナゲ。底面平出。	
6	石製 磨削器	下底欠損	長さ 12.1 幅 5.4 厚さ 1.9 重さ 195	南東壁寄り 床面上3cm	石質磨削石片片断。	断面が扁平で、鋭い縁状。	

95号住居出土遺物報告表 第63回 - P.134

番号	種別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材等	彫形の特徴	備考
1	土師器 埴	口縁一底面欠損	縦高 5.2 口径 12.4	竈右前 床面上部	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。 内面磨削。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。
2	土師器 埴	口縁一底面 1/5	縦高 4.4残存 口径 (12.3)	竈右脇 床面上 8.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。内面磨削。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。
3	土師器 埴	口縁一底面破片	縦高 3.3残存 口径 (11.0)	東壁部 床面上18cm	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調明赤。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。
4	土師器 埴	口縁一底面 1/4	縦高 4.4残存 口径 (11.7)	竈焼坑部中央 使用面上8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。 穿孔されていない穴あり。
5	土師器 埴	口縁一底面破片	縦高 4.2残存 口径 (12.3)	北東部 床面上12.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調に白焼。内面磨削。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。
6	土師器 埴	口縁破片	縦高 3.8残存 口径 (18.4)	東部 床面上7cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調に白焼。	内外面口縁部破片ナゲ。	
7	土師器 埴	口縁一底面上位破片	縦高 8.7残存 口径 (17.1)	竈右脇床面上8cm 北東部床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。体部上位部・斜め方向磨削り。内面口縁部破片ナゲ。底面上位部方向磨削り。	

109号住居出土遺物報告表 第64回 - P.134, 135

番号	種別	残存	寸法 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調・石材等	彫形の特徴	備考
1	土師器 埴	半球完整	縦高 5.7 口径 11.9	東西部 床面上部	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成酸化焼。色調明赤。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁部破片ナゲ。底面丁寧ナゲ。一部に磨削が残る。	丸底。
2	土師器 埴	口縁一底面 3/4	縦高 6.4 口径 (15.0)	竈口部 使用面上部	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。 外側スス付。
3	土師器 埴	口縁一底面 1/2	縦高 6.9 口径 (12.8)	竈口部	胎土赤色粒・白色粒・鉱物粒・小石を少量含む。焼成酸化焼。色調明赤。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。
4	土師器 埴	口縁一底面 1/3	縦高 5.7 口径 (13.5)	竈左壁上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調明赤。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。
5	土師器 埴	口縁一底面 1/2	縦高 5.7 口径 (13.5)	竈左壁上	胎土赤色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。 外側スス付。
6	土師器 埴	口縁一底面破片	縦高 5.5残存 口径 (12.8)	埋設中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成酸化焼。色調に白焼。内面明赤焼。	外面口縁部破片ナゲ。底面磨削り。内面口縁一底面丁寧ナゲ。	丸底。
7	土師器 埴	口縁一底面 1/5	縦高 7.3残存	竈左壁上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。内面磨削。	外面口縁部破片ナゲ。体部一底面磨削り。外側ナゲ。割線が著しく、彫形不明。内面口縁部破片ナゲ。体部一底面丁寧ナゲ。	外面割線。
8	土師器 台付甕	口縁一体部下位4/5	縦高 17.1残存 口径 14.9	南内壁部 床面上部	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒・小石を多く含む。焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。体部上位部方向磨削り。中位部方向磨削り。下位部方向磨削り。一部に磨削・斜め方向ナゲ。内面口縁部破片ナゲ。体部横方向磨削り。下半部一底面には斜め方向磨削りナゲ。	外面スス付。
9	土師器 埴	口縁一底面 5/6	縦高 27.8 口径 18.3 底径 5.7	南西部 床面上部	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。体部縦方向磨削り。内面口縁部破片ナゲ。体部縦方向磨削り。	外面スス付。
10	土師器 埴	口縁一底面 1/4	縦高 16.2残存 口径 (16.7)	東部 床面上部21cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。体部縦方向磨削り後、内面口縁部破片ナゲ。体部上位部方向磨削り。中位部方向磨削り。	外面スス付。
11	土師器 埴	口縁一底面 5/6	縦高 32.9 口径 17.5 底径 6.3	竈焼坑部 支脚上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調に白焼。	外面口縁部破片ナゲ。体部上位部方向磨削り。中位部斜め方向磨削り。一部に横方向ナゲ。下位部方向磨削り。内面口縁部破片ナゲ。体部横方向磨削り。	外面スス付。
12	土師器 埴	口縁一底面 4/5	縦高 32.2 口径 18.2 底径 7.4	竈口部 使用面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成酸化焼。色調明赤。	外面口縁部破片ナゲ。体部上半部ナゲ。胎土磨削り。中位部方向磨削り。下半部方向磨削り。底面ナゲ。内面口縁部破片ナゲ。体部横方向磨削り。	内外面スス付。
13	土製品 支脚	完整	縦高 11.2 上径 8.4 下径 7.6	竈焼坑部中央 使用面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。焼成酸化焼。色調明赤。	外面平坦に丁寧ナゲに磨削り。内面上半部胎土の磨削り跡が顕著に残る。下半部ナゲ。上端・下端とも面に平滑にナゲられている。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

101号住居出土遺物観察表 第66回・P.L135

番号	種類	残存	数量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材質	形状の特徴	備考
1	土師器 杯	口縁～底部	1/2 高さ 5.4 口径(11.4)	甕石編み壁 床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調におい赤焼。内面明赤焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り。内面口縁～底部窪射貫穿孔。	丸底。
2	土師器 杯	口縁～底部	1/4 高さ 5.4残存 口径(11.9)	甕石前	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部破ナド。体部上半部方向ハケム。下半部方向平ナド。底部窪入り。内面口縁破ナド。体部～底部窪方向窪入り。	丸底。
3	土師器 杯	口縁～底部	1/4 高さ 4.7残存 口径(11.7)	甕石方壇段土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化焼。色調焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り。内面口縁～底部ト平ナド。	丸底。
4	土師器 杯	口縁～底部	1/5 高さ 4.5残存 口径(11.5)	甕石壁面上 使用面上上	胎土赤色粒・白色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調におい赤焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り。内面口縁～底部ト平ナド。	丸底。 内外面スス付着。
5	土師器 鉢	口縁～底部	1/5 高さ 6.4 口径(13.5) 底径(5.2)	甕石段土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調焼。	外面口縁部破ナド。体部窪方向窪入り。内面口縁部破ナド。体部窪方向窪ナド。	丸底。
6	土師器 鉢	口縁～体部上位破片	高さ 3.1残存 口径(12.5)	甕石壁面石籠 甕石段土中5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部破ナド。体部斜め方向ハケム。内面口縁部破ナド。体部窪方向ハケム。	丸底。
7	土師器 杯	口縁～底部	1/4 高さ 4.8残存 口径(11.7)	甕石段土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り。内面口縁部～体部窪～斜め方向窪ナド。	丸底。
8	土師器 埴	口縁欠損	高さ 11.0残存	甕内	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面体部上位窪方向窪入り。上半～中位窪方向ナド。下半部～斜め方向ナド。内面体部上半部方向ナド。下半部方向ナド。	丸底。 内外面スス付着。
9	土師器 甕	口縁～体部上位/4	高さ 11.0残存 口径(25.0)	甕壁壁面 中央～北部 床面上上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部破ナド。体部上半部方向窪入り。下半部方向ナド。内面口縁部破ナド。体部上位窪方向窪入り。	丸底。
10	土師器 甕	体部中位～底部	高さ 6.8残存 底径(7.4)	北部 床面上上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒・小石を多く含む。焼成酸化焼。色調におい焼。内面におい焼。	外面体部中位窪方向窪入り後。斜め・下方方向窪ナド。下半部窪方向窪ナド。内面体部～底部ト平ナドになっているが、方向・単位は不明。	丸底。

103号住居出土遺物観察表 第67回・P.L135

番号	種類	残存	数量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材質	形状の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁～体部上位破片	高さ 5.6残存 口径(15.0)	甕壁面 床面上上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部破ナド。底部斜め方向ナド。体部上位窪方向窪ナド。内面口縁部破ナド。体部上位窪方向窪ナド。	内外面スス付着。
2	土師器 甕	口縁～体部	1/4 高さ 21.7残存 口径(19.0)	甕壁面 床面上上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒。色調明赤焼。	外面口縁部～底部窪破ナド。体部上半部方向窪入り。下半部ハケム枝の工造成形。下半部方向ナド。内面口縁部破ナド。体部窪方向窪ナド。	内外面スス付着。

104号住居出土遺物観察表 第70回・P.L135、136

番号	種類	残存	数量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材質	形状の特徴	備考
1	土師器 杯	完整	高さ 6.2 口径 12.2	甕前 床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り後。内面口縁部破ナド。下半～底部窪入り後ナド。内面口縁部破ナド。体部～底部窪破ナド後。放射状貫穿孔。	丸底。
2	土師器 杯	完整	高さ 5.3 口径 12.4	甕左壁面壁 床面上上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調におい赤焼。	外面口縁部破ナド。体部上位窪方向ナド。下半部窪入り。窪入り。内面口縁部破ナド。体部～底部窪ト平ナドされているが体部窪所および窪底あり。単位、方向不定不明。	丸底。 外面スス付着。
3	土師器 杯	口縁部破片	高さ 5.5残存 口径(11.8)	甕右方壇段土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部破ナド。内面口縁部破ナド貫穿孔。	丸底。
4	土師器 杯	ほぼ完整	高さ 5.5 口径 14.4	中央部 床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調におい赤焼。内面明赤焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り。内面口縁部～底部ト平ナド。	丸底。内外面にスス付着。口縁部に一部工具の文様が有る。
5	土師器 杯	口縁～底部	3/4 高さ 5.8 口径(13.7)	中央部 床面上2cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調におい赤焼。内面明赤焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り後。窪入り。内面口縁部～底部ト平ナド。	丸底。 内外面スス付着。
6	土師器 杯	口縁～底部	7/8 高さ 5.6 口径 13.4	北西部 床面上上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入りおよび窪入り後。窪入り。内面口縁部～底部ト平ナド。	丸底。 内外面スス付着。
7	土師器 杯	口縁～底部	4/5 高さ 6.6 口径 14.2	甕壁壁面 床面上26cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調焼。	外面口縁部破ナド。体部～底部窪入り後。窪入り。内面口縁部破ナド。内面口縁部～底部ト平ナド。体部窪方向窪ナド。底部ト平ナド。	丸底。 内外面スス付着。
8	土師器 杯	口縁～底部	1/5 高さ 5.1残存 口径(12.5)	西部 床面上28cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調におい赤焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り後。窪入り。内面口縁部～底部ト平ナド。	丸底。 内外面スス付着。
9	土師器 杯	口縁～底部	1/7 高さ 3.7残存 口径(12.3)	西側壁面 床面上21cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調焼。	外面口縁部破ナド。底部窪入り。内面口縁部～底部ト平ナド。	丸底。
10	土師器 杯	口縁～体部破片	高さ 3.8残存 口径(14.0)	壇段土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。内面明赤焼。	外面口縁部破ナド。体部窪入り後。窪入り。内面口縁部～体部窪～下方方向窪ナド。	丸底。
11	土師器 甕	杯部の破片	高さ 4.6残存 口径(19.8)	壇段土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部破ナド。杯部ナド。内面口縁部～杯部窪方向窪入り後。下方方向窪ナド。	内外面スス付着。
12	土師器 鉢	口縁～体部下位1/5	高さ 10.3残存 口径(18.2)	西部 床面上17cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調におい赤焼。	外面口縁部破ナド。体部窪入り後。ナド。内面口縁部破ナド。体部窪入り後。	内外面スス付着。
13	土師器 埴	ほぼ完整	高さ 14.5 口径 8.3 底径 3.0	甕壁壁面中央 使用面上11cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・灰物粒。色調焼。	外面口縁部～体部上位窪ナド。内面中位窪・斜め方向ナド。底部窪入り。内面口縁部破ナド。体部不明。	内外面スス付着。

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	彫刻の特徴	備考
14	土師器 小笠型	口縁～底部 5/6	器高 15.8 口径 12.4 底径 5.2	中央部 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁～縁部隆起ナズ。体部上平縁方向ナズ。下半縁方向ナズ。中央に寛肩のナズ眼がある。底面直削り。内面口縁部隆起ナズ。体部縦方向ナズ。	内外面スス付着。
15	土師器 環	体部中央～直部1/4 底径 7.5	器高 22.3残存 底径 7.5	南東部 床面上14cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面体部中央～下位縁方向ハケム。縁下部方向ハケム。底面直削り。内面体部中央縦方向ナズ。縦方向ナズ。下位縁方向ハケム。直部ナズ。	外面スス付着。
16	石器 石製細石	完全	長さ 4.9 幅 2.3 厚さ 0.4 重さ 8.25	北側壁寄り 床面上11cm	石材滑石。	縦石製細石。上方中央に縦に2個並んだ小穴を有する。	
17	石器 石鉢	先端部欠損	長さ 1.8 幅 1.7 厚さ 0.3 重さ 0.69	埋設土中	石材ぎよくぎい。	先端部欠損。石製として使用時の使用制御の可能性有り。	

141号土坑出土遺物整理表 第71図・P.L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	彫刻の特徴	備考
1	土師器 杯	口縁～底部 1/2	器高 4.3 口径(12.4)	北側壁部 床面上11cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。底面直削り。内面口縁部～直部丁寧ナズ。	丸底。
2	土師器 杯	口縁～底部 4/5	器高 5.8 口径(12.4)	中央部 床面上18cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。底面直削り。寛ナズ。一部磨いたように平滑になっている。内面口縁部～直部丁寧ナズ。	丸底。

A 2区土師器より出土遺物整理表 第72、73図・P.L136、137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	彫刻の特徴	備考
1	土師器 杯	口縁～底部 1/2	器高 4.8残存 口径(11.2)	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。底面直削り。内面口縁部～直部丁寧ナズ。	丸底。 内外面スス付着。
2	土師器 杯	完全	器高 4.6 口径 12.3	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。一部に胎土被覆残存。直部底面直削り。内面口縁部～直部丁寧ナズ。	丸底。
3	土師器 高杯	口縁～底部 4/5	器高 9.7 口径(11.8) 底径 8.5	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。環部～斜め内縁ナズ。上部ナズ。環部との接合部斜め・縦方向内縁ナズ。頸部ナズ後。縦方向内縁ナズ。下部隆起ナズ。内面口縁隆起ナズ。環部ナズ後。放射状寛肩ナズ。寛肩縦方向ナズ。下部隆起ナズ。	内外面スス付着。
4	土師器 高杯	口縁～底部 4/5	器高 10.0 口径 12.0 底径 8.8	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。環部～斜め内縁ナズ。頸部隆起・斜め方向ナズ。下部隆起ナズ。内面口縁隆起ナズ。環部ナズ後放射状寛肩ナズ。下部隆起ナズ。	内外面スス付着。
5	土師器 高杯	环直部～胴部	器高 6.1残存 底径 9.2	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁上平縁方向隆起ナズ。中央縦方向内縁ナズ。下部隆起ナズ。内面口縁上平縁方向ナズ。下半縁ナズ。	内外面スス付着。
6	土師器 高杯	环直部～胴部	器高 5.5残存	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁部～肩隆起方向ナズ。内面環部ナズ。環部上平縁方向ナズ。下半縁ナズ。	内外面スス付着。
7	土師器 環	ほぼ完全	器高 16.7 口径 11.5 底径 4.5	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ後。縦方向内縁ナズ。頸部隆起ナズ。体部上位縁方向隆起ナズ。中央縦方向内縁ナズ。下部隆起ナズ。内面口縁隆起ナズ。底面直削り。体部縦方向ナズ。	内外面スス付着。
8	土師器 環	ほぼ完全	器高 13.5 口径 19.4 底径 5.3	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。体部上位～中央縦方向内縁ナズ。下部隆起ナズ。内面口縁隆起ナズ。体部上位～下位縁方向ナズナズ。	内外面スス付着。
9	土師器 環	口縁～体部下位2/3	器高 20.8残存 口径(19.0)	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。体部上位～中央縦方向内縁ナズ。体部中央～下位縁方向隆起ナズ。底面直削り。内面口縁隆起ナズ。体部上位～下位縁方向ナズナズ。	内外面スス付着。
10	土師器 環	完全	器高 33.8 口径 16.6 底径 5.5	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。体部上位縦方向内縁ナズ。体部中央～下位縁方向隆起ナズ。底面直削り。内面口縁隆起ナズ。体部上位～下位縁方向ナズナズ。	スス付着。
11	土師器 環	口縁～体部上平1/4	器高 10.5残存 口径(18.2)	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。体部上平縁方向内縁ナズ。内面口縁隆起ナズ。体部縦方向ナズ。	内外面スス付着。
12	土師器 環	口縁～体部上位破片	器高 9.4残存 口径(23.8)	V-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。体部上平縁方向内縁ナズ。内面口縁隆起ナズ。体部上平縁方向ナズ。	内外面スス付着。
13	土師器 環	口縁～体部上位破片	器高 8.3残存 口径(22.0)	V-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。体部上平縁方向内縁ナズ。内面口縁隆起ナズ。体部上平縁方向ナズ。	内外面スス付着。
14	土師器 小笠型	口縁～体部中央破片	器高 5.3残存 口径(14.2)	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面口縁隆起ナズ。体部上平縁方向内縁ナズ。内面口縁隆起ナズ。体部上平縁方向ナズ。	内外面スス付着。
15	須恵器 環	体部破片	器高 5.9残存	V-37G	胎土赤色粒・黒色粒・鉱物粒を含む。 焼成還元焼。色調赤褐色。	外面平行タテタテ。内面同心タテタテ。後。押さよ。	
16	須恵器 環	体部破片	器高 6.3残存	V-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成還元焼。色調赤褐色。	外面平行タテタテ。内面同心タテタテ。	
17	須恵器 環	口縁破片	器高 7.3残存	V-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成還元焼。色調赤褐色。	外面口縁部に3単位前後の縦筋状文を2段 施す。内面隆起ナズ。	
18	土師器 環	口縁～体部上位1/4	器高 13.3残存 口径(22.7)	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調 赤褐色。	外面口縁部～縁部隆起ナズ。一部に胎土被覆残存。体部上位縁方向ナズ。一部に縦方向内縁ナズ。内面口縁隆起ナズ。体部縦方向内縁ナズ後。縦方向内縁ナズ。	スス付着。
19	土師器 環	体部下位～底部1/2	器高 11.1残存 口径(9.8)	W-36G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成還元焼。色調赤褐色。	外面体部下位縦方向内縁ナズ。環下部縦方向ナズ。内面体部下位縦方向内縁ナズ後。縦方向内縁ナズ。下部隆起ナズ。	
20	土師器 小笠型	体部中央～直部1/4	器高 8.1残存 底径 5.8	W-37G	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・鉱物 粒を含む。焼成酸化焼。色調赤褐色。	外面体部中央縦方向内縁ナズ。下位縁方向内縁ナズ。内面体部～底面縦方向ナズ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
21	土師器 環	体部下下～底部1/2	器高 8.3残存 口径 7.1	V-37G	胎土・焼成・色調・石材等 胎土・赤色粘・白色粘・黒色粘・薬物 粘・小石を含む。焼成酸化色。色調 暗。	外面体部下下斜め方向開閉り。底部閉り。 内面体部下位～底部焼方内開ナド。	
22	土師器 環	口縁～体部 1/3	器高 23.3残存 口径(14.7)	W-36G	胎土赤色粘・白色粘・黒色粘・薬物 粘・小石を含む。焼成酸化色。色調 暗。	外面口縁部開ナド。体部上～下位斜め方 向開り。内面口縁部開ナド。体部上～下位 斜め方向開ナド。	

145号土師山土遺物観察表 第74回・P.L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	土師器 環	口縁～底部 1/4	器高 6.2残存 口径(12.8)	埋設土中	胎土赤色粘・白色粘・黒色粘・薬物 粘を含む。焼成酸化色。色調暗。	外面口縁部開ナド。体部開ナド。内面口縁～底 部閉ナド。一部に黒色粘が混る。	凡丸。
2	土師器 環	口縁～底部 7/8	器高 29.3 口径(19.1) 底径 7.2	2 V-12G	胎土赤色粘・白色粘・黒色粘・薬物 粘・小石を含む。焼成酸化色。色調 暗。	外面口縁部開ナド。体部開ナド。体部上位置 開ナド。中位～下位斜め方向開閉り。腹方開 閉り。内面口縁部開ナド。体部上～下位 斜め方向開ナド。底部閉ナド。内面口 縁部開ナド。体部～底部焼方内開ナド。	外面スス付着。

1号方形銅器出土遺物観察表 第75回・P.L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	土師器 貯	ほぼ完整	器高 7.4 口径 11.3	南東溝溝中央部 底面上	胎土赤粘・赤色粘を含む。 焼成酸化色。色調暗。	外面口縁部腹方内開かい開閉り。体部腹方内開 かい開閉り。内面口縁部腹方内開かい開閉り。	
2	土師器 貯	口縁～体部 2/3	器高 15.0残存 口径 15.0	南西溝溝中央部 底面上10cm	胎土赤粘・赤色粘を含む。 焼成酸化色。色調暗。	外面口縁部開ナド。体部開ナド。体部上位置 開ナド。中位～下位斜め方向開閉り。腹方開 閉り。内面口縁部開ナド。体部腹方内開ナ ド。一部に腹方内開ナド。	

B3区3号古墳遺物観察表 第80回・P.L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	円筒埴輪 円筒	ほぼ完整	器高 1.6残存	埋設土中	胎土細砂を含む。 焼成酸化色。色調に濃い橙。	不明(内開ナド)。外面開ナド(12cm/2cm)。底 部中央の胎土先行。造形の一部欠け。内面開 ナド(2cm)後。細砂ナド。	透かし部分有り。
2	土師器 鉢	完整	器高 11.8 口径 8.6	2 P-40G 北東溝溝内 底面上13cm	胎土赤色粘・白色粘・黒色粘・薬物 粘・小石を含む。焼成酸化色。色調 明灰黄。	外面口縁部開ナド。一部に腹方内開ナド。体 部腹方内開ナド。底部開閉り。内面口縁部開 ナド。一部に腹方内開ナド。	体部中位に1cm角 穿孔。

1号円筒埴輪出土遺物観察表 第82回・P.L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	須恵器 環	体部破片	器高 6.0残存	Q-32G 埋設土中	胎土砂粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調灰白。	外面平行タカキ。内面同心タカキ。	
2	須恵器 環	体部破片	器高 8.5残存	Q-32G	胎土砂粘・赤色粘を含む。 焼成還元色。色調灰白。	外面平行タカキ。内面同心タカキ。	
3	須恵器 環	体部破片	器高 5.7残存	Q-32G	胎土砂粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	外面平行タカキ。内面同心タカキ。	
4	土師器 鉢	底面	器高 7.5残存 底径 5.8	埋設土中	胎土砂粘・赤色粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調灰白。	外面体部腹方内開閉り。底部閉り。内面底 部閉ナド。	
5	土師器 環	口縁 1/2弱	器高 4.2残存 口径(7.4)	R-33G	胎土砂粘・赤色粘を含む。焼成酸化 色。色調に濃い橙。内面開。	外面体部下位開・腹方開ナド。底部ナド。	
6	須恵器 環	口縁部破片	器高 4.8残存	Q-33G 埋設土中	胎土砂粘・赤色粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	外面に15cm一単位の段状文施文。	
7	須恵器 土製器	体部破片	器高 1.4残存	Q-32G	胎土白色粘粉粘を含む。 焼成還元色。色調に濃い橙。	外面一部に直径2.5mmのコンパス文が4個施 文されている。内面開ナド。	胎土分析資料 小角田器-1
8	須恵器 土製器	体部～体部下位 1/3	器高 11.1残存	埋設土中上層	胎土白色粘粉粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	内外面同心タカキ。外面同心上層と直下段状 文施文が1条付文されている。	胎土分析資料 小角田器-2
9	須恵器 環	体部破片	器高 3.5残存	R-32G 埋設土中	胎土砂粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	外面ナド。内面ナド。	
10	須恵器 環	1/4	器高 2.3残存 口径(17.8)	P-36G、P-37G、 P-32G	胎土砂粘・黒色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	天井部外面開閉り。内外面同心ナド。	

2号円筒埴輪出土遺物観察表 第82回・P.L137

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	須恵器 環	口縁～体部上位2/4	器高 6.6残存 口径(17.2)	U-34G	胎土砂粘を含む。 焼成還元色。色調灰白。	外面口縁部開ナド。上層に一単位6本の環状 文。内面口縁～体部上位同様にナド。	
2	土師器 高坏	坏部	器高 3.0残存 口径(12.8)	U-34G 埋設土中	胎土赤粘・赤色粘を含む。焼成酸化 色。色調暗。内面に濃い橙。	口縁部～坏部丁寧ナド。	
3	土師器 高坏	口縁 1/8	器高 1.9残存 口径(14.2)	埋設土中	胎土赤粘・赤色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。内面開。	内外開ナド。	
4	土師器 高坏	坏部 1/5	器高 3.8残存 口径(13.4)	U-34G 埋設土中	胎土砂粘・赤色粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	内外開ナド。	
5	土師器 環	口縁～体部 1/2	器高 4.1残存 口径 8	U-34G 埋設土中	胎土砂粘・赤色粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	外面口縁部開ナド。体部開閉り。内面口縁～ 底部丁寧ナド。	
6	土師器 環	口縁～体部 1/4	器高 3.0残存 口径(11.7)	U-34G	胎土砂粘・赤色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	外面口縁部開ナド。体部開閉り。内面口縁～ 底部丁寧ナド。	
7	土師器 高坏	坏部 1/4	器高 3.0残存 口径(12.4)	U-34G 埋設土中	胎土砂粘・赤色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	外面口縁部開ナド。内面口縁部開ナド。	
8	土師器 瓶	砂子部分	器高 4.0残存 底 4.0残存 厚さ 1.7	U-34G	胎土砂粘を含む。 焼成還元色。色調に濃い橙。	下層ともナド。	
9	須恵器 鉢	体部～底部	器高 7.5残存	U-34G	胎土砂粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	外面体部上位腹方内開閉り(9～11cmの範囲)。 中位～下部中央の段状文。体部下～一部開閉 り。腹方内開ナド。内面体部一部開閉ナド。	
10	須恵器 土製器	体部破片	器高 5.7残存	U-34G	胎土砂粘・白色粘を含む。 焼成還元色。色調暗。	外面体部下下ナド。内面体部下下腹方内開 ナド。	

109号住居出土遺物調査表 第84、85図・P.L128

番号	類別	形状	寸法 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調・石材等	彫刻の特徴	備考
1	石製 棒状物	光形	高さ 11.1 幅 5.1 厚さ 2.6 重さ 175	埋設土中	石材黄色片石。	断面扁平な棒状物。	
2	石製 棒状物	光形	長さ 12.4 幅 5.2 厚さ 4.2 重さ 200	竈左側 床面直上	石材安山武石。	断面三角形の棒状物。三角形の角部分の一部に磨り損が残る。	
3	石製 彫刻形石	石欠損	長さ 15.9 幅 14.9 厚さ 9.4 重さ 1380	中央部 床面直上	石材二ツ岳緑石。	上下が平らな白粉石塊。側面と下面の一部に彫刻時に削った痕跡が残る。	
4	須恵系 高台付焼 土器片	体部下位～底部	高さ 7.3残存 底径 6.3	竈左側 床面上1.5cm	焼成酸化。色調にぶい黄褐色。	内外面回転ナド。底部回転未切り離し。付け高台。	
5	須恵系 高台付焼 土器片	口縁～底部	高さ 4.6 口径 11.3 底径 6.3	竈後部 使用直上16.5cm	粘土砂粒を含む。焼成酸化。色調にぶい黄褐色。	内外面回転ナド。底部切り離し痕跡不明。付け高台。	
6	須恵系 高台付焼 土器片	口縁～底部 1/2 (高台側部欠損)	高さ 3.5残存 口径(14.3)	竈後部石表 使用直上	粘土砂粒を多く含む。焼成酸化。色調にぶい黄褐色。	内外面回転ナド。底部回転未切り離し。付け高台。	
7	須恵系 高台付焼 土器片	口縁～体部 1/4	高さ 1.7残存 口径(14.3)	竈中央部 床面上4cm	粘土砂粒を含む。焼成酸化。色調に黄褐色。内面黒地。	内外面回転ナド。	
8	土師系 土器	口縁～体部上1/4(破 損)	高さ 3.5残存 口径 19.0	西部 床面上1.4cm	粘土砂粒を含む。焼成酸化。色調にぶい赤褐色。	外面口縁～底部磨ナド。体部上位置の方向直磨り。内面口縁～底部磨ナド。体部上位置ナド。中位直イナナド。	
9	土師系 土器	口縁～体部上1/4	高さ 11.5残存 口径 19.4	竈後部	粘土砂粒を多く含む。焼成酸化。色調に黄褐色。内面赤褐色。	外面口縁～底部磨ナド。体部上中横方向直磨り。一部に斜方向直磨り。内面口縁～底部磨ナド。体部上位置ナド。	
10	土師系 土器	口縁～体部上位破片	高さ 3.7残存 口径(12.0)	埋設土中	焼成酸化。色調黒褐色。	外面口縁～底部磨ナド。体部上中横方向直磨り。内面口縁～底部磨ナド。体部上位置ナド。	
11	土師系 土器	口縁～体部中位1/4	高さ 6.4残存 口径(10.8)	埋設土中	焼成酸化。色調黒褐色。	外面口縁磨ナド。体部上位置方向直磨り。全体に粗土磨跡が残る。内面口縁磨ナド。体部上位置方向直磨り。中位直イナナド。	
12	土師系 土器	口縁～体部中位破片	高さ 7.5残存 口径(10.8)	埋設土中	焼成酸化。色調黒褐色。	外面口縁～底部磨ナド。体部上位置方向直磨り。下半部に斜方向直磨り。内面口縁～底部磨ナド。体部上位置ナド。	
13	土師系 土器	口縁～体部下1/2	高さ 3.5残存 口径(13.0)	竈後部使用直 西側壁使用直上	粘土砂粒を多く含む。焼成酸化。色調にぶい赤褐色。	外面口縁～底部磨ナド。体部上位置方向直磨り。下半部に斜方向直磨り。内面口縁～底部磨ナド。体部上位置ナド。	
14	土師系 土器	体部下位～底部1/4	高さ 4.3残存 底径(5.5)	埋設土中	粘土砂粒を含む。焼成酸化。色調黒褐色。	外面体部下位磨ナド。底部磨ナド。内面体部下位～底部磨方向直磨りナド。	
15	土師系 土器	口縁～体部下1/4	高さ 13.0残存 口径 19.6	竈左側 床面直上	粘土砂粒を多く含む。焼成酸化。色調に黄褐色。	外面口縁磨ナド。体部上位置方向直磨り。下半部に斜方向直磨り。内面口縁磨ナド。体部上位置ナド。	
16	須恵系 小型器	口縁～底部 4/5	高さ 14.2 口径 11.6 底径 7.6	中央部 床面上5cm	焼成酸化。色調にぶい黄褐色。内面黒地。	外面口縁～底部磨ナド。体部上中横方向直磨り。下半部斜方向ナド。底部ナド。内面口縁～底部磨ナド。体部上位置方向直磨りナド。	
17	土師系 土器	口縁～底部 4/5	高さ 27.9 口径 21.2 底径(4.4)	竈後部 使用直上	粘土砂粒・小石が残る。赤褐色。内面にぶい。	外面口縁～底部磨ナド。体部上位置方向直磨り。横方向。一部に斜方向ナド。中位直イナナド。下半部に斜方向直磨り。内面口縁磨ナド。体部上位置ナド。	
18	土師系 土器	口縁～体部 1/3	高さ 20.3残存 口径 21.6	竈後部。空閑 使用直上	粘土細砂粒を多く含む。焼成酸化。色調可黄褐色。	外面口縁～底部磨ナド。体部上位置方向直磨り。一部に直イナナド。内面口縁磨ナド。体部上位置ナド。	
19	須恵系 高台付焼 土器片	口縁～体部上1/8	高さ 6.5残存 口径(12.8)	中央部 床面上29.5cm	粘土砂粒・小石を含む。焼成酸化。色調にぶい黄褐色。内面にぶい。	外面口縁～底部磨ナド。内面口縁～体部上位置直イナナド。	
20	須恵系 高台付焼 土器片	体部 1/4	高さ 14.4残存	竈東側 床面上	粘土砂粒を含む。焼成酸化。色調可黄褐色。	外面体部中位直磨り。下半部方向直磨り。内面体部中位～下位直磨りナド。	
21	土師系 土器	体部中位～底部1/4	高さ 15.4残存 底径(5.6)	南西隅 床面上10cm	粘土砂粒・小石を含む。焼成酸化。色調可赤褐色。	外面体部中位直磨り。下半部方向直磨り。下半部斜方向直磨り。内面体部下半部方向直磨り。一部に斜方向直磨りナド。	

107号住居出土遺物調査表 第87、88図・P.L102、103

番号	類別	形状	寸法 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調・石材等	彫刻の特徴	備考
1	須恵系 高台付焼 土器片	口縁～底部 1/3	高さ 4.6 口径(11.2) 底径(6.0)	2 T-10G	粘土砂粒を多く含む。メラメラしている。焼成酸化。色調にぶい黄褐色。	内外面回転ナド。底部回転未切り離し。付け高台。	
2	須恵系 高台付焼 土器片	底部 1/2	高さ 2.2残存	2 T-10G	焼成酸化。色調可黄褐色。	内外面回転ナド。底部回転未切り離し。付け高台。	
3	須恵系 高台付焼 土器片	光形	高さ 4.0 口径 11.4 底径 5.7	2 T-10G	焼成酸化。色調可黄褐色。	内外面回転ナド。底部回転未切り離し。	
4	土師系 土器	口縁～体部下位1/6	高さ 22.6残存 口径(19.6)	2 T-9 G	焼成酸化。色調にぶい黄褐色。	外面口縁磨ナド。体部上位置方向直磨り。体部上半～下位直磨り。中位に斜・縦・斜方向直磨り。内面口縁～底部磨ナド。体部上位置～下位直磨りナド。	
5	須恵系 高台付焼 土器片	口縁～体部下1/4	高さ 21.4残存 口径(20.8)	2 T-9 G	粘土砂粒を多く含む。焼成酸化。色調可黄褐色。	外面口縁磨ナド。体部上位置方向直磨り。内面口縁磨ナド。体部上位置ナド。下半部斜方向直磨り。	
6	土師系 土器	口縁～体部上1/5	高さ 14.3残存 口径(18.6)	2 T-9 G	粘土砂粒を多く含む。焼成酸化。色調可黄褐色。	外面口縁磨ナド。体部上半横・斜方向直磨り。内面口縁磨ナド。体部上位置ナド。	
7	須恵系 高台付焼 土器片	体部 1/4	高さ 21.1残存	2 T-9・10G	粘土砂粒・100μmの砂粒を含む。焼成酸化。色調にぶい黄褐色。	内外面回転ナド。外面体部上位置直磨りナド。	体部下半は断面の裏側に磨りこぼれている。
8	須恵系 高台付焼 土器片	体部～体部下位1/4	高さ 23.0残存	2 T-9 G	粘土砂粒・45～100μmの砂粒を多く含む。メラメラしている。焼成酸化。色調にぶい黄褐色。	外面磨部～体部下位直磨りナド。内面磨部～体部下位直磨り方向直磨りナド。	断面に穴が空いている。
9	軟質陶器 土器片	断面破片	高さ 7.7残存 最大幅 4.0 高さ 2.6	埋設土中	焼成黒色いぶし。	内外面磨ナド黄褐色。	19世紀

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
10	石部 磨製石	破片	長さ 12.9 幅 16.9 厚さ 8.4 重さ 2010	埋没土中	石材内石安山岩。(二ツ角)	厚く扁平の柱状物。上面には磨り面が、下面には打刃面がある。	
11	石部 円形石	完整	長さ 13.5 幅 15.9 厚さ 2.8 重さ 700	埋没土中	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円形部の石盤。側面の大平に磨り面が残る。	
12	石部 磨石	上端欠損	長さ 18.5 幅 7.5 厚さ 7.4 重さ 1144	埋没土中	石材内石。	断面三角形の柱状物。表面は磨れている。	
13	銅製品 銅製 片口鏡	ほぼ完整	長さ 5.5 口径 15.8 直径 11.4 片口部口径 18.3	2号下~10号 遺物集積区	銅造品。	片口の一つが破れ。片口左側の腰部には柄を装着するための考えられる小孔が3個あいている。	分析番号119

1号住居出土遺物観察表 第30図

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調・石材等	形状の特徴	備考
1	灰砂部 瓦台付燵	片断欠	断面 2.3残存	北西壁際 床面上13.5cm	粘土赤色粒を含む。焼成酸化処理。 焼成酸化。色調灰黄。内面黒。	内外面回転ナズ。底部切り離し技法不明。付け高台。	内面黄色処理。
2	灰砂部 瓦台付燵	断面一部欠	断面 2.0残存 直径 7.1	北西 床面上4.2cm	同上	瓦面より切り離し。付け高台。内面黒色処理後一方内面側。	
3	土師器 甕	口縁~腰部上段破片 1/8	断面 8.7残存 口径(22.8)	北西 床面上5cm	粘土白色粒を含む。焼成酸化処理。 色調明赤黄。	外開口縁~腰部破ナズ。腰部上段縁の方向直ナズ。内開口縁破ナズ。腰部~斜め方向直ナズ。	
4	土師器 土器	口縁~腰部上段破片	断面 7.0残存 口径(15.7)	北西壁際 床面上3cm	同上	外開口縁~腰部破ナズ。腰部上段縁の方向直ナズ。内開口縁破ナズ。腰部~斜め方向直ナズ。	

2号住居出土遺物観察表 第31図・P.L.128, 129

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	灰砂部 坪	口縁~底部 7/8	断面 4.0 口径 11.0 直径 5.4	甕内 床面上	粘土赤色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化。色調におい黄焼。	内外面回転ナズ。底部回転赤切り離し。	
2	灰砂部 高台付燵	口縁~底部 1/2	断面 4.4残存 口径 12.4	甕内 甕底面直上	粘土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化。色調におい黄。	内外面回転ナズ。底部回転赤切り離し。付け高台。	
3	灰砂部 高台付燵	口縁~底部 1/2	断面 4.7 口径(14.6) 直径 8.4	中央部 床面上	粘土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化。 色調黄褐色。内面黄焼。	内外面回転ナズ。底部回転赤切り離し。付け高台。	
4	灰砂部 高台付燵	坪部下段~高台部	断面 6.9残存 直径 9.6	甕内 使用面直上	焼成酸化。色調におい黄。 使用面直上	内外面回転ナズ。底部回転赤切り離し。付け高台。	
5	土師器 高台付燵	底部のみ	断面 2.5残存 直径 3.5	北西壁際 床面上4cm	粘土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化。色調におい黄。	坪部下段の方向直ナズ。高台部ナズ。底部切り離す。	
6	緑釉物 器	断面破片	断面 1.1残存 直径 1.8	北西 底面上	粘土緑黄。焼成酸化。色調黄。	付高台。底部直ナズ。輪割りや強い緑色。	調査番号 K-30(複製)昭和十
7	土師器 甕	口縁~腰部破片	断面 9.4残存 口径(21.9)	甕内 使用面上19.5cm	粘土白色粒・小石を含む。 焼成酸化。色調黄褐色。	外開口縁破ナズ。腰部上方直ナズ。内開口縁破ナズ。腰部上方直ナズ。	
8	灰砂部 甕	口縁~腰部 1/3	断面 11.0残存 口径(20.0)	甕内 使用面直上	粘土白色粒・小石を含む。 焼成酸化。色調におい黄。	外開口縁~腰部中位直ナズ。内開口縁破ナズ。腰部上方直ナズ。	
9	灰砂部 甕	口縁~腰部 1/8	断面 20.8残存 口径(22.2)	甕石部 床面上	粘土白色粒・小石を含む。 焼成酸化。色調におい黄。	外開口縁~腰部中位直ナズ。下位段・斜め方向直ナズ。内開口縁~腰部下位直ナズ。	粘土分析資料 三ツ本遺留-14

3号住居出土遺物観察表 第34図・P.L.120

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土師器 甕	口縁~腰部上段1/8	断面 4.7残存 口径(14.0)	内面壁際 床面上4cm	粘土赤色粒を含む。焼成酸化処理。 色調におい黄。	内開口縁破ナズ。腰部上方直ナズ。内開口縁破ナズ。腰部上方直ナズ。	
2	土師器 甕	口縁~腰部破片	断面 10.0残存 口径(15.3)	甕内	粘土小石を含む。焼成酸化処理。 色調灰白。	内外面フコ破片。内面下部下段方向直ナズ。腰部直ナズ。内面下部下段~腰部上方直ナズ。	
3	土師器 甕	腰部下段~底部1/4	断面 5.4残存 直径(5.7)	南西壁際 床面上5cm	粘土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化。色調灰黄。内面灰白。	外周下部下段縁の方向直ナズ。最下段の方向直ナズ。腰部直ナズ。内面下部下段~腰部上方直ナズ。	
4	灰砂部 高台付燵	底部のみ	断面 1.7残存 直径 6.7	南西 床面上	焼成酸化。色調におい黄。	内外面回転ナズ。底部回転赤切り離し。付け高台。	

4号住居出土遺物観察表 第35図・P.L.120

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	灰砂部 坪	口縁~一部欠	断面 4.3 口径 11.0 直径 4.9	北東壁際 西壁面直上	粘土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化。色調におい黄。	底部回転赤切り離し。内外面回転ナズ調整。	
2	灰砂部 甕	口縁~底部 1/4	断面 4.4 口径(11.0)	甕内 甕底面直上	粘土赤色粒・小石を含む。 焼成酸化。色調黄。	内外面回転ナズ。底部回転赤切り離し。	
3	土師器 小甕	口縁~腰部上段1/4	断面 6.0残存 口径(12.9)	中央部や南 床面上3cm	粘土白色粒を含む。焼成酸化処理。 色調赤黄。	外開口縁破ナズ。腰部~腰部上段縁の方向直ナズ。腰部~腰部上方直ナズ。腰部上段縁の方向直ナズ。	
4	土師器 甕	口縁~腰部破片1/8	断面 5.7残存 口径(14.8)	甕内 使用面直上	粘土赤色粒を含む。焼成酸化処理。 色調黄。	外開口縁破ナズ。腰部上方直ナズ。腰部上方直ナズ。腰部上方直ナズ。	
5	土師器 甕	腰部~底部	断面 10.7残存 直径 3.8	中央部 床面上3cm	粘土白色粒を含む。焼成酸化処理。 色調におい黄。	外開口縁破ナズ。腰部上方直ナズ。腰部上方直ナズ。腰部上方直ナズ。	
6	土師器 甕	腰部~底部	断面 9.1残存 直径 7.2	甕内 床面上1.5cm	粘土赤色粒・小石を含む。 焼成酸化。色調におい黄。	外周下部下段縁の方向直ナズ。下位段の方向直ナズ。内開口縁破ナズ。腰部上方直ナズ。	
7	灰砂部 甕	口縁のみ	断面 3.2残存 口径 21.0	甕内 使用面直上	粘土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化。色調におい黄。	内外面回転ナズ。	

5号住居出土遺物観察表 第139回・P.L140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	煎摩器 坏	完形	高さ 2.0 口径 7.6 底径 3.7	北西隅破断 埋土上 2cm	粘土・赤色を含む。焼成酸化焼。色調浅黄。内面空白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
2	煎摩器 坏	口縁一部欠	高さ 2.0 口径 8.4 底径 4.4	埋土中	粘土白色灰・赤色を含む。 焼成酸化焼。色調浅黄焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
3	煎摩器 坏	口縁一部欠	高さ 1.9 口径 8.7 底径 4.2	北中央部 床面上19.5cm	粘土赤色を含む。焼成酸化焼。 色調に赤・黄焼。内面に赤・焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ後、粘土灰が付着し、それを指擦り用で調整している。	
4	煎摩器 坏	ほぼ完形	高さ 1.7 口径 8.9 底径 5.8	電燈地盤 使用直上	粘土赤・白・石が混る。 焼成酸化焼。色調に赤・焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
5	煎摩器 坏	口縁一部欠	高さ 1.9 口径 9.0 底径 6.4	中央部や中西 床面上17.5cm	粘土白色灰を含む。焼成酸化焼。 色調浅黄焼。内面黄焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
6	煎摩器 坏	口縁一部欠	高さ 2.5 口径 9.0 底径 5.5	中央部 床面上22cm	粘土白色灰を含む。焼成酸化焼。 色調浅黄焼。内面赤焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。底部内面ナズ。	
7	煎摩器 羽釜	口縁破断片	高さ 5.8残存 口径(18.2)	電燈口蓋 床面上11.5cm	粘土黒色灰・小石を含む。 焼成酸化焼。色調黒焼。	内外面回転ナズ。	
8	土製品 土罫	完形	長さ 3.8 幅 1.9 高さ 11.55	掘り方埋土中	焼成酸化焼。色調明赤焼。		
9	土製品 土罫	完形	長さ 4.2 幅 0.8 高さ 2.95	掘り方埋土中	焼成酸化焼。色調明赤焼。		
10	土製品 土罫	完形(一部割断)	長さ 3.6 幅 1.1 高さ 2.91	掘り方埋土中	焼成酸化焼。色調明赤焼。		

6号住居出土遺物観察表 第140回・P.L140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	煎摩器 坏	口縁一部欠	高さ 4.3 口径 12.2 底径 5.4	電燈地盤 床面上2.5cm	粘土赤色灰・白色灰を含む。 焼成酸化焼。色調に赤・焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
2	煎摩器 高台付罫	口縁一部欠	高さ 3.8残存 口径 13.3 底径 6.1	電燈地盤 床面上	粘土赤色灰・小石を含む。焼成酸化焼。色調浅黄。内面に赤・焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。付け台有。	
3	土製品 土罫	口縁一部欠	高さ 5.2 残存 口径(17.0)	電燈 床面上2.5cm	粘土赤色灰を含む。焼成酸化焼。 色調明赤焼。内面に赤・焼。	外面口縁部ナズ。体面上位部・斜め方向削り。内面口縁部ナズ。体面上位部方向削りナズ。	

7号住居出土遺物観察表 第140回・P.L140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	煎摩器 坏	口縁一部欠	高さ 2.9 口径(16.0) 底径(5.8)	埋土中	粘土赤色灰・白色灰を含む。 焼成酸化焼。色調に赤・焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
2	煎摩器 坏	口縁一部欠	高さ 3.8残存 口径(14.2)	埋土中	粘土赤色灰を多く含む。小石混じりの灰あり。焼成酸化焼。色調明赤焼。	内外面回転ナズ。	
3	煎摩器 高台付罫	口縁一部欠	高さ 3.8残存 口径(8.1)	掘り方埋土中	粘土赤色灰を多く含む。小石混じりの灰あり。焼成酸化焼。色調明赤焼。	内外面回転ナズ。底部切り難シ・技法不明。	
4	土製品 土罫	口縁一部欠	高さ 5.4残存 口径(21.3)	南東部 床面上4cm	粘土赤色灰・白・石が混る。 焼成酸化焼。色調に赤・黄。内面焼。	外面口縁部ナズ。体面上位部方向削り。一部に指ナズ。内面口縁部ナズ。体面上位部方向削りナズ。	
5	煎摩器 罫	胴部のみ	高さ 2.7残存 口径 7.5	電燈地盤 床面上12cm	粘土赤色灰・白色灰を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部ナズ。体面上位部。内面下部だけ一部削り方向削りナズ。	
6	土製品 土罫	口縁一部欠	高さ 3.4残存 口径(18.0)	埋土中上層	粘土赤色灰・白色灰・黒色灰を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部ナズ。体面上位部方向削り。内面口縁部ナズ。体面上位部方向削りナズ。	
7	煎摩器 罫	胴部のみ	高さ 16.6	中央部 床面上	粘土赤色灰・黒色灰・小石を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。	内外面回転ナズ。	
8	土製品 土罫	完形	長さ 10.3残存 口径(14.0) 高さ 10.0 口径 10.2	西面 床面上14.5cm 電燈・中央部 床面上3cm	粘土赤色灰・白色灰を含む。焼成酸化焼。色調浅黄。内面明赤焼。	粘土赤色灰・黒色灰・小石を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	粘土削り。胴部と胴部は二段結合。輪郭は黒褐色。

8号住居出土遺物観察表 第140回・P.L140

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	煎摩器 坏	口縁一部欠	高さ 3.0 口径(10.1) 底径 6.4	電燈地盤 床面上5cm	粘土赤色灰・白色灰を含む。 焼成酸化焼。色調浅黄。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
2	煎摩器 高台付罫	口縁一部欠	高さ 5.8 口径(14.6) 底径(8.9)	掘り方中央部 直直上	粘土黒色灰を含む。焼成酸化焼。 色調浅黄。	内外面回転ナズ。底部切り難シ・技法不明。付け台有。	
3	煎摩器 高台付罫	口縁一部欠	高さ 5.8 口径 12.6 底径 5.9	北西隅床直直上 電燈地盤使用直上	粘土赤色灰・黒色灰・小石を含む。 焼成酸化焼。色調に赤・黄焼。内面黒焼。	外面口縁部高台部回転ナズ。底部切り難シ・技法不明。付け台有。内面口縁部一部底削りナズ。	内面黒色焼。
4	土製品 土罫	底部のみ	高さ 2.7残存 口径 7.5	電燈地盤 床面上12cm	粘土赤色灰・白色灰・黒色灰を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面体部下位部方向削り。底部破断。内面下部だけ一部削り方向削りナズ。	
5	土製品 土罫	口縁一部欠	高さ 5.8残存 口径(18.0)	埋土中上層	粘土赤色灰・白色灰・黒色灰を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。	外面口縁部ナズ。体面上位部方向削り。内面口縁部ナズ。体面上位部方向削りナズ。	
6	煎摩器 罫	胴部のみ	高さ 10.3残存 口径(14.0) 高さ 10.0 口径 10.2	中央部 床面上	粘土赤色灰・黒色灰・小石を含む。 焼成酸化焼。色調明赤焼。	内外面回転ナズ。	
7	煎摩器 羽釜	口縁一部欠	高さ 10.3残存 口径(14.0) 高さ 10.0 口径 10.2	西面 床面上14.5cm 電燈・中央部 床面上3cm	粘土赤色灰・白色灰を含む。焼成酸化焼。色調浅黄。内面明赤焼。	粘土赤色灰・黒色灰・小石を含む。焼成酸化焼。色調明赤焼。	粘土削り。胴部と胴部は二段結合。輪郭は黒褐色。

9号住居出土遺物観察表 第140回

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	煎摩器 土罫	口縁一部欠	高さ 6.8残存 口径(17.5)	電燈地盤 使用直上3cm	粘土赤色灰・白色灰を含む。焼成酸化焼。色調浅黄。内面明赤焼。	外面口縁部一部削りナズ。体面上位部方向削り。内面口縁部一部削りナズ。体面上位部方向削りナズ。	
2	煎摩器 高台付罫	体部下半一部欠	高さ 3.5残存 口径(6.9)	北西隅 床面上3cm	粘土白砂が混る。焼成酸化焼。 色調に赤・黄。内面浅黄焼。	外面体部下半ナズ。下位部のみ削り。高台部ナズ。内面体部下半一部削りナズ。	内面黒色焼現。 2次加熱によって酸化。

第4章 遺構・遺物の一覧表

10号住居出土遺物観察表 105区・P.L140

番号	種別	形状	数量	寸法 (cm)	出土位置	加工・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土師罐	口縁～体部中位破片	破片 12.6枚存	口径 22.2	埋設土中	胎土白色粒・黒色粒が目立つ。焼成酸化。色調赤。内面におい焼。	外面口縁部破片ナ。体部部方向寛ナ。内面口縁部破片ナ。体部上半部方向ナ。	上端部に小穿孔。
2	土師罐	口縁～体部破片	破片 13.6枚存	口径 20.7	埋設土中	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化。色調赤。内面におい焼。	外面口縁部～体部破片ナ。体部上半部方向ナ。後、縦方向内張りナ。内面口縁部破片ナ。体部上半部方向ナ。	
3	須恵罐	底部のみ	破片 2.2枚存	直径 5.5	電線溝土中	胎土白色粒・小石僅かに混じる。焼成酸化。色調におい黄赤。内面赤。	外面底部ナ。底部切ノ。技法不明。付け高さ。内面底部部かなり寛。	内面黒色底焼。
4	石師	壳形	長さ 11.0 重さ 2.7	幅 11.2 底面 23.5cm	南西壁際	石材龍崎石灰山産。	扁平な円盤形の石盤。側縁部の一部に刻線が見える。	

11号住居出土遺物観察表 107区・108号・P.L140、141

番号	種別	形状	数量	寸法 (cm)	出土位置	加工・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	須恵罐	口縁～底部	1/4	高さ 1.6 口径 (8.8) 底径 (4.5)	埋設土中	赤色粒・白色粒を含む。焼成酸化。色調におい赤焼。内面暗赤焼。	内外面回転ナ。底部回転未切り履シ。	
2	須恵罐	口縁～底部	1/2	高さ 1.7 口径 (8.3) 底径 3.4	埋設土中	胎土赤褐色。焼成酸化。色調におい黄赤。	内外面回転ナ。底部回転未切り履シ。	
3	須恵罐	口縁～底部	1/2	高さ 1.6 口径 (9.7) 底径 (7.6)	埋設土中	胎土赤褐色・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化。色調黄赤。内面黄赤。	内外面回転ナ。底部回転未切り履シ。	
4	須恵罐	口縁～底部	1/5	高さ 2.0 口径 (7.7) 底径 (3.3)	埋設土中	胎土赤褐色。焼成酸化。色調赤。	内外面回転ナ。底部回転未切り履シ。	
5	須恵罐	口縁～底部	1/5	高さ 4.3枚存 口径 (14.7) 底径 (7.6)	埋設土中	胎土赤褐色・黒色粒・小石を含む。焼成酸化。色調におい赤。	内外面回転ナ。底部回転未切り履シ。	
6	須恵罐	口縁～底部	1/7	高さ 4.1枚存 口径 (14.0)	埋設土中	胎土赤褐色・白色粒・小石を含む。焼成酸化。色調黄赤。	内外面回転ナ。底部回転未切り履シ。	
7	須恵罐	底部	3/4	高さ 2.3枚存 直径 5.8	埋設土中	胎土赤褐色。焼成酸化。色調赤。	内外面回転ナ。底部回転未切り履シ。	
8	須恵罐	底部	2/3	高さ 3.0枚存 直径 (7.2)	貯蔵穴埋設土中	胎土白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化。色調におい赤。	外面体部下位～直台部回転ナ。底部切り履シ。技法不明。付け高さ。内面底部部かなり寛。	内面黒色底焼。
9	土師罐	口縁部破片	破片 6.5枚存	高さ 6.5枚存	埋設土中	胎土赤褐色・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化。色調黄赤。	内外面回転ナ。	側面に穿孔。
10	形象埴輪	輪破片	破片 8.2枚存	高さ 8.2枚存	埋設土中	胎土赤褐色を含む。焼成酸化。色調黄赤。内面におい焼。	家の敷下層で内側。内面縦ハケ(13本/1cm)、内面斜ハケ(3本/1cm)後、一部詰め用ナ。外周縦ハケ(13本/2cm)後、突帯貼付。内面側部縦ハケナ。縦ハケ(8本/1cm)、突帯台形(M字)。	
11	内面縦輪	側部破片	破片 10.9枚存	高さ 10.9枚存	南西壁際 床面土23cm	胎土赤褐色を多く含む。焼成酸化。色調黄赤。	外周縦ハケ(17本/2cm)後、突帯貼付。内面縦ハケ(16本/2cm)後、突帯内側のみ横用ナ。突帯台形(M字)。	
12	内面縦輪	側部破片	破片 10.1枚存	高さ 10.1枚存	中央部 床面土10cm	胎土 5mmの小礫を含む。焼成酸化。色調赤。	外周縦ハケ(17本/2cm)後、突帯貼付。内面縦ハケ(16本/2cm)後、突帯内側のみ横用ナ。突帯台形(M字)。	
13	形象埴輪	側部破片	破片 10.4枚存	高さ 10.4枚存	電線溝部 使用面土6cm	胎土白色粒物粒を多く含む。焼成酸化。色調黄赤。	須恵質。馬蹄、ヒツメの切り込み一部残存。外周縦ハケ(16本/2cm)。一部斜ハケ。内面縦用ナ。底面平坦で基部の重ね合わせ残る。外周縦ハケ(15本/2cm)後、突帯貼付。内面縦用ナ。突帯台形(M字)。	
14	内面縦輪	側部破片	破片 7.0枚存	高さ 7.0枚存	電線溝	胎土赤褐色を多く含む。焼成酸化。色調におい赤。	外周縦ハケ(15本/2cm)後、突帯貼付。内面縦用ナ。突帯台形(M字)。	
15	内面縦輪	側部破片	破片 13.6枚存	高さ 13.6枚存	南西隅貯蔵穴内 床面土13cm	胎土赤褐色を多く含む。焼成酸化。色調におい赤。	外面円筒状にまきまげ。縦ハケ後、突帯貼付。ヒレ状の突出部貼り付けが斜め。中央に比線を通す。内周縦ハケ(5本/1cm)、透孔一部残存。	
16	内面縦輪	側部破片	破片 14.3枚存	高さ 14.3枚存	電線口部 床面土3.5cm	胎土赤褐色を多量に含む。焼成酸化。色調におい赤。	外周縦ハケ(11本/2cm)後、突帯貼付。内面側部縦ハケ(4本/2cm)後、縦用ナ。透孔円形。突帯台形(下層が深い)。	
17	内面縦輪	側部	破片 20.8枚存	高さ 20.8枚存	電線溝	胎土赤褐色物粒が目立つ。焼成酸化。色調赤。	外周縦ハケ(7本/2cm)後、突帯貼付。内面側部縦用ナ。後部側部縦用ナ。側部縦用ナ。透孔円形。突帯台形(下層が深い)。	
18	内面縦輪	側部～側部	破片 34.7枚存	高さ 34.7枚存	電線溝	胎土赤褐色を多く含む。焼成酸化。色調におい赤。	外周縦ハケ(13本/2cm)後、突帯貼付。内面側部縦用ナ。後部側部縦用ナ。側部縦用ナ。透孔円形。突帯台形(M字)。	
19	土師品	一端穴頸	長さ 2.8枚存 幅 0.9 重さ 2.45		埋設土中	焼成酸化。色調赤赤。		
20	土師品	壳形	長さ 3.0 幅 1.0 重さ 3.38		南西部。貯蔵穴 底面土15cm	焼成酸化。色調におい赤。		
21	土師品	一端穴頸	長さ 3.2枚存 幅 0.8 重さ 1.77		埋設土中	焼成酸化。色調におい赤。		
22	土師品	壳形	長さ 3.6 幅 0.8 重さ 2.91		埋設土中	焼成酸化。色調赤焼。		
23	鉄製品	両端穴頸	長さ 5.7枚存 幅 1.8 厚さ 0.4 重さ 7.25		埋設土中			分析番号108
24	石師	壳形	長さ 15.6 幅 12.9 厚さ 2.7 重さ 779		中央部 床面土上	石材龍崎石灰山産。		

番号	種類	形状	寸法 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	直産物 土器	体部破片	高さ 16.0残存	内壁部 床面上	粘土 焼成 褐色	外部平行タタキ。内面ナズ。	
2	土製品 土器	一端欠損	長さ 3.2 幅 0.9 高さ 2.53	埋没土中層	焼成酸化色。色調均質。		
3	土製品 土器	一端欠損	長さ 3.2 幅 1.0 高さ 3.03	埋没土中層	焼成酸化色。色調均質。		
4	土製品 土器	完形	長さ 3.0 幅 0.9 高さ 2.27	埋没土中	焼成酸化色。色調均質。		
5	土製品 土器	完形	長さ 3.0 幅 1.0 高さ 2.70	埋没土中層	焼成酸化色。色調均質。		
6	土製品 土器	一端欠損	長さ 3.1残存 幅 0.8 高さ 2.11	埋没土中	焼成酸化色。色調均質。		
7	土製品 土器	完形	高さ 3.1 幅 1.0 高さ 2.79	埋没土中層	焼成酸化色。色調均質。		
8	土製品 土器	完形	長さ 3.6 幅 1.0 高さ 3.56	表面 床面上30cm	焼成酸化色。色調均質。		
9	土製品 土器	完形	長さ 3.7 幅 0.8 高さ 2.14	埋没土中層	焼成酸化色。色調均質。		
10	土製品 土器	完形	長さ 4.0 幅 0.7 高さ 2.44	埋没土中層	焼成酸化色。色調均質。		
11	土製品 土器	一端欠損	長さ 3.1残存 幅 1.2 高さ 7.25	埋没土中	焼成酸化色。色調均質。		
12	石器 磨石(白)	完形	長さ 1.8 幅 1.4 厚さ 0.7 高さ 2.7	北壁寄り 床面上2m	石研石質。	表面は平滑である。	
13	石器 磨石(黒)	完形	長さ 2.0 幅 1.4 厚さ 0.2 高さ 3.4	北壁寄り 床面上2m	石研石質自然。	表面は平滑である。	
14	直産物 土器	体部下部～底面1/2 環	高さ 1.6残存 口径 (5.4)	埋没土中層	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
15	直産物 土器	口縁～底面 1/3	高さ 2.8 口径 (5.1)	埋没土中	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	粘土分析資料 三ツ木編第12
16	直産物 土器	口縁～底面 1/2	高さ 2.3 口径 (9.0) 底径 6.0	埋没土中	粘土赤色粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
17	直産物 土器	ほぼ完形	高さ 2.8 口径 9.4 底径 5.7	北壁近く 床面上	粘土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
18	直産物 土器	完形	高さ 2.7 口径 9.7 底径 5.7	北壁寄り 床面上4cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
19	直産物 土器	完形	高さ 2.6 口径 10.2 底径 6.0	西壁寄り 床面上	粘土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
20	直産物 土器	ほぼ完形	高さ 2.6 口径 10.1 底径 5.2	北東隅部 床面上3cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒 ϕ 10mm の小石を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
21	直産物 土器	ほぼ完形	高さ 2.8 口径 10.2 底径 6.0	北壁近く 床面上	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒 ϕ 3 mmの小石を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
22	直産物 土器	ほぼ完形	高さ 3.9 口径 10.3 底径 5.5	北東隅 床面上2cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
23	直産物 土器	ほぼ完形	高さ 2.7 口径 10.4 底径 5.3	北壁寄り 床面上3cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	112段-18の下に 置かる。
24	直産物 土器	口縁～底面	高さ 2.5 口径 10.4 底径 6.7	埋没土中	粘土赤色粒・白色粒 ϕ 3mmの小石 を含む。焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
25	直産物 土器	完形	高さ 2.8 口径 10.2 底径 5.6	北東隅部 床面上3.5cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
26	直産物 土器	口縁～底面 2/3	高さ 3.2 口径 10.6 底径 5.2	西壁寄り 床面上10cm	粘土赤色粒・白色粒・白色粒・黒色粒 を含む。焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
27	直産物 土器	口縁～底面 1/3	高さ 3.1 口径 (11.2) 底径 (5.7)	埋没土中	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
28	直産物 土器	口縁～底面 3/4	高さ 2.7 口径 10.0 底径 5.7	北東隅部 床面付近	粘土赤色粒を多く含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
29	直産物 土器	完形	高さ 2.7 口径 9.8 底径 6.5	北壁近く 床面上16cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒 ϕ 2mm の小石を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	
30	直産物 土器	口縁1/2欠損	高さ 2.6 口径 10.1 底径 6.4	北壁寄り 床面上1cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。	112段-23の上に 置かる。
31	土師器 小坏	完形	高さ 3.7 口径 4.3 底径 3.5	北東隅部 床面付近	粘土赤色粒を多く含む。 焼成酸化色。色調均質。	外面口縁～底面側方内面ナズ後。底面側方 内面口縁側～底面側方内面側方内面側方 内面口縁側～底面側方内面側方内面側方 内面口縁側～底面側方内面側方内面側方	褐色結晶。
32	土師器 小坏	完形	高さ 3.8 口径 4.5 底径 2.5	北東隅部 床面付近	粘土赤色粒を多く含む。 焼成酸化色。色調均質。	外面口縁～底面側方内面ナズ後。底面側方 内面口縁側～底面側方内面側方内面側方	褐色結晶。
33	直産物 高台付埴	胴部のみ	高さ 3.6残存 口径 8.3	西壁寄り 床面上3cm	粘土 ϕ 4mmの赤色粒・白色粒・黒色 粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部回転軸切り無し。付け 高台。	
34	直産物 高台付埴	口縁～底面	高さ 4.6残存 口径 (7.2)	埋没土中	粘土赤色粒・白色粒・白色粒・黒色 粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部切り無し。技法不明。付け 高台。	
35	直産物 高台付埴	口縁～底面 1/2	高さ 6.7 口径 (14.9) 底径 8.2	西壁寄り 床面上	粘土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化色。色調均質。	内外面回転ナズ。底部切り無し。技法不明。付け 高台。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	測量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
35	須賀崎 高台付埴	底部のみ	断面 1.9残存 底径 6.3	埋没土中	胎土赤色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化剤。色調赤褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。付け 合せ。	
37	須賀崎 鉢口縁	口縁-体部破片 皿	断面 1.9残存 口径(15.9)	床面直上	胎土黒帯。焼成中や酸化剤の付着。 色調灰色。	口縁部厚し。釉薬緑褐色。	須賀崎 3世紀代
38	須賀崎 埴	口縁-底部 1/4	断面 5.2 口径(16.0) 底径 7.4	埋没土中	胎土白色粒・黒色粒・φ3mmの小石 を含む。焼成酸化剤。	外面口縁部破ナズ。体部上半回転ナズ。下半 横方向向きナズ。内面口縁-体部横方向 向きナズ。	内面黒色色焼。胎土分析資料 三ツ木田部-18
39	須賀崎 高台付埴	底部のみ	断面 2.2残存 底径 5.4	埋没土中	胎土黒帯・赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化剤。色調赤褐色。	外面体部-高台部回転ナズ。底部回転糸切り 跡し。付け高台。内面無磨き。	内面黒色色焼。胎土分析資料 三ツ木田部-18
40	須賀崎 高台付埴	口縁-部分欠	断面 6.3 口径(14.1) 底径 6.9	両京隅 床面直上	胎土黒帯・赤色粒・白色粒・黒色粒 を含む。焼成酸化剤。色調赤褐色。	外面口縁部-底部部破ナズ。底部回転糸切り 跡し。付け高台。内面口縁-高台部磨き。	内面黒色色焼。
41	須賀崎 高台付埴	口縁-底部 2/3	断面 6.7 口径 14.8 底径 7.2	両京隅 床面直上	胎土黒帯・赤色粒・白色粒・φ3mm の小石を含む。焼成酸化剤。色調赤褐色。	外面口縁-高台部回転ナズ。底部回転糸切り 跡し。付け高台。内面口縁-高台部磨き。	内面黒色色焼。
42	須賀崎 埴	口縁部破片	断面 6.0残存	北東隅 床面直上4cm	胎土白色粒・φ3mmの小石を含む。 焼成還元剤。色調灰白。	内外面磨ナズ。	
43	須賀崎 引張	口縁-体部 1/3	断面 26.4残存 口径(23.1)	両京隅 床面直上4cm	胎土赤色粒・白色粒。黒色粒・φ5 mmの小石を含む。焼成還元剤。 色調赤。内部明赤焼。	外面口縁部-体部破ナズ。体部上半横ナズ。 下半横方向向きナズ。内面口縁-体部下半横 方向向きナズ。	胎土分析資料 三ツ木田部-19

14号住居出土遺物観察表 第1113号・P.L143

番号	種別	残存	測量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	須賀崎 埴	口縁-底部 1/5	断面 2.8 口径(10.1) 底径 (6.0)	匳内	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。 焼成酸化剤。色調赤褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。	
2	須賀崎 高台付埴	口縁-底部 1/2	断面 2.9 口径(9.2) 底径 5.3	北西隅 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成還元剤。色調赤褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。	
3	須賀崎 高台付埴	口縁-底部 1/4	断面 4.6 口径(12.8) 底径 (6.4)	埋没土中	胎土白色粒・φ3mmの小石を含む。 焼成酸化剤。色調灰白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。 付け高台。	
4	須賀崎 高台付埴	体部-底部 1/3	断面 4.2残存 底径 7.6	中央部 床面直上	胎土黒帯混ざっている。 焼成酸化剤。色調赤。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。付け 合せ。	
5	土師部 引張	口縁-体部上位破片	断面 6.5残存 口径(14.8)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化剤。色調赤。	外面口縁-体部破ナズ。体部上位横方向向き ナズ。内面口縁部破片方向向きナズ。	
6	須賀崎 埴	体部下部-底部破片	断面 8.2残存 底径(14.8)	埋没土中	胎土赤色粒・黒色粒を含む。 焼成還元剤。色調灰白。	外面体部下部破ナズ。底部横ナズ。内面体 部下部横・斜め方向向きナズ。	

15号住居出土遺物観察表 第115号

番号	種別	残存	測量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土師部 埴	口縁-体部上位破片	断面 7.0残存 口径(18.2)	電線地中	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸 化剤。色調赤い赤焼。内面明赤焼。	外面口縁-体部破ナズ。体部上位横方向ナズ。 内面口縁-体部破ナズ。体部上位横方向ナズ ナズ。	
2	須賀崎 高台付埴	体部-底部 1/4	断面 4.4残存 底径(5.4)	電柱脇。電線口 部敷設直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元剤。色調灰褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。付け 合せ。	

16号住居出土遺物観察表 第117号・P.L143

番号	種別	残存	測量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	須賀崎 埴	ほぼ完全	断面 4.0 口径(11.8) 底径 5.4	電線地中 埋没直上	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元剤。色調赤褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。	
2	須賀崎 土師部 高台付埴	口縁-底部 1/4	断面 5.3 口径(14.4) 底径 (6.4)	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化剤。色調赤い赤焼。	内外面回転ナズ。底部切り跡し技法不明。付け 合せ。	
3	土師部 高台付埴	脚部破片	断面 4.2残存 底径(11.2)	北部中央寄り 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化剤。色調赤褐色。	外面脚部破ナズ。磨部破ナズ。内面 脚部破ナズ。	
4	土師部 埴	口縁-体部上位破片	断面 5.1残存 口径(14.4)	北東寄り 床面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化剤。色調赤褐色。	外面口縁-脚部破ナズ。体部上位横方向向き ナズ。内面口縁部破ナズ後。斜め方向。脚部 破片方向ナズ。体部上位横方向ナズ。	
5	土師部 埴	口縁-体部上位1/8	断面 5.1残存 口径(15.8)	北東部 床面1cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成還元剤。色調赤褐色。	外面口縁-脚部破ナズ。体部上位横方向向き ナズ。内面口縁部破ナズ。磨部破片方向ナズ。 体部上位横方向向きナズ。	
6	土師部 埴	口縁-体部 1/6	断面 9.8残存 口径(19.8)	電線口部 床面直上	胎土赤色粒を含む。 焼成還元剤。色調赤褐色。	外面口縁部破ナズ。体部上半横。斜め方向向 きナズ。中位横方向向きナズ。内面口縁部破ナズ。 体部上半横方向向きナズ。	
7	土師部 埴	口縁-体部上位破片	断面 5.1残存 口径(17.7)	北西隅 床面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。焼成酸 化剤。色調赤褐色。内面明赤焼。	外面口縁部-体部破ナズ。体部上位横・斜め 方向ナズ。内面口縁部-磨部破ナズ。体部上 位横方向向きナズ。	

17号住居出土遺物観察表 第118号・P.L143

番号	種別	残存	測量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	須賀崎 埴	口縁-底部 1/2	断面 22.3 口径 21.0 底径 3.8	電線 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。 焼成還元剤。色調赤褐色。	外面口縁-体部破ナズ。体部上位横・斜め方 向向きナズ。中位横方向向きナズ。下半横方向 向きナズ。底部部破。内面口縁-磨部破ナズ。 体部上半横方向向きナズ。	胎土分析資料 三ツ木田部-16
2	須賀崎 高台付埴	口縁-底部 1/4	断面 2.9 口径(12.4) 底径 5.7	両西隅 床面直上	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元剤。色調灰白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。付け 合せ。	
3	須賀崎 高台付埴	口縁-底部 1/2	断面 4.8 口径 13.6 底径 6.7	電石脇 床面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。 焼成還元剤。色調赤褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。付け 合せ。	
4	須賀崎 高台付埴	口縁-部分欠	断面 5.0 口径 12.8 底径 7.1	北東隅 床面直上	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成還元剤。色調赤い赤焼。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り跡し。付け 合せ。	

18号住居出土遺物観察表 第1129号

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	須臾器 高台付皿	底面のみ	高さ 2.1 口径 (6.2)	埋没土中	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	外面底部切り履し技法不明。付け高台。高台部内外面回転ナド。内面底面直線ナド。	内面黒色成肌。 2次加熱され酸化。

19号住居出土遺物観察表 第12135・P.143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	須臾器 杯	口縁～底面破片	高さ 3.7 口径 (9.0) 直径 (4.3)	西面 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	内外面回転ナド。底面回転未切り履し。	
2	須臾器 高台付皿	口縁～体部破片	高さ 4.8 口径 (15.4)	東壁土右側 使用面直上	胎土赤色粒・黒色粒・ ϕ 3mmの小石を含む。焼成酸化肌。 色調に白い黄斑。内面黒。	外面回転ナド。内面縦方向直線ナド。	内面黒色成肌。
3	須臾器	体部下位～底面1/4	高さ 2.3 口径 (17.8)	西東部 床面13.6cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	内外面回転ナド。底面回転未切り履し。	
4	土製器 罎	体部下位～底面1/4	高さ 4.8 口径 (7.4)	電燈基部左脇 住居階床面	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・ ϕ 3mmの小石を含む。焼成酸化肌。 色調に白い黄斑。内面に白い黄斑。	外面体部下位斜め方向直線ナド。底面直線ナド。内面体部下位～底面直線ナド。	
5	須臾器 羽蓋	口縁部破片	高さ 7.7 口径 (17.8)	中央部 床面上5cm	胎土赤色粒・ ϕ 3mmの小石を含む。 焼成酸化肌。色調に赤赤。	内外面直ナド。	
6	土製器 杯	口縁～体部破片	高さ 10.0 口径 (25.4)	電燈基部右壁側 使用面直上	胎土赤色粒・ ϕ 4mmの小石を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	外面口縁～体部直線ナド。体部上位横方向直線ナド。縦方向直線ナド。内面口縁部直線ナド。体部上位横方向直線ナド。	
7	須臾器 羽蓋	口縁～体部中央1/4	高さ 17.1 口径 (29.6)	電燈基部。両脇 使用面直上	胎土 ϕ 5～8mmの小石を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	外面口縁部～体部直線ナド。体部縦方向直線ナド。内面口縁部直線ナド。体部直線ナド。	
8	土製品 土罐	完形	高さ 3.1 幅 1.1 長さ 4.0	北西部 床面直上	焼成酸化肌。色調暗。		

20号住居出土遺物観察表 第12135・P.143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	土製器 羽蓋	口縁～体部上段破片	高さ 7.3 口径 (21.2)	北東電灯口部 床面上3cm	胎土黒色粒・ ϕ 4mmの小石を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	外面口縁部直線ナド。体部上位横方向直線ナド。内面口縁部直線ナド。体部上位横方向直線ナド。	
2	須臾器 杯	口縁～体部 2/3	高さ 1.6 口径 (9.1) 直径 5.0	北東電灯 床面上3cm	胎土黒色粒・ ϕ 3mmの小石を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	内外面回転ナド。底面回転未切り履し。	
3	須臾器 杯	口縁～体部 2/3	高さ 1.5 口径 (9.6) 直径 5.0	北東電灯口部 使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	内外面回転ナド。底面回転未切り履し。	
4	汚損陶器 内筒	底面破片	高さ 11.7	南東電燈基部 使用面直上	胎土白色黏土粒が目立つ。 焼成酸化肌。色調暗。	外面直ハテ(日本2cm)後。基部縦筋による底面調整。内面基部部下端破片ナド後。基部直線直線ナド。	
5	土製品 土罐	一環欠	高さ 3.3 幅 0.9 長さ 2.14	埋没土中	焼成酸化肌。色調に白い黄斑。		
6	土製品 土罐	破損品	高さ 8.0 幅 9.1 長さ 7.3	電灯 床面直上		内径2.4cm 外径3.5cm	

21号住居出土遺物観察表 第12135・P.143

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	須臾器 杯	口縁～体部 1/2	高さ 2.7 口径 (10.2) 直径 5.6	南西部 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	内外面回転ナド。底部切り履し技法不明。	2片の破片の復元。
2	須臾器 杯	口縁～体部 1/5	高さ 4.0 口径 (12.0) 直径 (6.0)	南東中央寄り 床面下1.5cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	内外面回転ナド。底面回転未切り履し。	
3	須臾器 高台付皿	口縁～底面 2/3	高さ 3.2 口径 8.9 直径 5.2	埋没土中	胎土黒色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	外面口縁～高台面回転ナド。口縁～底面直線ナド。	内面黒色成肌。
4	灰釉陶器 高台付皿	底面 1/3	高さ 2.7 直径 7.1	北東電燈基部 床面16.5cm	胎土黒色粒。焼成還元肌。色調白。	底面回転ナド。付け高台。高輪跡が残る。	大塚2号室式陶

22号住居出土遺物観察表 第12610・P.143, 144

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	土製器 杯	完形	高さ 4.1 幅 0.9 直径 5.5	電燈基部右脇側 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	外面口縁部直線ナド。体部上半指押え。指ナド。下半横方向直線ナド。底面直線ナド。内面口縁部～底面直線ナド。指部直線が残る。	
2	土製器 杯	口縁～底面 1/3	高さ 3.7 口径 (11.2) 直径 (5.2)	西壁中央部 床面上4cm	胎土赤色粒・白色粒を含む。 焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	外面口縁部直線ナド。体部上半指押え。指ナド。下半横ナド。底面直線。内面口縁部～底面直線ナド。指部直線が残る。	
3	須臾器 杯	ほぼ完形	高さ 4.1 口径 12.5 直径 6.4	電燈基部 使用面直上3cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元肌。色調暗褐色。	内外面回転ナド。底面回転未切り履し。	
4	須臾器 高台付皿	口縁～体部直線	高さ 5.3 口径 13.0 直径 6.4	南東電燈基部 床面上10cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元肌。色調暗。	内外面回転ナド。底面回転未切り履し。付け高台。	
5	須臾器 高台付皿	口縁～底面 2/3	高さ 5.7 口径 (13.7) 直径 7.0	電灯 床面上3cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化肌。色調に白い黄斑。	内外面回転ナド。底面回転未切り履し。付け高台。	
6	土製器 杯	口縁～体部上位1/3	高さ 8.0 口径 (19.8)	中央部北寄り 電燈基部 床面上10cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化肌。色調暗褐色。	外面口縁部直線ナド。指部直線ナド。一部に横方向直線ナドが残る。体部上位横方向直線ナド。内面口縁部直線ナド。体部上位横方向直線ナド。	
7	土製品 土罐	完形	高さ 2.8 幅 0.9 長さ 2.36	埋没土中	焼成酸化肌。色調暗褐色。		
8	土製品 土罐	完形	高さ 3.1 幅 0.9 長さ 3.14	埋没土中	焼成酸化肌。色調暗。		

第4章 遺構・遺物の一覧表

23号住居出土遺物調査表 第121図・P.L144

番号	類別	残存	数量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	須臾環	完整	胎高 3.5 口径 12.3 底径 5.6	北西隅 床面上14cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調灰黄。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
2	須臾環	高台付破片	胎高 2.0残存 直径(6.9)	東壁際 床面上2cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調明灰黄。	内外面ナズ。底部回転糸おし。付け高台。	
3	須臾環	高台付片	胎高 3.0残存 直径 6.0	中央部西側壁寄り 床面上2cm	胎土白色粒・黒色粒・赤色粒を含む。 焼成酸化焼。色調灰黄。	内外面回転ナズ。底部切り難シ。技法不明。付け高台。	
4	土師器	鉢部一部	1/4 胎高 7.0残存 直径(6.8)	埋没土中	胎土赤色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調に白。	外面体部下縁の方向異なり。内部体部下位～底部縁方方向ナズ。	
5	須臾環	鉢部破片	胎高 7.0残存 直径(16.0)	埋没土中	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調灰白。	外周2条と1条の縁線欠。回転ナズ。内部回転ナズ。底部の胎面厚さが顕著に異なる。	
6	須臾環	鉢部中位～底部1/2	胎高 15.0残存 直径 13.0	西壁面 床面上20cm	胎土白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。 焼成還元焼。色調灰黄。	外面体部下半平行ナズ。内部体部中位縁・斜め方向付ナズ。下半縁方方向ナズ。	底部中央に直径7cmの穿孔。

24号住居出土遺物調査表 第122図・P.L144、145

番号	類別	残存	数量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土師器	環	口縁～底部 1/2 胎高 3.8 口径(10.6) 底径 4.6	中央部 床面上13.5cm	胎土黒色粒・赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調灰黄。	外面口縁部破片ナズ。鉢部破片。内面口縁部破片ナズ。体部～底部ナズ。	
2	須臾環	口縁～底部3/4	胎高 4.2 口径(11.0) 底径 5.2	電線埋設部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調暗。	内外面回転ナズ。ノズル口縁は直く明瞭。底部回転糸切り難シ。体部下位外面手持り差別ナズ。	遺書。
3	須臾環	底部のみ	胎高 2.0残存 直径(7.2)	電線埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調に白。	内外面回転ナズ。底部下位手持り差別ナズ。底部切り難シ。技法不明。回転糸おし。一部に手持り差別ナズ。	
4	須臾環	口縁～底部 2/3	胎高 4.6 口径 10.2 底径 5.7	南壁際 床面上14cm	胎土白色粒・黒色粒・φ4mmの小石を含む。 焼成還元焼。色調明灰黄。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。付け高台。	
5	須臾環	鉢部完整	胎高 3.0 口径 11.0 底径 6.8	南壁際 床面上12cm	胎土赤色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焼。色調灰白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。付け高台。	
6	須臾環	底部のみ	胎高 3.0残存 直径 6.9	掘り方埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ4mmの小石を含む。 焼成酸化焼。色調暗。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。付け高台。	
7	須臾環	口縁～底部1/4	胎高 3.8残存 口径(10.8)	電線埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調オリーブ黒。内面黄。	外面口縁～底部回転ナズ。底部回転糸切り難シ。付け高台。内面口縁～底部部顕著。	内外面色処理。
8	須臾環	高台付欠片	胎高 5.0残存 口径(14.0)	電線口部 使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調暗。	内外面回転ナズ。底部切り難シ。技法不明。	
9	須臾環	底部のみ	胎高 3.0残存 直径 6.6	北壁際 床面上17.5cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元焼。色調灰白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シか？付け高台。	
10	灰陶器類	底部破片	胎高 1.4残存 直径 6.0	埋没土中 床面上20cm	胎土黒色粒。焼成還元焼。色調灰白。	底部破片ナズ。付け高台。施釉縁だけ。	大第2号式土師
11	灰陶器類	高台付片	胎高 2.2 口径(12.8) 底径 6.0	南西隅埋設部 床面上9.5cm	胎土黒色粒。焼成還元焼。色調灰白。	底部破片ナズ。付け高台。施釉縁だけ。	大第2号式土師
12	土師器	土蓋	口縁～体部破片 胎高 9.0残存 口径(16.2)	電線埋設土中	胎土赤色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調暗。	外面口縁～外部縁ナズ。一部に縁面顕著。体部上半縁の方向異なり後。一部に縁方方向異ナズ。内面口縁～外部縁ナズ。体部上半縁部異ナズ。体部上半縁部体部下縁の方向異なり。縦方向付ナズ。底部埋没ナズ。	
13	土師器	鉢部下位～底部1/4	胎高 10.2残存 直径(7.0)	北壁際 床面上15.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3mmの小石を含む。 焼成酸化焼。色調に白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。高台埋没ナズ。内部体部下半縁方方向ナズ。底部埋没ナズ。	
14	土師器	鉢部下位～底部1/5	胎高 4.0残存 直径 6.8	電線埋設土中	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調明赤黄。	外面体部下縁方方向異なり。底部破片。内部体部下位～底部縁方方向ナズ。	
15	土師器	口縁～体部中位1/2	胎高 17.0残存 口径 21.0	電線埋設部 使用面直上	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調暗。	外面口縁～外部縁ナズ。体部上半縁方方向異なり。下半縁方方向異ナズ。一部に縁方方向ナズ。内面口縁～外部縁ナズ。体部上半縁方方向異ナズ。外部口縁～外部縁ナズ。体部上半縁方方向異ナズ。体部上半縁方方向異ナズ。	
16	土師器	口縁～体部中位1/2	胎高 16.3残存 口径 17.4	電線埋設部 使用面直上	胎土赤色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調暗。	内外面回転ナズ。外部体部斜行下半平行ナズ。外部体部斜行ナズ。外部体部斜行下半平行ナズ。外部体部斜行ナズ。	
17	須臾環	底部～体部上1/5	胎高 15.0残存	電線埋設部 床面上19.5cm	胎土白色粒・小石を含む。 焼成還元焼。色調暗。	内外面回転ナズ。外部体部斜行下半平行ナズ。外部体部斜行ナズ。	

25号住居出土遺物調査表 第131図・P.L145

番号	類別	残存	数量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	須臾環	口縁～底部 3/4	胎高 5.2 口径(13.4) 底径 6.6	電線口部右壁際 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調に白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。付け高台。	
2	須臾環	高台付片	胎高 6.1 口径(13.5) 底径(8.7)	電線口部壁際 床面上2cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ4mmの小石を含む。 焼成酸化焼。色調明赤黄。	内外面回転ナズ。底部糸切り難シ。付け高台。	胎土分析資料 三ツ水田跡-11
3	須臾環	高台付片	胎高 4.7 口径(12.8)	掘り方埋没 床面上3cm	胎土赤色粒・黒色粒・φ4mmの小石を含む。 焼成還元焼。色調明赤黄。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。高台埋没ナズ。	
4	須臾環	体部～高台部	胎高 5.0残存 直径(6.5)	電線口部壁際 掘り方埋没15cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焼。色調に白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。高台埋没ナズ。	
5	須臾環	口縁～底部 1/2	胎高 2.2 口径(9.2) 底径(6.2)	住居壁跡土層 4G-4G	胎土赤色粒を含む。 焼成還元焼。色調灰白。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難シ。	
6	須臾環	小蓋環	胎高 12.6 口径(11.2) 底径(7.2)	電線埋設部右壁際 使用面直上8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調に白。	外面口縁～外部縁ナズ。体部上半縁方方向異ナズ。下半縁方方向異ナズ。内面口縁部破片ナズ。体部上半縁方方向異ナズ。	胎土分析資料 三ツ水田跡-15
7	須臾環	小蓋環	胎高 16.3 口径 13.2	電線埋設部 使用面直上3.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ3mmの小石を含む。 焼成酸化焼。色調明赤黄。	外面口縁部～外部縁ナズ。体部上半縁方方向異ナズ。体部下半縁方方向異ナズ。内面口縁部～外部縁ナズ。体部上半縁方方向異ナズ。下半縁方方向異ナズ。	

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
8	土師器 土盤	口縁～体部上半部片	器高 9.8残存 口径(18.6)	北東部 深淵上5cm	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒 ・小石を含む。焼成酸化色。色調暗赤褐色。内面区着者。	外面口縁～胴部磨ナズ。体部上半部方向磨ナリ。内面口縁～胴部磨ナズ。体部上半部方向磨ナズ。	
9	土師器 甕	口縁～体部上段1/3	器高 11.3残存 口径(22.4)	電機橋部左側壁 使用面下3cm (北東隅部)	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒 を含む。焼成酸化色。色調暗赤褐色。	外面口縁部～胴部磨ナズ。体部最上位磨ナズ。上半部方向磨ナリ。内面口縁部～胴部磨ナズ。体部上半部方向磨ナズ。	
10	土師器 甕	体部下半～底部	器高 9.6 底径 5.5	電機橋部右側 深淵上2.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化色。色調暗赤褐色。内面 区着者。	外面体部下半部方向磨ナリ後、縦方向磨ナズ。底部部底。内面体部下半部方向磨ナリ。底部 脱粒状の磨ナズ。	

27号住居出土遺物観察票 第132回・P.L145

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 坪	ほぼ光形	器高 1.9 口径 9.7 底径 5.1	電機力	胎土黒色粒・小石を多く含む。白色 粒を僅かに含む。焼成酸化色。色調 暗褐色。内面区着者。	内外面磨ナズ。底面赤切り磨し。	
2	須恵器 坪	口縁～底部 1/4	器高 3.8 口径(11.4) 底径(5.0)	電右脇貯蔵穴 床直面上	胎土白色粒僅かに混じる。焼成酸化 色。色調暗赤褐色。内面区着者。	内外面磨ナズ。底面赤切り磨し。	
3	土師器 土盤	体部下半～底部破片	器高 4.8残存 底径(11.2)	電前 床直面上	胎土黒色粒が多く。小石混じる。白 色粒を僅かに含む。焼成酸化色。色 調暗赤褐色。内面磨。	外面体部下半部方向磨ナズ。一部に磨き磨 の彫形がある。底面磨ナリ。内面体部下半 ～底部磨方向磨ナズ。	

28号住居出土遺物観察票 第134回・P.L145

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	土師器 土盤	口縁～底部 1/2	器高 12.5 口径(19.6)	電機橋部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石 を含む。焼成酸化色。色調暗褐色。内 面明褐色。	外面口縁部磨ナズ。体部上位～中位磨方向磨 かいたナズ。磨き磨の彫形が残る。下位磨方 向ナズ。底面磨ナズ。内面口縁部磨ナズ。体部上位 ～中位磨方向磨ナズ。体部下位～底部磨ナズ。	
2	須恵器 甕	口縁～体部 1/5	器高 9.3残存 口径(24.0)	中央部やや南東 深淵上6.5cm	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化色。色調暗赤褐色。内面区着者。	外面口縁～体部上位磨ナズ。体部下位磨 ・斜め方向磨ナズ。内面口縁～胴部磨ナズ。体部 上位磨方向磨ナズ。	
3	須恵器 土盤	底面破片	器高 1.8残存 底径(14.0)	電左前 床直面上6.5cm	胎土黒色粒を含む。焼成還元色。 色調灰白。	底面赤切り磨ナリ。付け高台。底面内外面に輪 裏行着。	
4	土師器 土盤	光形	長さ 2.9 幅 0.9 重さ 2.8g	北東 深淵上13cm	焼成酸化色。色調暗赤褐色。		
5	土師器 土盤	一端欠損	長さ 3.1 幅 0.9 重さ 1.95g	電前 深淵直上	焼成酸化色。色調灰白。		
6	土師器 土盤	光形	長さ 3.0 幅 1.0 重さ 2.32g	埋設土中	焼成酸化色。色調灰白。		
7	土師器 土盤	光形	長さ 3.1 幅 0.8 重さ 1.61g	埋設土中	焼成酸化色。色調暗赤褐色。		
8	土師器 土盤	横平欠	長さ 2.9残存 幅 0.9 重さ 1.65g	埋設土中	焼成酸化色。色調暗赤褐色。		

29号住居出土遺物観察票 第137回・P.L145

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 陶	口縁～底部 3/4	器高 6.0 口径(12.7) 底径(6.7)	電右脇貯蔵穴 深淵上6cm	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒 ・小石を含む。焼成還元色。色調暗 赤褐色。	内外面磨ナズ。体部下半位磨・斜め方向 磨ナズ。底面赤切り磨し。	
2	土師器 土盤	一端欠損	長さ 6.9 幅 1.4 重さ 14.48g	埋設土中	焼成酸化色。色調暗赤褐色。		

30号住居出土遺物観察票 第137回・P.L145、146

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 坪	体部下半～底部破片	器高 2.7残存 底径 5.0	真壁中央部壁 深淵上2.6cm	胎土雲母・白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元色。色調灰白。	内外面磨ナズ。底面赤切り磨し。	
2	須恵器 高台付甕	ほぼ光形	器高 3.5 口径 11.8 底径 6.9	真壁中央部 深淵上8cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・45 μmの小石を含む。焼成還元色。色調 暗褐色。	内外面磨ナズ。底面赤切り磨し。付け 高台。	
3	須恵器 高台付甕	底部のみ	器高 2.6残存 底径 6.3	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元色。色調暗赤褐色。	内外面磨ナズ。底面赤切り磨し。付け 高台。	
4	須恵器 高台付甕	高台 1/2	器高 3.8残存 底径(9.1)	電右前 深淵直上	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒 ・小石を含む。焼成還元色。色調暗 赤褐色。	内外面磨ナズ。	
5	須恵器 段縁陶器	口縁破片	器高 1.4残存 口径(14.8)	真壁近く 深淵上7.5cm	胎土雲母。焼成還元色。色調暗赤褐色。	外面口縁部の輪帯一部剥離。	壁控券 K-90(式別)
6	土師器 土盤	口縁～底部 1/2	器高 19.0 口径 18.6 底径 8.0	電機橋部 使用面直上	胎土雲母・赤色粒・白色粒・黒色粒 を含む。焼成還元色。色調暗赤褐色。	外面口縁部磨ナズ。体部上位磨方向磨ナリ。 中位～下位磨方向磨ナリ。一部に磨ナズ。底 面磨ナズ。内面口縁部磨ナズ。体部磨方向磨ナリ。 外面口縁～胴部磨ナズ。体部上半部方向磨ナ リ。下位磨の方向磨ナリ後、中位の一部に磨ナ ズ。内面口縁～胴部磨ナズ。体部磨方向磨ナズ。	
7	土師器 土盤	口縁～底部 1/6	器高 30.5 口径 22.5 底径 8.0	電機橋部 使用面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・45 μmの小石を含む。焼成還元色。色調 暗赤褐色。		

第4章 遺構・遺物の一覧表

21号住居出土遺物観察表 第130回・P.L146

番号	種類	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	鉄製品 両端欠陥 刀子	残存	長さ 9.5残存 幅 1.5 厚さ 0.4 重さ 9.4	南壁端部 床面上29cm			
2	須磨器 埴	口縁~底部 1/3	器高 4.4 口径(15.0) 底径(9.1)	甕壇端部 使用面上2.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	内外面回転ナズ。底部切り履し不明。手持ち型取り製。	分析番号109
3	須磨器 坪	口縁~体部 1/4	器高 3.2 口径 10.6 底径 7.0	南東隅壁部 床面上	胎土赤色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	内外面回転ナズ。底部回転未切り履し。	
4	須磨器 坪	ほぼ完形	器高 2.5 口径 10.6 底径 7.0	北東隅壁部 床面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	内外面回転ナズ。底部回転ナズ。	
5	須磨器 高台付埴	口縁~底部 4/5	器高 6.0 口径 13.8 底径 6.9	甕坛端部	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	内外面回転ナズ。底部切り履し不明。付け高台。	
6	土師器 土壺	口縁~体部上位1/8	器高 11.9残存 口径(21.8)	甕壇端部右壁 使用面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	外面口縁~胴部破ナズ。体部胴め方向型ナズ。内面口縁部破ナズ。体部壁め方向型ナズ。	
7	土師器 壺	口縁~体部破片	器高 9.0残存 口径(20.3)	南東隅壁部 床面上15cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	外面口縁~胴部破ナズ。体部上位め方向型ナズ。内面口縁~胴部破ナズ。体部上位め方向型ナズ。	
8	土師器 土壺	体部下位~底部1/3	器高 10.4残存 口径(9.2)	甕壇端部 側方	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。焼成酸化珪。色調明赤。	外面体部下位め方向型ナズ。底部側切り。内面体部下位め方向型ナズ。	
9	須磨器 高台付埴	体部 1/2	器高 2.9残存	中央部 床面上6.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化珪。色調赤。	内外面回転ナズ。底部回転未切り履し。付け高台。	

22号住居出土遺物観察表 第142回・P.L146

番号	種類	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨器 坪	口縁~底部 4/5	器高 2.5 口径(10.8) 底径 7.0	東壁土坑 床面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化珪。色調赤黄斑。	内外面回転ナズ。底部回転未切り履し。	
2	土師器 埴	口縁~体部上位破片 羽根	器高 10.9残存 口径(19.2)	甕壇端部 使用面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調明赤。	外面口縁~胴部破ナズ。体部上位め方向型ナズ。一部に側方方向の型ナズ。内面口縁部め方向型か型ナズ。体部上位側め方向型ナズ。	
3	土師器 土壺	体部下位~底部1/4 土壺	器高 5.9残存 口径(11.0)	東壁部 床面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	外面体部下位め方向型ナズ。底部ナズ。内面体部下位め方向型ナズ。	

25号住居出土遺物観察表 第144回

番号	種類	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨器 羽根	口縁~破片	器高 5.9残存 口径 20.0	東壁近く 床面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	内外面回転ナズ。	
2	土師器 埴	口縁~体部上位破片 羽根	器高 10.1残存 口径(15.5)	北東隅壁部 床面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調赤。	外面口縁~胴部破ナズ。体部上位め方向型ナズ。胴部に小穿孔。	

26号住居出土遺物観察表 第146回・P.L146

番号	種類	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨器 坪	ほぼ完形	器高 3.2 口径 5.9 底径 6.0	南壁端部 床面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化珪。色調赤。	内外面回転ナズ。底部静止未切り履し。	
2	須磨器 坪	完形	器高 3.7 口径 10.0 底径 5.8	南壁端部 床面上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化珪。色調赤黄斑。	内外面回転ナズ。底部回転未切り履し。一部に側方方向の型ナズ。内面口縁部め方向型か型ナズ。体部上位側め方向型ナズ。	
3	須磨器 高台付埴	完形	器高 5.0 口径 12.2 底径 6.9	甕坛端部 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	内外面回転ナズ。底部回転未切り履し。付け高台。	
4	須磨器 高台付埴	口縁~底部 3/4	器高 6.4 口径(13.3) 底径 7.4	南壁近く 床面上5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調赤。	内外面回転ナズ。底部回転未切り履し。付け高台。高台部内側の底部に異なる円形の型跡がある。	
5	石製 甕壇形埴	完形	高さ 10.5 幅 15.2 厚さ 13.8 重さ 3035	南東隅壁部 床面上4.5cm	石材未塗装結晶灰。	方形に切り出されたと思われる埴。	

27号住居出土遺物観察表 第147回

番号	種類	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	瓦輪陶器 (絞)	体部~底部 1/2	器高 3.5残存 底径(7.8)	北東壁部 甕壇上	構成還元珪。色調灰白。	底部回転ナズ。付け高台。無軸受け掛け。	大宮2号式筒か？

28号住居出土遺物観察表 第148回・P.L147

番号	種類	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨器 坪	底部 2/3	器高 1.1残存 底部 5.6	甕壇口部 床面上	胎土精選されている。焼成酸化珪。色調に白い黄斑。	内外面回転ナズ。底部回転未切り履し。	
2	須磨器 坪	底部 1/2	器高 2.3残存 底径 6.4	南東隅壁部 床面上	胎土赤色粒・黒色粒を含む。焼成酸化珪。色調赤黄斑。	内外面回転ナズ。底部回転未切り履し。	
3	須磨器 埴	体部下位~底部	器高 1.2残存 底径 6.7	甕壇端部右壁 床面上1.5cm	胎土赤色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調赤。	内外面回転ナズ。外面体部下位め方向型ナズ。一部に側方方向の型ナズ。内面口縁部破ナズ。体部上位側め方向型ナズ。	
4	須磨器 高台付埴	体部下位~底部	器高 2.8残存 底径 7.0	甕壇端部 使用面	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化珪。色調明赤。	外面口縁~胴部破ナズ。体部上位め方向型ナズ。一部に側方方向の型ナズ。内面口縁部破ナズ。体部上位側め方向型ナズ。	
5	土師器 羽根	口縁~体部破片	器高 14.6残存 口径(20.8)	甕壇端部 使用面上2.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・φ5mmの小石を含む。焼成酸化珪。色調赤。	外面口縁~胴部破ナズ。体部上位側め方向型ナズ。	

39号住居出土遺物観察表 第150図・P.L147

番号	類別	保存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 高台付罐	底部のみ	器高 2.1残存 口径 6.7	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化地。色調灰白。内面黒。	外面体部下位～高台部回転ナデ。底部回転糸切り難し。付け高台。内面底面露出。	内面黒色結晶。
2	須恵器 高台付罐	底部のみ	器高 1.9残存 口径 5.7	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化地。色調にぶい。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り難し。付け高台。内面底面露出。	
3	須恵器 高台付罐	口縁～底部破片 坏	器高 3.5 口径(10.4) 口径(5.2)	崩り方埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化地。色調浅黄地。	内外面回転ナデ。底部停止糸切り難し。	
4	須恵器 高台付罐	口縁～底部 2/3 坏	器高 3.7 口径(10.5) 口径 5.5	電線埋設 使用直線上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化地。色調黄。	内外面回転ナデ。底部停止糸切り難し。	
5	須恵器 高台付罐	口縁～底部 1/2	器高 6.8 口径(14.3) 口径 9.0	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化地。色調黄。	内外面回転ナデ。底部切り難し。技法不明。付け高台。	
6	須恵器 高台付罐	1/3(高台欠損)	器高 5.6残存 口径(15.8)	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化地。色調にぶい。	外面口縁～体部下位回転ナデ。底部切り難し。技法不明。付け高台。内面口縁～底面露出。	内面黒色結晶。
7	須恵器 高台付罐	口縁～底部破片 坏	器高 3.6 口径(12.7) 口径(5.8)	電線埋設土中	胎土赤色粒。焼成還元地。色調灰。	付け高台。高輪張り跡。	大塚2号式式
8	須恵器 高台付罐	口縁～底部 1/2	器高 2.6 口径(11.8) 口径 6.4	埋設土中	胎土赤色粒。焼成還元地。色調灰。	外面回転ナデ。付け高台。高輪張り跡。	大塚2号式式
9	須恵器 高台付罐	口縁～底部 1/2	器高 2.8 口径(13.0) 口径(7.2)	埋設土中	胎土赤色粒。焼成還元地。色調灰。	口縁輪。底部回転ナデ。付け高台。高輪不明。	大塚2号式式
10	土師器 土釜	口縁～体部 1/2	器高 20.5残存 口径 20.3	電線埋設 使用直線上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・ $\phi 3$ mmの小石を含む。焼成酸化地。色調黄。	外面口縁～頸部回転ナデ。体部下位前方内面ナデ。上～中位部前方内面ナデ。内面口縁部破片ナデ。体部下位～中位部前方内面ナデ。	
11	土師器 土釜	体部下位～底部3/4 破	器高 17.7残存 口径(6.6)	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・ $\phi 3$ mmの小石を含む。焼成酸化地。色調にぶい。	外面体部下位前方内面ナデ。高輪張り跡。内面体部下位前方内面ナデ。体部下位前方内面ナデ。	

40号住居出土遺物観察表 第151図

番号	類別	保存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	土師器 土釜	口縁～体上部破片 破	器高 6.5残存 口径(16.5)	電線口部 床面上8.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化地。色調赤黒。	外面口縁部～頸部回転ナデ。体上部位前方内面ナデ。内面口縁～頸部破片ナデ。体上部位前方内面ナデ。	

41号住居出土遺物観察表 第152図

番号	類別	保存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～体部破片	器高 3.6残存 口径(19.4)	中央部 床面上4cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化地。色調にぶい。	内外面回転ナデ。	
2	土師器 土釜	口縁～体上部破片 破	器高 3.9残存 口径(18.4)	内側壁 床面上2.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化地。色調黒。	外面口縁部回転ナデ。体上部位前方内面ナデ。内面口縁部破片ナデ。体上部位前方内面ナデ。	

42号住居出土遺物観察表 第153図

番号	類別	保存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 坏	底部 1/4	器高 1.7残存 口径(9.1)	埋設土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化地。色調黄。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り難し。	

43号住居出土遺物観察表 第154図・P.L147

番号	類別	保存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口縁～底部 4/5	器高 2.4 口径 9.4 口径 6.9	内西側の竈穴 破断面	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化地。色調にぶい。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り難し。	内面黒色結晶。
2	須恵器 高台付罐	底部のみ	器高 2.2残存 口径 7.0	内西側の竈穴 底面直上	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化地。色調浅黄地。内面黒。	外面体部～高台部回転ナデ。底部回転糸切り難し。付け高台。内面底面露出。	内面黒色結晶。
3	土師器 土釜	口縁～体上部破片 破	器高 5.5残存 口径(19.3)	中央やや東 床面5cm	胎土赤色粒・白色粒・小石を含む。 焼成酸化地。色調にぶい。	外面口縁部回転ナデ。頸部～体上部位前方内面ナデ。内面口縁部破片ナデ。体上部位前方内面ナデ。	
4	石製 円盤形	下段欠損	長さ 6.3 幅 11.1 厚さ 2.6 重さ 210	北西隅壁部 床面直上	石材粗粒輝石安山岩。	扁平な円盤形の石製の破片。縁部中に亀打痕が現れる。	

45号住居出土遺物観察表 第157図

番号	類別	保存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 高台付罐	底部 1/4	器高 2.1残存 口径(7.2)	電線口部 床面直上	胎土赤色粒を含む。焼成還元地。色調灰白。	付け高台。高輪不明。	大塚2号式式

46号住居出土遺物観察表 第158図

番号	類別	保存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	須恵器 高台付罐	口縁～体部 1/4	器高 5.4残存 口径(15.7)	南東隅 床面上7cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元地。色調灰。	内外面回転ナデ。	
2	土師器 坏	口縁～体下部破片 坏	器高 2.7残存 口径(11.9)	電線埋設土中	胎土赤色粒・小石を含む。 焼成酸化地。色調にぶい。	外面口縁部回転ナデ。底部露出ナデ。内面口縁～底部丁寧なナデ。	

47号住居出土遺物観察表 第160図・P.L147

番号	類別	保存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	彫形の特徴	備考
1	土師器 土釜	口縁～底部 2/3	器高 4.9 口径(15.6) 口径 9.5	電筒 床面上18cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成還元地。色調黄。	外面口縁部回転ナデ。体部露出ナデ。内面口縁部破片ナデ。体部丁寧なナデ。	
2	須恵器 坏	口縁～底部 1/2	器高 3.8 口径(13.8) 口径 7.8	電線口部 使用直上5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元地。色調灰白。	内外面回転ナデ。底部回転糸切り難し。高輪のみに露出。	
3	土師器 土釜	体部 1/2	器高 15.8残存	南東隅 床面上20cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化地。色調黄。	扁平な円盤形の石製の破片。縁部中に亀打痕が現れる。内面露出部ナデ。体部下位前方内面ナデ。	

番号	建号	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
17	灰陶器 高台付埴	胴部下位→底部1/4	高さ 7.0残存 口径(7.0)	西部 床面上1cm	胎土黒黒。焼成還元焰。色調灰白。	口縁部のズかに外反。基部浅く付け。	大塚2号室式調
18	灰陶器 埴	口縁部 1/4	高さ 3.4残存 口径 15.0	北東隅の破穴 床面上5cm	胎土黒黒。焼成還元焰。色調灰白。	付け高台。胎輪不明。	大塚2号室式調
19	土師器 羽釜	口縁部破片	高さ 4.1残存 口径(24.7)	西部 床面上25cm	焼成還元焰。色調に白い焼。	内外面ともナデ。	割がうすく狭い。
20	土師器 埴	胴部下位→底部1/3	高さ 12.4残存 口径(7.0)	西部深い 床面上11cm	胎土45～50%の砂を多く含む。 焼成還元焰。色調に白い焼。	外面体部下位斜め方向削り後、胴・胴の方向 ナデ。体部下位斜め方向削り後、底部ナデ。 内面体部下位→底部斜め方向削りナデ。	
21	須恵器 壺	胴部 1/4	高さ 3.6残存	中央部 床面上24cm	焼成還元焰。色調に白い焼。	内外面とも胎輪ナデ。	
22	土製品 埴口	破片	長さ 3.8残存 幅(6.1) 厚さ 1.5	埋没土中		内径 4.6cm 外径 8.6cm	
23	土製品 土師	宍形	長さ 3.2 幅 1.5 高さ 7.83	全部 床面上11cm	焼成還元焰。色調に白い焼。		
24	土製品 土師	宍形	長さ 3.7 幅 1.6 高さ 8.84	全部 床面上7cm	焼成還元焰。色調に白い焼。		
25	土製品 土師	一端穴類	長さ 3.6残存 幅 1.5 高さ 7.20	床面上部	焼成還元焰。色調に白い焼。		
26	土製品 土師	一端穴類	長さ 4.1 幅 1.5 高さ 8.43	南東隅、床下土 切込直上	焼成還元焰。色調に白い焼。		
27	土製品 土師	宍形	長さ 4.3 幅 1.5 高さ 8.61	電筒、床下土瓦 床面上8cm	焼成還元焰。色調に白い焼。		
28	土製品 土師	宍形	長さ 3.9 幅 1.4 高さ 8.20	中央部 床面上3cm	焼成還元焰。色調に白い焼。		

52号生屋出土遺物調査表 第170、171号・P.L148、149

番号	建号	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	須恵器 埴	宍形	高さ 2.3 口径 8.7 直径 5.1	北西隅 床面上1cm	胎土精選された胎土。 焼成還元焰。色調に白い焼。	外面体部凹ナデ。底部凹面凹し。内面 口縁→底部凹ナデ。	口縁部内面の 1/2にスス付着。
2	須恵器 埴	口縁→底部 3/4	高さ 4.9 口径(15.0) 直径 7.1	電筒直上 中央やや南 床面上5cm	電筒 焼成還元焰。色調に白い焼。	内外面胎輪ナデ。底部凹面未切り磨し。	
3	須恵器 埴	口縁→底部 2/3	高さ 4.8 口径 13.8 直径 6.0	中央やや南 床面上5cm	電筒 焼成還元焰。色調に白い焼。	外面口縁部凹ナデ。体部下位斜め 方向削り。内面口縁部破ナデ。体 部→底部凹ナデ。	内面黒色粘焼。 一部酸化して黄色。
4	須恵器 高台付埴	底部のみ	高さ 3.4残存 口径(8.1)	南西隅 床面上1cm	電筒 焼成還元焰。色調に白い焼。	高台部胎輪ナデ。底部切り磨し技法不明。付け 高台。	底部内面スス付着。 文字不明。
5	須恵器 埴	体部破片	高さ 1.8残存	埋没土中	焼成還元焰。色調灰白。	内外面胎輪ナデ。	内面に黒青。 文字不明。
6	須恵器 高台付埴	口縁→底部 1/4	高さ 5.6 口径(13.7) 直径 6.4	電筒 床面上25cm	電筒 焼成還元焰。色調灰白。	内外面胎輪ナデ。底部凹面未切り磨し。付け 高台。	
7	須恵器 高台付埴	口縁→底部 2/3	高さ 5.8 口径 15.8 直径 6.8	電筒と電筒の 破片直上 床面上5cm	電筒 胎土砂粒を多く含む。ザラザラして いる。焼成還元焰。色調に白い焼。	内外面胎輪ナデ。底部凹面未切り磨し。付け 高台。体部外縁下位には斜め方向削りよう なナデ調整が入る。	
8	須恵器 高台付埴	口縁→底部 2/3	高さ 6.2 口径(14.5) 直径 6.7	電筒直上 中央部 床面上5cm	電筒 焼成還元焰。色調焼。	外面口縁部→底部胎輪ナデ。底部凹面未切り磨 し。付け高台。内面口縁→底部胎輪ナ デ。	内面黒色粘焼。一 部酸化して黄色。
9	土師器 羽釜	口縁→底部 内面1/2 外反(14.8割)	高さ 14.7 口径(17.0) 直径(8.0)	中央部 床面上5cm	中央部 胎土精選された胎土。 焼成還元焰。色調灰黒焼。	外面口縁部→底部胎輪ナデ。体部上平腕方向 削り。下平腕方向ナデ。内面口縁部破ナ デ。底部胎輪ナデ。	外面は胎輪が著し い。
10	土師器 羽釜	鉢形宍形	高さ 33.4 口径 23.6 直径 11.7	南東隅 電筒 床面上5cm	電筒 胎土45～60%の砂を多く含む。 焼成還元焰。色調に白い焼。	外面口縁部→底部胎輪ナデ。体部上位上→下 腕方向削り。中位→下位上→上腕方向削 り。底部ナデ。内面口縁部→体部下位斜 め方向削りナデ。最下 位斜め方向削りナデ。底部ナデ。	
11	土師器 羽釜	口縁→体部下位1/6	高さ 24.2残存 口径(25.9)	南東隅 電筒 床面上5cm	電筒 胎土胎輪砂を多く含む。ザラザラして いる。焼成還元焰。色調に白い焼。	外面口縁部→底部胎輪ナデ。体部上位斜め 方向削り。中位斜め方向削り。下位斜め 方向削り。内面口縁部→体部下位斜め 方向削りナデ。	
12	土製品 土師	口縁→底部 1/2	高さ 29.5 口径(25.9) 直径(11.1)	電筒 床面上5cm	電筒 胎土胎輪砂を含む。 焼成還元焰。色調に白い焼。	外面口縁部破ナデ。体部上端斜め方向ナ デ。体部上平腕ナデ。下平腕方向削り後、削 り方向ナデ。底部ナデ。内面口縁部破ナ デ。体部上平腕方向削りナデ。中位斜め方 向削りナデ。下位 →底部方向削りナデ。	
13	土製品 土師	破片	縦 7.9 横 5.6 厚さ 0.75	埋没土中	焼成還元焰。色調灰白。	新築部を穿っている。	須恵器部の胎輪。
14	土製品 土師	破片平穴	長さ 1.8残存 幅(1.2) 高さ 1.56	埋没土中	焼成還元焰。色調焼。		
15	土製品 土師	破片平穴	長さ 2.1残存 幅(1.5) 高さ 2.58	埋没土中	焼成還元焰。色調焼。		
16	土製品 土師	宍形	長さ 3.2 幅 1.0 高さ 3.50	底部 床面上16cm	底部 焼成還元焰。色調灰黒焼。		
17	土製品 土師	宍形	長さ 3.3 幅 1.2 高さ 5.01	埋没土中	埋没土中 焼成還元焰。色調に白い焼。		
18	土製品 土師	宍形	長さ 3.9 幅 1.9 高さ 3.58	西部 床面上5cm	西部 焼成還元焰。色調灰黒焼。		
19	土製品 土師	宍形	長さ 2.8 幅 1.1 高さ 3.27	埋没土中	埋没土中 焼成還元焰。色調に白い焼。		
20	土製品 土師	宍形	長さ 3.9 幅 1.1 高さ 4.14	底部 床面上5cm	底部 焼成還元焰。色調灰黒焼。		
21	土製品 土師	一端穴類	長さ 3.8残存 幅 1.5 高さ 7.11	埋没土中	埋没土中 焼成還元焰。色調灰黒焼。		

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
22	鉄製品 刀子	内蔵欠損	長さ 5.1 残存 幅 1.7 厚さ 1.1 重さ 0.23	埋没土中			分析番号110
23	鉄製品 刀子	内蔵欠損	長さ 4.3 残存 幅 0.6 厚さ 0.5 重さ 0.72	埋没土中			分析番号102

53号住居出土遺物観察表 第17回・P.L18、190

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	土師器 高台付埴	口縁-底部 2/3	器高 3.0 口径(14.8) 直径 8.2	電気内 表面土中	焼成酸化色、色調浅黄褐色。	外面口縁部横ナリ。体部斜め方向直線ナリ後、器外へス。真白焼成ナリ。付け高台。内面口縁部横ナリ。体部縦方向直線ナリ。	外面に曇り。
2	土師器 高台付埴	口縁-体部下位1/2	器高 5.1 残存 口径 16.0	電気内 表面土中	焼成酸化色、色調浅黄褐色。	外面口縁部横ナリ。体部斜め方向直線ナリ後、器外へス。内面口縁部横ナリ。体部横ナリ。	粘土分析資料 三ツ土器前-4
3	土師器 埴	底部のみ	器高 3.0 残存 直径 5.7	電気内 表面土中	焼成還元色、色調灰白。	内外面回転ナリ。底部回転未切り離し。	
4	土師器 高台付埴	体部下位-底部1/4	器高 3.0 残存 口径 6.1	電気内 表面土中	焼成還元色、色調灰白。	内外面回転ナリ。底部回転未切り離し。付け高台。	
5	土師器 高台付埴	口縁-底部 1/3	器高 3.3 口径(12.8) 直径 6.8	南西隅 表面土中	粘土4?~3mmの砂粒を含む。焼成還元色、色調灰白。表面に黒染。	内外面回転ナリ。底部回転未切り離し。付け高台。	
6	土師器 埴	口縁-底部 1/2	器高 4.4 口径(12.6) 直径 6.0	使用面直上	電気内 焼成還元色、色調灰白。	内外面回転ナリ。底部回転未切り離し。	
7	灰釉陶器 高台付埴	口縁-高台部 1/2	器高 3.9 口径(13.3) 直径 6.8	電気内 表面土中	粘土焼成。焼成還元色、色調灰白。	器底回転ナリ。付け高台。輪軸横ナリ。	大原2号式式前
8	灰釉陶器 高台付埴	底部 1/2	器高 2.0 残存 直径 8.0	西北隅 表面土中	粘土焼成。焼成還元色、色調灰白。	器底回転ナリ。付け高台。輪軸不明。	大原2号式式前
9	灰釉陶器 高台付埴	体部中央-器底1/2	器高 3.0 残存 直径 5.4	北西隅 表面土中	粘土焼成。焼成還元色、色調灰白。	器底回転ナリ。付け高台。輪軸横ナリ。	大原2号式式前
10	灰釉陶器 高台付埴	器底のみ	器高 1.4 残存 直径 7.4	電気内土中	粘土焼成。焼成還元色、色調灰白。	器底回転ナリ。付け高台。輪軸不明。	大原2号式式前
11	灰釉陶器 高台付埴	器底のみ	器高 2.1 残存 直径 6.7	電気内 表面土中	粘土焼成。焼成還元色、色調灰白。	器底回転ナリ。付け高台。輪軸不明。	大原2号式式前
12	土師器 埴	口縁部 1/4	器高 7.0 残存 口径(19.6)	電気内 表面土中	焼成酸化色、色調に白っぽい。	外面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。内面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。	
13	土師器 埴	口縁-体部上位破片	器高 4.0 残存 口径(21.6)	内室・北壁付近 の土層に埋没	焼成還元色、色調に白っぽい。	外面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。内面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。	
14	土師器 埴	口縁-体部上位破片	器高 7.0 残存 口径(21.4)	電気内 表面土中	焼成還元色、色調。	外面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。内面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。	
15	土師器 埴	口縁-体部上位1/5	器高 6.2 残存 口径(21.9)	電気内 表面土中	焼成還元色、色調に白っぽい。	外面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。内面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。	
16	土師器 埴	口縁-体部下位1/4	器高 21.5 残存 口径(23.8)	電気内 使用面直上	焼成還元色、色調に白っぽい。一部黒染。	外面口縁部横ナリ。器底回転ナリ。器底下位ナリ。粘土層より出土。体部上位斜め方向直線ナリ。内面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。	
17	石製 碇石	完整	長さ 10.6 幅 9.4 厚さ 3.6 重さ 460	北隅埋没 表面土中	石材製軟質輝石安山岩。	扁平に磨いた碇石の破片。表面一面を磨いている。磨りも残る。	
18	石製 碇石	破片	長さ 10.4 幅 11.3 厚さ 9.2 重さ 460	南西隅 表面土中	石材製二ツ岳軟石。	方形に磨いた碇石の破片。上面は磨られておらず。側面には磨打痕と曇りが残る。	

54号住居出土遺物観察表 第126回・P.L150

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	土師器 埴	口縁-底部 3/4	器高 3.0 口径 9.6 直径 5.4	電気内。中央部 表面土中	焼成還元色、色調灰白。	内外面回転ナリ。底部回転未切り離し。	
2	土師器 埴	口縁-底部 3/4	器高 2.9 口径 11.5 直径 6.5	電気内 使用面直上	色調浅黄褐色。	内外面回転ナリ。底部回転未切り離し。	
3	土師器 土器	口縁-体部上位1/8	器高 7.0 残存 口径(18.3)	北東隅 表面土中	焼成還元色、色調浅黄褐色。	外面口縁部横ナリ。体部縦方向直線ナリ後、縦方向ナリ。内面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。	
4	土師器 土器	口縁-体部上位1/5	器高 9.0 残存 口径(22.4)	北東隅 表面土中	焼成還元色、色調浅黄褐色。	外面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。内面口縁部横ナリ。体部上位横方向直線ナリ。	
5	土師器 土器	完整	長さ 3.5 幅 1.2 重さ 5.8	掘り方埋没土中	焼成還元色、色調に白っぽい。		
6	鉄製品 針	完整	長さ 5.1 幅 0.2 厚さ 0.3 重さ 1.47	埋没土中			分析番号181
7	石製 碇石	上下端欠損	長さ 0.5 幅 5.5 厚さ 2.5 重さ 57.0	掘り方埋没土中	石材製灰石。	扁平に磨いた碇石の破片。表面一面を磨いている。	
8	石製 碇石	上下端、右欠損	長さ 10.9 幅 9.1 厚さ 0.8 重さ 660	埋没土中	石材製輝石?	方形に磨いた碇石の破片。上面に炭化物が付着している。	
9	石製 碇石	下端欠損	長さ 0.7 幅 4.6 厚さ 2.3 重さ 77.0	埋没土中	石材製灰石。	扁平に磨いた碇石の破片。表面裏面とも使用している。	

54号住居出土遺物観察表 第127回

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	彫刻の特徴	備考
1	土師器 高台付埴	体部破片	器高 4.4 残存	電気内 表面土中	焼成還元色、色調に白っぽい。	外面体部上半部横方向直線ナリ。体部下半部縦方向直線ナリ。内面体部縦方向直線ナリ。	内面黒色染。

55号住居出土遺物観察表 第178図・P.L150

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土器壺	口縁～体部上位破片	断面 6.6残存 口径(20.3)	甕内底面 床面土3cm	焼成酸化色。色調灰白。	内外面口縁～体部間ナズ。 体部上位方向蓋ナズ。	
2	瓦物陶器 高台付灰皿	底部破片	断面 1.8残存 底径(6.0)	埋没土中	胎土緻密。焼成還元色。色調灰白。	底面割取本切り。付け高台。施釉不明。	虎塚山1号窯式調
3	瓦物陶器 高台付皿	口縁～底部 1/6	断面 2.0 口径(13.3) 底径(7.6)	北東隅 床面土2cm	胎土緻密。焼成還元色。色調灰白。	底面割取ナズ。付け高台。施釉僅け僅け。	虎塚山1号窯式調
4	鉄製品 不明	欠形	長さ 7.3 幅 0.9 厚さ 0.6 重さ 5.18	埋没土中		断面三角形・棒状。	
5	土製品 土鍋	一徹欠損	長さ 3.0残存 幅 1.2 重さ 4.13	北西部 床面土2cm	焼成酸化色。色調にぶい境。		
6	土製品 土鍋	一徹欠損	長さ 2.9残存 幅 1.0 重さ 3.24	埋没土中	焼成酸化色。色調にぶい境。		
7	土製品 土鍋	欠形	長さ 2.8 幅 1.1 重さ 3.36	埋没土中	焼成酸化色。色調にぶい境。		

56号住居出土遺物観察表 第180、181図・P.L150、151

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	銅器壺	口縁～底部 1/3	断面 2.95 口径(9.7) 底径 5.6	甕内 床面土4cm	胎土赤色炭粉物を含む。焼成酸化色。	内外面回転ナズ。底面割取本切り難し。	
2	瓦物陶器 高台付灰皿	底部 1/3	断面 1.9残存 底径(7.4)	甕内底面 床面土13cm	胎土緻密。焼成還元色。色調灰白。	底部蓋ナズ。付け高台。施釉僅け僅け。	大塚2号窯式調
3	瓦物陶器 高台付皿	底部のみ	断面 1.6残存 底径(5.2)	西壁際 床面土上	焼成還元色。色調黒。	底面割取本切り難し。外面高台部中央部回転ナズ。内面底部破片方向蓋ナズ。	内外面とも黒色結露。
4	円筒埴輪 円筒	割取破片	断面 13.9残存	南西側の竈口内 床面土5cm中央部 破片接合	胎土緻密。色調にぶい赤味。	胎土粗砂を多く含む。 色調にぶい赤味。	
5	円筒埴輪 割取形	口縁破片	断面 15.9残存	甕内底面 使用面	胎土粗砂。小粒を多く含む。 焼成酸化色。色調黒。	外面割取ハク(16cm/2cm)。内面口縁部上半横ハク(12cm/2cm)。下半割取ナズ。	
6	円筒埴輪 円筒	断面 1/4	断面 13.8残存	甕内 使用面下6cm	胎土粗砂を多く含む。 焼成酸化色。色調にぶい赤味。	外面割取ハク(14cm/2cm)。内面割取形ナズ。 溝孔円形。	
7	土製品 土鍋	欠形	長さ 3.1 幅 1.0 重さ 4.13	東面 床面土6cm	焼成酸化色。色調黒。		
8	土製品 土鍋	一徹欠損	長さ 4.0残存 幅 1.9 重さ 11.55	北東部 床面土17cm	焼成酸化色。色調黄沢。		
9	土製品 土鍋	一徹欠損	長さ 3.9残存 幅 2.0 重さ 12.49	埋没土中	焼成酸化色。色調黄沢。		
10	鉄製品 不明	下徹欠損	長さ 5.7残存 幅 1.2 厚さ 0.7 重さ 18.10	東壁際 床面土3cm			分析番号116
11	鉄製品 不明	一徹欠損	長さ 4.0残存 幅 1.6 厚さ 1.9 重さ 13.25	北東部 床面土上			分析番号115
12	鉄製品 不明	同徹欠損	長さ 3.8残存 幅 1.4 厚さ 1.5 重さ 6.05	西部 床面土3cm			分析番号114
13	土製品 引口	破片	長さ 4.4残存 幅(2.7) 厚さ 1.9	南壁際 床面土4cm		内径 2.6cm 外径 6.9cm	
14	土製品 引口	破片	長さ 13.0残存 幅(4.8) 厚さ 1.1	南西側の竈口内 床面土19cm 南壁際床面土2cm		内径 2.7cm 外径 6.3cm	
15	土製品 引口	破片	長さ 8.0残存 幅(7.4) 厚さ 2.4	北西部 床面土6cm		内径 2.4cm 外径 6.3cm	
16	土製品 引口	破片	長さ 14.5残存 幅(7.4) 厚さ 7.5	南西部 床面土19cm		内径 3.3cm 外径 7.8cm	
17	鉄押 割取形	破片	長さ 4.2 重さ 1010	南部 床面土5cm			

57号住居出土遺物観察表 第183図・P.L151

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土器壺	口～破破片	断面 3.7残存 口径(12.0) 底径(6.0)	埋没土中	焼成酸化色。色調黄沢。	外面口縁部破片ナズ。体部斜め方向蓋有り。底部一方位置有り。内面口縁部～底部ナズ。	体部内面に「阿」 意。
2	銅器壺	口縁部1/3欠損	断面 2.9 口径 10.2 底径 6.1	北西部 床面土上	焼成酸化色。色調にぶい黄味。	内外面回転ナズ。底面割取本切り難し。底部 内面割取本切りの状態が判明している。	
3	銅器壺	底部のみ	断面 1.5残存 底径 6.3	南西部 床面土上	焼成還元色。色調灰白。	内外面回転ナズ。底面割取本切り難し。	底面割取ハクナズ。
4	瓦物陶器 高台付皿	口縁～底部 1/3	断面 4.5 口径(15.2) 底径 8.3	南壁際 床面土上	胎土粗砂を多く含む。 焼成酸化色。色調黒。	内外面回転ナズ。底部割り難し。割取ナズ。 付け高台。	
5	銅器壺	口縁～体部 1/4	断面 11.6残存 口径(17.9)	中央部やや西側 床面土3cm	胎土粗砂を多く含む。 焼成酸化色。色調黒。	内外面回転ナズ。	
6	土製品 土鍋	一徹欠損	長さ 3.5 幅 1.4 重さ 6.66	北部 床面土13cm	焼成酸化色。色調黄沢。		

58号住居出土遺物観察表 第185図・P.L151

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土器壺	口縁～体部 1/2	断面 20.9残存 口径(20.7)	甕内 使用面土3cm	胎土鉄粗砂を多く含む。 焼成酸化色。色調にぶい黄味。	外面口縁～体部間ナズ。体部上位方向蓋有り。 下位斜め方向蓋有り。内面口縁部破片ナズ。 体部斜め方向蓋ナズ。	
2	銅器壺	口縁～底部 1/5	断面 4.1 口径(11.9) 底径(4.5)	南壁際 床面土11cm	胎土鉄粗砂を多く含む。ザラザラ している。焼成還元色。色調暗灰。	内外面回転ナズ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

60号住居出土遺物観察表 第188回・P.L131

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	瓦器部 杯	ほぼ完整	器高 1.8 口径 9.8 底径 7.0	中央部 床面上1	粘土・焼成 焼成還元色、色調に白い焼	内外面回転ナズ。底部回転未切り磨し。	
2	瓦器部 杯	口縁～底部 1/6	器高 4.8 口径(12.5) 底径(5.7)	北西部 床面上6cm	焼成還元色、色調に白い焼。	内外面回転ナズ。底部回転未切り磨し。	
3	瓦器部 杯	口縁～体部下位1/4	器高 3.6残存 口径(12.8)	北西部 床面上5cm	焼成還元色、色調に白い焼。	内外面回転ナズ。	
4	円筒形輪 戸筒	破片	器高 12.6残存	竈器直上 使用面	粘土系赤色粘均粒が目立つ。 焼成還元色、色調焼。	外面縞ハツ(11cm/2cm)後、突帯付行。内面割 断方向内側ナズ。透孔円形。突帯台形(下径狭い)。	
5	円筒形輪 戸筒	胴中位～底部部1/5	器高 27.3残存 底径(13.0)	竈器直上 使用面	粘土系赤色粘均粒を含む。 焼成還元色、色調浅黄焼。	外面縞ハツ(11cm/2cm)後、突帯付行。内面基 底部斜削ナズ後、割断縁ナズ。底部平角で 小さな凹み。基部の裏ねむらわせ石。透孔円形。 突帯台形(下径狭い)。	

61号住居出土遺物観察表 第188回・P.L132

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	瓦器部 高台付行	口縁～底部 3/4	器高 4.7 口径 11.9 底径 6.4	北東部 床面上	焼成還元色、色調に白い焼。	外面口縁部～高台部回転ナズ。底部切り磨し 技法不明。内面回転未かな磨面ナシ。	内面黒色焼戻。
2	瓦器部 杯	ほぼ完整	器高 2.1 口径 9.9 底径 6.8	北東部 床面上	粘土・焼成 粘土・焼成還元色、色調に 色調に白い焼。底部の一部に厚面。	内外面回転ナズ。底部回転未磨し。	
3	瓦器部 杯	口縁～底部 3/4	器高 2.5 口径 9.8 底径 6.1	竈器直上	焼成還元色、色調焼。	内外面回転ナズ。底部回転未磨し。	
4	瓦器部 高台付行	底部のみ	器高 2.3残存 底径 7.4	西壁部 床面上12cm	焼成還元色、色調浅黄焼。	外面回転ナズ。底部回転未切り磨し？内面 下アタテ磨面ナシ。	内面黒色焼戻。 2次加熱により酸化。
5	瓦器部 高台付行	口縁～体部破片	器高 5.6残存 口径(16.2)	西壁部 床面上	粘土・焼成 粘土・白色粘均粒を含む。焼成還元 色、色調焼。	体部下位回転磨面ナシ。内面口縁部に四角か一 条状の。施釉面は内面口縁部から体部のみ	床面上1号室式調
6	土師器 羽釜	口縁～体部下位1/8	器高 7.8残存 口径(18.4)	竈器直上 使用面直上	焼成還元色、色調焼。	外面口縁部～底部磨面ナズ。体部下位磨面方向 内側。内面口縁部磨面ナズ。体部部・斜め方向 磨面ナズ。	粘土分析資料 3号水田部-5
7	土師器 土釜	体部下位～底部破片 土釜	器高 4.7残存 底径(14.4)	竈 使用面直上	粘土 410～15mmの砂粒を含む。 焼成還元色、色調焼。	外面体部下位磨面方向磨面ナシ。磨面 方向ナズ。内面体部下位～底部磨面方向 磨面ナズ。	
8	土製品 土師	扁平片	長さ 4.6 厚さ 6.8 長さ 1.9 厚さ 6.8	北部 床面上3cm	焼成還元色、色調明赤焼。		
9	土製品 土師	破片	長さ 7.4 幅 7.5 厚さ 5.6 厚さ 220	竈器直上石礎 使用面上5cm	焼成還元色、色調明赤焼。	方形に整形し焼成された土塊。上面に磨面が 残る。	

62号住居出土遺物観察表 第190、191回・P.L132、133

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	瓦器部 高台付行	体部下位～底部1/5	器高 1.9残存 底径(4.0)	階段土中	粘土・焼成 粘土・焼成還元色、色調灰白。	付け高台。施釉面付掛け。	大塚2号～ 鹿原山1号室式調
2	瓦器部 高台付行	体部下位～底部破片	器高 1.5残存 底径(5.9)	中央部や西 床面上	粘土・焼成 粘土・焼成還元色、色調灰白。	付け高台。施釉不明。	大塚2号室式調
3	土師器 土釜	底部 1/5	器高 3.3残存 底径(12.6)	竈器直上 内 使用面直上	粘土 410～5mmの砂粒を含む。 焼成還元色、色調焼。	外面体部下位磨面方向磨面ナシ。下部磨面方向 磨面ナシ。内面体部下位～底部磨面 方向ナズ。	
4	土師器 羽釜	口縁～体部下位1/4	器高 15.7残存 口径(23.8)	竈器直上 輪軸上	粘土・焼成 粘土・原色粘均粒を多量に含む。 焼成還元色、色調焼。	外面口縁部～底部磨面ナズ。体部下位磨面方向 内側。斜め方向磨面ナズ。内面口縁部 磨面ナズ。体部下位磨面方向ナズ後、上位の 磨面方向ナズ。	
5	鉄製品 不明	両端欠損	長さ 4.6残存 幅 1.2 厚さ 1.4 重さ 6.82	北部 床面上			分析番号401
6	土製品 土師	口	長さ 18.6残存 幅 6.0 厚さ 8.3	竈器直上 使用面直上4cm		内径 3.5cm 外径 9.0cm	
7	土製品 土師	破片	長さ 9.0残存 幅 9.0 厚さ 2.0	中央部 床面上		内径 3.8cm 外径 5.2cm	
8	土製品 土師	破片	長さ 20.9残存 幅(9.1) 厚さ 8.0	竈器直上 使用面直上6cm		内径 3.2cm 外径 7.9cm	先端部内径1.9cm 分析番号201
9	円筒形輪 戸筒	胴部破片	器高 12.9残存	竈器直上 使用面直上	粘土・焼成 粘土・原色粘均粒を多く含む。 焼成還元色、色調焼。	外面縞ハツ(9cm/2cm)後、突帯付行。内面割断 縁ハツ(8cm/2cm)後、磨面ナズ。突帯台形(下 径狭い)。	
10	円筒形輪 戸筒	胴部破片	器高 24.6残存	階段土中	粘土・焼成 粘土・少量の砂粒を含む。 焼成還元色、色調焼。	外面縞ハツ(11cm/2cm)後、突帯付行。内面割断 縁ハツ(8cm/2cm)後、磨面ナズ。内面口縁部 磨面ナズ。透孔円形。突帯台形(下径狭い)。	実測直上にヘア記号 の一部分残る。
11	円筒形輪 戸筒	胴上～底部破片	器高 40.3残存	竈器直上 使用面直上	粘土・焼成 粘土・白色粘均粒・雲母片が目立つ。 焼成還元色、色調焼。	外面縞ハツ(11cm/2cm)後、突帯付行。内面割断 縁ハツ(8cm/2cm)後、磨面ナズ。内面口縁部 磨面ナズ。透孔円形。突帯台形(下径狭い)。	胴部内面に平行する 穴縁とそれに斜 行する穴縁。 ヘア記号ナシ。
12	円筒形輪 戸筒	口縁～胴部下位1/3	器高 40.7残存 口径(30.4)	竈器直上。使用 面直上。内面を 上にしていた。	粘土・焼成 粘土・焼成還元色、色調に白い焼。	外面縞ハツ(11cm/2cm)後、突帯付行。口縁部 磨面ナズ。口縁部磨面はゆるく残存する。内面 基部割断磨面ナズ。胴部磨面ナズ後、磨面ハツ (12cm/2cm)。口縁部磨面ナズ。透孔円形。突 帯台形(下径狭い)。	

64号住居出土遺物観察表 第192、193回・P.L153

番号	種類	残存	量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	蓋形陶 杯	完整	高さ 2.3 口径 8.3 底径 3.8	竈女輪壇壁 床面上	胎土精造されている。 焼成酸化色。色調黄褐色。	内外面回転ナブ。底面回転糸切り無し。	
2	蓋形陶 杯	口縁部1/3欠損	高さ 2.2 口径 8.3 底径 3.9	埋没土中	焼成酸化色。色調黄褐色。	内外面回転ナブ。底面回転糸切り無し。	内面の一部にスス 行着。
3	円筒形陶 片筒	口縁～胴部上位1/4	高さ 19.2残存 口径(26.0)	竈左側壁で作 られている。	胎土粗造を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面縦ハケ(11本/2cm)後、突帯付。口縁部 部割ナブ。内面陶器上平削・縦割ナブ後、口 縁部割ナブ(15本/2cm)、口縁部縦割ナブ。通 孔円形。突帯台形(下段側)。	口縁部外面にヘラ 記号「0」。
4	土製品 羽口	破片	長さ 8.1残存 幅 (7.5) 厚さ 2.9	中央部 床面上11cm		内径3.1cm 外径7.0cm	
5	鉄片 塊状押		長さ 5.5 幅 5.0 厚さ 3.3 重さ 150	竈部 床面上5cm			分析番号 9
6	鉄片 塊状押		長さ 4.5 幅 5.3 厚さ 2.5 重さ 90	竈内西壁。使用 面土盛り不明			
7	鉄片 塊状押		長さ 2.8 幅 3.7 厚さ 2.7 重さ 50	埋没土中			
8	鉄片 塊状押		長さ 5.9 幅 8.7 厚さ 3.7 重さ166.5	竈部 床面上			分析番号 15
9	鉄片 塊状押		長さ 10.9 幅 8.7 厚さ 4.6 重さ 480	床面上			分析番号202

65号住居出土遺物観察表 第196回・P.L153、154

番号	種類	残存	量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土器 土蓋	口縁～体部破片	高さ 8.6残存 口径(14.6)	北東隅 床面上3cm	焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁部割ナブ。体部上位削方向削り。下 段削方向削り。一部にナブ。内面口縁部 割ナブ。体部削方向削りナブ。	
2	土器 土蓋	口縁～体部 1/5	高さ 10.5残存 口径(22.5)	南西隅 床面上	焼成酸化色。色調におい焼。	外面口縁部割ナブ。体部上位削方向削り。縦 割方向削り。内面口縁部割ナブ。体部上位削 方向。一部削方向削りナブ。	
3	土器 土蓋	体部下位～底面破片	高さ 9.6残存 直径(10.0)	中央部 直面上	胎土粗造を多く含む。サザラして いる。焼成酸化色。色調黄褐色。	外面体部下位削の横方向削り後、縦・斜め 方向ナブ。内面体部下位～底面削方向削りナブ。	
4	円筒形陶 片筒	胴部破片	高さ 14.2残存	竈壁上部 使用面	胎土粗造を含む。焼成酸化色。 色調におい黄褐色。	外面縦ハケ(15本/2cm)後、突帯付。内面割 部付段割ナブ。上位縦ハケ(6本/1cm)、通孔 円形。突帯台形。	
5	形不明 破片(7)	胴部破片	高さ 8.1残存	埋没土中	胎土粗造を多く含む。焼成酸化色。 色調におい焼。	縦(7)胴部のみ(左)の(右)の接合のため の補修土残存(右)の本体は残存せず。外面 縦割ハケ(10本/2cm)、背板は縦割ハケ(6本/2cm)、 内面縦ハケ(3本/1cm)後、縦及び斜削ナブ。	
6	土製品 土蓋	完整	長さ 2.8 幅 1.6 重さ 2.45	北部。床下土式 直面上2cm			

66号住居出土遺物観察表 第197回・P.L154

番号	種類	残存	量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	蓋形陶 蓋台付皿	ほぼ完整	高さ 5.8 口径 11.3 底径 6.0	竈壁中部中央 使用面直上	胎土 ϕ 5-8mmの砂粒を含む。 焼成還元色。色調黄褐色。	内外面回転ナブ。底面回転糸切り無し。付け 合合。	
2	蓋形陶 蓋台付皿	口縁～底面 2/3	高さ 5.4 口径 12.8 底径 6.8	南東隅貯蔵穴 直面上2cm	胎土 ϕ 3-10mmの砂粒を少量含 む。焼成還元色。色調におい黄褐色。	内外面回転ナブ。底面回転糸切り無し。付け 合合。	
3	蓋形陶 蓋台付皿	口縁～底面 1/5 (高台欠損)	高さ 5.3残存 口径(14.7)	竈壁中部 使用面上3cm	焼成還元色。色調におい黄褐色。	内外面回転ナブ。	
4	円筒形陶 蓋台付皿	蓋部のみ	高さ 2.2残存 直径 7.1	南東隅貯蔵穴 直面上	胎土粗造。焼成還元色。色調灰白。	底面回転ナブ。付け合合。施釉後けけけ。	大塚2号突式
5	土器 土蓋	口縁部破片	高さ 3.4残存 口径(17.0)	竈左脇 床面上	焼成還元色。色調灰白。	内外面口縁部割ナブ。	

68号住居出土遺物観察表 第200回・P.L154

番号	種類	残存	量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土器 蓋台付皿	蓋部 1/4	高さ 3.8残存 直径(8.0)	埋没土中	焼成還元色。色調灰白。	外面体部下位削の方向削り。一部削りナブ。 高台接合部割りナブ。底面内面砂削。	
2	蓋形陶 杯	口縁～底面 1/2	高さ 3.8 口径(12.4) 底径 (4.8)	北東隅 床面上11cm	焼成還元色。色調におい黄褐色。	内外面回転ナブ。底面回転糸切り無し。	
3	蓋形陶 蓋台付皿	蓋部 1/2	高さ 5.3残存 直径 5.8	埋没土中	焼成還元色。色調黄褐色。	内外面回転ナブ。底面回転糸切り無し。付け 合合。	
4	土器 蓋	口縁部破片	高さ 4.9残存 口径(20.7)	竈左脇口22cm 床面上	胎土精造されている。 焼成還元色。色調黄褐色。	外面口縁～底面割ナブ。体部上位削方向削 り。内面口縁～底面割ナブ。体部上位削方向 削り。	
5	土製品 土蓋	縦割半欠	長さ 3.1残存 幅 1.9 重さ 6.05	埋没土中	焼成還元色。色調におい黄褐色。		
6	石製 鏡蓋	完整	高さ 4.1 幅 4.5 厚さ 0.7 重さ 18.7	埋没土中		石材磨石石片削。	円形の石製鏡蓋品の未成品。周囲に磨痕が残 る。

第4章 遺構・遺物の一覧表

69号台出土土遺物一覧表 第303～2069号・P.L.154、155、156

番号	種類	形状	数量 (個)	出土位置	粘土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	埴土器 高台付成 高台付成	口縁～底面 1/2 (高台付成)	断面 6.9残存 口径(15.7)	甕内(高台不明)	焼成酸化色。色調においぬ。	内外面回転ナツ。	
2	埴土器 高台付成	口縁～底面 1/4	断面 4.5残存 口径(11.7)	埋没土中	焼成還元色。色調灰白。	内外面回転ナツ。	
3	土器類 高台付成	口縁～体部上段破片	断面 7.9残存 口径(17.4)	甕内(高台不明)	焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁部～体部断面ナツ。体部上段破片方向直 角ナツ後、一部に断面方向ナツ。口縁部断面ナツ。 体部上段破片方向ナツ。	
4	土器類 土器	口縁～体部上段破片	断面 6.1残存 口径(20.4)	甕内 床面上10cm	甕内 床面上10cm	粘土小礫を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁部断面ナツ。体部上段破片方向直 角ナツ。内面口縁部断面ナツ。体部上段破片方向直 角ナツ。
5	土器類 刃物	口縁～体部破片	断面 12.5残存 口径(21.3)	南東部 床面上30cm(溝 底面土に近い位置)	南東部 床面上30cm(溝 底面土に近い位置)	粘土酸化還元色。色調黄褐色を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁部～体部断面ナツ。体部上段破片方向直 角ナツ。内面口縁部～体部断面ナツ。
6	土製品 土器	線筒半穴	長さ 3.7残存 幅(1.8) 高さ 5.19	埋没土中		焼成酸化色。色調灰白。	
7	土製品 土器	穴形	長さ 4.2 幅 1.9 高さ 15.42	甕底残部 使用面上15cm		焼成酸化色。色調においぬ。	
8	行筒埴輪 割断形	口縁部欠損	断面 37.5残存 口径(12.4)	甕底 使用面上3cm		粘土超粘砂を含む。焼成酸化色。 色調においぬ。	
9	行筒埴輪 円筒	口縁～底面 3/4	断面 33.0 口径 19.5 口径 11.9	甕口部中央突立 使用面上15cm		粘土白色粘物粘りが目立つ。 焼成酸化色。色調においぬ。	
10	行筒埴輪 円筒	割断破片	断面 19.4残存	甕壁に粘物 床面上3cm。西側 近い床面や埋没 土中上位の遺物が 層合している。		粘土砂～10mmの砂礫を多く含む。 焼成酸化色。色調灰白。	外面割ハツ(9本/2cm)後、突帯粘付。内面割 断ナツ。通孔位置に横方向の駒形凹み(浅い)状跡。 通孔円形。突帯粘付。
11	行筒埴輪 円筒	基部破断片	断面 14.6残存 口径(16.4)	甕左端残部 床面上18cm		粘土超粘砂・小礫を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面割ハツ(9本/2cm)後、基部下部。粘付に よる基部割断。内面基部割断ナツ後、下 端部割断。
12	行筒埴輪 円筒	胴～基部破断片	断面 24.8残存 口径(17.4)	甕底残部。使用 面。西側割断 穴の破片が層合 している。		粘土白色粘物粘りが目立つ。 焼成酸化色。色調においぬ。	外面割ハツ(10本/2cm)後、突帯粘付。内面割 断～基部基部割断ナツ。底面平坦。通孔円形。 突帯粘付。
13	行筒埴輪 円筒	割断破片	断面 13.3残存	在居中や中東部 床面上3cm。南東部 や甕底の破片が層 合している。		粘土赤色粘物粘りが目立つ。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面割ハツ(11本/2cm)後、突帯粘付。内面割 断ナツ。通孔円形。一部が残る。突帯粘 付(下段が深い)。
14	行筒埴輪 円筒	胴上～基部破断1/4	断面 28.8残存	甕底残部。北面 部。使用面上土		粘土赤色粘物粘りを多く含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面割ハツ(10本/2cm)後、突帯粘付。内面基 部割断ナツ後、割断ハツ(11本/2cm)。通 孔円形。突帯粘付。
15	形象埴輪 不明	足状の破断か		北壁に近い床下土 層。底面上1cm		粘土砂を多く含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	不明(足状の破断?)。破片で内面。断面片面 は多量の残るナツ。他の片面はナツ。
16	形象埴輪 塚形	上段残上部 破片		西側部 床面上32cm		粘土粘物片岩を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	上段残の破断上部。上下方向にゆるく曲面をつくり出 ていて、とくに上部でゆるく曲面をつくり出 ている。外面割ハツ後、一部割断。上部に ヤメを入れて甕状残部粘付。内面割ハツ後、 割断ナツ。
17	形象埴輪 塚形	塚の一部		甕底残部。左壁 使用面		粘土超粘砂を多量に含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	人形建造の上段の一部。行筒状の本体に粘 土粘付し、上段を成形。基部は帯状粘土 粘付し、基部。外面割ハツ(9本/2cm)後、基部粘 土粘付。内面割断の残れし。一部に割ハ ツ(9本/2cm)。筒ナツ残存。
18	形象埴輪 馬形	胴割断～胴部		甕底床面直上 南西側割断穴脇 の破片と層合		粘土超粘砂・粘粘砂を多く含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面前後方向の割ハツ(15本/2cm)後、一部割 断ナツ。基部粘付。内面割断下半は上下方向 の割ハツ(7本/1cm)。上半は割断ナツ後、一部 割ハツ。背は前後方向の割ハツ。断面上位に 粘土層合残存。
19	鉄製品 釘	同端欠損	長さ 3.7残存 幅 0.6 厚さ 8.5 重さ 2.42	甕左端 床面上6cm			分析番号105
20	鉄製品 釘	上端欠損	長さ 3.8残存 幅 1.6 厚さ 1.4 重さ 5.97	埋没土中			分析番号104
21	鉄製品 釘	穴形	長さ 6.6 幅 0.7 厚さ 9.8 重さ 5.01	中央部 床面上2cm			分析番号103
22	鉄製品 刀子	穴形	長さ 5.4 幅 2.8 厚さ 8.5 重さ 11.96	北西部 床面上14cm			分析番号112
23	鉄製品 刀子	同端欠損	長さ 3.7残存 幅 1.8 厚さ 8.3 重さ 4.96	埋没土中			分析番号111
24	土製品 羽口		長さ 14.4残存 幅(6.7) 厚さ 2.2	南東部。 床面上30cm 北部。床下土に 残存土13cm		内径4.0cm 外径7.1cm	
25	土製品 羽口	破片	長さ 7.2残存 幅(6.7) 厚さ 2.2	北西部 床面上13cm		内径3.4cm 外径6.9cm	
26	土製品 羽口	破片	長さ 16.5残存 幅(8.5) 厚さ 8.3	甕底残部 使用面上3cm		内径3.8cm 外径7.8cm	
27	土製品 羽口	破片	長さ 3.4残存 幅(5.8) 厚さ 2.3	甕底残部 使用面上7cm		内径3.5cm 外径9.1cm	

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
28	鉄器	残存	長さ 7.3 幅 6.4	埋没土中			分析番号 10
	焼状滓		長さ 4.6 重さ 230				
29	鉄器	残存	長さ 9.6 幅 8.9	電氣口部右側			
	焼状滓		長さ 8.2 重さ 1365	使用面上34cm			

70号住居出土遺物観察表 第209図・P.L156

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土師器	口縁~体部上位破片	高さ 11.25cm 口径 23.0cm	電氣口部左側 使用面上2cm	焼成酸化色。色調灰色。	外面口縁部~胴部側ナデ。体部上段丁字ナデ。内面口縁~体部上位側方側ナデ。	
2	土師器	胴部平次	長さ 1.7残存 幅 0.9 重さ 0.63	埋没土中	焼成酸化色。色調に白い黄褐色。		
3	土師器	一段欠損	長さ 3.2残存 幅 1.2 重さ 4.69	埋没土中	焼成酸化色。色調灰色。		
4	石器	完形	長さ 14.1 幅 12.5 厚さ 5.9 重さ 1540	電氣口部 使用面上	石材同種石。		
5	鉄製品	完形	長さ 6.5 幅 1.1 厚さ 0.9 重さ 6.65	埋没土中		扁平なやや大型の鏝。上面は磨られて凹んでいる。	分析番号107
6	鉄製品	下段欠損	長さ 3.2残存 幅 1.2 厚さ 1.2 重さ 3.62	埋没土中			分析番号106

71号住居出土遺物観察表 第210図・P.L156

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土師器	口縁~底部 1/2	高さ 4.0 口径 12.4 底径 6.4	電機機器部 使用面上3cm 電氣口縁部破片内の破片と結合	胎土赤色薬物粒を含む。焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁部側ナデ。体部斜め方向側削り。上位に指押さ。底部側削り。内面口縁~底部丁字ナデ。	
2	須恵系	底部のみ 高台付地	高さ 1.8残存	電氣口部 使用面上18cm	焼成還元色。色調灰色。	内外面回転ナデ。底部削り難し。抜き不明。付け高台。	
3	須恵系	底部のみ 高台付地	高さ 3.2残存	電機機器部中央 使用面上3cm	胎土より5mmの砂粒を含む。焼成還元色。色調に白い地。	内外面回転ナデ。底部削り難し。抜き不明。付け高台。	
4	須恵系	口縁~底部 1/3	高さ 6.8 口径 14.3 底径 8.6	北東隅 底面上2cm	胎土赤色薬物粒が目立つ。焼成酸化色。色調に白い地。	内外面回転ナデ。付け高台。	
5	石製品	破片	長さ 20.9 幅 11.6 厚さ 1.7 重さ 49.0	北部 床面上2cm		石材輝花片岩。	

72号住居出土遺物観察表 第211図・P.L156

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土師器	口縁~底部 1/2	高さ 3.4 口径 12.3 底径 6.4	電機機器部 使用面上9cm	焼成酸化色。色調灰色。	外面口縁部側ナデ。体部斜め方向削り。上位に指押さ。底部側削り。内面口縁部~底部丁字ナデ。	
2	須恵系	口縁~底部 3/4	高さ 5.7 口径 14.7 底径 7.3	電氣口部中央 使用面上	焼成還元色。色調灰色。	内外面回転ナデ。底部回転軸削り難し。付け高台。	
3	土師器	口縁~体部上位破片	高さ 8.2残存 口径 15.0	電機機器部(右端) 使用面上	焼成酸化色。色調灰色。	外面口縁~胴部側ナデ。体部上位側方削りナデ。内面口縁~胴部側ナデ。体部上位側方削りナデ。	
4	土師器	口縁~体部上位1/4	高さ 7.1残存 口径 16.4	電石部。東壁脚 床面上2cm	胎土薬物粒を多く含む。焼成酸化色。色調に白い黄褐色。	外面口縁~胴部側ナデ。体部上位側方削りナデ。内面口縁~胴部側ナデ。体部上位側方削りナデ。	胎土分析資料 三ツ木部図-7
5	石器	完形	長さ 2.4 幅 1.8 厚さ 0.9 重さ 3.19	埋没土中		小形片岩を素材とし、主要側面全面に二次加工痕が見られる。	

73号住居出土遺物観察表 第212、213図・P.L156、157

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	須恵系	完形	高さ 2.9 口径 10.5 底径 6.0	電石部 底面上	焼成酸化色。色調に白い黄褐色。	内外面回転ナデ。底部回転軸削り難し。内面には凹形により、底部が固定されている。	
2	須恵系	口縁~底部1/2	高さ 3.5 口径 10.8 底径 5.0	電石部 底面上	胎土薬物粒を多く含む。ガラザクしている。焼成酸化色。色調黄褐色。	内外面回転ナデ。底部回転軸削り難し。	
3	須恵系	口縁~底部3/4	高さ 4.4 口径 15.6 底径 6.7	南西角 底面上9cm	焼成酸化色。色調灰色。	外面口縁~体部下位回転ナデ。体部側下段~底部側削り。内面口縁~底部側削りナデ。	
4	須恵系	口縁~底部3/4	高さ 6.0 口径 13.2 底径 6.9	中央やや南寄り 使用面上3cm	焼成酸化色。色調に白い地。	外面回転ナデ。体部下位側方削りナデ。底部回転軸削り難し。付け高台。内面口縁~底部側削り。	内面褐色化現。 2次加熱されたと推定される。
5	須恵系	体部~底部1/3	高さ 7.1残存	電石部 使用面上3cm	焼成酸化色。色調に白い地。	外面体部下位回転ナデ。底部側削り難し。付け高台。内面口縁~底部側削りナデ。	内面褐色化現。
6	土師器	口縁~体部上位破片	高さ 9.6残存 口径 19.5	電石部右と石製の破片を結合 底面上	胎土薬物粒と細砂を多く含む。焼成酸化色。色調灰色。	外面口縁~胴部側ナデ。体部上位側方削りナデ。内面口縁部側ナデ。体部上位側方削りナデ。	
7	土師器	体部下位~底部破片	高さ 12.9残存 底径 10.9	電機機器部 使用面上	胎土薬物粒を多く含む。ガラザクしている。焼成酸化色。色調に白い黄褐色。	外面体部下位側方削りナデ。一部側方削り。下位側方削りナデ。	
8	土師器	口縁~体部上位破片	高さ 16.2残存 口径 30.6	電機機器部 使用面上	胎土より1~5mmの砂粒を含む。焼成酸化色。色調に白い地。	外面口縁部側ナデ。体部上半部側方削りナデ。一部に横方向ナデ。内面口縁部側ナデ。体部上半部の側方削りナデ。	
9	土師器	口縁~体部破片	高さ 11.3残存 口径 22.5	電石部 底面上6cm	焼成酸化色。色調灰色。	外面口縁部側ナデ。胴部側ナデ。体部上位側方削りナデ。体部中位側方削りナデ。内面口縁部側ナデ。胴部側ナデ。体部上半部側方削りナデ。	
10	土師器	口縁~体部破片	高さ 13.6残存 口径 17.4	電石部 使用面上3cm	胎土薬物粒を多く含む。ガラザクしている。焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁部側ナデ。体部上半部側方削りナデ。内面口縁部側ナデ。体部上半部の側方削りナデ。胴部側ナデ。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
11	須磨海 大甕	体部下位-底部1/2	高さ 7.8残存	埋没土中	焼成不完全、色調灰。	外面体部下位-底部より11、内面体部下位-底部より事ナクナ。	丸底。
12	石磨 巴み石	完整	長さ 20.0 幅 15.7 厚さ 6.8 重さ 2320	電灯油 床面直上	電灯油 床面直上	石材相模輝石安山岩。	表面面と全面面を受けている。

74号住居出土遺物観察表 第215、216図・P.L157

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	石磨 磨石	破片	長さ 20.0 幅 13.6 厚さ 11.4 重さ 1870	埋没土中	石村二ツ岳石。	方形に整形された磨石。角の部分は欠けている。各部に磨った痕跡があり、磨んだ上面には磨り痕が残る。	
2	海部 皿	口縁-底部1/4部	高さ 2.4 口径(12.4) 径長(6.5)	北西隅 床面より4cm	灰褐色	外面上半部磨蝕。内面全面磨蝕。	18世紀
3	海部 鉢	体部下位-底部1/2部	高さ 2.7残存	南西隅 床面より4cm	産地不明	内面磨蝕。みこみに印文あり。	18世紀
4	土師器 土甕	体部破片	高さ 20.4残存	電灯油 床面直上	電灯油 床面直上	胎土微細砂を多く含む。 焼成酸化色。色調に白い焼。	外面体部下位半方向直割り後、縦・横方向の磨き。内面体部下半方向直割ナ。
5	石磨 磨石	完整	長さ 41.5 幅 22.3 厚さ 15.0 重さ 1115	北西部 床面直上	北西部 床面直上	石村二ツ岳石。	長方形の磨りた整形された磨石。角の部分は自然面が残る。各部の大半には磨り痕が磨蝕している。

75号住居出土遺物観察表 第218図・P.L157

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	土師器 葉	口縁-体部上段1部	高さ 9.9残存 口径(30.4)	南壁面 床面直上	南壁面	胎土細砂を多く含む。ザラザラしている。焼成酸化色。色調黒。	外面口縁部磨ナ。体部上段直割り後、横方向直割ナ。内面口縁部磨ナ。体部上段直割り直割ナ。
2	土師器 土甕	口縁-体部上段1/8	高さ 8.9残存 口径(25.5)	電灯油 床面直上	電灯油	胎土より2-3mmの砂粒を多く含む。 焼成酸化色。色調に白い焼。	胎土より2-3mmの砂粒を多く含む。 焼成酸化色。色調に白い焼。
3	石磨 二次加工 ある破片	完整	長さ 1.5 幅 1.0 厚さ 0.4 重さ 0.48	埋没土中	埋没土中	石村黒曜石。	小形割片を素材とし、主要製錬面と背割面の両方に、二次加工痕が認められる。
4	土製品 土甕	完整	高さ 4.5 幅 1.3 重さ 6.44	埋没土中	埋没土中	焼成酸化色。色調褐色。	
5	鉄母 地持母	完整	長さ 6.5 幅 4.6 厚さ 2.8 重さ 125	東部 床面より13cm	東部	胎面直上13cm	
6	鉄母 地持母	完整	長さ 4.8 幅 3.1 厚さ 1.7 重さ 31.92	埋没土中	埋没土中		分析番号117
7	鉄母 地持母	ほぼ完整	長さ(7.7) 幅 9.8 厚さ 1.9 重さ 230	南壁面 床面より5cm	南壁面	床面より5cm	ほぼ完整の現状。全体に磨り出ている。特に底面は著しい。

76号住居出土遺物観察表 第220図・P.L157、158

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨海 環	口縁-体部下位1/4	高さ 2.6残存 口径(11.0)	電 埋没土中	埋没土中	焼成不完全、色調灰白。	内外面回転ナ。
2	須磨海 環	口縁部1/3次脚	高さ 3.2 口径 19.6 径長 6.3	北東部 床面より26cm	北東部	胎土精選された胎土。 焼成酸化色。色調黄褐色。	内外面回転ナ。底部回転軸切り磨し。
3	須磨海 高付付母	口縁-底部 1/3	高さ 6.8 口径(13.4) 径長 7.9	電 埋没土中	電	焼成酸化色。色調に白い焼。	内外面回転ナ。底部切り磨し。技法不明。付け磨し。
4	土師器 土甕	底部 1/2	高さ 2.1残存 口径(7.2)	電 埋没土中	電	胎土細砂を多く含む。ザラザラしている。焼成酸化色。色調に白い焼。	外面体部下位横方向直割り。直部砂直。内面直部磨ナ。
5	土師器 土甕	底部 1/4	高さ 2.7残存 口径(19.3)	電 埋没土中	電	焼成酸化色。色調に白い焼。	外面体部下位直割り。底部無磨蝕。内面底部磨きナ。
6	須磨海 羽釜	口縁-体部破片	高さ 18.6残存 口径(19.0)	中央部(床面の 高さ不明の為、 深部比をも不明)	中央部(床面の 高さ不明の為、 深部比をも不明)	胎土赤色炭化物を含む。 焼成酸化色。色調黒。	外面口縁-脚部磨ナ。体部上半回転ナ。下半磨ナ。内面口縁部磨ナ。体部横方向直割ナ。
7	土師器 羽釜	口縁-体部上段1/8	高さ 7.9残存 口径(24.9)	南壁面(床面レ ベル不明)	南壁面(床面レ ベル不明)	焼成酸化色。色調灰黄褐色。	外面口縁-脚部磨ナ。体部上半回転ナ。下半磨ナ。内面口縁部磨ナ。体部横方向直割ナ。
8	須磨海 羽釜	口縁-体部破片	高さ 19.7残存	電 床面直上	電	焼成酸化色。色調黒。	外面体部上半回転ナ調整。胎土磨ナ。下半横方向直割り後、中位の縦方向直割ナ。内面体部横方向直割り後、上半横方向直割ナ。下半地手状の直割ナ。
9	石磨 磨石	上段欠損	長さ 6.7 幅 10.4 厚さ 2.2 重さ 270	埋没土中	埋没土中	石材相模輝石安山岩。	磨石平面の中心に異化物が付着している。

77号住居出土遺物観察表 第221-224図・P.L156、159

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	形状の特徴	備考
1	鉄母 地持母	完整	長さ 6.8 幅 5.6 厚さ 4.1 重さ 290	中央部 床面より13cm	中央部	胎面直上13cm	分析番号 21
2	鉄母 地持母	完整	長さ 2.0 幅 5.5 厚さ 3.5 重さ 205	電 床面より13cm	電	床面より13cm	分析番号 16
3	鉄母 地持母	完整	長さ 12.3 幅 11.9 厚さ 5.5 重さ 870	電 床面直上	電	床面直上	
4	土製品 引口	破片	長さ 9.8残存 幅(6.8) 厚さ 2.6	南西部 床面より11cm	南西部	床面より11cm	内径3.4cm 外径8.6cm
5	土製品 引口	破片	長さ 10.8残存 幅(5.0) 厚さ 2.5	北東部 床面直上	北東部	床面直上	内径2.4cm 外径8.6cm
6	土製品 引口	破片	長さ 4.3残存 幅(4.2) 厚さ 2.5	電機機部 使用面直上	電機機部	使用面直上	内径3.1cm 外径7.5cm
7	土師器 羽釜	口縁-体部上半1/8	高さ 12.7残存 口径(30.0)	電機機部 使用面より25cm	電機機部	胎土微細砂と4-8-10mmの砂粒を含む。 焼成酸化色。色調に白い焼。	外面口縁-脚部磨ナ。体部上半横方向直割り。一部に縦方向直割ナ。内面口縁部磨ナ。体部上半横方向直割ナ後、縦方向直割ナ。

番号	種別	構存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
8	天輪陶器 埴	口縁～体部破片	胎高 2.9 口径13.0	埋没土中	胎土黒泥。焼成還元相。色調灰白。	付け高台。胎輪痕跡有り。	大塚2号～ 横穴式1号式式期 最高層
9	緑釉陶器	口縁部破片	胎高 1.1 口径(14.8)	北東部 床面上10cm	胎土黒泥。焼成還元相。色調灰白。	口縁部外反。胎輪痕跡緑色。	
10	天輪陶器 高台付埴	体部～底部破片	胎高 1.9 底径(6.4)	甕蓋部埋没 床面上11cm	胎土黒泥。焼成還元相。色調灰白。	胎輪痕跡ナシ。付け高台。焼成方法不明。	横穴1号式式期
11	土製品 土輪	定形	長さ 3.9 幅 1.8 重さ 4.0g	埋没土中	焼成酸化相。色調緑。		
12	土製品 土輪	定形	長さ 3.2 幅 1.8 重さ 2.4g	埋没土中	焼成酸化相。色調に白っぽい。		
13	土製品 土輪	両端欠損	長さ 2.4 幅 0.9 重さ 2.2g	埋没土中	焼成酸化相。色調灰黄緑。		
14	石函	定形	長さ 1.3 幅 1.2 厚さ 0.4 重さ 0.41	埋没土中	石粒黒硬石。	黒硬石小形割片。	
15	行筒輪 切取	破片	胎高 17.7 口径(34.7)	電機造器 埋没土中	胎土黒砂・小礫を含む。 焼成酸化相。色調に白っぽい。	外面割ハケ(11本/2cm)後。突明胎付。内面割 部下半割ハケ(本/2cm)後。斜削ナシ。上半割 ナシ後、斜ハケ(5本/1cm)。突明胎(白胎)。	焼出し部を覆ひ上 うにたてられていた。
16	形象輪 東付	破片	胎 17.3 幅 17.0	電機造器 埋没土中	胎土黒砂・小礫を含む。 焼成酸化相。色調緑。	東の端。全体に平帯だが左端で面をつくる。 外面割ハケ(11本/2cm)で上端に割ナシ一部残 存。内面左上がりの斜ハケ(7本/2cm)後。一部 右上がりの斜ハケ。	焼出し部を覆ひ上 うにたてられていた。
17	行筒輪 輪切	口縁部 1/2	胎高 18.1 口径(34.7)	電機造器 埋没土中	胎土黒砂・小礫を含む。 焼成酸化相。色調緑。	外面割ハケ(11本/2cm)後。突明胎付。口縁部 上端割ナシ。内面割部ナシ後、口縁部割 ハケ(12本/2cm)。口縁上端割部ナシ。突明胎 形(壁紙肌)。	焼出し部を覆ひ上 うにたてられていた。
18	行筒輪 行筒	口縁～胴部 1/2	胎高 42.1 口径 22.0	電機造器 高台に立てら れていた。	胎土黒砂を多量に含む。 焼成酸化相。色調緑。	外面割ハケ(14本/2cm)後。突明胎付。口縁部 破部ナシ。内面割部破部ナシ後、口縁部破 部ハケ(13本/2cm)。口縁部破部ナシ。割下 部ハケ(5本/2cm)。底面平肌。突明胎。	行筒輪輪を平置き、 それを2つに割つ て、内側に使っ ている。
19	行筒輪 切取	口縁～胴部 1/2欠損	胎高 31.6 口径 15.1	電機造器 使用面直上	胎土黒砂を多く含む。 焼成酸化相。色調緑。	外面割ハケ(5本/2cm)後。突明胎付。口縁部割 部ナシ。底面平肌。斜削ナシ。胴部～胴部割 ハケ(9本/2cm)。底面平肌。斜削多量に付着。 基部の重ね合わせ。透孔円形。突明胎形(下 壁紙肌)。	横通の施設として 使用。

79号住居出土遺物観察表 第225回・P.L159

番号	種別	構存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	煎茶鉢 埴	口縁～体部 1/2 (底面欠損)	胎高 3.9 口径(13.0)	南内 床面上10.5cm	焼成酸化相。色調灰黄緑。	内外面割ナシ。内面割ナシ。	内面黒色肌。
2	煎茶鉢 埴	口縁～底部 1/4	胎高 2.8 口径(9.8) 底径(5.4)	中央部 床面上1.5cm	焼成酸化相。色調灰黄。	内外面割ナシ。底面割ナシ切り。	
3	煎茶鉢 埴	ほぼ定形	胎高 5.7 口径 17.1 底径 4.9	南東部。甕蓋 床面上1cm	胎土より10mmの砂粒を含む。 焼成酸化相。色調灰。	外面割ハケを付けた後。体部下部～底 部割ナシ。底面平肌。底面割ナシ切り。内面 割ナシ。	横通の施設として 使用。

79号住居出土遺物観察表 第226回・P.L159

番号	種別	構存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	煎茶鉢 埴	定形	胎高 3.1 口径 11.1 底径 6.3	甕蓋口部 使用面直上	胎土白色紙粉が目立つ。 焼成酸化相。色調に白っぽい。	内外面割ナシ。底面割ナシ切り無し。	
2	煎茶鉢 高台付埴	ほぼ定形	胎高 5.3 口径 13.5 底径 6.4	南内 割ナリ埋没土中	焼成還元相。色調灰白。	内外面割ナシ。底面割ナシ切り無し。付け 高台。	
3	土輪 土輪	口縁～体部上位破片	胎高 7.5 口径(16.0)	電機造器 使用面10cm	焼成酸化相。色調に白っぽい。	外面割ハケ一部割ナシ。体部上位割ナリ 方向ナシ。内面割ナシ。基部割ナシ。体部上 位割ナリ方向ナシ。	
4	土輪 土輪	体部下部～底部破片	胎高 7.2 底径(6.0)	電機造器 使用面5cm	胎土砂粒を多く含む。ザラツクとい う。焼成酸化相。色調に白っぽい。	外面体部下部割ナリ。横方向割ナリ。基部ナシ。 内面体部下部～底部割ナリ方向ナシ。	
5	土輪 小形割片	口縁～体部上位1/2	胎高 5.3 口径(10.0)	電機造器 使用面直上	胎土黒砂を多く含む。焼成酸化相。 色調に白っぽい。	外面割ハケ一部割ナシ。体部上位割ナリ 方向ナシ。内面割ナシ。体部上位割ナリ 方向ナシ。	
6	土輪 土輪	体部上～底部1/2	胎高 12.0 底径 7.7	79号住居	胎土白色砂・赤色粒を多く含む。 焼成還元相。色調緑。	外面体部上半割方向割ナリ。体部下半割方向 割ナリ。基部 一方割ナリ。内面体部下半割 方向ナシ。	
7	土輪 割片	口縁～体部上位破片	胎高 11.1 口径(20.9)	電機造器 使用面直上	焼成酸化相。色調に白っぽい。	外面割ハケ一部割ナシ。体部上位割ナリ 方向ナシ。内面割ナシ。体部上位割ナリ 方向ナシ。	
8	土輪 割片	口縁～体部上位破片	胎高 9.8 口径(18.9)	甕蓋口部 使用面5cm	焼成酸化相。色調明赤褐。	外面割ハケ一部割ナシ。割下には指ナリ残 存。体部上位割ナリ。内面割ハケ一部割 ナリ方向ナシ。	
9	土輪 割片	口縁～体部上半破片	胎高 14.2 口径(20.8)	南内(甕蓋レベ ル不明の為、床 面比高不明)	胎土黒砂を多く含む。 焼成酸化相。色調に白っぽい。	外面割ハケ一部割ナシ。体部上半割ハケ 方向割ナリ。内面割ハケ一部割ナリ 方向ナシ。	
10	土輪 割片	口縁～体部上位破片	胎高 13.8 口径(23.8)	南内(床面の高 き不明の為、床 面比高不明)	焼成還元相。色調灰黄。	外面割ハケ一部割ナシ。体部上位割ナリ 方向割ナリ。中位割ナリ方向。内面割ハケ一部 上半割方向割ナリ。	
11	土輪 割片	口縁～体部上位1/8	胎高 10.2 口径(27.0)	電機造器左側面 使用面直上	胎土砂粒を多く含む。 焼成酸化相。色調緑。	外面割ハケ一部割ナシ。体部上位割ナリ 方向ナシ。縦方向割ナリ。内面割ハケ一部 割ナリ方向ナシ。	
12	石製 行筒	下端欠損	長さ 9.0 幅 9.9 厚さ 2.7 重さ 310	埋没土中	石粒粗粒黒石安山岩。	今や小型の扁平形製石。表面の一部に 割片がある。	

第4章 遺構・遺物の一覧表

8号住居出土遺物観察表 第222回・P.L159

番号	類別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須磨器 坏	口縁～底部 1/4	器高 4.0 口径(11.4) 底径 5.50	東部 (床面比高不明)	粘土より5mmの砂粒を含む。 焼成層不明。色調黒褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難し。	
2	須磨器 高台付皿	口縁～底部 1/4 (高台欠損)	器高 6.0残存 口径(13.6)	埋没土中	粘土より5mmの砂粒を含む。 焼成層不明。色調灰褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難し。付け高台。	
3	須磨器 高台付皿	底部～底部 2/3	器高 4.1残存 底径 5.2	埋没土中 (床面比高不明)	粘土層多量を含む。焼成層不明。 色調灰褐色。底径不明。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難し。付け高台。	
4	須磨器 高台付皿	口縁～底部 1/3	器高 4.4 口径(15.2) 底径 7.7	北西部 (床面比高不明)	粘土層多量。焼成層不明。色調灰褐色。	底径不明ナズ。付け高台。内外面に回転線が認められ、輪軸状痕あり。	大室2号室式調
5	須磨器 鉢	高台のみ	器高 1.8残存 底径 8.1	南東隅部西端 (床面比高不明)	粘土層多量。焼成層不明。色調灰褐色。	付け高台。内外面に三又トロン痕。底径不明。口縁部は故意に打ち欠いている? 焼成は淡緑色。	須磨器 K-90式式調
6	土師器 土器	口縁～体部上半部片	器高 8.8残存 口径(16.7)	電燈塔部	焼成層不明。色調黒褐色。	外面口縁部ナズ。体部上半部のみ・下方向ナズ。口縁一部破損ナズ。体部上半部力内側ナズ。	
7	土師器 土器	体部下位～底部1/2	器高 3.0残存 底径 5.8	南東隅部西端 床面比高不明	南東隅部西端 粘土より5mmの砂粒を含む。 焼成層不明。色調灰褐色。	外面体部下位部のみ方向ナズ。底部回転線。内面体部下位～底部力内側ナズ。	
8	土師器 土器	口縁～体部上位破片	器高 9.6残存 口径(22.4)	南東隅部西端 西端、床面比高	焼成層不明。色調黒褐色。	外面口縁～底部部ナズ。体部上位部力内側ナズ。内面口縁～底部部ナズ。体部上位部力内側ナズ。	
9	土師器 土器	口縁～体部上位1/8	器高 13.4残存 口径(25.4)	南東隅部西端内 床面比高不明	焼成層不明。色調に濃い黄褐色。	外面口縁部ナズ。体部上位部力内側ナズ。内面口縁部ナズ。体部上位部力内側ナズ。	
10	土師器 土器	磨盤半欠	器高 4.1残存 長さ 3.6 重さ 4.99	埋没土中	焼成層不明。色調灰褐色。		
11	石製 磨石	上面欠損	長さ 9.0 幅 9.7 厚さ 9.3 重さ 800	北東部 床面直上	石材乾状石。	方形に整形された乾石塊。明確な使用痕は認められない。	
12	石製 磨石	破片	長さ 16.9 幅 10.4 厚さ 11.8 重さ 1250	中央部 床面直上2cm	石材乾状石。	方形に整形された乾石塊。角の部分は欠けている。明確な使用痕は認められない。	

8号住居出土遺物観察表 第223回・P.L159

番号	類別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	須磨器 坏	底部	器高 4.0 口径 10.7 底径 3.8	北東部 床面直上	粘土より5mmの砂粒を含む。 焼成層不明。色調灰褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難し。	口縁部の一部にスチ付痕。
2	須磨器 高台付皿	口縁～底部 2/3	器高 3.8 口径(12.6) 底径 6.3	南東隅部西端 埋没土中	焼成層不明。色調黒褐色。	内外面回転ナズ。底部回転糸切り難し。付け高台。	
3	須磨器 別注	胴～体部上位	器高 6.5残存	北東隅部西端 床面直上	粘土層多量。焼成層不明。色調に濃い緑。	内外面回転ナズ。	
4	土師器 土器	破片	長さ 3.0残存 幅(7.2) 厚さ 2.7	埋没土中		内径 4.0cm 外径 9.0cm	
5	石製 磨盤	底部	長さ 4.4 幅 4.5 厚さ 1.7 重さ 49.5	電燈口部左側 埋没厚12cm	石材乾状石。	表面は使用によると思われる磨痕が顕著である。	

8号住居出土遺物観察表 第223回

番号	類別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 坏	体部下位～底部1/4	器高 1.9残存 底径(3.1)	埋没土中	焼成層不明。色調に濃い黄褐色。	外面体部下位部力内側ナズ。底部回転線。内面体部力内側ナズ。	粘土分析資料 三ツ木調前-8
2	土師器 土器	体部下位～底部破片	器高 3.0残存 底径(4.8)	電燈口部 床面直上3cm	粘土層多量。焼成層不明。色調灰褐色。	外面体部下位部力内側ナズ。底部回転線。内面体部力内側ナズ。	
3	土師器 土器	口縁～体部破片	器高 6.2残存 口径(12.8)	埋没土中	粘土層多量。焼成層不明。色調灰褐色。	外面口縁～体部上位部ナズ。体部中位部力内側ナズ。内面口縁部ナズ。体部中位部力内側ナズ。	
4	陶器 土器	体部破片	器高 3.4残存	埋没土中	黄褐色	透明釉は黄褐色が入る。	18・19世紀

8号住居出土遺物観察表 第228～241回・P.L159、160

番号	類別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・焼成・色調	整形の特徴	備考
1	形跡不明 筒	下端及びさびの 突出部欠損	器高 30.9残存	電燈口部 使用面直上	粘土層多量を含む。 焼成層不明。色調黒褐色。	筒。両肩状にまさり、突部位置から上部を収束させつつ、左右上部に粘土貼付により筒を成形。中央には切り込みを入れ内側上部を吹き抜けとし、その継ぎを粘土貼付により肥厚させ、ボタン状に貼付。さらに外側に粘土貼付を張り付けし、その間に細溝を施す。その外側にも粘土貼付を施す。ボタン状粘土を貼付。外面は縦ハク(12本/2cm)、内面縦ハクナズ。粘土貼付痕が認められる。	電燈口として、逆さまに立てられていた。
2	形跡不明 筒	胴部中位	器高 29.4残存	電燈口部、外側 使用面直上	粘土層多量を含む。 焼成層不明。色調灰褐色。	筒。両肩状にまさり、上部は収束させ、扁平な鉢状粘土を上部に差し込み閉塞するとともに筒部分を作る。胴部を穿孔し、鉢状粘土によって筒部を成形する。筒部を穿孔し、内面内側面ハク(12本/2cm)、外面ハク(12本/2cm)、内面縦ハクナズ。粘土貼付痕が認められる。	筒状の筒の外側に正立で立てられていた。
3	形跡不明 筒	胴部	器高 34.4残存	電燈口部 使用面直上	粘土層多量を含む。 焼成層不明。色調黒褐色。	筒。両肩状の本体左右に背板状付。上部は筒部を収束させつつ板状の粘土を用い、粘土により筒を表現するが上部を閉塞しない。筒部は「×」状に表現され、本体との筒部と筒との交点に筒部粘土を貼る。筒部を穿孔し、筒部の粘土は下方の筒部の粘土より下で左右に倒れ残る。外面ハク(7本/2cm)、内面ハク(7本/2cm)ナズ。粘土貼付痕が認められる。	左右の突出部は欠損。
4	形跡不明 筒	破片	器高 24.1残存	電燈口部、右側 使用面直上	粘土層多量を含む。 焼成層不明。色調灰褐色。	筒。筒の一端は一部、外面ハク(10本/2cm)、内面ハク(10本/2cm)後、上部に縦ハクナズ。	

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫形の特徴	備考
5	彫形輪 人物	巾～上縁～ 基台上部	高さ 21.7残存	埋没土中	粘土細砂を多く含むワザクツ ている。焼成酸化色。色調白。	人物の身体、帯を表現する。衣帯から上腕部、 基台部の円筒を縁をせばめて彫刻成形。粘土 貼付により突出した上表を表現。基台部外面 ハケ(16cm/2cm)、内面ハケ(10cm/2cm)、 上表外面ハケ(16cm/2cm)後、突等貼付。顔 縁ナダ。内面彫・彫形ナダ。	残存部には付属物 の痕跡なし。
6	彫形磁石 石蓋	上縁欠損	長さ 19.3 幅 11.6 厚さ 11.6 重さ 78g	電機地帯中央 部西側	石材磁石。	縁字部のボール状に表面が平滑になっている。 一部に凹凸が付き着いている。	
7	彫形石 磨石	一部欠損	長さ 20.4 幅 15.0 厚さ 12.5 重さ 360g	電気地帯 法面上18cm	石材磁石輝石安山岩。	方形の彫形された磨石。角の部分は欠けてい る。上下面は磨石部で、上面には彫打痕が順 着である。側面の一部にも彫打痕が集中して いる。	

84号住居出土遺物観察表 第245図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫形の特徴	備考
1	煎茶器 杯	口縁～体部破片	高さ 3.3残存 口径 10.2	電機 法面上	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	内外面同軸ナダ。	

89号住居出土遺物観察表 第246図・P.L160、161

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫形の特徴	備考
1	内面磨輪 内面	胴部破片	高さ 6.6残存	残部近く 法面下2.5cm	粘土赤色胎物が目立つ。 焼成酸化色。色調に白い點。	外面ハケ(9cm/2cm)後、突等貼付。内面同軸 ナダ。裏面ハケ(7cm/2cm)。突等貼付。	
2	内面磨輪 内面	胴部破片	高さ 11.6残存	東壁脚 法面下2.2cm	粘土赤色胎物を含む。 焼成酸化色。色調黄。	外面ハケ(10cm/2cm)後、突等貼付。内面同 軸ナダ。透孔円形。突等成形(M?)。	
3	砂象磨輪 家形	破片	高さ 9.0残存	東壁脚 法面下2.2cm	粘土細砂を多く含む。 焼成酸化色。色調黄。	不明(家形?)。外面ハケ(8cm/2cm)。内面 貫れ不周。一部にナダ残存。	
4	内面磨輪 内面	基部底部破片	高さ 5.1残存	埋没土中	粘土細砂を含む。焼成酸化色。 色調に白い點。	外面ハケ(9cm/2cm)。内面基部下部破片ナ ダ。基部底部破片ナ。基部底部欠損。	
5	内面磨輪 内面	胴部破片	高さ 7.0残存	埋没土中	粘土細砂とφ1.5mmの小石を含む。 焼成酸化色。色調黄。	外面ハケ(9cm/2cm)後、突等貼付。内面同軸 ナダ。突等成形(M?)。	
6	内面磨輪 内面	基部1/3	高さ 12.0残存 底径 18.8	北東壁脚 法面下2.8cm	粘土赤色胎物が目立つ。 焼成酸化色。色調黄。	外面ハケ(10cm/2cm)後、突等貼付。内面同 軸ナダ。表面平滑。突等成形(M?)。	
7	砂象磨輪 数	胴部	長さ 19.8 幅 11.7 厚さ 2.8	北東壁脚 法面上	粘土細砂・小石を少量含む。 焼成酸化色。色調白。	砂象磨石部。板状粘土に粘土粒で縁を表現。 下部にボタン状粘土を貼付。基部には左右両 方に支柱の粘土貼付。内外面ハケ(10cm/2cm)。	一部ススが付着し ている。

92号住居出土遺物観察表 第245図

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫形の特徴	備考
1	煎茶器 高台付碗	体部下～高台部	高さ 2.7残存 底径 6.2	電機 法面上	粘土赤色胎・黒色胎・黒色胎を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。内面白。	内外面同軸ナダ。基部同軸糸切り難し。付け 難台。	
2	煎茶器 茶碗	口縁部破片	高さ 5.2残存	中央部 法面上46cm	中央部 灰黄土中	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎・φ4 mmの小石を含む。焼成酸化色。色調 に白い點。	内外面同軸ナダ。
3	砂象磨輪 不明	部位不明・破片	高さ 3.8残存	埋没土中	粘土細砂を含む。焼成酸化色。 色調に白い點。	不明。左右に凸面をなす。外面ハケ(7cm/1 cm)後、粘土貼付。内面利用ナダ。	

92号住居出土遺物観察表 第246図・P.L161

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫形の特徴	備考
1	土師器 杯	口縁～底部 1/2	高さ 5.3 口径 13.8 底径 5.9	電機口部	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎・紅物 粒を含む。焼成酸化色。色調黄。	外面口縁部破片ナダ。体面上半部粗さえ。下 半部は方向異なる。基部穿孔。内面口縁部破 片ナ。体部一直線型方向異なるナ。	
2	土師器 碗	口縁部破片	高さ 4.9残存 口径 118.3	電機中央部 法面下8cm	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	外面口縁一部破片ナ。体面上部内面同軸 ナ。内面口縁～基部破片ナ。	

94号住居出土遺物観察表 第247図・P.L164

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫形の特徴	備考
1	土師器 羽振	口縁部 1/4	高さ 6.3残存 口径 23.6	西壁脚 法面上	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎を含む。 焼成酸化色。色調に白い點。	外面口縁一部破片ナ。体面上部内面同軸 ナ。内面口縁部破片ナ。	

98号住居出土遺物観察表 第248、250図・P.L162

番号	種別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・焼成・色調	彫形の特徴	備考
1	煎茶器 杯	口縁～底部 2/5	高さ 3.3 口径(10.6) 底径 4.8	隅方埋没深土中	粘土赤色胎・黒色胎・黒色胎を含む。 焼成酸化色。色調灰白。面オウゾ ノブ。	内外面同軸ナダ。基部同軸糸切り難し。	内面黒色。
2	煎茶器 杯	口縁～底部 1/2	高さ 4.1 口径(10.7) 底径 5.2	西内隅 法面上5cm	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎・紅物 粒・φ4mmの小石を含む。焼成酸化 色。色調黄褐色。	内外面同軸ナダ。基部同軸糸切り難し。	
3	煎茶器 杯	底部破片	高さ 2.6残存	埋没土中	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎を含む。 焼成酸化色。色調黄褐色。	内外面同軸ナダ。基部静止未切り難し。	
4	煎茶器 杯	底部破片	高さ 1.4残存 底径 5.8	埋没土中	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎・紅物 粒・φ4mmの小石を含む。焼成酸化 色。色調黄褐色。	内外面同軸ナダ。基部同軸糸切り難し。	
5	煎茶器 高台付碗	口縁～底部 1/2	高さ 4.5 口径(12.0) 底径 16.6	西内隅 法面上3cm	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎を含む。 焼成酸化色。色調に白い點。	内外面同軸ナダ。基部同軸糸切り難し。付け 難台。	基部にスス付着。
6	煎茶器 高台付碗	底部のみ	高さ 2.9残存 底径 6.0	西内隅壁脚 法面上	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎・紅物 粒を含む。焼成酸化色。色調黄褐色。	内外面同軸ナダ。基部同軸糸切り難し。付け 難台。	
7	煎茶器 高台付碗	高台部 3/4	高さ 3.3残存 底径 8.0	西内隅 法面上5cm	粘土赤色胎・白色胎・黒色胎・小石 を含む。焼成酸化色。色調に白い點。	内外面同軸ナダ。基部同軸糸切り難し。付け 難台。	外面スス付着。

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	形状の特徴	備考
8	須磨器 高台付埴	高台部のみ	器高 2.3残存 口径10.7	甕前 床面下3cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調に白い焼。	内外面回転ナブ。	内面内ス又付着。
9	須磨器 罎	底部破片	器高 2.3残存 口径 5.2	南西隅 床面土8cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調に白い焼。	外面部縦方向両側より。底部貫刺り。内面底部縦方向両側ナブ。	
10	須磨器 耳土	体部一部	器高 1.9残存 口径 5.4	掘り方埋設土中	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒を含む。 焼成酸化焼。色調汚濁焼。	内外面回転ナブ。底部回転軸未切り離し。	
11	須磨器 罎	口縁一部 1/4	器高 15.4残存 口径18.8	竈跡地帯 使用面土3cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調赤黒。	外口縁部一部回転ナブ。体部固定ナブ。粘土貫刺り。内面口縁部縦ナブ。体部縦方向両側ナブ。	内外面うつろく。
12	須磨器 土罎	口縁一部上段破片	器高 9.2残存 口径20.3	甕前 床面土2cm	粘土赤黒・赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒を含む。焼成酸化焼。色調汚濁焼。	外面口縁部縦ナブ。底部回転ナブ。凸状のナブを挟む。体部上段縦方向両側より。内面口縁部縦ナブ。体部上段縦方向ハメ。裏ナブ。	
13	須磨器 羽釜	体部下段一部	器高 10.3残存 口径 8.4	南東部 床面土5cm	粘土白赤粒・黒色粒・小石を含む。 焼成酸化焼。色調汚濁焼。	外面体部下段縦方向両側ナブ。表面縦筋。内面体部下段縦筋。	
14	須磨器 羽釜	口縁一部上段破片	器高 7.1残存 口径18.7	竈石脇埋設 床面土7cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調汚濁焼。	内外面回転ナブ。一部に横筋が刻れる。	
15	須磨器 羽釜	口縁一部上段1/2	器高 9.7残存 口径20.2	南西部 床面土8cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒を含む。焼成酸化焼。色調に白い焼。	内外面回転ナブ。	
16	須磨器 羽釜	口縁一部破片	器高 4.3残存 口径18.2	埋設土中	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調汚濁焼。内面縦筋。	内外面回転ナブ。	
17	須磨器 羽釜	口縁一部破片	器高 6.1残存 口径27.0	中央やや重寄り 床面土3cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調汚濁焼。	内外面回転ナブ。	
18	須磨器 羽釜	口縁一部破片	器高 7.0残存 口径20.8	竈跡地帯 使用面土上	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調汚濁焼。	内外面回転ナブ。	
19	須磨器 罎	体部下半一部1/3	器高 21.1残存 口径23.8	竈跡地帯使用面直上・周壁深床直上・南西床直直上・東面に貯存	粘土白赤粒・黒色粒・小石を含む。 焼成還元焼。色調灰。内面に白い焼。	外面体部下縦方向両側より。台接合部縦方向両側ナブ。台部縦ナブ。内面体部下縦方向両側ナブ。台接合部縦ナブ。台縦方向両側ナブ。	
20	土器 土罎	竈平穴	高さ 7.6 幅 3.1 重さ 44.73	元蔵庫 床面土5cm	焼成酸化焼。色調焼。		
21	石器 円形石	ほぼ定形	高さ 8.9 幅 9.2 厚さ 2.9 重さ 280	南東部	石材磨砕舞石山岩。	扁平な円形盤の石罎。側縁の一部に割傷がある。上面は炭化物が付着している。	
22	石器 円形石	上段欠損	高さ 9.0 幅 11.8 厚さ 2.9 重さ 419	北西隅	石材磨砕舞石山岩。	扁平な円形盤の石罎。側縁部の大半に最打痕がある。	
23	石器 円形石	定形	高さ 11.6 幅 9.2 厚さ 2.8 重さ 336	埋設土中	石材磨砕舞石山岩。	扁平な円形盤の石罎。側縁部の大半に最打痕がある。特に相対する1ヶ所に最打痕が著しく、側縁が折れている。	

106号住居出土遺物観察表 第252回・P.L162

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨器 罎	口縁一部 3/4	器高 3.85 口径 11.2 口径 5.8	不明	焼成酸化焼。色調に白い焼。	内外面回転ナブ。底部回転軸未切り離し。	体部下半一部破片ス又付着。
2	須磨器 高台付埴	ほぼ定形	器高 5.2 口径 12.3 口径 5.4	不明	粘土黒細砂を多く含む。アラザラシ状になっている。焼成還元焼。色調汚濁焼。	内外面回転ナブ。底部切り離し技法不明。付け台付。	
3	須磨器 輪石	ほぼ定形	器高 3.3 口径13.7 口径 7.5	106住の2の上	粘土赤砂粒・白色粒を含む。 焼成還元焼。色調灰。	底部回転ナブ。付け台付。施物掛け跡。	大第2号室式調
4	須磨器 高台付埴	口縁一部 1/空筒	器高 5.3 口径16.1 口径 7.3	不明	粘土赤黒。焼成還元焼。色調灰白。	底部回転ナブ。付け台付。施物掛け跡。	大第2号室式調

99号住居出土遺物観察表 第253回・P.L162

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨器 罎	口縁一部 1/3	器高 2.3 口径12.6 口径 6.4	竈石脇埋設 床面土7cm	粘土赤黒。焼成還元焼。色調灰白。	底部回転ナブ。付け台付。体部下段回転両側より。施物掛け跡。	大第2号室式調
2	土器 土罎	口縁一部上段破片	器高 7.9残存 口径21.1	南西隅埋設 床面土10cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化焼。色調汚濁焼。	外面口縁部一部縦ナブ。体部上段縦方向両側ナブ。体部上段縦方向両側ナブ。縦方向両側ナブ。	

102号住居出土遺物観察表 第254回

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨器 高台付埴	高台部 1/4	器高 3.9残存 口径10.8 口径 5.8	南西部 床面土18cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。 焼成酸化焼。色調汚濁焼。	内外面回転ナブ。底部回転軸未切り離し。付け台付。	
2	須磨器 高台付埴	体部下段一部1/3	器高 3.9残存 口径 8.4	南西部 床面土6.5cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒を含む。焼成酸化焼。色調汚濁焼。内面に白い焼。	外面部縦筋付。高台部回転ナブ。底部切り離し技法不明。付け台付。内面体部下段一部縦筋。	内面黒色処理焼。2次焼成。

96号住居出土遺物観察表 第256、257回・P.L161

番号	種別	残存	流量 (cm)	出土位置	粘土・構成・色調	形状の特徴	備考
1	須磨器 罎	口縁一部 1/5	器高 3.5残存 口径11.9 口径 5.8	南東部 床面土18cm	粘土赤色粒・黒色粒・炭粉粒を含む。 焼成酸化焼。色調汚濁焼。	内外面回転ナブ。底部回転軸未切り離し。	
2	須磨器 罎	口縁一部 1/4	器高 3.9残存 口径13.7	南西部 床面土6.5cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒を含む。焼成酸化焼。色調汚濁焼。	内外面回転ナブ。	
3	須磨器 罎	口縁一部 1/4	器高 3.9残存 口径12.0	甕前 床面土24cm	粘土白赤粒・黒色粒・炭粉粒を含む。 焼成酸化焼。色調に白い焼。	外面口縁部縦ナブ。体部回転ナブ。内面口縁部一部縦筋。	内面黒色処理焼。
4	須磨器 罎	口縁一部破片	器高 6.1残存 口径15.2	北東隅 床面土6cm	粘土赤色粒・白色粒・黒色粒・炭粉粒を含む。焼成酸化焼。色調に白い焼。	外面口縁部縦ナブ。体部回転ナブ。内面口縁部一部縦筋。	内面黒色処理焼。2次焼成。また2次焼成されたものともみられる。

番号	種別	残存	度量 (cm)	出土位置	胎土・施文・色調	整形の特徴	備考
5	甕蓋部 破片	口縁~底面破片	器高 5.3 口径(11.4) 底径(7.0)	西東部 表層上15cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・紅褐色を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。内面は斜方に施文されている。	内面黒色胎。2次加工されている。
6	甕蓋部 破片	口縁~底部 4/5	器高 3.5 口径 11.2 底径 6.9	中央部北西寄り と海原古くの破片層上	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・紅褐色を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	外周口縁部~体部回転ナズ。底部回転未切り方。内面口縁~底面施文。	内面黒色胎。外周口縁部も黒い。
7	甕蓋部 高台付片	口縁~底部 2/3 (高台欠損)	器高 5.3残存 口径(14.4)	中央部やや東寄り 表層上5.5cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・紅褐色を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	外周口縁~体部回転ナズ。底部回転未切り方。打付高台。(欠損) 内面口縁~底部施文。	内面黒色胎。外周口縁部も黒い。
8	甕蓋部 小皿型	口縁~底部 1/2	器高 11.0 口径(11.2) 底径 5.4	南東部。貯蔵穴 表層上5.5cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化胎。色調に白い焼。	外周口縁部~体部回転ナズ。体部上縁回転ナズ。下半横方向置用り後、中縁を縦方向ナズ。	外周スズ付。下半横方向置用り後、中縁を縦方向ナズ。
9	甕蓋部 破片	体部下位~底部	器高 8.2残存	中央やや南寄り 表層上2cm	粘土赤色胎・黒色粒・小石を含む。焼成酸化胎。色調に。	外周平行タナキ。内面体部~底部ナズ。	天照。叩き。
10	土器 土基	完整	器高 12.0 口径 18.0 底径 10.7	西東部 表層上3cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・43μmの小石を含む。焼成酸化胎。色調に白い焼。	外周口縁~体部回転ナズ。体部上平ナズ。下半横方向置用り。底部ナズ。内周口縁~体部回転ナズ。体部~底部横方向置用りナズ。	外周スズ付。底部横方向置用りナズ。
11	石磨 円盤形	ほぼ完整	長さ 14.8 幅 12.3 厚さ 4.6 重さ 970	中央部 表層上3cm	石材粗粒砂石安山岩。	扁平円盤形の石磨。側縁部の相対する2か所に著しい縦打痕があり残っている。	
12	石磨 磨石破片	平片欠	長さ 15.8 幅 14.5 厚さ 13.0 重さ 1740	北東部 表層上27.5cm	石材二ツ岳緑石。	方形に整形した磨石の破片。1か所を残して角の部分が欠けている。上面は凹んでいる。側面には磨石の相対する2か所に著しい縦打痕が認められる。	
13	石磨 円盤形	ほぼ完整	長さ 9.6 幅 9.8 厚さ 2.0 重さ 250	中央部やや北寄り 、床面直上	石材粗粒砂石安山岩。	扁平円盤形の石磨。側縁部のほぼ相対する2か所に縦打痕がある。	
14	石磨 磨石破片	破片	長さ 8.2 幅 10.0 厚さ 9.4 重さ 570	北西寄り 表層上24cm	石材二ツ岳緑石。	方形に整形された磨石の破片。	
15	石磨 磨石	ほぼ完整	長さ 11.3 幅 9.0 厚さ 4.0 重さ 495	埋没土中	石材粗粒砂石安山岩。	扁平円盤形の石磨の内周の石磨。上面および側縁部に縦打痕が残る。特に側縁部の縦打痕は集中し、表面が割れている。	

97号住居出土遺物観察票 第259図・P.L161

番号	種別	残存	度量 (cm)	出土位置	胎土・施文・色調	整形の特徴	備考
1	甕蓋部 片	口縁~底部 1/4	器高 4.2 口径(11.8) 底径(5.3)	西東部 表層上25cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化胎。色調に。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。	
2	甕蓋部 破片	口縁~底部 1/5	器高 4.1 口径(12.2) 底径(5.8)	電機部中央 使用層上11cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・紅褐色を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。内面は斜方に施文されている。	
3	甕蓋部 高台付片	底部破片	器高 1.9残存 底径 5.1	南東部 表層上4cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。打付高台。内面外周回転ナズ。	大塚1号室式部
4	甕蓋部 高台付片	口縁~体面破片	器高 3.9残存 口径(13.2)	電機部中央 使用層直上	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	内外面回転ナズ。打付高台。施文不明。	大塚2号室式部
5	天狗陶器 部	底部 1/2	器高 2.1残存 底径 7.4	西東部 表層上25cm	粘土赤色胎。焼成還元胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	底部回転ナズ。打付高台。施文不明。	大塚2号室式部
6	天狗陶器 部	底部 1/4	器高 2.0残存 底径 7.0	西東部 表層上32cm	粘土赤色胎。焼成還元胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	底部回転ナズ。打付高台。施文不明。	大塚2号室式部
7	土師器 土基	底部 1/3	器高 2.8残存 底径(6.4)	電機部。左側 使用層上6.6cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化胎。色調に白い焼。	外周体部下位縦方向置用り。扁平ナズ。内面体部下位置用りナズ。	
8	甕蓋部 底部破片	底部 2.9残存 底径(9.2)	器高 2.9残存 底径(9.2)	埋没土中	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。内面は斜方に施文されている。	
9	土師器 土基	口縁~体面上位破片	器高 6.4残存 口径(14.7)	電機部。左側 使用層上6.6cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化胎。色調に白い焼。	外周口縁部~体部回転ナズ。体部横・斜め方向置用りナズ。内周口縁部回転ナズ。体部上位縦方向ナズ。	
10	土師器 土基	破片	長さ 6.2残存 幅(4.1) 厚さ 2.1	中央部 表層上2.8cm		内径 2.8cm 外径 7.0cm	

25号土坑出土遺物観察票 第262図・P.L165

番号	種別	残存	度量 (cm)	出土位置	胎土・施文・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 土基	口縁~底面 2/3	器高 4.3 口径(11.7) 底径 6.0	埋没土中	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	外周口縁部回転ナズ。体部置用り後、斜め方向置用り。底部一方縦置用り。中央部に砂鉄質残る。内周口縁~底部ナズ。	

68号土坑出土遺物観察票 第264図・P.L165

番号	種別	残存	度量 (cm)	出土位置	胎土・施文・色調	整形の特徴	備考
1	土師器 土基	完整	長さ 4.4 幅 1.4 重さ 7.68	北東部 表層直上	焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。		

70号土坑出土遺物観察票 第264図

番号	種別	残存	度量 (cm)	出土位置	胎土・施文・色調	整形の特徴	備考
1	甕蓋部 破片	口縁部破片	器高 1.6残存 口径(15.7)	中央部 表層上26cm	粘土赤色胎。焼成や半酸化還元胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	口唇部外反。輪縁緑色。	東海部
2	甕蓋部 破片	口縁~底部 1/5	器高 3.2 口径(12.8) 底径(6.0)	南西側 表層上21cm (埋没土中位)	焼成還元胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。	
3	甕蓋部 高台付片	体部~底部 1/2	器高 3.8残存 底径 6.0	北東部 表層上8cm	焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。技法不明。	
4	甕蓋部 高台付片	底部 1/2	器高 2.7残存 底径 8.3	南西側 表層上4cm	焼成酸化胎。色調に白い焼。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。技法不明。	

73号土坑出土遺物観察票 第264図・P.L165

番号	種別	残存	度量 (cm)	出土位置	胎土・施文・色調	整形の特徴	備考
1	甕蓋部 破片	口縁~底部 1/4	器高 3.5 口径(12.8) 底径(6.0)	北西側 表層上12cm	粘土赤色胎を多く含む。焼成酸化胎。色調に白い焼。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。内面は斜方に施文されている。	
2	甕蓋部 破片	ほぼ完整	長さ 3.6 口径 10.7 底径 5.7	南西側 表層上3cm	粘土赤色胎・白色粒・黒色粒を含む。焼成酸化胎。色調黄褐色。内面黒色。色調。	内外面回転ナズ。底部回転未切り方。内面は斜方に施文されている。中央部に砂鉄質残る。内周口縁~底部ナズ。	口唇部の一部にスズ付。

第4章 遺構・遺物の一覧表

番号	類別	残存	法量 (cm)	出土位置	胎土・構成・色調	整形の特徴	備考
----	----	----	---------	------	----------	-------	----

78号土坑出土遺物観察表 第264図・P.L165

1	土製品 土器 高台付碗	口縁のみ (高台付2文)	高さ 4.4 口径 (8.2)	東壁部 表面上4cm	焼成還元焼、色調に白い焼。	外面口縁部削ナズ。底面削れ込み切り難し。付け高台。内面体部→底面突き。	内面高色化焼。
---	-------------------	-----------------	--------------------	---------------	---------------	-------------------------------------	---------

94号土坑出土遺物観察表 第265図・P.L165

1	石器 内輪形	完形	長さ 30.9 幅 13.4 高さ 2.8 重さ 640	東壁部 表面上13cm	東壁部 表面上13cm	石付輪状研石(玄山石)	扁平な内輪形の石器。胴縁部の一部に輪行痕が残り。
2	石器 坪	完形	高さ 4.2 口径 12.0 径 5.4	東壁部 表面上7cm	東壁部 表面上7cm	焼成還元焼、色調灰白。	内外面削ナズ。底面削れ込み切り難し。
3	石器 坪	口縁→底部 1/2	高さ 4.6 口径 (11.8) 径 5.8	北壁部 表面上25cm	北壁部 表面上25cm	焼成還元焼、色調灰白。	内外面削ナズ。底面削れ込み切り難し。
4	石器 高台付碗	体部下位→底部	高さ 3.7 口径 6.3	中央部 表面上3cm	中央部 表面上3cm	焼成還元焼、色調灰白。	内外面削ナズ。底面削れ込み切り難し。付け高台。
5	石器 高台付碗	体部下位→底部1/4	高さ 3.4 口径 (5.6)	中央部 表面上13cm	中央部 表面上13cm	焼成還元焼、色調黄緑。	内外面削ナズ。底面削れ込み切り難し。付け高台。
6	石器 坪	口縁→体部下位1/4	高さ 4.4 口径 (13.8)	東壁部 表面上4cm	東壁部 表面上4cm	焼成還元焼、色調灰白。	内外面削ナズ。
7	灰輪陶器 碗	口縁→体部破片	高さ 3.7 口径 (14.6)	南壁部 表面上11cm	南壁部 表面上11cm	胎土白色粒を含む。焼成還元焼、色調灰。	口唇部外反。胎輪も残り。
8	土器 碗	口縁→体部上半1/4	高さ 7.1 口径 (18.8)	南壁部 表面上17cm	南壁部 表面上17cm	焼成還元焼、色調灰。	外面口縁部削ナズ。体部上半縁→縁方内側削り。内面口縁部削ナズ。体部上半縁方内側削ナズ。

96号土坑出土遺物観察表 第266図・P.L165

1	土製品 土器	口縁→体部上位破片	高さ 6.7 口径 (21.7)	埋没土中	埋没土中	焼成還元焼、色調黄緑。	外面口縁→胴部削ナズ。体部上位縁方内側削り。内面口縁部削ナズ。体部上位縁方内側削り。
2	土製品 土器	口縁→体部上位破片	高さ 5.2 口径 (20.8)	埋没土中	埋没土中	焼成還元焼、色調黄緑。	外面口縁→胴部削ナズ。体部上位縁方内側削り。内面口縁→胴部削ナズ。体部上位縁方内側削ナズ。
3	土製品 土器	一段欠損	長さ 3.5 幅 1.1 重さ 4.68	埋没土中上層	埋没土中上層	焼成還元焼、色調黄緑。	
4	土製品 土器	一段欠損	高さ 3.8 幅 1.3 重さ 5.69	埋没土中上層	埋没土中上層	焼成還元焼、色調に白い黄焼。	

99号土坑出土遺物観察表 第268図

1	石器 高台付碗	胴部破片	高さ 2.9 口径 (8.6)	中央 表面上12.5cm	中央 表面上12.5cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元焼、色調に白い焼。	内外面削ナズ。底面削り難し技法不明。
---	------------	------	--------------------	-----------------	-----------------	-----------------------------------	--------------------

95号土坑出土遺物観察表 第270図・P.L165

1	石器 坪	口縁→底部 3/4	高さ 4.8 口径 12.0 径 4.7	東壁部 表面上11cm	東壁部 表面上11cm	胎土白色粒・黒色粒・小石を含む。焼成還元焼、色調灰。	内外面削ナズ。胎土黄焼。底面削れ込み切り難し。
2	石器 高台付碗	口縁→底部 3/5	高さ 5.9 口径 (14.2) 径 6.8	東壁部 表面上26.7cm	東壁部 表面上26.7cm	胎土黒色粒・小石を含む。焼成還元焼、色調黄緑。	内外面削ナズ。底面削れ込み切り難し。付け高台。
3	石器 坪	口縁破片	高さ 3.2 口径 (5.8)	埋没土中	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成還元焼、色調に白い黄焼。	内外面削ナズ。
4	土器 小笠蓋	口縁→体部上位破片	高さ 5.2 口径 (13.1)	埋没土中	埋没土中	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成還元焼、色調灰。	外面口縁→胴部削ナズ。体部上位縁方内側削り。一部に骨ナズ。内面口縁→胴部削ナズ。体部上位縁方内側削ナズ。
5	土器 高台付碗	口縁→体部上位破片	高さ 5.4 口径 (28.4)	北西壁部 表面上27cm	北西壁部 表面上27cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成還元焼、色調灰。	外面口縁部削ナズ。体部上位縁方内側削り。内面口縁→胴部削ナズ。体部上位縁方内側削ナズ。
6	土器 蓋	口縁→体部中位1/4	高さ 12.2 口径 (22.4)	中央部 表面上1cm	中央部 表面上1cm	胎土赤色粒・白色粒・黒色粒を含む。焼成還元焼、色調黄緑。	外面口縁部削ナズ。体部上位縁方内側削り。中位縁方内側削り。内面口縁→胴部削ナズ。体部縁方内側削ナズ。
7	石器 蓋	体部破片	高さ 10.4	東壁部 表面上8cm	東壁部 表面上8cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。焼成還元焼、色調灰。	外面平打タタキ。内面丁字タタキ。
8	石器 蓋	口縁→体部破片	高さ 16.4	北壁部 表面上23cm	北壁部 表面上23cm	胎土白色粒・黒色粒を含む。焼成還元焼、色調灰。	外面口縁部削ナズ。体部平打タタキ。内面口縁部削ナズ。体部丁字。

99号土坑出土遺物観察表 第271図

1	灰輪陶器 皿	口縁→底部破片	高さ 2.4 口径 (13.1) 径 (7.3)	埋没土中	埋没土中	胎土赤色粒。焼成還元焼、色調灰白。	付け高台。胎輪僅け残り。
---	-----------	---------	-----------------------------	------	------	-------------------	--------------

91号土坑出土遺物観察表 第272図・P.L165

1	土製品 土器	完形	長さ 4.3 幅 1.2 重さ 6.87	北西壁部 表面上高さ不明	北西壁部 表面上高さ不明	焼成還元焼、色調に白い焼。	
2	灰輪陶器 皿	口縁破片	高さ 1.7 口径 (12.4)	埋没土中	埋没土中	胎土黒色粒を含む。焼成還元焼、色調灰。	胎輪不明。